

勝島川端遺跡
公田東遺跡
公田池尻遺跡

(主)前橋長瀬線道路改築(改良)工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

《本文編》

1997

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

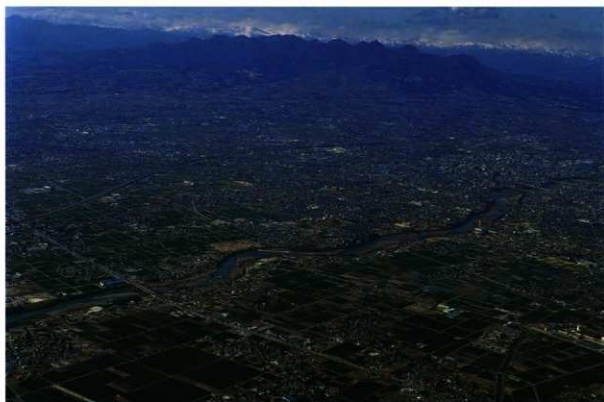
ぬで じま かわ ばた 遺 跡
勝 島 川 端 遺 跡
く でん ひがし 遺 跡
公 田 東 遺 跡
く でん いけ しり 遺 跡
公 田 池 尻 遺 跡

(主)前橋長瀬線道路改築(改良)工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

《本文編》

1997

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡地上空から榛名山を臨む。
(中央を流れる利根川沿いが遺跡地、地形と土地利用がよくわかる。)



公田東遺跡 I区1号周溝墓



公田東遺跡 I区1号周溝墓出土土器



公田東遺跡 I区1号周溝墓出土鳥形土製品

序

「櫛島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡」は、県道前橋長瀬線道路改良工事に伴って発掘調査された、櫛島川端遺跡（前橋市櫛島町）・公田東遺跡（前橋市公田町）・公田池尻遺跡（前橋市上佐鳥町）の発掘調査報告書である。発掘調査は群馬県から委託を受けて（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成元年度から7年度に、整理事業は平成8年度に実施したものである。

発掘調査した三遺跡は、前橋市街地の南に広がる前橋台地上に位置し、現在では点在する集落間に水田地帯が広がる景観となっている。遺跡地の低地では各時代の火山灰や洪水層に覆われた水田跡が、微高地上では集落が発見されている。特に櫛島川端遺跡の古墳時代の井戸からは臼・杵・梯子などの木製品が発見され、当時の技術と生活の一端を垣間見ることができた。また、公田東遺跡の古墳時代前期の周溝基からは、鶏形土製品が出土し、当時の葬制を知る上で貴重な発見となった。

これら三遺跡の位置する場所は、東に前橋天神山古墳をはじめとする前期古墳が、また、奈良・平安時代には、北に上野国府が存在し、それぞれの時代において豪族や国府を支えた生産地域であったと考えられる重要な地域である。

この報告書は、群馬県の平野部における古代の土地利用をはじめとする人々の生活の跡を復元する上で貴重な資料となり、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民のみならず、研究にも大いに役立つものと確信している。

最後になりますが、群馬県土木部、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序とする。

平成9年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小寺 弘之

例 言

- 1 本書は、県道前橋長湊線改良事業に伴う事前調査として、平成元年度から平成7年度にかけて実施した「櫛島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡」発掘調査報告書の第2集である。
第2集で扱う範囲は、櫛島川端遺跡1区から19区の奈良・平安時代以降の遺構・遺物と同20区・21区と公田東遺跡、公田池尻遺跡のすべてである。
- 2 遺跡の所在地は、群馬県前橋市櫛島町・公田町・上佐島町である。
- 3 発掘調査調査と整理事業は、群馬県（土木部道路建設課 前橋土木事務所）から財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて行った。
- 4 発掘調査期間と発掘調査組織は以下の通りである。

(1) 発掘調査期間と発掘調査担当者

櫛島川端遺跡 平成3年9月1日～平成4年3月25日

主任調査研究員 飯田陽一、調査研究員 亀山幸弘・櫻井美枝

平成4年4月1日～平成5年3月25日

主任調査研究員 飯田陽一・藤巻幸男・友廣哲也、調査研究員 櫻井美枝

平成5年11月1日～平成6年3月25日

専門員 大江正行・藤巻幸男、主任調査研究員 松井龍彦・大西雅広

調査研究員 櫻井美枝・矢口裕之・黒沢照弘

平成6年4月1日～平成7年3月25日

専門員 藤巻幸男、主任調査研究員 橋沢健二、調査研究員 遠藤俊爾

平成7年4月3日～平成7年7月31日

専門員 麻生敏隆、調査研究員 平方篤行・迫川佳子

公田東遺跡 平成6年6月2日～平成7年3月25日

主幹兼専門員 右島和夫、専門員 洞口正史、主任調査研究員 大西雅広

調査研究員 矢口裕之・井上昌美・諸田康成

平成7年4月3日～平成7年9月30日

主幹兼専門員 飯塚卓二、専門員 松田孟、調査研究員 杉山秀宏・諸田康成

公田池尻遺跡 平成2年1月1日～平成2年3月31日

専門員 下城 正、主任調査研究員 中山茂樹、調査研究員 松村和男

平成3年1月7日～平成3年3月25日

主任調査研究員 飯塚 誠・徳江秀夫、調査研究員 磯貝朗子

平成6年12月1日～平成7年3月25日

主幹兼専門員 右島和夫、主任調査研究員 大西雅広、調査研究員 諸田康成

平成7年4月3日～平成8年3月29日

主幹兼専門員 右島和夫・飯塚卓二、専門員 麻生敏隆・大西雅広

調査研究員 杉山秀宏・平方篤行・迫川佳子・横山千晶

(2) 調査年度と事務担当者

- 平成元年度 常務理事 邊見長雄、事務局長 松本浩一、管理部長 田口紀雄、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 住谷 進、調査研究第3課長 巾 隆之、主任 笠原秀樹・小林昌嗣・須田朋子、主事 吉田有光・柳岡良宏
事務補助員 並木綾子・野島のぶ江・今井もと子・角田みづほ・松井美智子
- 平成2年度 常務理事 邊見長雄、事務局長 松本浩一、管理部長 田口紀雄、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 岩丸大作、調査研究第3課長 巾 隆之、主任 国定 均・小林昌嗣、主任 須田朋子・吉田有光、主事 柳岡良宏
事務補助員 並木綾子・野島のぶ江・今井もと子・角田みづほ・松井美千代・松井美智子
- 平成3年度 常務理事 邊見長雄、事務局長 松本浩一、管理部長 佐藤 勉、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 岩丸大作、調査研究第3課長 巾 隆之、主任 国定 均・須田朋子・吉田有光、主事 柳岡良宏・船津 茂
事務補助員 並木綾子・野島のぶ江・今井もと子・角田みづほ・松井美千代・塩浦ひろみ
- 平成4年度 常務理事 邊見長雄、事務局長 近藤 功、管理部長 佐藤 勉、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 斉藤俊一、調査研究第3課長 巾 隆之、総務係長代理 国定 均 笠原秀樹、主任 須田朋子・吉田有光・柳岡良宏、主事 船津 茂・高橋定義 囑託 松下 登、事務補助員 並木綾子・今井もと子・角田みづほ・松井美千代・塩浦ひろみ
- 平成5年度 常務理事 中村英一、事務局長 近藤 功、管理部長 佐藤 勉、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 斉藤俊一、調査研究第3課長 巾 隆之、総務係長代理 国定 均 笠原秀樹、主任 須田朋子・吉田有光・柳岡良宏、主事 船津 茂・高橋定義 囑託 松下 登、事務補助員 吉田恵子・今井もと子・内山佳子・松井美千代・塩浦ひろみ・角田正子
- 平成6年度 常務理事 中村英一、事務局長 近藤 功、管理部長 蜂巣 実、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 斉藤俊一、調査研究第3課長 巾 隆之、総務係長代理 国定 均 笠原秀樹、主任 須田朋子・吉田有光・柳岡良宏、主事 高橋定義、囑託 大澤友治、事務補助員 吉田恵子・今井もと子・内山佳子・松井美千代・羽鳥京子・星野美智子・菅原淑子・杉山ひろみ
- 平成7年度 常務理事 中村英一、事務局長 原田恒弘、管理部長 蜂巣 実、調査研究第1部長 神保佑史、総務課長 小淵 淳、調査研究第3課長 佐藤明人、総務係長代理 国定 均 笠原秀樹、主任 須田朋子・吉田有光・柳岡良宏、主事 高橋定義、囑託 大澤友治、事務補助員 吉田恵子・今井もと子・内山佳子・松井美千代・羽鳥京子・星野美智子・若田 誠・菅原淑子

5 整理期間は平成8年4月1日から平成9年3月31日

6 整理組織は以下の通りである。

(1) 整理担当者

主幹兼専門員 下城 正 平成8年4月1日から平成9年3月31日

調査研究員 迫川佳子 平成8年4月1日から平成9年3月31日

- 専門員 大西雅広 平成8年10月1日から平成9年3月31日
- 整理嘱託員 新井悦子 平成8年4月1日から平成9年3月31日
鈴木幹子 平成8年10月1日から平成9年3月31日
- 整理補助員 蜂巣綾子、阿部由美子、小池 緑、金子ミツ子、飯田和子、石関富美代、田中富美子
萩原鈴代、金子加代、小沼恵子、猪野熊洋子、高瀬真由美、内山由紀子
以上 平成8年4月1日から平成9年3月31日
神谷順子、戸神晴美、南雲素子、平林照美、新井千恵子、小林町子
以上 平成8年10月1日から平成9年3月31日

(2) 事務担当者

常務理事 菅野 清、事務局長 原田恒弘、管理部長 蜂巣 実、調査研究第2部長 赤山容造、
総務課長 小淵 淳、調査研究第3課長 真下高幸、総務係長 笠原秀樹・国定 均、主任 須田朋子
吉田有光・柳岡良宏、主事 宮崎忠司、嘱託 大澤友治、事務補助員 吉田恵子・内山佳子・羽鳥京子
星野美智子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・松井美千代・菅原淑子・山口陽子

7 報告書作成の担当

編 集 下城 正、追川佳子、大西雅広

本文執筆 佐藤明人(発掘調査に至る経過)、齋田康成(竪穴住居)、藤巻幸男(水田・島)、
追川佳子(井戸)、右島和夫(周溝墓)、横山千晶(土坑)、大西雅広(上記以外)

遺物観察表 下城 正(縄文時代から奈良・平安時代の遺物)

大西雅広(木製品、中世・近世の遺物)

遺構写真撮影 調査時の各発掘調査担当

遺物写真撮影 主任 佐藤元彦

遺物保存処理 主任 関 邦一

依頼 石材鑑定 群馬地質研究会 飯島静男

8 出土遺物や実測図、写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9 発掘調査や本書の作製にあたっては、次の機関・諸氏からご協力・ご教示をいただいた。

前橋市教育委員会、田口一郎 (敬称略)

凡 例

1. 発掘調査に用いたグリッドは国土座標系の第IX系を基準とした。
2. 挿図中に用いた方位は座標北を示す。
3. 遺構図の縮尺は、遺構分布図1/500、水田・畠1/200、掘立柱建物1/80、竪穴式住居・井戸・土坑などは1/60とした。遺構挿図にはすべて物差しで縮尺を示した。
4. 本報告書で用いたテフラの略号は、浅間B軽石：As-B、榛名二岳軽石泥流の二次堆積土が耕作された土：Hr-FP泥流混土層、榛名二ツ岳火山灰：Hr-FA、浅間C軽石：As-Cである。
5. 遺構図中の遺物番号は、出土遺物図の番号と一致している。
6. 出土遺物図の縮尺は1/3を原則とし、小型遺物は大縮尺、大型遺物は小縮尺とした。各遺物の縮尺は挿図毎に物差しで示した。
7. 遺構挿図中で使用したスクリントーン「砂目」は灰の分布範囲を、「網目」は焼土の分布範囲を表す。
8. 遺物挿図中で使用したスクリントーンは「赤色塗彩範囲」を表す。
9. 遺物写真図版は、原則として遺物挿図の縮尺に近づけた。
10. 遺構一覧表における「位置」はグリッド北西隅の呼称を用い、長い場合には両端部のグリッドを用いた。「調査長」は全長ではなく、調査できた長さである。また、調査記録などの関係から空欄が生じている。
11. 全体図において、溝が異なる時期にも掲載されている場合があるが、これは同一場所で継続的に機能していたことを示す。

目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 概要	
第1節 調査の概要	
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 調査区の設定	1
3. 基本土層	1
第2節 遺跡の概要	2
第2章 縄文・弥生時代の遺構と遺物	
第1節 縄文時代の遺構と遺物	
1. 竪穴住居	3
2. 土坑	3
3. 遺構外出土遺物	3
第2節 弥生時代の遺構と遺物	
1. 竪穴住居	4
2. 溝	6
3. 遺構外出土遺物	6
第3章 古墳時代の遺構と遺物	
1. 竪穴住居	7
2. 井戸	21
3. 土坑	23
4. 周溝墓	24
5. 溝、旧河道	26
6. 水田	27
7. 畠	29
第4章 奈良・平安時代の遺構と遺物	
1. 竪穴住居	36
2. 掘立柱建物	46
3. 井戸	47
4. 土坑	48
5. 溝	48
6. 水田	49
7. 畠	51

第5章 中世の遺構と遺物	
1. 環壕集落	60
2. 井戸	62
3. 火葬所、土坑	66
4. 水田	67
5. 畠	69
第6章 近世の遺構と遺物	
1. 井戸	96
2. 土坑	97
3. 溝	97
4. 水田	98
5. 畠	99
報告書抄録	183

表 目 次

表1 古墳時代遺構一覧表	30
表2 奈良・平安時代遺構一覧表	52
表3 中世遺構一覧表	69
表4 近世遺構一覧表	99
表5 縄文時代出土遺物観察表	105
表6 弥生時代出土遺物観察表	107
表7 古墳時代出土遺物観察表	109
表8 奈良・平安時代出土遺物観察表	145
表9 中世出土遺物観察表	158
表10 近世出土遺物観察表	171

第1章 概要

第1節 調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

県道前橋長瀬線は、前橋市石倉町を基点とし埼玉県秩父郡長瀬町を終点とする延長42.5kmの幹線道路であり、県庁所在地となる前橋市街地と県下最大の商業都市である高崎市街地を結ぶ都市間連絡道路でもある。しかし本路線の現道は、朝夕には慢性的な交通渋滞をきたし、その対策に加えて安全な交通環境の整備が強く望まれていた。このような状況下、前橋市榑島町から同公田町間2.3kmのバイパス建設が県土木部により計画・実施されることとなった。

道路建設計画にかかる埋蔵文化財への対応は、平成元年12月群馬県前橋土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者により、建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関わる、調査対象地、調査期間、調査経費などについて協議が行われた。この協議に基づき、平成2年1月から前橋市上佐鳥町地内公田池尻遺跡の発掘調査を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が県土木部から委託を受け着手し、またこれと並行して平成2年3月から発掘調査実施区間を除く全事業計画区間の試掘調査が実施された。試掘調査により、前橋市榑島町と六供町境界(工事基点)から上佐鳥を経て、公田町の県道高崎駒形線までの、延長2.3kmの区間の用地内全域で古墳時代以降の集落跡及び水田跡が重層的に確認され、事業地の全区間が発掘調査対象地となった。

平成2年度以後、事業区間の埋蔵文化財調査は、用地買収状況及び工事計画等に従って、公田池尻遺跡(平成元・2・6・7年度実施)、榑島川端遺跡(平成3～7年度実施)、公田東遺跡(平成6・7年度実施)の3遺跡が年次的に実施された。

2. 調査区の設定

調査区の設定にあたっては、本報告で扱う榑島川端遺跡、公田東遺跡、公田池尻遺跡の発掘調査が調査地域の北西から開始され、その後の調査区が南西方向に延びている。(第2図)したがって、調査区の北西を基点とし調査区全域をカバーするように国土座標第IX系に沿って4mグリッドを設定した。グリッドの基点(AA-0)は、第IX系： $X=+40.1$ 、 $Y=-68.05$ である。呼称は南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで示した。東西方向のアルファベットに関しては、100m毎にAから順に付し、各100m内を更に4m毎のアルファベットで呼称した(第1図)。

各遺跡における調査区の呼称は、調査年度や調査の区切りとなる現道を境とし、遺構番号は榑島川端遺跡1～17区を除いて各調査区毎に付している。

3. 基本土層

基本土層として低地部の断面図を第3図に示した。As-Bは低地部に広く認められるが、Hr-FAはその後の耕作によって降下堆積層が認められず、ごく一部でのみ堆積層が残っていた。Hr-FA上に堆積する灰色シルト質層は、低地全域で認められ、土層内からは9世紀代の土器が出土している。この土層は高崎市東町遺跡などで確認されているものと同様な堆積層であろう。なお、公田東遺跡の低地でも更に低い部分では本土層内で重複する溝が確認されており、この堆積が一時期ではないことを物語っている。しかし、他の箇所では分層も不可能な状態であった。As-Cも後の耕作によって湿土化しており、低地内の窪みで純層が確認された程度である。微高地上は、昭和40年代のほ場整備によって削平されており、耕作土下が遺構確認面であった。

第2節 遺跡の概要

縄文時代

縄文時代で確実な遺構は確認できなかったが、公田池尻遺跡1区において調査時の所見で可能性がある遺構として竪穴住居1軒と土坑2基が挙げられている。いずれも出土遺物はなく、覆土や埋土の所見からの推測である。遺物は櫛島川端遺跡19・20区、公田東遺跡1区からIV区から土器と石器が出土している。公田池尻遺跡からは石器のみが少量出土している。

弥生時代

弥生時代の遺構としては竪穴住居5軒が確認されている。時期はすべて後期であり、櫛島川端21区に集中する。前橋台地において当該時期の集落は少なく、集落が増加する古墳時代前期以前の集落が確認された意義は大きい。

古墳時代

古墳時代では、第1集所載の集落を除くと櫛島台地で23軒、公田東台地で10軒、公田池尻台地で16軒の計49軒の竪穴住居が確認されている。これらのうち、櫛島台地の23軒すべてと公田池尻台地で2軒の計25軒が前期の竪穴住居である。古墳時代前期の集落が確認された櫛島台地縁辺（櫛島川端遺跡21区から公田東遺跡1区）では、同時期の周溝墓が確認され、なかでも公田東遺跡1区では、前方後方形周溝墓が良好な状態で確認され、多くの土器と共に陶形土製品も出土した。

生産遺構では、水田が3面、畠が1面確認された。水田はAs-Cで直接埋没したものが最も古く、櫛島川端遺跡19区の一部のみ確認された。その後は、As-Cを含む黒色土を除去した段階で確認される痕跡である。この時期になると、櫛島川端遺跡から公田池尻遺跡まで広範に確認され、耕地拡大が進んだことが明らかである。古墳時代で最も新しい水田はHr-FAに埋没したものである。確認された場所は、櫛島川端遺跡19区、公田東遺跡II区とIII区の一部で

あり、範囲としては狭いが、地点が各低地におよんでいることから、本来は広範に広がっていたと推定された。畠はAs-Cを含む黒色土下で確認されたのみである。確認されたのは櫛島及び公田東台地の一部である。いずれも上面の削平を免れた地点であり、本来はより広範に存在していたと考えられる。

奈良・平安時代

当該時期の竪穴住居は、櫛島台地で2軒、公田東台地で19軒、公田池尻台地で7軒の計28軒が確認された。生産遺構では、Hr-FP泥流混土下水田とAs-B下水田が低地で確認された。

中世

中世では櫛島台地で2カ所、公田東台地と公田池尻台地で各一カ所の計4カ所で環壕集落が確認された。前橋台地では地表観察において、多くの環壕集落の存在が想定されていたが、分布調査以外にも存在することが明らかとなった。この結果から、前橋台地では微高地の殆どに環壕が存在することが想定された意義は大きい。

水田はAs-Bを含む土で埋没した面と利根川の支流に伴う洪水層で埋没した面の2面が確認された。畠はAs-Bを含む土で埋没した1面が確認された。

近世

当該時期の集落の詳細は不明であるが、櫛島川端遺跡21区5号溝から、火災整理と推定される廃棄遺物がまとまって出土した。出土した陶磁器は19世紀前半から中頃のもので、二次的な被熱を受け、焼けた壁土や炭化材と共に出土した。群馬県内における最も良好な一括遺物であろう。

遺構では環壕集落を繋ぐような堀が推定され、環壕集落が用水系で繋がっていた様子が窺えた。これらの環壕は、中世にまで遡る可能性が高い。

当該時期の生産遺構は不明瞭であるが、櫛島川端遺跡において畠が確認されている。

第2章 縄文・弥生時代の遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居

概要 柳島川端、公田東、公田池尻遺跡において確実な縄文時代の遺構は確認されていない。しかし、本地区における初年度の調査（公田池尻遺跡1区）で縄文時代と推測される住居1軒と土坑2基が確認されている。遺物は3遺跡から少量ながら石器を中心に出土している。

公田池尻 1区1号住居（第4図、P L-1）

位置 GY-356

形状・規模 東側が調査区外に延びるため形状と規模は不明である。規模の判明する西壁は5.5mである。

長軸方位 不明

埋没土 炭化物を部分的に薄く含む。暗茶褐色土。壁 確認壁高は3～5cmと低い。

周溝 確認できない。

柱穴 確認できない。

床面 部分的に薄い灰層が認められ、平坦である。

炉 床面北東寄りに焼土と炭化物が分布し、底面は焼土化していた。

遺物出土状態 出土遺物はない。

所見 調査時の所見では堆積土から縄文時代と推測される。

2. 土坑

概要 先の住居同様、確実な縄文時代の遺構は確認されていないが、公田池尻遺跡1区において縄文時代と推測される土坑が2基確認されている。位置は住居北側で住居に比較的近い。

公田池尻 1区5号土坑（第5図、P L-1）

前述した1号住居の北約30mに位置し、形状は不定形である。長径は2m、短径は1.8m、深さは深い部分で30cmである。堆積土中には炭化物が少量含まれていたが、出土遺物は皆無であった。堆積土の特徴から縄文時代と推測される。

公田池尻 1区6号土坑（第5図）

先の1号住居の北約2mに位置し、形状は隅丸長方形を呈する。規模は長軸1m、短軸80cm、深さ10cmである。南側には深さ45cmの深い箇所が認められる。しかし、形状からこの部分は遺構ではないと考えられる。出土遺物は皆無であったが、堆積土の特徴から縄文時代と推測される。

3. グリッド出土遺物

（第13～15図、P L-95・96）

柳島川端遺跡からは19区・20区から土器と石器が出土し、土器20点と石器6点を図示した。土器の時期は早期から中期で、全て小片である。石器6点のうち4点は打製石鏃である。

公田東遺跡からはI区からIV区で遺物が出土しているが、数は非常に少ない。土器は3点を図示し、石器は11点を図示した。石器のうち8点は打製石鏃、1点は有舌尖頭器である。

公田池尻遺跡からは石器のみが出土している。調査区の長さからすると、遺物量は非常に少ないが10点を図示した。10点のうち6点が打製石鏃、2点が打製石斧、1点の有舌尖頭器である。

第2節 弥生時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居

概要 弥生時代の住居は、標島台地で5軒が確認された。調査区は、標島川端遺跡21区にあたり、南東へ舌状に突出する台地の基部南縁辺に位置している。住居は、調査区の南東隅に集中しており、後世の耕作などによる削平・攪乱を受けているため、残存状態は悪い。

今回の一連の調査において、当該期の住居が確認されたのは21区だけである。公田東遺跡II区では、土器片の散布が確認されているが、伴う遺構は検出されていない。住居の分布が調査区内の南東隅に集中するため、東及び南側の調査区外へ広がる可能性が考えられる。しかし、南側に隣接する公田東遺跡I区では、当該期の遺構は確認されておらず、可能性は低いと思われる。

住居については、2軒重複が1例、また周溝基との重複が1例確認された。形状は、隅丸長方形を呈する可能性のものが1軒あり、規模は確定的なもので長辺が約5.4m以上、短辺は約3mを測る。

埋没土は、VIa・VIb層を主体とした地山との混土層であり、地山層の混入を面的に捉えることで遺構確認を行なっている。柱穴は、1軒で確定的な支柱穴が認められた。床面は、貼床の認められる住居が1軒検出された。伊跡は3軒で確認されたが、このうちの1軒は伊跡のみが検出された住居である。貯蔵穴は1軒で確認されている。

出土遺物の総数は、約300点を数える。これらは後期の土器片が主体であるが、1号住居では古式土師器片が混入しており、また3号住居からは中期末の土器片が出土している。確認された住居の時期は、3号住居以外は出土遺物や確認状況などから後期の住居と考えられる。3号住居は、重複関係や出土遺物などから他の住居よりも1段階古くなる可能性があり、中期末と考えられる。

当該期の住居は、これまで前橋台地では殆ど確認

されておらず、今回の調査でその存在が明らかになった。住居の分布する区域では、古墳時代前期になると周溝基群が営まれる。このことは、後期の住居を中心とする居住域が、古墳前期には基域になることを示している。

標島川端 21区1号住居

(第7・16図・P.L-97)

位置 DT-211

重複 31号溝、1号土坑より古い。周壁は南壁以外は不明。

形状・規模 不明 5.40+m×3.30+m

長軸方位 不明。

埋没土 VIa層と地山の混土層。

壁 平均10cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 ビットを5本確認した。ビット1は径37cm、深さ42cm。ビット2は径28cm、深さ56cm。ビット3は径41cm、深さ57cm。ビット4は径32cm、深さ45cm。ビット5は径26cm、深さ45cm。ビット1～3が支柱穴、ビット4・5は出入口部の対ビットの可能性がある。

床面 平坦である。

炉 位置 北西部にある。形状 円形 規模 50cm×36cm 残存状況 完存しており、焼土の残りも良い。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 位置 南東壁寄りにある。形状 円形 規模 47cm×41cm×9cm 遺物出土状態 なし。

掘り方 不明。

遺物出土状態 弥生後期の土器片や古式土師器片が約80点出土した。埋没土から、壺1点(P-1)が出土している。

所見 出土遺物から、弥生後期の住居と考えられる。

標島川端 21区2号住居

(第8・16図・P.L-97)

位置 DR-212

重複 3号住居より新しく、1号溝より古い。

形状・規模 隅丸長方形の可能性がある。5.20+m×3.15m

長軸方位 N-23°-W

埋没土 VI a・b層と地山の混土層。

壁 平均19cmの高さで直線的に走るが、北壁は外湾するようである。

周溝 なし。

柱穴 ビットが6本確認された。ビット1は径25cm、深さ65cm。ビット2は径34cm、深さ68cm。ビット3は径25cm、深さ50cm。ビット4は径26cm、深さ29cm。ビット5は径22cm、深さ63cm。ビット6は径32cm、深さ12cm。

床面 平坦で北壁中央部に貼床が一部残存していた。炉 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 不明。

遺物出土状態 弥生後期の土器片が約90点出土した。北壁中央部の床面から壘1点(P-1)とビット6内から壘2点(P-2・4)が出土している。

所見 出土遺物から、弥生後期の住居と考えられる。

標島川端 21区3号住居

(第8・17図・PL-97)

位置 DQ-212

重複 2号住居、11号土坑より古い。周壁は西壁以外は不明である。

形状・規模 不明。西壁2.20+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a・b層と地山の混土層。

壁 平均7cmの高さで直線的である。

周溝 なし。

柱穴 ビットが5本確認された。ビット1は径36cm、深さ61cm。ビット2は径23cm、深さ20cm。ビット3は径29cm、深さ61cm。ビット4は径31cm、深さ42cm。ビット5は径21cm、深さ40cm。

床面 平坦である。

炉 位置 不明。形状 楕円形 規模 73cm×63cm 残存状況 焼土分布が確認された。

遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 不明。

遺物出土状態 弥生中・後期の土器片が約130点出土し、石器が3点混入している。西壁中央部の床面から、壘3点(P-1・3・5)が出土している。所見 出土遺物から、弥生中期末の住居と考えられる。

標島川端 21区4号住居

(第9・17図・PL-97)

位置 DU-211

重複 1号周溝基より古い。

形状・規模 不明。2.54+m×0.85+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a・b層を主体とする。

壁 平均13cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 弥生後期の土器片が4点出土した。

所見 出土遺物から、弥生後期の住居と考えられる。

標島川端 21区5号住居(第7図)

DO-212で、炉跡のみが残存する住居を確認した。27号溝と重複しており、新旧関係は古い。埋没土は、VI b層を主体としている。炉跡の規模は、63cm×48cmを測り、焼土の残りは良い。焼土は、地山が焼けたものではなく、持ち込まれた土の可能性もある。遺物は、出土していない。住居の炉跡のみを確認しただけで、他は不明である。確認面や周辺状況などから、弥生後期の住居の可能性がある。

公田東 Ⅱ区1号遺物散布遺構 (第10図)

微高地周縁において長径4.3m、短径3.5mの楕円形を呈する範囲内から、土器小片が確認された。住居掘り方の可能性があるが、底面に凹凸が少ないため散布遺構とした。

公田東 Ⅲ区倒木痕 (第11図)

公田東遺跡Ⅲ区低地部で倒木痕が多く確認された。倒木後の窪みの自然堆積土には、二次堆積であるがAs-C純層やAs-Cを多く含む層が認められた。これは、As-C降下時にこの場所が水田化されていたことを示すと考えられる。

2. 溝

概要 当該時期の溝で、確実なものは確認されていないが、公田池尻遺跡1区において、As-C混土下で痕跡が確認された水田の更に下の面で、2条の溝が確認された。周辺に遺構がなく性格は不明である。また、遺物の出土もなく時期も決定できないが、調査次の埋土観察から弥生時代の可能性を考えている。

公田池尻 1区1号溝

(第12図、PL-1)

1区の北端に位置し、倒木痕(立木)を避けるように屈曲して走向する。幅は上端で30cmから40cm、深さは10cmで、屈曲部のみ30cmと深い。出土遺物はないが、確認面から弥生時代と推測される。

公田池尻 1区2号溝

(第12図、PL-1)

1区中央南よりで確認され、確認面は1号溝と同様である。走向は直線的で、上端幅は35cmから45cm、深さは15cmである。出土遺物はないが、確認面から弥生時代と推測される。

3. 遺構外出土遺物(第18図)

樺島川端遺跡、公田東遺跡、公田池尻遺跡から出土しているが、量は非常に少ない。第18図に示した以外に第13図に2点あり、計13点図示している。石器としては頁岩製の磨製石鏃がある。

第3章 古墳時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居

概要 古墳時代の住居は、標島台地で23軒、公田東台地で10軒、公田池尻台地で16軒の計49軒が確認された。時期別に見ると、前期の住居が25軒、後期の住居が24軒である。住居は、後世の耕作などによる削平や攪乱を受けており、特に標島台地の住居の残存状態が悪い。

前期の住居は、23軒が標島台地、残る2軒が公田池尻台地で確認された。

標島台地の住居は、標島川端遺跡19区・20区で検出された。両調査区は、南北に延びる台地から、南東へ舌状に突出する台地の基部にかけて位置している。住居は、19区の南半部から20区にかけて分布しており、住居群として捉えられる。特に20区の東部南寄りに集中する状況であり、住居群は東側の調査区外へ拡がる可能性がある。一方、南側では隣接する21区を中心に周溝基群が確認されており、住居群へも一部拡がりを見せている。このため、居住域と墓域が重なる状況でもある。

公田池尻台地の住居は、公田池尻遺跡9-1区・9-3区で検出された。両調査区は、舌状に南東に延びる台地を南北に縦断している。9-1区の住居は台地北側にあり、9-3区の住居は台地の南縁辺部に立地している。両者がやや距離を置いて点在するような状況であり、住居群としてのまとまりは判然としない。

後期の住居は、公田東台地で10軒、公田池尻台地で14軒が確認された。

公田東台地の調査区は、公田東遺跡IV・V区と公田池尻遺跡の3・4区であり、北西へ舌状に延びる台地を南北に縦断している。住居は、調査区の北側では検出されていないため、台地の中央部から南縁辺部に立地する傾向が見られる。

公田池尻台地では、確認された住居の半数が公田

池尻遺跡8-3区に集中している。8-3区は、台地の中央部から南側にかけて位置している。なお現有道路を挟んで西側の9区では分布が薄いため、8-3区を中心とする住居群は東の調査区外に拡がる可能性がある。

前期の住居については、2軒重複が3例、3軒重複が2例認められた。また周溝基と重複するものが2例確認された。形状・規模は、大きいものでは平均7.6m四方の隅丸方形、小さいものでは平均4.6m四方の方形を呈する。

埋没土は、As-Cの混入する黒色土が多く、As-Cの混入差を面的に捉えることで遺構確認を行なっている。周溝のある住居は3軒確認され、柱穴は主柱穴の確定的な住居が8軒認められた。このうち、4本の主柱穴が2組検出され、拡張による建て替えが行なわれていた住居が1軒確認された。床面は、1軒で貼床が認められた。炉跡は2軒で確認されたが、このうちの1軒は炉跡のみが検出された住居である。貯蔵穴は1軒で確認された。

遺物は埋没土からの出土が多く、古式土師器の小片が主体であり、器種は変が多い。その他には、床面から白玉が出土した住居がある。

後期の住居は、公田東台地では単独に存在し、公田池尻台地では重複例が多い。形状は長方形や方形が多く、大きいものは長辺が約9m、小さいものでは平均2m四方の規模を測る。埋没土では、シルト質土で埋没している住居が2軒確認された。周溝は2軒で確認されたが、この他に柱穴から壁に向かって掘られている溝（間仕切り溝）がある住居を2軒確認した。柱穴は、主柱穴の確定的なものが7軒確認された。床面は、軟弱なものが多い。

カマドは8軒で確認され、3軒が北壁、5軒が東壁に位置している。カマドは、主にHr-FAやHr-FPに伴う粘土で構築されていると考えられる。貯蔵穴は7軒で検出され、このうち2基存在する住居が1

軒、貯蔵穴のみを検出した住居が1軒ある。掘り方は12軒で認められ、このうちの2軒は削平のため掘り方の面で平面形が確認された。

出土遺物は、土師器の壺・坏が主体であり、須恵器では坏・蓋・提瓶などが出土している。土器の他には、管玉・黒編み石・砥石が出土している。

後期の住居は、出土遺物から時期的に6世紀代と7世紀前半に区分される。このうち、6世紀代の住居については、確認された5軒のうち4軒が公田池尻台地にまとまる状況が認められる。

棚島川端 19区1号住居

(第24・108 図、P L-2・98)

位置 CH-189

重複 75号溝より古い。柱穴を建て替え、東壁を拡張している。

形状・規模 長方形 7.40m×6.70m

長軸方位 N-89°-E

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 4本の主柱穴が1回建て替えられているため、計8本の主柱穴が確認された。ピット1は径73cm、深さ54cm。ピット2は径87cm、深さ55cm。ピット3は径82cm、深さ58cm。ピット4は径52cm、深さ60cm。ピット5は径78cm、深さ45cm。ピット6は径73cm、深さ53cm。ピット7は径70cm、深さ63cm。ピット8は径69cm、深さ68cm。ピット1~4とピット5~8が主柱穴の組である。

床面 平坦で中央部南壁寄りに貼床が一部残存していた。

伊 位置 中央部にある。規模 1.25m×0.82m
残存状況 北西部が75号溝に一部壊されている。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 土師器壺・壺などの小片約500点、S字瓦片約260点が出土した。猪足の遺物が、東壁中央

部にあたるピット7周辺から集中して出土している(P-1・2・5~9)。また南壁中央部の床面から、土師器壺1点(P-4)が出土している。

所見 主柱穴の状況から、東方へ1回拡張していることが確認された。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 19区2号住居

(第25・108図、P L-98)

CE-186で、炉跡のみが残存する住居を確認した。炉跡の規模は70cm×65cmを測り、弱く焼けた伊と考えられる面を確認した。遺物は、炉跡及び伊跡周辺からS字瓦の小片23点と土師器壺・高杯の小片13点が出土した。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 19区3号住居

(第26・109・110図、P L-98・99)

CJ-189で、周溝の一部が残存する住居を確認した。周溝は、住居の南西隅に寄った西側と南側の一部が確認され、幅16~30cm・深さ10~12cmを測る。住居のプランや床面などは明確でなかったが、南壁寄りでは焼土分布が確認された。遺物は、推定される住居範囲やその周辺から古式土師器の小片が約2,300点出土しており、石鏃が1点混入していた。また遺物は南西隅を中心に散布しており、西壁寄り(P-2・8・14・16・18)と南壁寄り(P-4~7・9・10・12・13・15)にまとまる状況が認められた。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 19区4号住居

(第27・110図、P L-100)

位置 CC-183

重複 40土坑よりも古い。

形状・規模 不明。4.15+m×3.30+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴の可能性のあるピットが1本確認された。ピット1は径53cm、深さ49cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約80点出土した。埋没土から高坏1点(P-1)が出土している。

所見 住居北東隅寄りの北壁と南壁の一部を確認しただけである。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

磐島川端 19区5号住居

(第28・110図、P L-2)

位置 C I-190

重複 溝より古い。北東隅の一部を確認した。

形状・規模 不明 4.00m×3.25+m

長軸方位 不明

埋没土 不明。

壁 平均12cmの高さで外溝するようである。

周溝 壁に沿って全周する。幅27cm、深さ8cm。

柱穴 主柱穴が3本確認された。ピット1は径36cm、深さ28cm。ピット2は径24cm、深さ30cm。ピット3は径21cm、深さ9cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の寛片が3点出土した。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

磐島川端 19区8号住居 (第29・110図)

C J-191で、北壁・東壁・西壁の周溝と主柱穴2本が残存する住居を確認した。5号住居及び溝と重複しており、住居の南半部は溝に壊されている。周溝は、幅28cm・深さ10cmを測る。主柱穴は、ピット1は径43cm・深さ30cm、ピット2は径40cm・深さ33

cmを測る。遺物は、殆ど出土していない。出土遺物がなく、年代を考える資料に乏しいが、古墳前期の住居と考えられる。

磐島川端 20区1号住居 (第31図)

位置 C O-196

重複 5号溝より古く、中央部を切られている。北東隅と南西隅を確認した。

形状・規模 隅丸方形 7.67m×7.58m

長軸方位 N-15°-W

埋没土 As-Cを含む茶褐色土。

壁 平均4cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を3本確認した。ピット1は径76cm、深さ82cm。ピット2は径47cm、深さ86cm。ピット3は径74cm、深さ57cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 埋没土から、古式土師器の小片が約80点出土した。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

磐島川端 20区2号住居 (第30図、P L-2)

位置 C Q-198

重複 3号溝より古い。南西隅寄りの一部を確認した。

形状・規模 不明。 3.70+m×1.60+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a層の可能性はある。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴の可能性のあるピットを1本確認した。ピット1は径43cm、深さ68cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約36点、円礫が南西隅から集中して9点出土した。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区3号住居

(第32図、P L-2)

D B-202で、西壁寄りの一部が残存する住居を確認した。4号住居と重複するが、新旧関係は不明である。西壁の規模は、3.75+mを測る。埋没土はAs-Cを含む黒褐色土で、壁は平均10cmの高さで直線的に走る。床面は平坦である。遺物は、古式土師器の小片が約55点出土した。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区4号住居

(第32・110図、P L-100)

位置 D B-203

重複 3号住居と重複する。周壁は西壁の一部以外は不明。

形状・規模 不明。西壁1.80+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均6cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 ビットが3本確認された。ビット1は径62cm、深さ42cm。ビット2は径51cm、深さ38cm。ビット3は径41cm、深さ26cm。ビット1・ビット2は、主柱穴の可能性がある。

床面 平坦である。

炉 不明

貯蔵穴 位置 北壁中央部にある。形状 円形 規模 65cm×61cm×29cm 遺物出土状態 甕3点(P-1・2・4)を含む古式土師器片が約28点出土した。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約80点出土した。中央部の床面から、甕1点(P-3)が出土し

ている。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区5号住居

(第33・34・110図、P L-3・100)

位置 C Y-201

重複 6号住居、7号住居、9号掘立柱建物より古い。北西部を確認した。

形状・規模 不明。東壁7.80+m×北壁6.70+m 長軸方位 不明。

埋没土 VI a層と地山ブロックの混土層。

壁 平均20cmの高さでほぼ直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 ビットが2本確認された。ビット1は径22cm、深さ19cm。ビット2は径35cm、深さ22cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約490点出土した。床面では、西壁中央部から高坏1点(P-1)、北壁中央部から甕1点(P-3)が出土している。埋没土からは、甕1点(P-2)とS字甕1点(P-4)が出土した。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区6号住居

(第33・34・110図、P L-3・110)

位置 C Y-202

重複 5号住居より新しく、14号溝より古い。東壁寄りの一部を確認した。

形状・規模 不明。東壁2.00+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a層と地山ブロックの混土層。

壁 平均10cmの高さで直線的である。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約85点出土した。床面から、高坏1点(P-1)と甕1点(P-2)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 20区7号住居

(第33・34図、P L-3)

CY-200で、東壁寄りの一部が残存する住居を確認した。1号方形周溝基及び5号住居と重複しており、新旧関係は5号住居よりも新しい。埋没土は、VIa層と地山の混土层である。東壁以外については不明である。遺物は、古式土師器の小片が約80点出土した。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 20区8号住居

(第35・110図、P L-3・100)

DB-206で、南西隅にあたる部分が残存する住居を確認した。5号溝及び8号土坑と重複しており、新旧関係は古い。特に5号溝によって住居の大半が壊されている。規模は、4.35+m×3.30+mを測る。埋没土はVIa層の可能性があり、壁は平均10cmの高さで直線的に走る。床面は平坦である。遺物は、古式土師器の小片が約30点出土した。南壁中央部の床面からは、壺1点(P-1)が出土している。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 20区9号住居

(第38・110・111図、P L-2・100)

DA-206で、住居の北壁中央部から北東隅にあたる部分が残存する住居を確認した。1号方形周溝基及び溝と重複しており、新旧関係は古い。規模は、4.80m×3.37+mを測る。埋没土はVIa層と地山ブロックの混土层で、床面は平坦である。遺物は、古式土師器の小片が約50点出土した。床面では、東壁

中央部と北壁中央部から壺(P-1・4)が計2点出土している。埋没土からは、壺2点(P-2・3)が出土している。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 20区10号住居

(第36・111図、P L-4・101)

CV-199で、北東隅寄りの一部が残存する住居を確認した。11号住居と重複しており、新旧関係は古い。規模は、3.47+m×1.28+mを測る。埋没土は炭化物和灰が混入するVIa層で、壁は平均5cmの高さを測る。遺物は、古式土師器片が約130点出土しており、埋没土から壺2点(P-1・2)が出土した。なお、重複する11号住居内で浅い位置から出土した遺物は、本住居に伴う可能性がある。出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

棚島川端 20区11号住居

(第36・111図、P L-4・101)

位置 CV-199

重複 10号住居及び溝より古く、南西隅を溝に切られている。

形状・規模 隅丸方形の可能性ある。5.40+m×5.00+m

長軸方位 不明。

埋没土 炭化物・灰・地山ブロックを混入するVIa層。

壁 平均8cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴が4本確認された。ビット1は径46cm、深さ33cm。ビット2は径59cm、深さ44cm。ビット3は径59cm、深さ48cm。ビット4は径44cm、深さ42cm。床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約180点出土した。北西隅のビット2内から、壺1点(P-3)が

出土している。埋没土から、壺3点(P-1・2・4)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

櫛島川端 20区12号住居

(第37・111図、P L-4・101)

位置 CU-197

重複 13号住居・14号住居と重複する。北東隅寄り
は調査区外。

形状・規模 隅丸方形の可能性ある。7.55m×
6.32+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a層と地山ブロックの混土層。

壁 不明。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴が3本確認された。ピット1は径48cm、
深さ54cm。ピット2は径56cm、深さ56cm。ピット3
は径56cm、深さ36cm。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約440点出土し
た。南東隅の床面から、高坏1点(P-3)が出土
している。埋没土からは、土甕1点(P-1)・小型
壺1点(P-2)・S字壺2点(P-4・5)が出土
している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

櫛島川端 20区13号住居

(第39・111図、P L-4)

位置 CU-196

重複 12号住居・14号住居と重複する。

形状・規模 隅丸方形の可能性ある。3.30m×
2.00+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a層。

壁 不明。

周溝 なし。

柱穴 不明。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 古式土師器片が約50点出土した。埋
没土から、壺1点(P-1)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

櫛島川端 20区14号住居

(第39・111図、P L-4)

位置 CT-196

重複 12号住居・13号住居と重複する。

形状・規模 不明。5.00m×1.50+m

長軸方位 不明。

埋没土 VI a層を主体とする。

壁 不明

周溝 なし。

柱穴 不明。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約380点出土し
た。南東隅の床面から、壺1点(P-1)が出土し
ている。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

櫛島川端 20区15号住居

(第40・111図、P L-5・101)

位置 CM-192

重複 19号井戸、中世ピットより古い。西半部は調査
区外。

形状・規模 隅丸方形 6.40+m×6.30m

長軸方位 N-69°-E

埋没土 地山ブロックを混入するVI a層。

壁 平均22cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を3本確認した。ピット1は径40cm、深さ57cm。ピット2は径51cm、深さ42cm。ピット3は径57cm、深さ31cm。

床面 平坦である。

炉 東壁寄りの中央部に炭化物が分布していたが、炉であるかは判然としない。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約420点出土した。埋没土から、壺3点(P-1~3)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区16号住居

(第41・112図、P L-101)

位置 DD-205

重複 5号溝・15号溝より古い。

形状・規模 不明。1.55+m×1.50+m

長軸方位 不明。

埋没土 VIa層を主体とする可能性がある。

壁 平均8cmの高さで直線的である。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約150点出土した。西壁中央部の床面から、甗1点(P-1)が出土している。埋没土からは、壺2点(P-2・3)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区17号住居 (第42図)

位置 DB-204

重複 5号溝・15号溝より古い。住居の北東隅寄りの一部を確認した。

形状・規模 不明。

長軸方位 不明。

埋没土 VIa層を主体とする可能性がある。

壁 平均10cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 ピットを1本確認した。ピット1は径50cm、深さ26cm。主柱穴の可能性はある。

床面 平坦である。

炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

遺物出土状態 古式土師器の小片が約60点出土した。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

礪波川端 20区20号住居 (第43・112図)

CS-194に位置し、南西の1辺が調査できたのみである。床面は明瞭でなく、図示した面は掘方の可能性が高い。炉や柱穴は確認できない。埋土から古式土師器が出土している。

公田東 IV区6号住居 (第44図、P L-5)

位置 GJ-310

重複 ピット30より古い。西壁部以外は調査区外。

形状・規模 不明。3.14m×1.45+m

長軸方位 N-33°-W

埋没土 As-C、Hr-FA、Hr-FPを含む灰褐色土及び暗褐色土。

壁 平均14cmの高さで、北西隅と南西隅は隅丸を呈する。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均15cm掘り込まれており、平坦である。

遺物出土状態 埋没土や掘り方から土師器の小片が

少量出土した。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田東 V区1号住居

(第45・113・114図、P L-5・6・102)

位置 GM-311

重複 なし。

形状・規模 方形 2.50m×2.32m

長軸方位 N-46°-W

埋没土 As-C、Hr-FAを含む灰色土。

壁 平均27cmの高さで東壁がやや重む。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 北東隅にある。規模 焚き口幅80cm 奥行70cm 煙道部長80cm 幅35cm 残存状態 両袖部の高まりが残り、芯材の裸が確認された。奥壁は半円形を呈し、煙道部が北壁から溝状に突出する。燃焼面は、焼土・炭化物の分布が認められた。遺物出土状態 殆ど出土していない。

貯蔵穴 なし。

掘り方 全面が平均10cm掘り込まれている。北西隅から中央部では溝状、南西隅では土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 床面では、カマド脇にあたる北壁中央部と北東隅から土師器壺3点(P-2~4)、南東隅から磁石1点(S-1)が出土した。埋没土からは、土師器杯1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀前半と考えられる。

公田東 V区5号住居

(第46・114・115図、P L-6・7・102・103)

位置 GN-311

重複 1号土坑、4号土坑、5号土坑、3号掘立柱建物より古い。

形状・規模 長方形 4.02m×3.63m

長軸方位 N-36°-E

埋没土 As-C、Hr-FA、Hr-FPを含む灰色土。

壁 平均41cmの高さで直線的に走るが、南西隅がやや外湾する。

周溝 なし。

柱穴 掘り方において、床面に伴う可能性のある6本のピットが確認された。ピット1は径27cm、深さ15cm。ピット2は径25cm、深さ9cm。ピット3は径43cm、深さ30cm。ピット4は径32cm、深さ24cm。ピット5は径29cm、深さ15cm。ピット6は径35cm、深さ27cm。このうちピット1・2・4・6は柱穴、ピット3は貯蔵穴の可能性がある。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 南東隅にある。規模 焚き口幅90cm 奥行97cm 煙道部長52cm 幅37cm 残存状態 両袖部の高まりが住居内に残り、奥壁は東壁から半円形に突出し、煙道部も溝状に延びる。燃焼面には焼土と灰が分布しており、左袖の壁面の焼けが強い。

遺物出土状態 掘り方から、土師器壺2点(P-15・17)が出土した。このうちの1点(P-17)は、左袖の先端から出土した胴部と、右袖の南側から出土した口縁部が接合している。

貯蔵穴 ピット3が可能性がある。

掘り方 全面が平均15cmほど掘り込まれており、溝状や土坑状の掘り込みを多数確認した。

遺物出土状態 床面では、中央部と北壁中央部から土師器杯が計2点(P-5・6)出土した。南東隅のカマド脇からは土師器壺1点(P-16)と土師器杯1点(P-7)が出土した。南壁と西壁中央部からは、薦編み石が計2点(S-1・2)出土した。埋没土からは、土師器杯10点(P-2~4・8~14)と、北壁中央部のカマド脇から須恵器蓋1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 3区1号住居

(第47・116図、P L-8・104)

位置 GK-319

重複 2号住居、3号溝より古い。東壁部分は調査区外。

形状・規模 不明。4.02m×3.30+m

長軸方位 N-17-W

埋没土 As-Cを含む灰褐色土。

壁 平均23cmの高さで北壁と南壁がやや外湾する。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ピット1は径55cm、深さ34cm。ピット2は径40cm、深さ33cm。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均8cmほど掘り込まれ、西壁に沿って幅約50cmのテラス状の段差を確認した。またピット2の東・西両側などで土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 南東隅寄りを中心にまとまって出土した。床面では、南壁中央部から土師器環1点(P-2)、南西隅から蔦編み石(S-1)が出土している。埋没土からは、土師器環1点(P-1)が出土している。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 3区3号住居

(第48・116・117図、P L-8・104)

位置 G L-322

重複 3号溝より古い。

形状・規模 不明。4.00m×3.00+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを少量含む暗灰褐色土。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ピット1は径27cm、深さ32cm。ピット2は径32cm、深さ38cm。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 焚き口幅74cm 奥行69cm 残存状態 両袖部の高まりが住

居内に残り、奥壁は半円形で東壁からやや張り出す。燃焼面には灰が分布しており、焼土塊も僅かに認められた。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 不整形円形 規模 60cm×60cm×10cm 遺物出土状態 床面に近いレベルから土師器鉢1点(P-4)、須恵器提瓶1点(P-5)が出土した。

掘り方 全面が平均10cmほど掘り込まれ、北東隅で土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 カマド周辺部からまとまって出土した。南東隅の床面から、土師器環3点(P-1~3)が出土している。埋没土からは、蔦編み石1点(S-1)が出土している。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 3区4号住居

(第49・117図、P L-9・104)

位置 G K-324

重複 東半部は調査区外。

形状・規模 長方形の可能性がある。3.20m×2.30+m

長軸方位 不明。

埋没土 暗灰色シルト質土。

壁 平均10cmの高さでほぼ直線的である。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が12cmほど掘り込まれ、北壁脇で不定形の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 床面では、南壁中央部から土師器壺1点(P-4)、中央部から土師器壺1点(P-3)・蔦編み石1点(S-1)が出土した。埋没土からは土師器環1点(P-1)、掘り方からは土師器環1点(P-2)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられ

る。

公田池尻 3区8号住居

(第50・117図、P L-9・105)

位置 GM-325

重複 6号溝・11号溝・12号溝より古い。

形状・規模 長方形 3.03m×2.65m

長軸方位 N-75°-E

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均15cmの高さで直線的に走る。北東壁は隅丸を呈する。

周溝 なし。

柱穴 ビットを1本確認した。ビット1は径45cm、深さ27cm。貯蔵穴の可能性ある。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 焚き口幅70cm 奥行77cm 残存状態 両袖部の高まりが住居内に残り、袖は地山を掘り込んで構築されているのが確認された。奥壁は半円形で東壁から僅かに張り出すようである。燃焼面では、灰層の分布が確認された。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 ビット1が可能性的ある。

掘り方 なし。

遺物出土状態 東壁中央部の床面から、土師器坏1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 4区9号住居

(第51・117図、P L-48・105)

位置 GO-319

重複 掘立柱建物跡より古い。西半部は調査区外。8号住居と近接しており、調査区外で重複する可能性がある。

形状・規模 不明。 3.45m×1.68+m

長軸方位 不明。

埋没土 暗灰色シルト質土。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 南半部と北東隅が掘り込まれており、南東隅ではビット状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 南壁中央部の床面から土師器坏1点(P-1)と、埋没土から土師器壺1点(P-2)が出土した。

所見 出土遺物から、6世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 4区10号住居 (第52図、P L-10)

GP-322で、住居の東壁の一部と、東壁から溝状に突出する部分を確認した。確認した部分の他は、調査区外である。溝状部分の規模は、幅20cm・奥行98cmを測る。カマドの煙道部と考えられるが、確証性に乏しい。出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、古墳後期頃の住居と考えられる。

公田池尻 4区13号住居 (第52図、P L-10)

位置 GR-325

重複 12号住居、51号溝より古い。

形状・規模 長方形 2.35m×2.03m

長軸方位 N-3°-W

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均7cmの高さで、南壁が外湾し、西壁がやや歪む。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 位置 北東東寄りにある。規模 幅45cm 奥行55cm 残存状態 両袖部の高まりが住居内に僅かに残る。奥壁は北壁と同じであり、「コ」字形を呈する。燃焼面は明瞭でない。

遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、古墳後期頃の住居と考えられる。

公田池尻 5区1号住居

(第54・117図、P L-10・104)

位置 I G-484

重複 1号土坑より古い。

形状・規模 不明。3.70+m×2.08+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均5cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ビット1は径37cm、深さ37cm。ビット2は径41cm、深さ46cm。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 埋没土から土師器壺1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、6世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 8-2区1号住居

(第53・117図、P L-10)

位置 I N-496

重複 掘り方にあたる面を確認した。西側は調査区外。

形状・規模 不明。3.08m×0.97+m

長軸方位 不明。

埋没土 不明。

壁 直線的に走る。

周溝 北壁で確認された。幅17cm、深さ6cm。

柱穴 ビットを1本確認した。ビット1は径20cm、深さ58cmで斜めに掘り込まれている。

床面 不明。

カマド 不明。

貯蔵穴 位置 南東隅にあり、西半部は調査区外。

形状 長方形 規模 80cm×70+cm×32cm 遺物出土状態 土師器環1点(P-1)が出土した。

掘り方 底面は、ほぼ平坦である。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 8-2区3号住居

(第55・117図、P L-10・105)

位置 I D-496

重複 東半部は調査区外。

形状・規模 不明。8.94m×5.28+m

長軸方位 N-25'-W

埋没土 As-Cを含む暗褐色土。

壁 平均8cmの高さを測る。

周溝 周溝ではないが、ビットから壁に向かって延びる溝を計5条確認した。幅は平均30cm、深さは平均15cm。間仕切りに伴う可能性が考えられる。

柱穴 主柱穴を5本確認した。ビット1は径33cm、深さ48cm。ビット2は径54cm、深さ57cm。ビット3は径51cm、深さ44cm。ビット4は径39cm、深さ53cm。ビット5は径37cm、深さ30cm。

床面 東側中央部で貼床が一部確認された。

カマド 不明。

貯蔵穴 位置 南壁寄りにある。形状 長方形 規模 1.05+m×1.02m×0.17m

遺物出土状態 土師器環1点(P-1)、須恵器蓋(P-2)が出土した。

掘り方 ほぼ平坦であるが、東側中央部の掘り込みは床下土坑の可能性があり、北西部の落ち込みは掘り方に伴う可能性がある。

遺物出土状態 なし。

所見 間仕切りの可能性のある溝が特徴的である。

出土遺物から、6世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 8-2区5号住居

(第56・118図、P L-11・105)

位置 I N-491

重複 6号住居・7号住居と重複し、6号住居より古い。北東隅は調査区外。

形状・規模 長方形 6.53m×4.98m

長軸方位 N-51°-W

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均17cmの高さで東壁がやや外湾するようである。

周溝 なし。

柱穴 ビットを1本確認した。ビット1は径46cm、深さ41cm。

床面 平坦である。

カマド 位置 北壁中央部にある。規模 幅35cm 奥行62cm 残存状態 袖部は確認されず、奥壁は北壁から半円形に突出する。燃焼面は明瞭でない。遺物出土状態 土師器の坏1点(P-3)・高坏1点(P-5)・甕1点(P-7)が出土した。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 カマド周辺からまとまって出土した。カマド周辺の埋没土から、土師器の坏2点(P-2・4)・甕1点(P-6)、須恵器坏1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、6世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 8-2区7号住居

(第57・118図、PL-11・105)

位置 IN-490

重複 5号住居と重複する。

形状・規模 方形 4.67m×3.50+m

長軸方位 不明。

埋没土 黒色土。

壁 平均5cmの高さで直線的である。

周溝 なし。

柱穴 ビットを6本確認した。ビット1は径35cm、深さ36cm。ビット2は径34cm、深さ38cm。ビット3は径33cm、深さ34cm。ビット4は径33cm、深さ38cm。ビット5は径33cm、深さ34cm。ビット6は径39cm、深さ19cm。ビット1・2・3・5が主柱穴と考えら

れる。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 楕円形 規模 72cm×62cm×32cm 遺物出土状態 土師器甕1点(P-2)が出土した。

掘り方 全面が平均8cmほど掘り込まれ、南壁に沿って帯状にめぐる掘り込みを確認した。

遺物出土状態 埋没土から須恵器坏1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、6世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区8号住居

(第58・118・119図、PL-105・106)

位置 IS-509

重複 南東隅は調査区外。

形状・規模 方形 5.97m×5.44m

長軸方位 N-46°-E

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均14cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を4本確認した。ビット1は径43cm、深さ32cm。ビット2は径52cm、深さ36cm。ビット3は径42cm、深さ32cm。ビット4は径39cm、深さ32cm。床面 平坦である。

カマド 位置 南東隅にある。規模 幅40cm 奥行55+cm 残存状態 残りは悪く、焼土粒や粘土塊の分布で範囲を確認した。袖部の高まりが僅かに確認できたが、奥壁は調査区外である。燃焼面は明瞭でない。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴1 位置 南東隅にある。形状 長方形 規模 68cm×53cm×30cm 遺物出土状態 なし。

貯蔵穴2 位置 南東隅にあるが、調査区外の部分が多いため、形状・規模は不明。遺物出土状態 なし。

掘り方 全面が平均25cmほど掘り込まれており、底面はほぼ平坦である。

遺物出土状態 北東隅のビット1周辺からまとまっ

て出土した。床面では、北壁中央部から須恵器蓋1点(P-1)・土師器甕1点(P-9)、南壁中央部から土師器環1点(P-2)、東壁中央部から土師器甕3点(P-5・7・8)、中央部から管玉1点(S-1)が出土している。ピット内では、ピット1から土師器甕1点(P-6)、ピット2から土師器環1点(P-3)が出土しており、埋没土からは土師器甕1点(P-4)が出土している。
所見 出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区11号住居

(第59・119・120図、PL-12・106・107)

位置 I P-501

重複 18号住居と重複する。東壁部は調査区外。形状・規模 方形 5.07m×4.55+m

長軸方位 N-21'-W

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均4cmの高さで直線的に走る。

周溝 北壁東寄りを除いて全周する。幅22cm、深さ7cm。またピットから東壁及び西壁に向けて延びる溝を計4条確認した。幅は平均21cm、深さは平均7cm。間仕切りに伴う可能性が考えられる。

柱穴 主柱穴を4本確認した。ピット1は径45cm、深さ41cm。ピット2は径48cm、深さ47cm。ピット3は径41cm、深さ14cm。ピット4は径39cm、深さ47cm。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面では、北東隅から土師器の環2点(P-1・17)・鉢1点(P-9)・甕1点(P-11)、南西隅から土師器環1点(P-2)、北壁中央部から土師器甕1点(P-16)が出土した。またピット3内から土師器甕1点(P-14)が出土した。埋没土からは、土師器の甕2点(P-10・15)・環4点(P-3~4)・甕2点(P-12・13)・鉢1点(P-8)、須恵器の甕1点(P-7)・土宛1点(P-

18)が出土した。

所見 間仕切りの可能性のある溝が特徴的である。出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区13号住居

(第60図、PL-13)

位置 I Q-506

重複 7号土坑と重複する。東半部は調査区外。

形状・規模 長方形の可能性ある。7.24m×4.95+m

長軸方位 N-29'-W

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均6cmの高さで西壁がやや歪む。

周溝 なし。

柱穴 ピットが多数確認されたが、主柱穴については確定的でない。

床面 不明瞭である。

カマド・炉 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、古墳後期頃の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区14号住居 (第61図)

位置 I Q-504

重複 15号住居と重複する。

形状・規模 不明。4.20m×2.63+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均15cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 ピットを1本確認した。ピット1は径57cm、深さ38cm。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 ビット1から土師器の小片が少量ま
とまって出土した。

所見 出土遺物が少なく、年代を考える資料に乏し
いが、古墳後期頃の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区15号住居

(第61・120・121図、P L-108)

位置 I Q-504

重複 11号住居・14号住居と重複する。

形状・規模 長方形 5.39m×4.58m

長軸方位 N-88°-W

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均5cmの高さで西壁がやや歪む。

周溝 周溝ではないが、ビット1から北壁に向つて
延びる溝を1条確認した。幅21cm、深さ7cm。間仕
切りに伴う可能性が考えられる。

柱穴 主柱穴を4本確認した。ビット1は径29cm、
深さ57cm。ビット2は径26cm、深さ42cm。ビット3
は径28cm、深さ69cm。ビット4は径36cm、深さ40cm。
床面 平坦である。

カマド 位置 東壁中央部にある。規模 不明。
残存状態 残りが悪く、両袖部の高まりが部分的に
確認されたのみで、他は不明である。遺物出土状
態 なし。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 楕円形 規
模 76cm×62cm×30cm 遺物出土状態 土師器環1
点(P-1)が出土した。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面では、東壁中央部から土師器環
1点(P-2)、南東隅から土師器環1点(P-3)、
南壁中央部から土師器環1点(P-6)、中央部から
土師器環1点(P-7)が出土した。またビット4
内から、土師器の壺1点(P-5)・甕1点(P-4)
が出土した。

所見 間仕切りの可能性のある溝が特徴的である。
出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区18号住居

(第59・121図、P L-12)

I P-503で、貯蔵穴のみが残存する住居を確認
した。11号住居と重複するが、切合いによる新旧関
係は不明である。貯蔵穴は長方形を呈し、規模は62
cm×52cm×36cmを測る。遺物は、土師器の環1点
(P-1)・壺1点(P-2)が出土した。出土遺物
から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区28号住居 (第62図)

I Q-502で、掘り方の面が残存する住居を確認
した。19号住居と重複しており、東壁部は調査区外
である。住居の形状は長方形で、規模は3.80+m×
3.52mを測る。長軸方位はN-67°-Eである。ビッ
ト77・83・84が住居に伴う可能性があり、ビット77
は径69cm・深さ30cm、ビット83は径45cm・深さ25cm、
ビット84は径44cm・深さ46cmを測る。出土遺物が殆
どなく、年代を考える資料に乏しいが、古墳後期頃
の住居と考えられる。

公田池尻 8-1区3号住居

(第63・121・122図、P L-13・14・108・109)

位置 I I-492

重複 2号井戸より古い。

形状・規模 方形 4.61m×4.52m

長軸方位 N-14°-W

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均11cmの高さで直線的である。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を4本確認した。ビット1は径44cm、
深さ64cm。ビット2は径43cm、深さ46cm。ビット3
は径38cm、深さ24cm。ビット4は径40cm、深さ78cm。
床面 平坦である。

炉・カマド なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 北西隅から集中して出土した。ビッ
ト3内からS字壺1点(P-1)、埋没土からS字壺
3点(P-2~4)が出土している。

所見 出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

公田池尻 9-3区4号住居

(第64・122図、P.L-14・15・109)

位置 I N-509

重複 東側は調査区外。

形状・規模 方形の可能性ある。4.45m×4.02+m

長軸方位 N-14'-W

埋没土 As-Cを含む暗褐色土を主体とする。埋没土中に焼土粒・炭化材が多量含まれており、また部分的に白色砂粒の堆積が確認された。

壁 平均10cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面では、南東隅から土師器の甕1点(P-7)・甕1点(P-3)・鉢1点(P-4)が出土した。埋没土から、土師器の坏2点(P-1・2)・甕2点(P-5・6)が出土した。また前述しているが、埋没土中から炭化材が多量出土した。

所見 埋没土中の炭化材の状況から、住居廃絶後の埋没途中に焼失した住居の可能性ある。出土遺物から、7世紀前半の住居と考えられる。

公田池尻 9-3区5号住居

(第65・122・123図、P.L-109)

位置 I O-511

重複 東半部は調査区外。

形状・規模 不明。3.78m×1.70+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均4cmの高さで直線的に走る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦である。

炉・カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面では、北西隅から古式土師器の甕1点・中央部から白玉4点(S-1~4)が出土した。また住居周辺部から、古式土師器の高坏1点(P-2)・甕1点(P-3)などが出土した。所見出土遺物から、古墳前期の住居と考えられる。

公田池尻 9-2区6号住居

(第66図、P.L-15)

I M-502で、遺物集中地点を確認したため、住居の可能性を考えて扱った。しかし、プランや床面・柱穴などは確認されなかった。遺物は、土師器甕1点と自然礫が集中して出土した。出土遺物から、古墳後期の住居と考えられる。

公田東 IV区1号遺物散布遺構 (第67図)

公田東遺跡最南端に位置し、形状は不明。壁の立ち上がりは緩やかである。比較的まとまって土師器小片が出土したが、接合後も図示し得る残存状態の土器はない。

2. 井戸

本遺跡で井戸として確認された遺構は、105基である。このうち本書で報告するのは、第1分冊で報告した6基を除く、96基である。

なお、本報告書において、井戸として扱った遺構は、調査時の所見を用いており、後述するが、井戸とした遺構の中にも井戸としての性格を疑問視するものも含まれる。

また、本報告書では井戸の開鑿時期により項を設けているが、開鑿時期の決定は出土遺物等が少ないことから、非常に困難である。報告にあたっては、出土遺物や埋没土の状況を主眼に置き、なおかつ不明なものについては確認面を基準として時期決定を行った。

各項とも概要を述べた後、位置・形状・規模等について各時代ごとの一覧表を付したのでこれを参照されたい。

古墳時代の井戸として確認し、調査した遺構は第1分冊で報告したもの（樺島川端遺跡1～18区に所在）をふくめて35基となっており、同時期の他遺跡に比べ、発見例が非常に多い。このうち本報告書で報告するのは、16基である。なお、本項で井戸として扱っている遺構は、調査時の所見で井戸として確認しているものである。

確認位置は、樺島川端遺跡19区で8基、同20区で3基、同21区で1基、公田池尻1区で1基、同9区で4基となっている。出土遺物から樺島川端遺跡の12基と公田池尻1区の1基は古式土師器を伴う古墳時代前期のもの、公田池尻9区の4基は古墳時代後期の井戸と推定される。この分布は、住居跡の分布にほぼ一致し、これらの遺構は、集落域内に所在したものと思われる。

前期の井戸は、形状の特徴及び遺物の出土状況からA・B類の2種類に分類できる。

A類は、溜井状の施設をもち、溝に流水し供給する井戸である。樺島川端遺跡19区4・5号井戸91号溝がこれにあたる。20区21号井戸も形状は、溝を伴うように見え類似するが、明らかに溝より井戸が新しく同時期の遺構とは考えられない。

B類は、A類に対して浅く、多量の遺物を伴う遺構である。遺物はほとんど破片であるが、1個体として復元できる場合が多く、1個体を投棄していると考えられる。また、中下層に含まれる場合は、完形であることが多い。

上記A類の2基の井戸を除く、すべての井戸がこのB類に属する。

B類については、以下のような点から井戸として性格づけてよいか疑問が残る遺構である。

まず、確認面からの深度が約0.7m～1.4mと浅く、住居等同時期の他の遺構と比べても、当時の湧水点に達していたかどうか不明である。

また、このような類型が既存の報告書に認められ

るが、遺物の出土状態などを考慮し、土坑として扱っている。

このようなことからこれらB類の井戸として扱う遺構については、井戸としての性格付けに再考を必要としよう。

後期の井戸については、出土例は少なく、明確な傾向は把握できなかった。

以上を踏まえて、以下個別の遺構について所見を述べたい。

なお、個々の位置・形状・規模については、一覧表（表1）に記してあるのでこちらを参照されたい。

樺島川端遺跡

19区4・5号井戸

（第68図、P L-15）

調査所見によれば、2基の井戸が並列する溜井状遺構で、北東に流走する91号溝に供給しているとしている。しかし、91号溝と2基の井戸との関係を示す調査資料はなく、溜井状遺構として2基の井戸と溝が利用されたのかは不明である。また、2基の井戸について埋没土は非常に類似しているが、掘り込みは5号井戸の方が0.2m近くも浅い。これが、時期の前後関係等を意味しているものなのかは不明である。

19区6号井戸

（第68・124図、P L-15・110）

底部より460点にも上る古式土師器片が出土している。上記分類のB類に相当すると考えられる。調査中の観察所見により、湧水層は底面より約30cmの総社砂層中とされている。

19区7号井戸

（第68・124・125図、P L-15・110）

円形円筒状を呈する井戸跡である。遺物は、上層から中層にかけて約180点にもぼる土器類が出土している。湧水層は、底面から約1mの総社砂層である。

19区8号井戸 (第68・125図)

円形素掘りの朝顔形を呈する井戸としているが、形状・遺物の出土量等からB類に属する土坑状と考えられる。湧水については、記載がないため、不明である。

19区9号井戸 (第69・125図、P L-111)

本井戸は、西側が調査区外となるため、全容は明らかではないが、円形素掘りの朝顔状と推定できる。出土遺物が、多いことからB類に属する遺構と考えられる。

19区11号井戸 (第69・125図、P L-111)

本井戸は、円形素掘りの円筒状を呈する。深さは、0.83mと浅く、上層から下層まで古式土師器の土器片を約70点あまり含む。中層に灰で構成される土層が見られる。B類の井戸と考えられる。

19区12号井戸 (第69・125図、P L-111)

本井戸は、円形素掘りの円筒状を呈する。調査所見によれば、19区3号住居跡の下で確認されていることから、住居跡以前の遺構と考えられる。下層から約69点の古式土師器片を出土している。

20区18号井戸

(第69・125～131図、P L-15・16・111～115)

本井戸は、上部を中世から近世にかけての堀に削平されている。現状では、不整円形素掘りの円筒状を呈し、深さ1.13mを計る。出土遺物は、中下層から白や忤を中心とする多数の木製品と窠窓類を中心とする古式土師器約300点がある。B類の遺構と考えられるが、木製品を多数伴う井戸は、本遺跡ないで見られない。

20区19号井戸 (第69・132図、P L-16・115)

楕円形素掘りの円筒状を呈する。深さは、約1.13mと比較的浅く、中層から約110点の古式土師器片が、下層から小型壺の完形品が出土している。

20区21号井戸

(第70・132・133図、P L-17・115・116)

本井戸は、不整円形素掘りの朝顔状を呈する。上部に約1200点にもおよぶ多数の土器片を含んでおり、B類の遺構と考えられる。20区31号溝と接しているが、本井戸が31号溝より新しいと見られ、溜井状遺構とは考えにくい。

21区3号井戸

(第69・133・134図、P L-16・117)

本井戸は、南西側が調査区外となっているため、全容は明らかではないが、円形素掘りの円筒状を呈すると思われる。古式土師器片が約240点出土しているが、出土位置については記録がないため、不明である。B類に属すると考えられる。

公田池尻

1区1号井戸 (第69図)

上部に多量の土器片を出土したB類の井戸である。調査時には、底面から約30cmの地点で湧水があった。

9-1区3号井戸

(第70・135図、P L-17・118)

平面形状が方形を呈するのは、本井戸のみである。遺物は上部に少量含むのみでほとんど出土していない。

9-1区4号井戸

(第70・136図、P L-16・118)

円形素掘りの円筒状井戸である。底面から10～15cm付近で土器片を少量出土している。

9-1区5号井戸 (第69図、P L-17)

円形素掘りの朝顔形井戸である。出土遺物はない。

3. 土坑

概要 古墳時代の土坑は樺島川端遺跡と公田東遺跡で確認されている。確認された土坑数を各調査区

毎にみると以下ようになる。標島川端遺跡では19区が11基、20区が2基、21区が6基の計19基である。公田池尻遺跡では1区が3基、3区が2基、7区が5基、8区が8基、9区が4基の計22基である。

土坑個々の規模や形状などは一覧表に記したので、ここでは特徴ある土坑のみ説明する。

標島川端 20区31号土坑

(第72・137図、P L-17・118)

20区31号溝と重複し、本土坑が古く、規模は長径90cm、短径65cm、深さ42cmである。埋土中から、ほぼ完形の台付き甕(P-1)が横位で出土している。周辺には古墳時代前期の住居が存在し、住居の遺存状態も悪いことから、住居の貯蔵穴などの可能性も考えられる。

公田池尻 3区8号土坑

(第73・139図、P L-17・119)

長径53cm、短径46cm、深さ105cmの円筒形をなす。この土坑の最大の特徴は、堆積土と遺物出土状態にある。底部には厚さ10cmの砂を敷き、その上に2枚の板を置き、更に土師器甕(P-1)を正位で置いている。砂より上の埋土には小塊も認められ、人為的な堆積である。埋土内からは図示していないが、土師器杯小片が8点出土している。また、出土した板は遺存が悪く、図示し得る状態ではなかった。

公田池尻 8-2区6号土坑

(第74・138~140図、P L-18・119)

長辺81cm、短辺70cm、深さ25cmの長方形を呈し、底面は平坦である。底部からは土師器杯(P-1・2・6)や手づくね土器(P4・5)、編み物用石製錘(S-1~12)など、多くの遺物が出土している。周辺には遺存状態が悪い古墳時代後期の住居が多く存在することや、遺構の形状から住居の貯蔵穴の可能性が高い。

公田池尻 9-1区3号土坑

(第75・140図、P L-18・19・120)

長径1.7m、短径1.3m、深さ80cmの不整長方形をなす土坑である。埋土中からは多量の土師器が出土したが、図示し得たのは2点(P-1・2)のみである。9-1区2号土坑と重複し、本土坑が古い。

公田池尻 9-1区4号土坑

(第75・141図、P L-19・120)

平面形は長径87cm、短径75cmの円形、断面形は深さ78cmの台形を呈する。埋土下位から、土師器甕の底部(P-1)と土師器小型甕(P-2)が共に正位で出土している。

4. 周溝墓

古墳時代前期の集落は標島台地に集中し(第1集に収録)、集落域周縁にあたる20区・21区、公田東遺跡I区は墓域となっている。周溝墓は標島川端遺跡20区で5基、21区で2基、公田東遺跡I区で3基の計10基確認された。しかし、調査区幅が狭いうえ、より新しい溝が多く存在するために全体が判明するのは1基(公田東I区1号周溝墓)のみであった。しかし、その1基は遺存状態が良好で出土遺物も豊富であった。

標島川端 20区1号周溝墓

(第76・142図、P L-20・121)

CV-204に位置し、20区9号住居より新しく、9・16・58号溝より古い。重複が激しく、北辺と東辺北側のみが確認された。溝上端幅は2.5m、深さ30cmである。北辺台状部幅は6.1m、北辺溝外側幅は11mである。

標島川端 20区2号周溝墓

(第77・142・143図)

CQ-193に位置し、東半分は調査区外である。遺存が悪く掘り込みは不明瞭で、深さは中央でも20cmと浅い。規模は台状部南北辺8.0m、南北辺溝外幅12.2m、溝幅上端幅2.1から3.3mである。

榑島川端 20区3号周溝墓

(第78・143図、P L-21)

D B-207に位置し、中世塚集落区画溝間の幅4m内で確認され、南側は調査区外に延びる。そのため、規模や形状は不明であるが、周辺の状況から周溝墓と推測した。遺存状態が悪く溝幅は不明であるが、4m以上の可能性もある。溝深さは30cmである。

榑島川端 20区4号周溝墓

(第79・143図、P L-121)

C V-198に位置し、6号住居と重複する。新旧関係は不明である。6号住居の掘り方状に窪みが確認されたのみであり、詳細は不明である。

榑島川端 20区5号周溝墓

(第78・143図、P L-21・121)

D A-206に位置し、3号周溝墓同様、中世塚集落区画溝間の幅4m内で確認された。北西側ではコーナーが確認され、位置的には3号周溝墓と重複していることになる。深さは10cmほどと浅く、部分的な確認であり、調査時には周溝墓としているが、確証はない。また、3号と5号との新旧関係も不明である。

どちらが新しくても台状部を溝が破壊する位置関係にあり、周溝墓とは考えにくい点もある。

榑島川端 21区1号周溝墓

(第80・81・143図、P L-22・121)

D J-207に位置し、北側約2/3は調査区外である。台状部南辺は約16m、南辺溝外端規模は約30mと規模が大きい。溝上端幅は6.5から7.5mで、南辺溝外側中央は張り出している。この張り出しは、他遺構か当初のものかは不明である。溝底面は平坦でなく、深さも50cmから1mと幅があり、溝外側の形状も直線的ではない。しかし、台状部側は直線的である。確認状態において、南西隅に溝は認められない。

榑島川端 21区2号周溝墓

(第81・82・143図、20・22・23)

D H-210に位置し、1号周溝墓と近接する。南側約1/2は調査区外であり、規模や形状は不明である。溝上端幅は4.5m、深さは深い部分で70cmである。溝の断面形状は場所によって異なり、コーナー付近の下端は狭く浅くなる傾向が認められる。台状部北辺は9mであるが、溝外側の規模は不明である。

公田東 1区1号周溝墓

(第83・85・144～148図、P L-24～26・122～126)

D R-214に位置し、北側隅を除いて確認された。3遺跡内で唯一全体形状が判明した墓である。溝で区画された台状部は長辺14m、短辺11.5mの長方形をなし、溝下端も直線的で各隅もしっかりした角を形成している。一方、溝上端幅は隅が2.7m、辺中央の最大幅が6.0mと一定せず、上端外側は長径23.4m、短径22mの楕円形を呈している。溝は全週せず、南西辺中央部が掘り残されている。この部分の溝端部を平面形状から見ると、外側に向かって開くように扇状を呈している。したがって、台状部全体で見ると「前方後方」形を呈している。いわゆる前方部には浅い溝も認められず、現状では溝は存在しない。しかし、より前方側には近代の溝があり、浅い溝がこの場所に存在した可能性は否定しきれない。溝の形状は北西辺のみやや直線的で、底面も比較的平坦である。他は辺中央外側が丸みを帯びて広がり、深さも中央部が深く、隅が浅い傾向が認められる。また、溝の断面形状は、台状部側が急傾斜で外側が緩傾斜となっている。

出土遺物は溝底部台状部寄りから台状部斜面で出土し、出土位置は第83図に示したとおりである。出土遺物量を各辺で比較すると、北東辺が最も多く、他は少ない。鶏形土製品(P-30)は、破片が台状部側から落ちたように、溝斜面に沿って破片が並ぶような状態で出土している。また、P-16の壺は、口縁部と胴部がブリッジ部を挟んだ溝底部から出土しており、ブリッジ部に置かれていたと推定される。

各出土遺物はまとめて出土しているが、P-8のみ破片がやや散らばり、1片はHr-FA上から出土した。これは、この土器が最後まで台状部に残っていたためと考えられる。

出土した壺のうち、底部穿孔のものはすべて焼成前穿孔であり、胴部内面の接合痕も明瞭に残し、口縁部や頸部の接合も雑である。

台状部には地山を混じえた土が部分的に数cm認められ、盛土と推定された。主体部を確認するために盛土と盛土下を精査したが、確認されなかった。盛土下からは弥生土器片が出土した。

公田東 Ⅰ区 2号周溝墓

(第86・149図、P L-26・27・126)

DY-213に位置し、規模にもよるが、1号周溝墓と溝外側が2から3mと近接すると推定される。南隅が確認されたのみで、大半は調査区外である。確認された範囲内における溝上幅は2から4mと差が大きい。部位でみると隅部の幅が狭く、中央部が広い傾向が認められる。また、溝の断面形状は台状部側の傾斜が急で、外側が緩やかである。深さは、深い箇所では50cmである。

遺物は溝底部から完形の焼成後底部穿孔赤色塗彩壺(P-1)や手あぶり形土器の下半(P-3)などが出土している。

公田東 Ⅰ区 3号周溝墓

(第87図、P L-27)

DQ-220に位置し、北隅のみ確認された。溝上端幅は北隅で1.2mだが、辺中央に向かうにしたがい、次第に幅広くなる傾向が窺える。断面形状も1・2号周溝墓同様、台状部側が急傾斜で外側が緩傾斜である。出土遺物はないが、埋土の特徴は1・2号周溝墓と同様である。ごく一部の調査で、出土遺物もないが、溝の形状から周溝墓と判断した。

5. 溝、旧河道

溝は樺島川端19区で11条、20区で5条、21区で6

条確認された。公田東遺跡ではⅡ区で3条、Ⅳ区で2条、公田池尻遺跡ではⅠ区で4条、Ⅱ区で2条、Ⅲ区で4条、Ⅳ区で2条、Ⅴ区で3条、Ⅶ区で5条、Ⅷ区で1条確認されている。溝からは遺物がほとんど出土せず、時期決定は埋土の特徴によっている。また、樺島川端遺跡の19区39・41から43・87号溝や公田東遺跡のⅡ区66号溝、公田池尻遺跡のⅢ区16・39-1号溝はHr-FA降下以前に廃棄されていた。各溝の規模などは一覧表を参照していただきたい。

公田東 Ⅱ区 1号河道

(第88~91・152~157図、P L-28~33・127~131)

溝番号は付していないが、公田東遺跡Ⅱ区の低地部中最も低い箇所において河道が確認された。確認面にはHr-FAが堆積し、河道自体はAs-Cを含む粘性のある黒色土で埋まっていた。河道は東側にある微高地を取り巻くように、縁辺に沿って弧状を呈し、南西部では急激に南に流れを変える。上幅幅は1mから4mと一定せず、底部も場所によっては分岐して2条となる。深さは上幅の割に浅く、断面形状は皿状を呈する。調査区内のみでは傾斜が緩く、流下方向は不明瞭であるが、周辺の地形から判断して南が下流であろう。河道底部は凹凸があるが、埋土中に砂がほとんど認められず、流れは緩やかであったと考えられる。また、木製品が集中して確認されたFG-236の南側には、流れを遮るかのようには杭(W-34・35)が打ち込まれていた。杭の上部は10cmほどしか見えなかったが、溝底部下には60cm以上打ち込まれていた(P L-33)。上部構造が不明であるが、上流側における木製品の出土状態を考慮すると、流れをある程度遮っていた構築物の一部と推定される。

出土遺物は木製品が主体で、集落が至近にないためか土器の出土は少なく、図示し得たのは小片3点のみである。木製品は遺存が悪く、図示し得たのは35点である。明らかな製品には、着柄鋸鎌(W-19・20・25・26)や直柄鋸(W-32)がある。打ち込まれた状態で出土したW-34には中央にほぞ穴があるうえ、板材であることから構築部材を転用している

ようである。W-35の杭にはほぞ穴などの加工は認められないが、厚みのある良質な割材を使用している。

本河道の下部を調査したところ、更に二時期の河道が確認された(第91図)。これら河道の一部を拡張したが、植物遺存体が出土したのみで時期は不詳である。

6. 水田

本地区では、古墳時代の集落を構成する居住域・生産域・墓域が確認され、地域の動向を把握するうえで貴重な情報が得られている。特に生産域の調査は、浅間山や榛名山の火山活動、ならびに河川氾濫などの自然災害と、それに立ち向かった人々の軌跡を確認する作業でもあった。

古墳時代の水田は3面が確認されており、本地域では4世紀段階で一斉に大規模な耕地開発が実施されたと見てよい。このことは、4カ所の台地でいずれも4世紀代の居住域が確認されていることから言えよう。ただし、浅間C軽石降下以前の古墳時代初頭の住居はまだ確認されていない。

また、居住域の動向をみると、4世紀代から6世紀中頃までは継続的であるが、6世紀後半以後の遺構・遺物はかなり少ない。これは度重なる火山災害がこの地域をしだいに疲弊させ、古墳時代後半の榛名二ツ岳伊香保ラハールの堆積が低地を埋め尽くしたためであろう。このラハールは低地のどの地点でも認められ、榛島北部低地(13区AM-66)では1m以上の層厚で堆積している。

確認された水田は、浅間C軽石で直接埋没した水田(As-C下水田)、浅間C軽石混土下で確認された水田(As-C混土下水田)、榛名二ツ岳波川テフラで直接埋没した水田(Hr-FA下水田)の3面である。

榛島北部低地では、この上層に榛名二ツ岳伊香保テフラで直接埋没した水田(Hr-FP下水田)が確認されているが、本地区では未検出である。これは本地区ではテフラの堆積が薄く、耕作が継続可能だったか、あるいは復旧時に攪拌されたためであろう。

確認された水田はいずれも古墳時代に一般的の小

区画水田で、区画の大きさや構造に多少の違いは認められるが、地形に対して柔軟に対応する基本的構造は共通している。これに対し、奈良時代以後の水田は造成方法も構造も異なっており、時代背景の違いを如実に示している。

以下、各面毎の特徴を述べる。

As-C下水田

(付図1~5、第92図、PL-34~36)

浅間C軽石で直接埋没した水田は、榛島川端19区でのみ確認された。南東に隣接する21区では、今回の調査区で唯一弥生時代後期の住居が4軒確認されており、この地区は他に先駆けて耕地が開かれたのであろう。また、南東の公田東II区では、浅間C軽石降下以前の河道から木製農具未製品が出土しており、西側に隣接する榛島川端18区では、方形周溝墓の台状部で、浅間C軽石で直接埋没した畚も確認されている。なお、榛島北部低地では、ほぼ全域でこの時期の水田が確認されている。

水田は、台地縁辺に沿って15区画が確認された。水田の区画は、長辺3m前後、短辺2m前後の長方形の小さい区画と、その2倍ほどの大きな区画とがあるが、アゼの高まりが残る保存状態の良好なものはいずれも小さな区画であり、本来は全域がこの区画であったと考えられる。

その前提に立てば、水田区画は台地縁辺に沿って長辺をとる、整然とした区画が広がっていたものとみられる。大きさはやや小さいが、榛島北部低地で確認されている水田と、ほぼ同規模である。

なお、大アゼや水路等の施設、および水口は確認されていないが、水田の造成は地形に沿って最小限の切り盛りで小アゼの区画を行い、地形の変換部や一定範囲に大アゼを設置して調整し、上位から用水をかけ流す構造であったと思われる。

As-C混土下水田

(付図7~10、第93・93~102図、PL-36~38)

浅間C軽石混じりの土壌を取り除くと、低いアゼ

状の高まりで区画された水田が出現する。これは、浅間C軽石降下後に耕作された水田の、耕土(C混土)を取り去った状態で出現する痕跡であり、いわゆる「疑似畦畔」と呼ばれるものである。榑島・公田地区ではこの水田痕跡が広範囲で確認されており、台地上の居住域も浅間C軽石降下後からはじまるものがほとんどである。

この水田痕跡の時期は、浅間C軽石降下後から榛名二ツ岳波川テフラ降下時までの時間幅のなかにあり、特定することは難しいが、台地上の居住が浅間C軽石降下後の間もない時期から一斉に始まることから、4世紀の早い時期に該当するものと考えられる。

分布は、榑島東部低地から公田池尻北部低地の北半部まで連続して確認されている。公田池尻北部低地の南半部および南部低地で確認できないのは、テフラや洪水堆積物が薄いため、その後の復旧で攪拌されてしまったため、本来は低地全域にわたって展開していたのであろう。

榑島19区(第93区)では、台地縁辺から西側に入り組んだ部分にわたって、水田が確認された。台地縁辺部では、くの字に曲がる部分に東西方向の大アゼを設置している。大アゼの北側には、As-C下水田と同じ方向の整然とした長方形の区画を配置し、南側では不定形な区画を設けて調整している。入り組んだ部分は地形面の傾きが不規則なため、不定形な区画が多い。

公田東II区(付図8)では、北側の一部と南側の一部で水田区画がわずかに確認されているにとどまるが、本地区を南北方向に蛇行しながら走行する1号河道は、浅間C軽石混土で埋没しており、この時期に用水路として機能していたと考えてよい。水田区画が部分的にしか残っていないのはその後の攪拌によるもので、この地区には水路を備えた水田が展開していたと考えられる。

公田東III区(付図8、第94・95区)では、長辺5~7m、短辺2.5~4.5mほどの長方形の疑似畦畔が、北北西方向に長辺をそろえて、整然と並んだ状態で確認されている。北北西方向は本地域の基本的な傾

斜の方向であり、畦畔区画はそれに長軸を合わせていることになる。

公田池尻2区・3区・4区(付図9、第96~102区)でも、公田東II区とほぼ同規模の区画が、北北西方向に長軸を合わせて整然と並んだ状態で確認された。これに対し1区および2区南半部では、区画が小さくなると共に方形化し、方向も南北方向へと変化している。これは、この地区の地表の傾きが変化しているためであろう。

大アゼと見られる幅広いアゼは、4区最北に東西方向のものが1本、3区に南北方向のもの1本と南側に東西方向のものが1本、2区南側に東西方向のものが1本、合計4本が認められた。このうち、4区の大アゼは台地縁辺に設けられた起点のアゼで、台地側に用水路と見られる溝が伴う。大アゼに水口は確認できなかったが、ここから給水してかけ流したのであろう。3区の大アゼは、左右・前後の小アゼの取り付く位置がずれており、起点としての役割を果たしている。なお、南北の大アゼは南側の延長が4区に認められるが、途中で不明瞭となる。2区の大アゼは南北の小アゼの走行変換点となっている。

なお、1区中央部に、長径4mほどの楕円形の平坦部がある。立木があったのであろうか。

水口はところどころにみとめられるが、連続するものは少ない。東西アゼに付くものと、南北アゼに付くものの双方とも認められるが、いずれも直交部分が切れるタイプに限られている。

以上のことから、本地区で確認された浅間C軽石混土下水田は、地表の傾きに合わせて大アゼで一定範囲を区画し、その中に小アゼで長方形の整然とした区画を施す形態のもので、用水は水路を通じて分配し、高標高の位置からかけ流す構造であったと見られる。小アゼの区画は、長辺5~7m、短辺2.5~4.5mの大きさが主体であるが、地形の変化する部分や河道の周囲では、それらに合わせて小形・不定形などの調整を傾斜、柔軟に対応させている。本地区は北北西に緩傾斜する比較的安定した地形面を呈するが、小アゼの区画はこの傾斜に長軸を合わせてい

るが、小アゼの区画はこの傾斜に長軸を合わせている。通常の水田は傾斜に直交させて長軸をとるが、おそらく短時間で用水をかけ流すための方策だったのであろう。

先にも述べてとおり、本水田は耕土を取り去って確認された痕跡であるが、上層に水田があったことは間違いない。アゼの高まりが残っているのは、一定期間にわたって同じ区画が維持されてことを示しているであろう。小アゼによる区画の大きさは、As-C下水田の大きさとほぼ一致しており、上層にあるHr-FA下水田とは異なっている。この点でも、本水田が浅間C軽石降下後の間もない時期に開削された可能性が高いと言えよう。

なお、標島北部低地でも同じAs-C混土層は存在するが、混土層下に疑似畦畔は確認されなかった。標島台地では4世紀代の住居がほぼ全域にわたって分布し、As-C混土下畝も広範囲で確認されていることから、この地区でも本水田が存在していたと考えている。疑似畦畔が確認できないのは、何らかの要因で区画が変更されたため、あるいはHr-FA下水田開削時に、畦畔の高まりが削平されたのであろう。

Hr-FA下水田

(付図7～10、第103・104図、P L-38～40)

標名二ツ岳沢川テフラ(Hr-FA)で直接埋没した水田は、標島19区、公田東Ⅱ区の一部、公田東Ⅲ区で確認された。確認された範囲は少ないが、分布は各低地に及んでおり、本来は広域に存在していたと考えてよい。なお、本地区の北側に位置する標島北部低地では、ほぼ全域でこの時期の水田が確認されている(付図6)。

標島19区(付図7、第103図)では、As-C下水田及び同混土下水田とほぼ重なる範囲に、この時期特有の1.5～2mの小さな区画を、碁盤の目のように整然と並んだ状態で確認された。水口は、南北方向のアゼの中央に位置するものが、5箇所認められる。低地が入り込む39号溝に沿った部分にも区画の一部があり、西側にも続いていたものとみられる。東西

に走行する39号～43号溝は、この水田に伴う水路とみられるが、39号溝は一部が水田と重なっており、南側へ徐々に走行を変えていったのであろう。

公田東Ⅱ区(付図8)では、北側の225ライン付近と南側の2箇所、水田区画の一部が確認されているが、南側の区画はAs-C混土下水田と同規模であり、誤認の可能性が高い。

公田東Ⅲ区(付図8、第104図)では、東西の両調査区で水田区画が確認された。この地区はテフラの残存がわずかなため、区画も不明瞭であるが、長辺2～3m、短辺1.2～1.5mの長方形の区画を、As-C混土下水田と同様に北北西に長軸をそろえて、整然と並べている。水口は確認できない。

なお、本地区の北側に位置する標島北部低地では、この上層に標名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)で直接埋没した水田が、広範囲にわたって確認されている(付図6)が、本地区ではこのテフラはほとんど残っていない。

7. 畠

本地区では、浅間C軽石降下後に耕作された畠(As-C混土下畝)のみの確認にとどまった。隣接する標島の台地北側では、これらの上層に標名二ツ岳沢川テフラで直接埋没した畠(Hr-FA下畝跡)および標名二ツ岳伊香保テフラで直接埋没した畠(Hr-FP下畝)が確認されているが、本地区の台地では残っていない。

以下にその特徴を述べる。

As-C混土下畝

(付図7・8、第105～107図、P L-41)

標島および公田東の台地で確認された。いずれも上面の削平を免れた一部が確認されたもので、本来はもっと広範囲に分布していたものと考えられる。標島地区では、19区南から20区にのびる居住域から、20区南から21区の墓域にかけて点在している。このうち、居住域に点在する2箇所の畠は、東西あるいは

は南北走行のサクがかなり重複しており、長期間にわたって繰り返し耕作されたことが予測できる。これに対し、墓城の畠は一方で重複がなく、3箇所のうち2箇所が方形周溝墓に切られている。おそらく、当初は居住域の南側に畠が広がっていたが、墓城となった後は耕作されることがなかったであろう。畠のサク間は1.5~1.8mで、第105図ではサクの

片側に起点を示すサクが付随している。

公田東地区ではIV区のみで確認された。北側に東西方向、南側に南北方向のサクが全域に展開し、重複する部分がないことから、一時期の畠と言えよう。サク間は1.5~1.8mで、櫛島地区の畠とも一致している。

表1 古墳時代遺構一覧表

井戸

遺構名称	位置	CC-179	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。	
櫛島川端19区	形状	楕円形	濠井状遺構	規模	2.60×2.22m	深さ0.78m	
4・5号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約10点出土。濠井内に円形の湧水井戸が2基あり、91号溝によって北東方向へ直出。前期					
遺構名称	位置	CF-187	重複		埋没土		
櫛島川端19区	形状	楕円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.75×1.52m	深さ1.04m
6号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約460点出土。前期					
遺構名称	位置	CH-186	重複		埋没土	As-Cを含む灰褐色土。	
櫛島川端19区	形状	円形	円筒状	規模	1.79×1.51m	深さ1.45m	
7号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約180点出土。前期					
遺構名称	位置	CG-182	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。	
櫛島川端19区	形状	円形	素掘り井戸	朝顔状	規模	1.40×1.30m	深さ0.67m
8号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約30点出土。中層に任約40cmの角礫が投げ込まれていた。前期					
遺構名称	位置	CK-190	重複		埋没土		
櫛島川端19区	形状	円形	素掘り井戸	朝顔状	規模	1.13×1.05m	深さ1.23m
9号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約30点出土。前期					
遺構名称	位置	CG-186	重複	(1~3号組立)、畠と重複。	埋没土	Vi b層主体。中層に灰が堆積。	
櫛島川端19区	形状	円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.43×1.30m	深さ0.83m
11号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片小片70点出土。前期					
遺構名称	位置	CJ-189	重複	3号住居跡床下。	埋没土	Vi b層と地山ブロックの混土層。	
櫛島川端19区	形状	円形	素掘り井戸	朝顔状	規模	1.70×1.48m	深さ0.75m
12号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片99点出土。前期					
遺構名称	位置	CV-202	重複		埋没土	Vi a・b層と地山の混土層。	
櫛島川端20区	形状	不整円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.30×1.23m	深さ1.37m
18号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約300点、木製品が投げ込まれていた。前期					
遺構名称	位置	CM-193	重複	15号住居跡と重複。	埋没土	Vi b層と地山ブロックの混土層。	
櫛島川端20区	形状	楕円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.36×1.09m	深さ1.13m
19号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約110点と木片が出土。前期					
遺構名称	位置	CO-191	重複	31号溝と重複。	埋没土	Vi a・b層と地山の混土層。	
櫛島川端20区	形状	不整円形	素掘り井戸	円筒状	規模	3.33×3.56m	深さ1.19m
21号井戸	出土遺物・その他	1200点近い古式土師器片が出土。木片も出土。31号溝を併設した濠井状井戸か。前期					
遺構名称	位置	DF-210	重複		埋没土		
櫛島川端21区	形状	円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.22×0.96m	深さ1.40m
3号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片約240点出土。前期					
遺構名称	位置	HN-400	重複	16・17号溝と重複。	埋没土		
公田池尻1区	形状	楕円形	素掘り井戸	朝顔状	規模	1.62×1.23m	深さ1.20m
1号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片が少量出土。前期					
遺構名称	位置	IJ-495	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土と地山の混土層。	
公田池尻9-1区	形状	長方形	素掘り井戸	箱状	規模	1.32×0.75m	深さ1.15m
3号井戸	出土遺物・その他	古式土師器片が投げ込まれていた。前期					
遺構名称	位置	IK-499	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。	
公田池尻9-1区	形状	円形	素掘り井戸	円筒状	規模	1.08×0.90m	深さ1.17m
4号井戸	出土遺物・その他	土師器片少量出土。					
遺構名称	位置	IJ-498	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。	
公田池尻9-1区	形状	円形	素掘り井戸	朝顔状	規模	1.37×1.07m	深さ1.28m
5号井戸	出土遺物・その他	なし。後期					

土坑(1)

遺構名称	位置	BV-174	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。
藤島川端19区	形状	円形 凹状		規模	0.86×0.86m 深さ0.12m	長軸方位
45号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BX-175	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土。
藤島川端19区	形状	円形 凹状		規模	0.96×0.90m 深さ0.08m	長軸方位
47号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CD-177	重複	As-C下木田と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土。
藤島川端19区	形状	楕円形 凹状		規模	1.06×0.85m 深さ0.04m	長軸方位 N-20°-W
48号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CH-184	重複		埋没土	VI b層。
藤島川端19区	形状	楕円形 凹状		規模	0.57×0.45m 深さ0.08m	長軸方位 N-65°-E
52号土坑	出土遺物・その他	古式土師器壺口縁部片1点、S字甕片3点出土。前期				
遺構名称	位置	CG-188	重複		埋没土	VI b層。
藤島川端19区	形状	円形 楕円状		規模	1.49×1.49m 深さ0.36m	長軸方位
53号土坑	出土遺物・その他	古式土師器小片47点出土。前期				
遺構名称	位置	CG-186	重複	(1~3号竪立)、壘と重複。	埋没土	ブロック状のVI b層主体。
藤島川端19区	形状	楕円形 箱状		規模	0.98×0.70m 深さ0.47m	長軸方位 N-53°-E
56号土坑	出土遺物・その他	古式土師器小片15点出土。前期				
遺構名称	位置	CI-187	重複	59・60号土坑、94号溝?と重複。	埋没土	VI b層と地山の混土層。
藤島川端19区	形状	凹状		規模	1.65×1.45m 深さ0.18m	長軸方位 N-2°-E
58号土坑	出土遺物・その他	古式土師器片104点出土。前期				
遺構名称	位置	CI-187	重複	58号土坑、94号溝?と重複。	埋没土	VI b層と地山の混土層。
藤島川端19区	形状	不整形 凹状		規模	2.30×1.44m 深さ0.15m	長軸方位 N-70°-W
59号土坑	出土遺物・その他	古式土師器片104点出土。前期				
遺構名称	位置	CI-187	重複	58号土坑と重複。	埋没土	VI b・VI層と地山の混土層。
藤島川端19区	形状	隅丸長方形 凹状		規模	1.35×0.90m 深さ0.10m	長軸方位 N-87°-E
60号土坑	出土遺物・その他	なし。前期?				
遺構名称	位置	CI-187	重複		埋没土	VI b層。
藤島川端19区	形状	楕円形 凹状		規模	0.89×0.55m 深さ0.14m	長軸方位 N-76°-W
62号土坑	出土遺物・その他	古式土師器片24点出土。前期?				
遺構名称	位置	CJ-183	重複		埋没土	VI b・VI層主体。
藤島川端19区	形状	楕円形 箱状		規模	1.00×0.40m 深さ0.17m	長軸方位 N-30°-W
63号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CU-201	重複		埋没土	VI a層と地山ブロックの混土層。
藤島川端20区	形状	楕円形 丸底状		規模	1.32×1.04m 深さ0.60m	長軸方位 N-17°-E
23号土坑	出土遺物・その他	古式土師器小片7点出土。前期				
遺構名称	位置	CP-190	重複	31号溝と重複。	埋没土	VI a層と地山ブロックの混土層。
藤島川端20区	形状	楕円形 丸底状		規模	0.90×0.65m 深さ0.42m	長軸方位 N-0°
31号土坑	出土遺物・その他	台付甕形が竇位で出土。他に古式土師器小片19点出土。前期				
遺構名称	位置	DO-210	重複		埋没土	
藤島川端21区	形状	不整形 凹状		規模	0.97×0.85m 深さ0.10m	長軸方位 N-81°-W
8号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DQ-211	重複	28号溝と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土と地山の混土層。
藤島川端21区	形状	不整形 円形 丸底状		規模	1.77×0.91m 深さ0.26m	長軸方位 N-83°-E
9号土坑	出土遺物・その他	円礫1点出土。				
遺構名称	位置	DR-208	重複	1号溝、1号方形周溝基と重複。	埋没土	
藤島川端21区	形状	不明 丸底状		規模	1.15'×0.71'm 深さ0.10m	長軸方位 N-32°-E
10号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DQ-212	重複	2・3号住居跡、1号溝と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土と地山の混土層。
藤島川端21区	形状	不明 箱状		規模	1.24'×0.64'm 深さ0.08m	長軸方位 N-69°-E
11号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DQ-212	重複	3号住居跡、1号溝と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土。
藤島川端21区	形状	長方形? 箱状		規模	1.76'×0.69'm 深さ0.12m	長軸方位 N-72°-E
12号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DQ-212	重複	3号住居跡と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土。
藤島川端21区	形状	楕円形 箱状		規模	1.55×0.55m 深さ0.05m	長軸方位 N-74°-E
13号土坑	出土遺物・その他	なし。				

土坑(2)

遺構名称	位置	HM-396	重複		埋没土
公田池尻1区	形状	円形 丸底状		規模 1.17×1.10m 深さ0.64m	長軸方位
7号土坑	出土遺物・その他	なし。	前期		
遺構名称	位置	HL-394	重複		埋没土
公田池尻3区	形状	楕円形 丸底状		規模 0.78×0.64m 深さ0.27m	長軸方位 N-37°E
8号土坑	出土遺物・その他	なし。	前期		
遺構名称	位置	HN-398	重複		埋没土 As-Cを含む黒褐色土。
公田池尻1区	形状	楕円形 丸底状		規模 1.14×0.85m 深さ0.46m	長軸方位 N-12°W
9号土坑	出土遺物・その他	なし。	前期		
遺構名称	位置	GM-322	重複		埋没土 地山の混土層。
公田池尻3区	形状	円形 円錐状		規模 0.53×0.46m 深さ1.05m	長軸方位 N-46°E
6号土坑	出土遺物・その他	土師器壺1点、土師器坏片8点出土。板片2点出土。	後期		
遺構名称	位置	GL-319	重複	2号住居跡、3号溝と重複。	埋没土 Hr-FAブロックと地山の混土層。
公田池尻3区	形状	楕円形 丸底状		規模 1.06×0.82m 深さ0.22m	長軸方位 N-20°W
7号土坑	出土遺物・その他	土師器壺片、坏片33点出土。	後期		
遺構名称	位置	HS-423	重複		埋没土 As-Cと地山の混土層。
公田池尻3区	形状	長楕円形 箱状		規模 1.34×0.60m 深さ0.27m	長軸方位 N-70°W
7号土坑	出土遺物・その他	土師器片6点出土。			
遺構名称	位置	HS-420	重複		埋没土 As-Cと地山の混土層。
公田池尻7区	形状	楕円形 丸底状		規模 1.46×0.80m 深さ0.25m	長軸方位 N-60°W
16号土坑	出土遺物・その他	土師器片4点出土。			
遺構名称	位置	HR-419	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土と地山の混土層。
公田池尻1区	形状	不整形円形 丸底状		規模 2.35×1.45m 深さ0.33m	長軸方位 N-70°W
20号土坑	出土遺物・その他	土師器片6点出土。刺木か?			
遺構名称	位置	HS-418	重複		埋没土 地山の混土層。
公田池尻7区	形状	円形 丸底状		規模 1.03×0.86m 深さ0.21m	長軸方位 N-55°W
21号土坑	出土遺物・その他	土師器片1点出土。			
遺構名称	位置	HR-418	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土。
公田池尻7区	形状	楕円形 丸底状		規模 2.07×0.90m 深さ0.20m	長軸方位 N-79°E
22号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IU-521	重複	8号風倒木痕と重複。	埋没土 As-Cを含む黒褐色土。
公田池尻8-1区	形状	円形 丸底状		規模 0.94×0.90m 深さ0.25m	長軸方位 N-71°E
1号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IV-520	重複		埋没土 As-Cを含む黒褐色土。
公田池尻8-1区	形状	楕円形 丸底状		規模 0.80×0.68m 深さ0.16m	長軸方位 N-28°W
2号土坑	出土遺物・その他	土師器片5点出土。円礫1点出土。			
遺構名称	位置	IU-522	重複	3号風倒木痕と重複。	埋没土 As-Cを含む黒褐色土。
公田池尻8-1区	形状	楕円形 皿状		規模 1.48×1.20m 深さ0.15m	長軸方位 N-36°W
3号土坑	出土遺物・その他	小円礫1点出土。			
遺構名称	位置	IV-521	重複		埋没土 黒色土と地山の混土層。
公田池尻8-1区	形状	円形 円錐状		規模 0.67×0.60m 深さ0.56m	長軸方位
4号土坑	出土遺物・その他	土師器壺片1点出土。			
遺構名称	位置	IY-532	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土。
公田池尻8-1区	形状	楕円形 皿状		規模 3.57×1.59m 深さ0.17m	長軸方位 N-5°E
5号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IX-532	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土。
公田池尻8-1区	形状	楕円形 皿状		規模 0.70×0.55m 深さ0.04m	長軸方位 N-35°E
6号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IW-529	重複		埋没土
公田池尻8-1区	形状	楕円形 皿状		規模 0.85×0.64m 深さ0.03m	長軸方位 N-88°W
7号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IO-495	重複		埋没土
公田池尻8-2区	形状	方形 溝状		規模 0.81×0.70m 深さ0.25m	長軸方位 N-4°W
6号土坑	出土遺物・その他	土師器片少量に出土。黒磁石12点出土。住居の貯蔵穴であろう。	後期		
遺構名称	位置	IJ-492	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土。
公田池尻9-1区	形状	楕円形 丸底状		規模 1.10×0.75m 深さ0.40m	長軸方位 N-12°E
1号土坑	出土遺物・その他	磁石1点出土。埋土の色調や質から古墳時代前期であろう。			
遺構名称	位置	IK-499	重複	3号土坑と重複。	埋没土 As-Cを含む黒色土。
公田池尻9-1区	形状	不明。		規模 0.83×0.55m 深さ0.44m	長軸方位 N-48°W
2号土坑	出土遺物・その他	土師器片少量出土。後期			

土坑(3)

遺構名称	位置	I K-499	重複	2号土坑と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土。
公田池尻9-1区	形状	不整形形 箱状	規模	1.70×1.25m 深さ0.80m	長軸方位	N-48°W
3号土坑	出土遺物・その他	土師器片多量に出土。前期				
遺構名称	位置	I K-496	重複	8号溝と重複。	埋没土	As-Cを含む暗褐色土。
公田池尻9-1区	形状	円形 円筒状	規模	0.87×0.75m 深さ0.78m	長軸方位	
4号土坑	出土遺物・その他	土師器壺片2点出土。				

溝(1)

遺構名称	位置	CE~CG-186	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物	
85号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CB~CE-180~182	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長	20m	幅・深さ	0.58m×0.28m	出土遺物	第150区
90号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CC~CG-178~179	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長	18.5m	幅・深さ	0.32m×0.08m	出土遺物	第150区
91号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CH~CL-184~189	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長	25m	幅・深さ		出土遺物	
92号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CJ-187~188	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長	6m	幅・深さ		出土遺物	
93号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CI~CJ-187~189	重複		埋没土	
榊島川端19区	調査長		幅・深さ		出土遺物	第150区
94号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CW~D1-201~204	重複		埋没土	灰褐色砂層
榊島川端20区	調査長	30m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CM-188	重複		埋没土	As-Cを含む灰褐色土
榊島川端20区	調査長	4m	幅・深さ	0.36m×0.11m	出土遺物	
18号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CM~CO-189~190	重複		埋没土	茶褐色土
榊島川端20区	調査長	12m	幅・深さ	0.85m×0.4m	出土遺物	
20号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CN-188	重複		埋没土	灰褐色土
榊島川端20区	調査長	5m	幅・深さ	0.15m×0.08m	出土遺物	
24号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CP-190	重複		埋没土	砂層
榊島川端20区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
31号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CJ-207~208	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	7.5m	幅・深さ	1.5m×0.23m	出土遺物	
25号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DH~DI-207~208	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	13m	幅・深さ	2.75m×0.17m	出土遺物	
26号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DO-212	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	6m	幅・深さ	0.9m×0.23m	出土遺物	
27号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DP-212	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	1m	幅・深さ	1.77m×0.12m	出土遺物	
28号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DR-210~211	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物	
30号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DS~DT-210~211	重複		埋没土	
榊島川端21区	調査長	9m	幅・深さ	1.18m×0.18m	出土遺物	
31号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	FJ~FO-241	重複		埋没土	As-Cを含む暗灰色土
公田東II区	調査長	23m	幅・深さ	0.85m×0.38m	出土遺物	
73号溝	走向・その他					

溝 (2)

溝構名称	位置	FC-229~235	重複		埋設土	As-Cを微量含む黒色土
公田東II区	調査長	28m	幅・深さ	0.53m×0.09m	出土遺物	
75号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	G1~GK-312~314	重複		埋設土	Hr-FA二次堆積土
公田東IV区	調査長	10m	幅・深さ	1.12m×0.35m	出土遺物	
15号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	DC~DD-291	重複		埋設土	
公田東IV区	調査長	4m	幅・深さ		出土遺物	
29号溝	走向・その他	棚状底?				
溝構名称	位置	HH~HK-381~382	重複		埋設土	
公田池尻1区	調査長	9m	幅・深さ		出土遺物	
14号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HJ~HK-389	重複		埋設土	
公田池尻1区	調査長	8.5m	幅・深さ		出土遺物	
15号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HN-400	重複		埋設土	
公田池尻1区	調査長	2m	幅・深さ		出土遺物	
16号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HN-401	重複		埋設土	
公田池尻1区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	GY~HA-370~371	重複		埋設土	
公田池尻2区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
2号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HF-391	重複		埋設土	
公田池尻2区	調査長	4.5m	幅・深さ		出土遺物	
3号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	GO~GP-332	重複		埋設土	Hr-FA二次堆積土
公田池尻3区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
39-2号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	GN-329	重複		埋設土	
公田池尻3区	調査長	1m	幅・深さ		出土遺物	
44号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	GO~GP-315	重複	32号溝より古い	埋設土	Hr-FA二次堆積土
公田池尻4区	調査長	5m	幅・深さ	0.69m×0.13m	出土遺物	
35号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	GQ~GR-326	重複		埋設土	As-Cを含む黒色土
公田池尻4区	調査長	5m	幅・深さ	0.8m×0.33m	出土遺物	
56号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HX~HY-453~455	重複		埋設土	灰褐色土
公田池尻5区	調査長	6m	幅・深さ	0.4m×0.08m	出土遺物	
15号溝	走向・その他	5区16号溝・17号溝と同一?				
溝構名称	位置	HY~IA-455~456	重複		埋設土	黒褐色土
公田池尻5区	調査長	6m	幅・深さ	0.34m×0.11m	出土遺物	
16号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	HX-454~455	重複		埋設土	黒褐色土
公田池尻5区	調査長	8m	幅・深さ	0.53m×0.05m	出土遺物	
17号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	IA-443	重複		埋設土	
公田池尻7区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
23号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	IB~IC-450~451	重複		埋設土	暗灰褐色土
公田池尻7区	調査長	9m	幅・深さ	-×0.28m	出土遺物	
26号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	IJ-477	重複		埋設土	As-Cを含む灰黄褐色土
公田池尻7区	調査長	4m	幅・深さ	0.46m×0.15m	出土遺物	
34号溝	走向・その他					
溝構名称	位置	IG-471	重複		埋設土	Hr-FA二次堆積土
公田池尻7区	調査長	2.5m	幅・深さ	0.4m×0.1m	出土遺物	
36号溝	走向・その他					

溝 (3)

遺構名称	位置	HR-414	重複	埋没土	As-Cを含む黒色土
公田池尻7区	調査長	2m	幅・深さ	0.42m×0.06m	出土遺物
47号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	IR~IS-511~512	重複	埋没土	褐色土
公田池尻A区-3	調査長	10m	幅・深さ	0.8m×0.1m	出土遺物
10号溝	走向・その他				第151区
遺構名称	位置	BV~CB-174	重複	埋没土	灰色・灰白色シルトのラミナ堆積
柳島川端19区	調査長	25m	幅・深さ	1.8m×0.33m	出土遺物
39号溝	走向・その他	41号溝に合流			
遺構名称	位置	CB~CD-174~176	重複	埋没土	灰色・白灰色シルトのラミナ堆積
柳島川端19区	調査長	16m	幅・深さ	1.15m×0.23m	出土遺物
41号溝	走向・その他	39号溝に合流			
遺構名称	位置	BX~CF-174~177	重複	埋没土	灰色・灰白色シルトのラミナ堆積
柳島川端19区	調査長	15m	幅・深さ	1.26m×0.2m	出土遺物
42号溝	走向・その他	83号溝と同一?			
遺構名称	位置	BV~CB-175~177	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	21m	幅・深さ		出土遺物
43号溝	走向・その他	42号溝に合流			
遺構名称	位置	CJ~CK-189	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	4.5m	幅・深さ	0.7m×0.05m	出土遺物
87号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FD~FG-234~235	重複	埋没土	
公田東II区	調査長	16m	幅・深さ		出土遺物
66号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GN~GU-326~334	重複	埋没土	Hr-FA
公田池尻3区	調査長	7m	幅・深さ	0.26m×0.07m	出土遺物
16号溝	走向・その他	4区58号溝と同一?			
遺構名称	位置	GN~GP-330	重複	埋没土	Hr-FA
公田池尻3区	調査長	8.5m	幅・深さ	0.35m×0.12m	出土遺物
39-1号溝	走向・その他				

第4章 奈良・平安時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居

概要 奈良・平安時代の住居跡は、櫛島台地で2軒、公田東台地で19軒、公田池尻台地で7軒の計28軒が確認された。時期別では、飛鳥時代が10軒、奈良時代が5軒、平安時代が10軒、奈良・平安時代頃と考えられるものが3軒である。確認された住居は、後世の耕作などによる削平・攪乱を受けており、特に公田池尻台地の残存状態が悪い。

櫛島台地の住居は、公田東遺跡II区で確認された。調査区は、南東へ舌状に突出する台地の東縁辺部から公田東北部低地にかけて位置している。住居は調査区の西端で確認され、台地上では東縁辺部に立地する。

公田東台地の住居は、公田東遺跡IV・V区と公田池尻遺跡3・4区で確認された。調査区は、北西へ舌状に延びる台地を南北に縦断している。この北側では住居が検出されていないため、台地の中央部から南縁辺部にかけて立地する傾向が見られる。

公田池尻台地の住居は、公田池尻遺跡8-2区・8-3区・9-1区で確認された。調査区は、南東へ舌状に延びる台地を南北に縦断している。住居は、台地の中央部にまとまるように立地している。

飛鳥時代の住居について、2軒重複が2例認められた。形状は、方形や長方形が多い。規模は、大きいものでは平均で約6m四方、小さいものでは平均で約2m四方を呈する。埋没土の殆どにAs-CやHr-FAが混入しているが、シルト質土で埋没している住居が1軒確認された。柱穴は2軒で主柱穴が確定された。床面は、全面に貼床が認められるものが1軒ある他は、殆どが軟弱である。

カマドは9軒で確認され、4軒が北壁、5軒が東壁に位置している。構築材は、主にHr-FAやHr-FPに伴う粘性土と考えられる。なお、造り替えによるカマドの移動が行なわれた住居が1軒確認された。

貯蔵穴は3軒で検出され、全てカマドに向かって右側に位置している。掘り方は7軒で認められ、底面では土坑状の掘り込みなどを検出している。

出土遺物は、土師器の坏や甕が主体であり、床面からも比較的多く出土している。土器の他には、薦編み石が多く見られる。また、カマド部から白玉を8点出土した住居がある。

奈良時代の住居について、2軒重複が1例認められた。形状は長方形と方形が多く、規模は大きいもので長辺約5.5m、小さいもので短辺約2.5mを測る。埋没土の殆どには、As-CやHr-FAが混入している。柱穴は、1軒で主柱穴が確定された。床面は平坦であるが、明瞭な貼床や硬化面は確認されていない。

カマドは4軒で確認され、3軒が東壁に、1軒が西壁に位置している。古墳時代の住居も含め、西壁にカマドが位置する住居はこの1軒だけである。構築材は、主にHr-FAやHr-FPに伴う粘性土と考えられる。なお、カマド部分のみを確認した住居が1軒ある。掘り方は3軒で認められ、底面が平坦なものが多い。

遺物は、埋没土からの出土が多く、土師器の坏や甕が主体であり、須恵器では坏や蓋が出土している。土器の他は、薦編み石などが出土している。

平安時代の住居について、2軒重複が2例確認された。形状は長方形が多く、規模は大きいもので長辺約4m、小さいもので短辺約2.7mを測る。埋没土は、Hr-FAを含む灰色土が主体的である。床面は平坦で、硬く締まるものが2軒ある他は、殆どが軟弱である。

カマドは7軒で確認され、2軒が北壁、5軒が東壁に位置している。構築材は、主にHr-FAやHr-FPに伴う粘性土と考えられ、1軒を除いて袖部の高まりが見られない。貯蔵穴は3軒で検出され、カマドに向かって右側に位置している。なお、カマド部分の

みを検出した住居が1軒、カマド部分と貯蔵穴のみを確認した住居が1軒ある。掘り方は7軒で認められ、このうちの2軒は削平のため掘り方の面で平面形が確認された。

出土遺物は、土師器の坏や壺が主体であり、須恵器では坏などが出土している。また、墨書土器である須恵器碗が1点出土している。なお、遺物集中心地を住居として扱ったものが1軒ある。土器の他には、蓋織み石などが出土している。

出土遺物の時期から、飛鳥時代は7世紀後半の住居が殆どである。また分布では、10軒中9軒が公田東台地に集中している。奈良時代の住居は8世紀前半及び中葉のもので、公田池尻台地では確認されていない。平安時代の住居は、9世紀中葉のものが中心であるが、前半から中葉にかかると考えられるものが1軒、また10世紀前半と考えられるものが1軒認められる。

なお、奈良・平安時代頃と考えられる住居については、削平のため掘り方で平面形が確認されており、残存状態が悪い。形状は不明で、規模は確定的な部分で一辺約4～5mを測る。主柱穴が確認されたものが1軒、貯蔵穴が検出されたものが1軒ある。出土遺物は殆どない。

公田東 II区1号住居

(第171・229図、P L-137)

位置 EK-222

重複 2号住居より新しい。

形状・規模 長方形 4.00+m×2.50m

長軸方位 N-15°-W

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均3cmの高さを測る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 位置 東壁にある。規模 幅87cm 奥行83cm。残存状態 残りは悉く、灰・焼土粒・炭化物の分布で範囲を確認した。袖部の高まりが僅かに

残り、奥壁は東壁から半円形に突出する。燃焼面は、奥壁右側には焼土、カマド内の中央には灰が分布していた。遺物出土状態 カマド内から、須恵器坏1点(P-3)が出土した。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面では、北壁中央部・南東隅・中央部から土師器坏(P-4・6・7)が計3点、東壁中央部から須恵器坏1点(P-1)が出土した。埋没土から土師器坏1点(P-5)・須恵器坏1点(P-2)が出土した。

所見 出土遺物から、8世紀中葉と考えられる。

公田東 II区2号住居

(第171・229図、P L-137)

E L-223で、カマド部分のみが残存する住居を確認した。1号住居と重複しており、新旧関係は古い。埋没土は、As-Cを含む黒色土である。検出されたカマドは東壁に位置し、幅80cm・奥行90cmを測る。両袖部の高まりが僅かに確認できたが、右袖の一部は1号住居に壊されていた。奥壁が東壁から半円形に突出する。燃焼面は、灰・焼土粒・炭化物が分布していた。カマド周辺に残っていた埋没土から、土師器坏2点(P-1・2)が出土した。出土遺物などから、8世紀前半と考えられる。

公田東 IV区1号住居

(第172・173・229～231図、P L-43・137～139)

位置 GI-310

重複 20号溝・24号溝より新しい。西半部は調査区外。

形状・規模 方形 6.09m×6.00+m

長軸方位 N-45°-E

埋没土 As-C、Hr-FAを含む黒褐色土。

壁 平均23cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 3本の主柱穴が確認された。ピット1は径42cm、深さ26cm。ピット2は径56cm、深さ26cm。ピット

ト3は径44cm、深さ50cm。

床面 平坦で全面がやや軟弱である。北壁中央部のカマド東側に焼土が分布していた。

カマド 位置 北壁中央部にある。規模 焚き口幅0.95m 奥行 0.76m 煙道部長1.68m 幅0.35m 旧煙道部長1.35+m 幅0.33m 残存状態 両袖部の高まりが住居内に残り、芯材の軽石が確認された。奥壁は半円形で北壁からは突出せず、壁外には溝状の煙道部が延びる。燃焼面では、焼土と灰の混土が確認された。なお東側に並列して、焼土と灰を含んで埋没している旧煙道部を確認した。これにより、造り替えによるカマドの移動が確認された。遺物出土状態 カマド内から、土師器環2点(P-8・9)が出土した。またカマド内やカマド左袖脇の床面、埋没土から白玉(S-3~10)が計8点出土した。

貯蔵穴 位置 北東隅にある。形状 円形 規模 72cm×70cm×45cm 遺物出土状態 土師器の小片が少量出土した。

掘り方 東半部と西壁中央部が、約20cmほど掘り込まれている。東半部では、土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 北西隅・北壁中央部・中央部からまとまって出土した。床面では、北壁中央部から土師器環1点(P-1)、北西隅から土師器環5点(P-2~4・10・11)と土師器壺2点(P-16・17)が出土した。埋没土からは、土師器環3点(P-5~7)が出土した。北東隅床面と埋没土から、蒔絵み石が計2点(S-1・2)出土した。

所見 カマド部から白玉が出土したことにより、カマドに関連した何らかの祭祀行為が行われた可能性がある。出土遺物から、7世紀後半と考えられる。

公田東 IV区 2号住居

(第174・175・231図、P L-139)

位置 GH-307

重複 21号溝、3号住居より新しい。

形状・規模 長方形 3.28m×2.68m

長軸方位 N-7°-E

埋没土 As-C、Hr-FA、Hr-FPを含む灰色土。3号住居の埋没土と比べてHr-FAの混入が多い。

壁 平均6cmの高さで、南壁の中央部が屈曲し、西壁がやや外湾する。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で、全面が固く締まっている。

カマド 位置 東壁中央部にある。規模 幅60cm 奥行50cm 残存状態 袖部は残っておらず、奥壁が東壁から半円形に突出する。燃焼面には灰が分布しており、奥壁に焼土分布が認められた。遺物出土状態 瓦の小片1点(P-3)と土師器の小片が少量出土した。

貯蔵穴 なし。

掘り方 北壁と西壁北寄りに沿って溝状に約10cm、南壁寄りで土坑状に約20cmの掘り込みを確認した。

遺物出土状態 床面では、中央部から須恵器蓋1点(P-7)、西壁中央部から須恵器環1点(P-4)、南壁中央部から土師器壺1点(P-9)が出土した。埋没土からは、須恵器環1点(P-5)、土師器壺1点(P-8)が出土した。掘り方からは、土師器の小片が少量出土した。

所見 カマド部の灰の堆積や南壁のテラス状の張り出し部の状況などから、住居の拡張が行われた可能性がある。出土遺物から、9世紀中葉の住居と考えられる。

公田東 IV区 3号住居

(第174・175・231・232図、P L-44・139)

位置 GH-306

重複 22号溝より新しく、2号住居より古い。

形状・規模 長方形 4.00m×2.88m

長軸方位 N-2°-E

埋没土 重複する2号住居と同質の埋没土であるが、Hr-FAの混入が少ない。

壁 平均19cmの高さでほぼ直線的に走る。南壁には、テラス状に約20cmほど張り出す部分がある。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面がやや固く締まっている。

カマド 位置 東壁中央部にある。規模 幅76cm 奥行80cm 残存状態 軸部は残っておらず、奥壁は東壁から半円形に突出する。燃焼面では、灰層と灰・焼土の混土層が間層を挟んで上下に重なって堆積している状況が確認された。遺物出土状態 土師器杯1点(P-1)と土師器の小片が少量出土した。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 楕円形 規模 56cm×44cm×12cm 遺物出土状態 土師器杯1点(P-2)と須恵器杯1点(P-3)、須恵器碗1点(P-6)が出土した。

掘り方 全面が平均15cmほど掘り込まれている。北東隅や中央部で土坑状、西壁に沿って溝状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 床面では、中央部から須恵器蓋1点(P-7)、西壁中央部から須恵器杯1点(P-4)、南壁中央部から土師器壺1点(P-9)が出土した。埋没土からは、須恵器杯1点(P-5)、土師器壺1点(P-8)が出土した。掘り方からは、土師器の小片が少量出土した。

所見 カマド部の灰の堆積や南壁のテラス状の張り出し部の状況などから、住民の拡張が行われた可能性がある。出土遺物から、9世紀中葉の住居と考えられる。

公田東 N区4号住居

(第176・232図、P L-44・140)

GH-305、3号住居の北側において、二次堆積したHr-FAの面で遺物集中地点を確認したため、住居の可能性を考えて扱った。しかし、床面や柱穴・カマドなどは確認されなかった。遺物は、須恵器杯1点(P-1)と土師器壺2点(P-2・3)、土師器・須恵器の小片が出土した。削平によって壊された住居と考えられるが、確証性に乏しい。出土遺物は、9世紀中葉の所産と考えられる。

公田東 N区5A号住居 (第177図、P L-45)

位置 GF-302

重複 5・B号住居の上面に構築されており、新しい。南西隅は調査区外。

形状・規模 方形 1.90+m×1.90+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均15cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面がやや固く締まっている。

カマド 位置 北壁中央部にある。規模 幅48cm 奥行35cm 残存状態 軸部は残っておらず、奥壁が北壁から半円形に突出する。燃焼面は、焼土の分布が僅かに認められる。

遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 なし

所見 5・B号住居を埋めて構築された状況は確認されなかった。出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、7世紀後半の住居と考えられる。

公田東 N区5B号住居

(第177・232図、P L-140)

位置 GF-302

重複 5・A号住居の下面で確認されており、古い。西半部は調査区外。

形状・規模 不明。 1.75+m×1.50+m

長軸方位 N-13°-E

埋没土 As-Cを含む灰褐色土・黒褐色土。

壁 平均21cmの高さで、北側は直線的であるが東側は大きく外湾する。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦で全面に貼床が認められた。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均10cmほど掘り込まれ、北東隅で土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 北東隅の埋没土から土師器坏1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田東 IV区7号住居

(第178・232図、P L-45・140)

位置 G J-312

重複 4号土坑より古い。西壁部以外は調査区外。

形状・規模 不明。2.65m×0.80+m

長軸方位 N-24'-W

埋没土 As-Cを含む灰色土。

壁 平均55cmの高さで直線的に走る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 ほほ平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 南西隅にある。規模 煙道幅29cm 奥行49cm 残存状態 4号土坑に壊されていたが、煙道部と焼土分布が確認された。煙道部は、西壁から溝状に突出する。焼土は、灰や埋没土との混土で分布していた。袖部や燃焼面は残っていなかった。

遺物出土状態 なし

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均10cmほど掘り込まれ、北西隅と南西隅で半円形の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 埋没土から土師器坏1点(P-1)・土師器甕1点(P-2)が出土した。

所見 西壁にカマドが位置する点が特徴的である。出土遺物から、8世紀前半の住居と考えられる。

公田東 V区2号住居

(第179・232・233図、P L-46・140)

位置 G N-312

重複 3号住居と重複するが、新旧関係は不明。北西隅以外は調査区外。

形状・規模 不明。

長軸方位 不明。

埋没土 As-C、Hr-FAを含む灰色土。

壁 43cmの高さを測る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 北西隅にある。規模 幅1.06m 奥行1.20m 残存状態 残りは悪く、白色粘土と焼土の分布で範囲を確認した。奥壁が北壁から半円形に突出するが、袖部や燃焼面などは確認されなかった。遺物出土状態 カマド範囲内から、薦編み石1点(S-2)が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均10cm掘り込まれており、アゼタの高まりを呈する部分が確認された。

遺物出土状態 埋没土から、薦編み石1点(S-1)と土師器・須恵器の小片が少量出土した。

所見 3号住居との新旧関係は判然としなない。出土遺物が少なく、年代を考える資料に乏しいが、9世紀代の住居と考えられる。

公田東 V区3号住居 (第179図、P L-46)

位置 G M-312

重複 2号住居と重複するが、新旧関係は不明。カマド部以外は調査区外。

形状・規模 不明。

長軸方位 不明。

埋没土 As-C、Hr-FAを含む灰色土。

壁 47cmの高さを測る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 軟弱である。

カマド 位置 北壁にある。規模 焚き口幅87cm 奥行85cm 煙道部長90cm 幅35cm 残存状態 両袖部の高まりが僅かに残り、右袖は地山を掘り込んでいるのが確認された。奥壁は半円形を呈し、煙道部が北壁から溝状に突出する。燃焼面の焼けは弱い。遺物出土状態 土師器の小片が少量出土した。貯

竈穴 不明。

掘り方 平均10cmほど掘り込まれ、土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 土師器の小片が少量出土した。

所見 カマドが確認されただけで不明な点が多く、2号住居との新旧関係も判然とし難い。出土遺物が少なく、年代を考える資料に乏しいが、9世紀代の住居と考えられる。

公田東 V区4号住居

(第180・233図、P.L-140)

位置 GM-309

重複 カマドを含む北東隅以外は調査区外。

形状・規模 不明。2.66+m×2.13+m

長軸方位 N-60°-W

埋没土 As-C、Hr-FAを含む灰色土。

壁 平均40cmの高さで直線的に走る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦で全面が軟弱である。カマド東側に焼土が分布している。

カマド 位置 北壁中央部にある。規模 焚き口幅44cm 奥行70cm 残存状態 両袖部が確認されたが、左袖の西半部は調査区外である。奥壁は排水溝で壊されているが、煙道部が北壁から突出するのが確認された。燃焼面は、左袖の壁面の焼けが強い。遺物出土状態 カマド内から伏せた状態の土師器壺1点(P-4)と、右袖の先端から重ねられた状態の土師器杯2点(P-1・2)が出土した。貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均15cmほど掘り込まれ、北壁と東壁に沿って掘り込みが確認された。

遺物出土状態 北東隅の焼土範囲に遺物がまよっている。埋没土から土師器杯1点(P-3)と筒編み石2点(S-1・2)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀末の住居と考えられる。

公田東 V区6号住居

(第181・233図、P.L-140)

GM-304において、カマドの一部と貯蔵穴だけが残存する住居を確認した。10号溝及び近・現代溝と重複しており、新旧関係は古い。カマドは東壁に位置し、北側半分が攪乱で壊されているが、規模は幅0.70+m・奥行1.30+mを測る。灰の分布で範囲を確認しており、奥壁が東壁から突出するようである。燃焼面は、灰の分布が僅かに確認された。カマド内からは、土師器の小片が少量出土した。貯蔵穴は、住居の南東隅に位置すると思われる。形状は楕円形を呈し、規模は80cm×62cm×19cmを測る。貯蔵穴から、内面に墨書土器である須恵器鉢1点(P-1)が出土した。出土遺物から、10世紀前半の住居と考えられる。

公田東 V区7号住居 (第182図)

位置 GK-302

重複 18号土坑、溝よりも古い。

形状・規模 不明。4.40+m×3.37+m

長軸方位 不明。

埋没土 地山ブロックを含む黒色土。

壁 平均23cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 位置 東壁中央部にある。規模 幅0.67m 奥行1.10m 残存状態 残りは悪く、灰と焼土の分布で範囲を確認した。袖部は残っておらず、奥壁は半円形を呈する。燃焼面も残っていない。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 床面と埋没土から、土師器の小片が少量出土した。

所見 出土遺物が少なく、年代を考える資料に乏しいが、7世紀代の住居と考えられる。

公田東 V区8号住居 (第183図)

位置 GL-307

重複 9号住居と重複するが、攪乱のため新旧関係は不明。

形状・規模 不明。 2.88m×2.56+m

長軸方位 不明。

埋没土 Hr-FAを含む褐色土。

壁 平均6cmの高さで直線的に走る。北東隅と南東隅が隅丸を呈する。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 東壁中央部にある。 規模 幅42cm 奥行20cm 残存状態 残りは悪く、焼土と炭化物の分布で東壁から突出する奥壁部を確認した。 遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 全面が平均5cmほど掘り込まれており、土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、7世紀後半の住居と考えられる。

公田東 V区 8号住居

(第183・233図、PL-141)

位置 GL-307

重複 8号住居と重複するが、攪乱のため新旧関係は不明。カマドを含む北東隅以外は調査区外。形状・

規模 不明 2.15+m×1.81+m

長軸方位 不明

埋没土 Hr-FAを含む褐色土。

壁 平均9cmの高さで直線的に走る。

周溝 不明。

柱穴 不明。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 北壁中央部にある。 規模 焚き口幅45cm 奥行43cm 残存状態 袖部が残っており、左袖では芯材の壘が伏せた状態で確認された。奥壁は半円形を呈すが、煙道部は攪乱のため確認されな

かった。燃焼面は、焼土や炭化物の分布が認められた。右袖脇で炭化材を確認したが、カマドに伴うかは判然としない。 遺物出土状態 左袖から、芯材の土師器壺1点(P-2)が出土した。

貯蔵穴 位置 北東隅にある。 形状 楕円形 規模 78cm×66cm×25cm 遺物出土状態 なし。

掘り方 全面が平均10cmほど掘り込まれており、土坑状の掘り込みを確認した。

遺物出土状態 北東隅の床面から、土師器壺1点(P-3)とカマド右袖にかかると土師器環1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田池尻 3区 2号住居

(第184・234図、PL-141)

位置 GK-320

重複 1号住居より新しく、溝より古い。

形状・規模 長方形 5.55m×4.51m

長軸方位 N-24°W

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 平均15cmの高さでほぼ直線的である。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 全面が平均15cmほど掘り込まれ、土坑・ピット状の掘り込みを4カ所確認した。

遺物出土状態 床面では、中央部から土師器壺2点(P-3・4)、北壁中央部から土師器環1点(P-1)が出土した。埋没土からは、土師器環1点(P-2)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田池尻 3区 5号住居

(第185・234図、PL-47・141・142)

位置 GL-324

重複 1号井戸より古い。西半部は調査区外。

形状・規模 不明。3.54m×1.50+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均22cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦で全面が軟弱である。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 幅71cm

奥行49cm 煙道部長 43cm 幅30cm 残存状態 両袖部の高まりが住居内に残り、奥壁は半円形で煙道部が東壁から突出する。燃焼面では、灰層の分布が確認された。遺物出土状態 土師器壺1点(P-4)が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均16cmほど掘り込まれ、北半部が1段下がる。カマド部分でビット状の掘り込みが確認された。

遺物出土状態 床面では、北東隅から土師器壺1点(P-5)、東壁中央部から土師器の坏1点(P-2)・壺1点(P-3)が出土した。埋没土からは、土師器坏1点(P-1)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田池尻 3区7号住居

(第186・234・235図、PL-47・142)

位置 GK-317

重複 17号溝より古い。東半部は調査区外。

形状・規模 不明。5.47m×2.95+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

壁 平均25cmの高さで西壁がやや外湾する。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ビット1は径46cm、深さ60cm。ビット2は径37cm、深さ36cm。

床面 平坦である。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 全面が平均25cmほど掘り込まれており、底面は平坦である。

遺物出土状態 埋没土から多く出土しており、土師器の坏3点(P-5~7)・壺1点(P-9)・鉢1点(P-8)、須恵器の蓋1点(P-1)・坏1点(P-2)、薦編み石2点(S-1・2)が出土した。掘り方からは、土師器坏1点(P-4)、須恵器坏1点(P-3)が出土した。

所見 出土遺物から、8世紀前葉の住居と考えられる。

公田池尻 4区8号住居 (第187図、PL-48)

GO-318で、住居のカマド部分のみを確認した。

カマド部分の他は、調査区外である。9号住居と近接しており、調査区外で重複している可能性がある。確認されたカマドは東壁に位置し、規模は幅42cm・奥行60cmを測る。埋没土は灰褐色土層である。残存状態は、袖部の高まりがなく、奥壁は半円形で東壁から突出している。燃焼面の焼けは強く、全体が焼土化している状況が確認された。出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、9世紀代の住居と考えられる。

公田池尻 4区11号住居

(第187・235・236図、PL-48・49・142・143)

位置 GQ-320

重複 33号溝より古い。北東隅は調査区外。

形状・規模 長方形 3.74m×3.24m

長軸方位 N-75°-W

埋没土 灰褐色シルト質土。

壁 平均13cmの高さで北壁が外湾する。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 不明。

残存状態 カマドの本体は調査区外であるが、南東

隅に灰層が分布しており、カマドに伴うと考えられる。遺物出土状態 灰層の分布範囲に遺物が集中している。土師器の坏3点(P-1~3)・甕3点(P-4・5・8)が出土した。このうちの1点(P-4)は伏せた状態で出土しており、袖部の芯材と考えられる。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 中央部の床面から藁編み石1点(S-1)と、埋没土から土師器壺2点(P-6・7)が出土した。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田池尻 4区12号住居

(第188・236・237図、P L-49・144)

位置 GQ-324

重複 なし。

形状・規模 方形 3.44m×3.20m

長軸方位 N-36°-W

埋没土 Hr-FAを少量含む暗褐色土。

壁 平均15cmの高さで直線的に走る。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 平坦である。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 幅77cm 奥行60cm 残存状態 両袖部の高まりが住居内に残る。奥壁は半円形を呈し、東壁からは突出しないが、掘り方の形態では僅かに張り出す。燃焼面には、灰層が分布していた。遺物出土状態 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 全面が平均4cmほど掘り込まれており、底面は平坦である。

遺物出土状態 埋没土から、土師器の坏1点(P-1)・甕1点(P-2)、藁編み石2点(S-1・3)が出土した。掘り方からは、藁編み石1点(S-2)が出土した。

所見 出土遺物から、8世紀前葉の住居と考えられ

る。

公田池尻 Ⅱ-2区2号住居 (第189図)

位置 IN-494

重複 1号溝より古い。掘り方にあたる面を確認した。

形状・規模 不明。3.78m×2.70+m

長軸方位 不明。

埋没土 As-Cを含む黒色土。

壁 不明。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ピット1は径55cm、深さ52cm。ピット2は径46cm、深さ65cm。

床面 不明。

カマド 不明。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 楕円形 規模 80cm×60cm×30cm 遺物出土状態 土師器の小片が1点出土した。

掘り方 底面は、ほぼ平坦である。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、奈良・平安頃の住居と考えられる。

公田池尻 Ⅱ-2区6号住居

(第190・237図、P L-144)

位置 IN-492

重複 5号住居より新しく、溝より古い。掘り方にあたる面を確認した。

形状・規模 長方形 3.76m×2.68m

長軸方位 N-37°-W

埋没土 灰褐色土を主体とする掘り方埋土。

壁 直線的である。

周溝 なし。

柱穴 なし。

床面 不明。

カマド 位置 東壁南寄りにある。規模 幅85cm 奥行52cm 残存状態 袖部はなく、奥壁が東壁から半円形に突出する。燃焼面は残っていない。遺物

出土状態 なし。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 楕円形 規模 65cm×39cm×18cm 遺物出土状態 土師器の坏 1点 (P-2)・甕 1点 (P-3) が出土した。

掘り方 底面はほぼ平坦であるが、土坑状の掘り込みを2ヵ所確認した。

遺物出土状態 南東隅から須恵器坏 1点 (P-1) が出土した。

所見 出土遺物から、9世紀中葉の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区16号住居 (第191図)

I O-501で、掘り方の面が残存する住居を確認した。住居の大半が西側の調査区外である。確認されたのは住居の東壁と、北壁・南壁の東寄りの一部で、規模は4.08m×1.64+mを測る。住居に伴うピットを1本確認しており、ピット1は径43cm・深さ55cmを測る。またピット65・80が住居に伴う可能性があり、ピット65は径38cm・深さ56cm、ピット80は径27cm、深さ45cmを測る。出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、奈良・平安頃の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区17号住居

(第192図、P L-49)

I P-503で、掘り方の面が残存する住居を確認した。住居の大半が西側の調査区外である。確認されたのは住居の東壁と、北壁・南壁の東寄りの一部で、規模は4.78m×1.20+mを測る。ピット139が住居に伴う可能性があり、径28cm・深さ43cmを測る。出土遺物が殆どなく、年代を考える資料に乏しいが、奈良・平安頃の住居と考えられる。

公田池尻 8-3区19号住居 (第193図)

位置 I P-502

重複 11号住居・16号住居・20号住居と重複する。西半部は調査区外。

形状・規模 不明。 5.32m×3.65+m

長軸方位 不明。

埋没土 不明。

壁 直線的であるが、北壁がやや外湾するようである。

周溝 なし。

柱穴 主柱穴を2本確認した。ピット1は径42cm、深さ61cm。ピット2は径38cm、深さ21cm。他にもピットを多数確認したが、柱穴については確定的でない。

床面 不明瞭である。

カマド 位置 東壁中央部にある。規模 不明。残存状態 残りは悪く、東壁中央部でカマドに伴うと考えられる焼土分布が確認されたのみで、他は不明である。遺物出土状態 焼土範囲から、土師器坏 1点 (P-1) が出土した。

貯蔵穴 位置 南東隅にある。形状 隅丸方形 規模 77cm×67cm×34cm 遺物出土状態 なし。

掘り方 なし。

遺物出土状態 なし。

所見 出土遺物から、7世紀後半の住居と考えられる。

公田池尻 9-1区1号住居 (第194・237図)

I I-489で、掘り方の面が残存する住居を確認した。4号溝・7号溝、1号井戸と重複しており、新旧関係は古い。住居の形状は長方形で、規模は3.69+m×3.35mを測る。長軸方位はN-78°-Eである。掘り方の底面はほぼ平坦であるが、西側南寄り4号溝に横されている土坑状の掘り込みを確認した。遺物は、北壁中央部から須恵器坏 1点 (P-1) と、南東隅から土師器坏 1点 (P-2) が出土した。出土遺物から、9世紀前～中葉の住居と考えられる。

公田池尻 9-1区2号住居

(第195・237図、P L-49・144)

I I-490で、南西隅の一部が残存する住居を確認した。確認面は住居の掘り方にあたる面で、東側は

調査区外である。住居の規模は2.33+m×2.22+mを測り、埋没土はHr-FPを含む暗褐色の掘り方埋土である。掘り方の底面は平坦である。遺物は、須恵器碗1点(P-1)が出土した。出土遺物から、9世紀中葉の住居と考えられる。

公田東 II区2号遺物散布遺構

(第196・238図、P L-144)

E N-222グリッドで確認された。この場所は微高地と低地の境付近にあたり、遺存状態が非常に住居も付近に存在する。形状は長軸5.7m、短軸2.7mの隅丸長方形を呈する。深さは10cm未満と浅く、断面形状も皿状を呈する。埋土上層には炭化物を含み、底面付近の一部には灰層が認められた。周辺に存在する住居の長軸方向などから推測すると住居の掘り方とも考えられる。しかし、他の住居に比して小片であるが出土土器量が多く、住居との確証も得られていないので「遺物散布遺構」とした。

出土遺物に特殊なものはなく、須恵器環(P-1~3)と土師器環(P-4~9)などが出土している。

2. 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は公田東遺跡II区で4棟、IV区で3棟、5区で2棟の計9棟が確認され、調査区の間隔などから「柱列」とした遺構がII区で2基確認されている。公田池尻遺跡では4区・8区・9区で各1棟の計3棟が確認され、4区では柱列が1基確認された。

公田東 II区1・2号掘立柱建物

(第197図、P L-50)

E K-219グリッドに位置し、共に二間三間で同一方位をとり、重複している。柱穴の重複がなく、新旧関係は不明である。2号掘立柱建物の東側柱の1基は確認できなかった。出土遺物はなく、埋土の特徴が古代住居と同様であったため古代と判断した。各々の規模や方位などは一覧表(表2)に記したの

で、本文では代表的な建物のみ説明する。

公田東 II区3・4号掘立柱建物

(第198図、P L-50・51)

E N-220グリッドに位置し、重複する。両者の新旧関係は不明である。4号掘立柱建物の東西側柱は確認できない箇所がある。同一規模の3号掘立柱建物が二間三間であることから考えて、4号掘立柱建物も二間三間であろう。両者の方位は9°ずれている。時期の判明する出土遺物がなく、時期決定は埋土の特徴で行った。

公田東 IV区1号掘立柱建物

(第199図、P L-51)

G J-313グリッドに位置する。周辺にはピットが集中するが、本掘立柱建物のみ確認できた。本遺構は、調査区境に近いが、南側にピットの外縁も確認されていないことから、二間二間の総柱建物と判断される。出土遺物はなく、埋土の特徴から時期を判断した。

公田東 IV区2号掘立柱建物

(第200図、P L-52)

G I-309グリッドに位置し、北東隅は調査区外に延びる。規模は1号掘立柱建物に比して柱穴・柱間共にやや小さいが、2間2間の総柱建物である。出土遺物はなく、埋土の特徴から時期を判断した。

公田東 V区2号掘立柱建物

(第201図、P L-53)

G M-308グリッドに位置する。建物は2間3間の総柱であり、棟方向は他の建物と異なり東西を向く。出土遺物はなく、埋土の特徴から時期を判断した。

公田池尻 4区2号掘立柱建物

(第201図、P L-54)

G P-318グリッドに位置し、10号土坑と重複する。新旧関係は本建物が高い。柱穴径は平均63cmと

大きく、深さも52cmと深い。周辺を精査したが、他に柱穴は確認できず、1間1間の構築物と考えられる。出土遺物はなく、埋土の特徴から時期を判断した。

3. 井戸

奈良・平安時代の井戸として確認し、調査した遺構は、5基である。確認位置は、公田池尻遺跡7区で1基、8区で3基、9区で1基となっている。

なお、井戸の開削時期については、出土遺物と埋没土を中心に決定しているため、中世以降として扱っている井戸についてもこの時期に属するものがある可能性を上げておく。

分布の傾向としては、奈良平安時代の住居や獨立柱建物等の遺構が集中する公田東遺跡I区・同IV区・同V区・公田池尻遺跡3区・同4区には、所在せず、公田池尻遺跡南端の8区9区に集中する傾向が認められる。

8区9区では、奈良平安時代の遺構は、住居跡4軒・獨立柱建物跡2棟となっているが、同時期と推定される柱穴群が確認されており、これらの井戸は集落内に属していたといえよう。

形状は、いずれも円形素掘りの円筒状の掘り込みである。アグリの見られるものはない。比較的短期間に使用されていたものであろう。

規模は、直径1.23m～2.25m前後で、深さ0.83m～2mとばらつきがあるが、底面の標高値は83.00mと一定していることから、ここで挙げた井戸とした遺構は、井戸としての性格付けに概然性が認められよう。そして、この標高値あたりが、湧水面と考えられる。しかし、湧水層については、掘り込み地山層についての調査所見がないため、不明である。

以下に個々の井戸について所見を述べるが、詳細な位置・形状・規模等については、一覧表(表2)を参照されたい。

公田池尻遺跡

7区3号井戸

(第297・239～241図、PL-55・145)

上面は長軸2.4m、短軸2.1mの隅丸長方形に確認面からの深さ20cm掘り込んでいる。中間部は1辺1.1mの方形を呈し、下部は1辺80cm程となる。確認面からの深さは2.1mである。埋土中には多量の円礫が認められ、須恵器を中心とした遺物も多量に出土した。須恵器(P-2～6・9)は9世紀末から10世紀前半を中心としており、本井戸の時期もこの頃と考えられる。それ以外では須恵器壺体部片を利用した硯(P-1)がある。木製品では曲物の底板が2点(W-2・3)出土している。なお、本井戸から出土した遺物中に、還元炭焼成で軟質な片口鉢が1点存在し、他の須恵器とは焼成や器種も異なる。時期的には中世前期(12世紀頃)と推測され、他の遺物とは時期的に異なる可能性があり、この遺物に注目すれば本井戸は中世の所産となる。しかし、他の遺物量から考えると古代の井戸と考えてよく、片口は混入品と考えられる。

上記の理由から図版作製時に混乱があり、遺物図が奈良・平安時代、遺構図が中世に入ってしまった。ご容赦願いたい。

8-2区1号井戸

(第203・241～243図、PL-55・146・147)

円形素掘り朝顔状の井戸である。中下層に段を有するが、湧水により形成されたものとは考えられない。墨書を施した須恵器環の他10世紀代の遺物を多数出土した。

8-2区2号井戸(第203図)

4基の中で本跡のみが円筒状の掘り込みである。出土遺物は、土師器・須恵器の破片のみである。

8-2区3号井戸(第203・243図、PL-55)

円形素掘り朝顔状の井戸である。1号井戸に比べ中下位が非常に細い円筒状の掘り込みになっている。埋没土の1層から土師器・須恵器片が少量出土している。

9-3区6号井戸

(第203・243図、P L-55)

円形素掘り朝顔状の井戸であるが、他の井戸に比べ、円筒状の掘り込み部分が浅い。出土遺物は須恵器坏1点のみである。

4. 土坑

概要 古代の土坑は、樺島川端遺跡では19区のみで11基確認されている。公田東遺跡ではI区1基、II区4基、IV区1基、V区15基の計21基確認された。公田池尻遺跡では3区2基、4区3基、5区3基、7区15基、8区4基、9区1基の計28基確認された。土坑は当然のことながら、微高地の集落域を中心に確認されているが、性格は不明である。形状も不整形が多く、底部が平坦でない土坑もある。形状のしっかりした土坑には長方形、楕円形のものがある。

長方形土坑には、樺島川端遺跡19区39号土坑(第204図)、公田東遺跡I区10号土坑(第205図)がある。楕円形土坑には、樺島川端遺跡19区4号土坑(第204図)、公田池尻遺跡5区2号土坑(第207図)、同8-2区4号土坑(第209図)、同8-3区7号土坑などがある(第209図)。

出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは9点のみである。樺島川端遺跡19区13号土坑(第204図、P L-55)は楕円形を呈すると推定され、壁際から墨書された須恵器坏(第244図P-1、P L-147)が1点出土している。公田池尻遺跡7区27号土坑(第208図、P L-55)は、平面形がやや不整形であるが、掘り込みは鋭角で深さは35cmである。内部には大小の垂角礫があり、土器小片も多く出土した。これらのうち、須恵器坏、須恵器碗、土鏝各1点のみ図示し得た(第246図P-1~3)。

各遺跡で確認された土坑個々の形状や規模については一覧表(表2)を参照されたい。

5. 溝

樺島川端遺跡では1~19区19条、21区2条の計21条確認された。公田東遺跡ではI区8条、II区19条、

IV区9条、V区2条の計38条確認された。公田池尻遺跡では1区11条、2区1条、3区1条、4区7条、5区6条、8区3条、9区3条の計32条確認された。潤個々の形状や規模は一覧表に記してあるので、本文では遺跡毎に特徴的な溝の概要を述べるにとどめる。

樺島川端遺跡

1・8区31号溝(第218図)はAs-B下で確認された溝で、水田に伴うものである。本溝は水田の項でも触れている。

同じI区で確認された33から35号溝(第167図、P L-58・59)は、31号溝より古いが、走向は31号溝同様、微高地縁辺に沿っている。両溝の新旧関係は不明である。33溝からは須恵器が出土し、第247図P-1・2の2点を図示した。性格は不明である。

公田東遺跡

I区28・30~33溝(第226図)は、微高地縁辺の等高線に沿うように延びている。これらの溝は規模や走向も似ており、生産に伴う溝と考えられる。29号溝(第226図)は等高線には沿っておらず、性格は不明である。

II区62・63・74号溝(第210図)はHr-FP泥流下水田の段差と平行して走向し、水田西側の区画溝である可能性が高い。一方、東側はやや規模が大きいが、微高地縁辺を巡るように59・60号溝(第211図、P L-57)が確認されている。溝周辺には偶蹄類の蹄跡が確認されているが、この足跡は60号溝埋没後に付いた(P L-62)のものであり、確認された水田より新しい。足跡は砂で埋没しており、泥流堆積が一期期ではなかったことを物語っている。同じII区の西側微高地寄りでは確認された29~53号溝(第228図、P L-57)は、島の項で触れているように生産遺構の可能性が考えられる。

公田池尻遺跡

1区北側に位置する4・5・6号溝は(第212図)、走向方向が異なり同一時期ではないと考えられる。しかし、4号溝は北側の段差と、5・6号溝は南側の段差と平行していることから、両者共に水田の区

面溝と考えられる。3号溝は性格不明であるが、4区から続く溝である。

3・4区で確認された溝の多く、特にHr-FP泥流下で確認されたものは畝のサク条道構と規模が似ており、畝に関連する溝群の可能性が高い。

6. 水田

本地域は上野国府の南に広がる穀倉地域であり、古代の早い時期に条里地割が施行されたと考えられている。西側の高崎地区では、古くから浅間B軽石下水田による条里地割の復元が精力的に進められており、本地域においてもその広がりを確認することが、発掘調査当初の目的の一つであった。ところが、発掘調査を進めるなかで、古代の文化層が複数存在することが判明し、本地域での条里地割の施行時期が、1108年（浅間B軽石降下）より更に遡ることがほぼ確定的となった。

本地区では、榛名ニツ岳伊香保テフラに伴う泥流その他を耕土とした水田跡（Hr-FP泥流混土下水田）、浅間B軽石で直接埋没した水田跡（As-B下水田）の2面が確認された。前者は、後者の水田耕土下にそれとは異なった厚い耕土があり、耕土内からは8～9世紀代の土器が出土している。いずれも水田の区画は大きく、アゼの走行は東西・南北方向を基準とする条里型の水田である。区画の基準となる大アゼや水路の位置も一致する部分が多い。

本地域は、古墳時代に浅間山および榛名山の火山活動に伴う災害をたびたび被っているが、なかでも6世紀後半以後に押し寄せたHr-FP泥流は、本地域の低地を埋め尽くしたと考えられる。そのことは、榛島北部低地の13区で、1m以上の堆積が認められたことから窺える。その後、条里地割がいつ施行されたかまではっきりしないが、赤城山南麓地域では818年の大地震に伴う洪水層で埋没した条里地割水田が確認されており、本地域がこれに遅れて条里地割が施行されたとは考えにくい。また、Hr-FP泥流災害で疲弊した本地区にとっては、耕地再開発の絶好の機会であったことも予想される。

以下に、各地区毎の状況を述べる。

Hr-FP泥流混土下水田

（付図7～10、第168-210図～217図、P L-60～62）
As-B下水田の耕土（黒灰色粘質土）を取り去ると、灰色のシルト質土が現れる。榛島地区の低地では、この灰色シルト質土の下にHr-FP泥流があり、厚いところでは1M以上の堆積が認められた。榛島川端18区では、台地上にも灰色シルト質土があり、その下から東西・南北方向の筋跡様の耕作痕が認められた。耕作痕は畝のものとは異なること、土層内から8～9世紀代の土器が出土し、上層にAs-B下の黒灰色粘質土があること、土質が下層のHr-FP泥流に近似することなどから、灰色シルト質土は条里地割施行当初の耕作土で、台地の一部まで水田化する大規模な切り盛りを伴う施行が行われたと考えるに至った。

その後の調査で、公田地区でもこの耕作土の存在が判明し、条里型水田の確認に結び付いた。本水田痕跡の大アゼと主要な溝は、As-B下水田の大アゼや溝に踏襲されるものが多く、条里坪にあたる109m方形の大区画が数カ所で確認された。水田区画の大きさは、長辺10～13m、短辺6～10mの長方形で、アゼ区画は傾斜に対して長辺を直交させており、現在の一般的な水田と同じ形態となっている。

この水田は、Hr-FP泥流の上層、あるいはそのほとんどもを耕土とした水田の痕跡で、耕土を取り去った状態で出現する低いアゼ状の高まりや段差、浅いスジ状の耕作痕、溝などにより、水田の区画を復元することができた。アゼ状の高まりや段差は、いずれも東西あるいは南北方向に直線的に伸びており、水田区画を示していると考えられる。浅いスジ状の耕作痕は筋跡と見られるもので、これも東西あるいは南北方向に直線的に伸びるものがほとんどである。

以上の水田痕跡のうち、榛島川端19区では水田区画の一部、公田東II区では溝・段差と耕作痕、公田池尻1・2区では水田区画・段差・耕作痕・溝が確認された。各地区の低地ともAs-B下水田耕土下の

共通した時期に、共通した水田痕跡が確認されており、ある時期に一齐に条里地割が施行された可能性が高いと考える。

標島川端19区(付図7)では、5~10cmの厚さで灰色シルト質土があり、その下からグリッド180ラインに沿ってコの字状のアゼ区画が並んだ状態で確認された。東西アゼに沿った180ラインは、想定される坪の半折の位置にほぼ該当する。南北アゼの幅は5~6mである。なお、標島北部低地では、この段階の水田は確認されていないが、1区で確認されている33号~35号溝は、上面にAs-B下水田の区画に一致しており、この地区にも及んでいた可能性が高い。

公田東II区では、30cm以上の厚さで灰色シルト質土があり、東割の一部ではその下部に砂層が認められた。第211図、P L-62の牛と見られる偶蹄類の足跡は、この砂で埋没しており、水田痕跡とは若干時期が異なる可能性がある。

水田関連の遺構としては、グリッドE Zラインに沿って南北方向に走行する62号・63号溝があり、その両側8mの位置に西側から東側におちる段差が確認された(第210図)。また、60号溝の東側で南北方向の耕作痕と直角に折れる溝、その南側で東西方向の耕作痕が認められた(第211図)。59号・60号溝はこの水田に伴う水路と見られるが、その周辺には牛と思われる偶蹄類の足跡が多数確認されている。南北方向の62号・63号溝と、グリッド250ラインに沿った東西方向の56号・85号溝(付図8)は、上面のAs-B下水田でも大アゼとして踏襲されており、条里坪境にあたる事が想定される(付図13)。

なお、本地区の東側では耕土の灰色シルト質土が厚く、30cm以上の堆積が認められた。

公田池尻1・2区では、10~20cmの厚さで灰色シルト質土があり、その下部からほぼ全域でアゼ区画と段差、耕作痕が確認された(付図9、第212図~第217図)。なかでも、グリッド362ラインに沿った東西方向大アゼと、HFラインに沿った南北方向大アゼは、上面のAs-B下水田でも大アゼとして踏襲されており、条里坪境にあたる事が想定される(付図

14)。東西大アゼは幅が2.2~2.5mで、アゼの両側に細い溝(10号・11号溝)を伴う。南北大アゼは幅が2~2.6mで、アゼ内西側に鋤跡様の凹凸がある浅い溝が伴う。

水田区画は、長辺10~13m、短辺は8m前後を主体に6~10mのものまであり、いずれも傾斜に対して長辺を直交させている。1区の北側で確認された段差の幅も、水田区画短辺の幅と近似している。

As-B下水田

(付図11~15、第218~225図、P L-62~66)

浅間B軽石(1108年降下)で直接埋没した水田で、各低地で確認されている。

この水田も条里型水田と考えられるが、時間的制約から十分な検討ができていない。本地区の現在の地割を見ると、台地部分を中心に条里地割を踏襲していると考えられるラインがいくつか認められる。その基準となるのが、南北グリッドBSラインに沿って標島と公田の集落を結ぶ道路、東西グリッド138ラインに沿ってのびる道路である。このうち、南北道路は掘削工事時に確認調査を実施したが、道路下には本地区の主要水路が重複しており、古い遺構は全てそれに切られていた。なお、この主要水路は、標島川端19区の西側で南東方向に折れ、20区の4号・5号溝を通じて上佐島へ至るもので、古代まで通る可能性が高いと考えている。東西道路では、浅間B軽石混土層下の調査で、道路に沿った大溝が確認されている。各低地で確認されたAs-B下水田の大アゼのうち、いくつかはこの基準にほぼ合致しており、本地区では古代の条里地割がその後も踏襲されたものとする。

本水田のもう一つの特徴は、古墳時代においては居住域であった台地上にまで水田が及んでいることである。このことは、Hr-FPP泥流混土下水田でも一部で確認されたが、条里地割の施行は大規模な切り盛りを伴う圃場整備であったことを示している。

水田区画の大きさは、Hr-FPP泥流混土下水田とはほぼ同規模であるが、平地地では長辺20m、短辺10m

の大形なものも見られる。なお、坪内のアゼ区画に乱れが認められるのは、条里地割施行以後の時間経過が長いためであろう。

樺島地区では、低地の全域と一部台地上でも水田が確認された（付図11、第218図）。想定される坪境は、東西グリッド2・29・56・83・110・137の各ライン、南北グリッドA Q・B Sラインである。

1区の31号溝は坪境に沿った溝で、この東側は古墳時代では台地にあたる。1区から15区の水田区画は、東西方向に長い長方形で、東西長が16～18m、南北長は10m前後が主体であるが、様々認められる。

古墳時代は居住域であった16・17区では、グリッド120ラインの北側で両側に溝（65号・66号）を伴う東西方向のアゼが確認された。周囲に他のアゼがないのは、その後の復旧作業で攪拌されたため、この地区まで水田が及んでいたものと考えられる。

18区～21区も同様であるが、その後の復旧作業時の攪拌を免れた一部が19区で確認された（付図12）。18区と21区との間の道が条里南北基準ラインで、東西グリッド137ラインが東西基準ラインである。調査区では、南北基準ラインから東へ13mほどのところに、南北方向の細い溝や段差が集中しており、東西方向のアゼは13～15m間隔で7本が認められた。東西アゼのうち、164ラインに沿った太いアゼは坪境に想定される。この地区は西側が台地にあたるため、南北方向に長辺が位置する区画となるであろう。

公田東地区では、II区とIII区のほぼ全域で水田区画が確認された（付図13、第219図～第222図）。本地区で想定される坪境は、南北方向ではグリッドF Bラインの段差とG Gラインの大アゼ、東西方向ではグリッド250ラインの大アゼと279ラインの大アゼが、それぞれ該当する。このうち、南北グリッドF Bラインの段差と、東西グリッド250ラインの大アゼは、下面のHr-FP泥流混土下水田の坪境想定ラインに一致している。

水田区画は、台地縁辺にあたるII区の西側では南北方向に長辺をとるが、その他は東西方向に長辺をとっている。また、台地縁辺はその後の復旧作業時

の攪拌が及んでいるため、アゼ部分が不明瞭で段差のみの確認となっている。III区も軽石の残存が悪く、東西方向のアゼが欠落する部分が多い。水田区画の大きさは、長辺16～20m、短辺8～10m程度の大きさのものが多い。

なお、アゼ区画を斜めに横切って歩行した足跡が、数カ所で確認されている。足跡は、人の他に馬とみられる円形のものも認められた。

公田池尻地区では、南北の低地全域で水田区画が確認された（付図14・15、第223図～第225図）。本地区で想定される坪境は、南北方向ではグリッドH Fラインの大アゼ、東西方向ではグリッド333ラインの溝を伴うアゼ、グリッド362ラインの大アゼ、グリッド389ラインの大アゼが該当する。このうち、南北H Fラインの大アゼと東西362ラインの大アゼは、下層のHr-FP泥流混土下水田の大アゼとも一致している。また、東西333ラインの溝を伴うアゼは、北側台地縁辺の起点にあたるものと思われる。

水田区画の大きさは、長辺が13～18m、短辺は10m前後のものが多いが、台地に近い3区・4区では、短辺5m前後の狭い区画になっている。また、水口も数カ所で確認された。いずれも南北アゼとの交点付近が切れるもので、浅い落ち込みを伴うものもある。

なお、本地区でも田面に人と馬らしき円形の足跡が多数認められた。足跡は、アゼの上を歩いたもの、アゼ区画を斜めに横切って歩行したもの、アゼ区画内を不規則に歩いたものなど、様々である。

7. 畠

Hr-FP泥流混土下水田に対応する畠は、公田東地区と公田池尻地区の台地で確認されたが、As-B下水田に対応する畠は確認されていない。このことは、11世紀頃から居住域のあり方が変化し、水田中心の社会へ進んでいたことを示しているのかもしれない。本地区においても、10世紀以後の居住域の動向ははっきりせず、As-B下水田は台地上にも及んでいる状況が認められた。

Hi-FP泥流混土下畷

(付図7～10、第168・226～228図、P.L-67)

分布は、公田東Ⅰ区・Ⅱ区台地、公田池尻3区・4区台地および5区台地北側の各地区に認められた。いずれも泥流を鑿込んだ畷で、確認状況は水田と同様である。

公田東Ⅰ区では、長さ7mほどのサク7条と、それに直交するサクがわずかな範囲で確認された(第226図)。サク間は1.5mで、畷の重複は認められない。公田東Ⅱ区では、掘立柱建物群に隣接して東西方

向のサクが確認された(第228図)。サクはいずれも東側で南北方向の溝に取り付いており、一部に重複するものもある。畷のすぐ東側は水田域であり、この遺構は「苗代」の可能性もある。サク間は1.5～1.8mである。

公田池尻3区・4区では、長さ3mほどの短いサクと長いサクが、一定範囲に混在した状態で確認された。サク間は1.2m前後のものが多い。

公田池尻5区も、3区・4区とほぼ同様の状態で確認されている。

表2 奈良・平安時代遺構一覧表

掘立柱建物・柱列(1)

遺構名称	位置	E K-219	重複	2号掘立と重複。	構造(梁行×桁行)	2間×3間
公田東Ⅱ区	棟方位	N-2°W	南北棟	規模	3.42×4.16m	柱穴(平均規模) 円形 径39cm 深さ39cm
1号掘立柱建物	柱底	円形 径15cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	E K-220	重複	1号掘立と重複。	構造(梁行×桁行)	2間×3間?
公田東Ⅱ区	棟方位	N-1°W	南北棟	規模	3.24×4.31m	柱穴(平均規模) 円形 径30cm 深さ27cm
2号掘立柱建物	柱底	円形 径15cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	E N-220	重複	4号掘立と重複。	構造(梁行×桁行)	2間×3間
公田東Ⅱ区	棟方位	N-2°E	南北棟	規模	3.96×5.67m	柱穴(平均規模) 円形 径54cm 深さ52cm
3号掘立柱建物	柱底	円形 径14cm		出土遺物・その他	石礫1点混入。	
遺構名称	位置	E N-220	重複	3号掘立と重複。	構造(梁行×桁行)	2間×2間
公田東Ⅱ区	棟方位	N-11°W	南北棟	規模	3.55×5.58m	柱穴(平均規模) 円形 径46cm 深さ54cm
4号掘立柱建物	柱底	円形 径16cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	E J-218	重複		構造(梁行×桁行)	柱間2間を確認。
公田東Ⅱ区	棟方位	N-3°W		規模	3.59m	柱穴(平均規模) 円形 径39cm 深さ49cm
1号柱列	柱底	円形 径11cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	E I-217	重複		構造(梁行×桁行)	柱間2間を確認。
公田東Ⅱ区	棟方位	N-12°W		規模	3.88m	柱穴(平均規模) 円形 径30cm 深さ22cm
2号柱列	柱底	円形 径13cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	G J-313	重複		構造(梁行×桁行)	2間×2間 総柱。
公田東Ⅳ区	棟方位	N-4°E	南北棟	規模	3.44×3.71m	柱穴(平均規模) 円形 径63cm 深さ52cm
1号掘立柱建物	柱底	不明。		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	G I-309	重複		構造(梁行×桁行)	2間×2間? 総柱?
公田東Ⅳ区	棟方位	N-1°W	南北棟	規模	3.40×3.61m	柱穴(平均規模) 円形 径52cm 深さ43cm
2号掘立柱建物	柱底	円形 径18cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	G I-307	重複		構造(梁行×桁行)	2間×1間を確認。総柱?
公田東Ⅳ区	棟方位	N-19°E	南北棟?	規模	2.17×1.82m	柱穴(平均規模) 円形 径29cm 深さ36cm
3号掘立柱建物	柱底	不明。		出土遺物・その他	なし。北半部は調査区外に及び、構造不明。	
遺構名称	位置	G N-313	重複		構造(梁行×桁行)	2間×1間を確認。
公田東Ⅴ区	棟方位	N-2°W	南北棟?	規模	3.74×1.23m	柱穴(平均規模) 円形 径44cm 深さ49cm
1号掘立柱建物	柱底	不明。		出土遺物・その他	なし。南半部は調査区外に及び、構造不明。	
遺構名称	位置	G M-308	重複		構造(梁行×桁行)	2間×3間 総柱。
公田東Ⅴ区	棟方位	N-65°W	東西棟	規模	2.72×3.00m	柱穴(平均規模) 円形 径30cm 深さ55cm
2号掘立柱建物	柱底	円形 径10cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	G P-318	重複	10号土坑と重複。	構造(梁行×桁行)	1間×1間
公田池尻4区	棟方位	N-12°W	南北棟	規模	2.31×2.37m	柱穴(平均規模) 円形 径63cm 深さ52cm
2号掘立柱建物	柱底	円形 径20cm		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	G O-315	重複	35号溝と重複。	構造(梁行×桁行)	柱間2間を確認。
公田池尻4区	棟方位	N-3°W		規模	3.14m	柱穴(平均規模) 円形 径59cm 深さ38cm
6号柱列	柱底	不明。		出土遺物・その他	なし。	

掘立柱建物・柱列(2)

遺構名称	位置	IP-503	重複	11・15・18号住居跡と重複。	構造(梁行×桁行)	2間?×3間
公田池尻8区	棟方位	N-28°W	南北棟	規模	2.89×5.51m	柱穴(平均規模) 円形 径37cm 深さ33cm
1号掘立柱建物	柱痕	不明。		出土遺物・その他	なし。	
遺構名称	位置	IK-500	重複		構造(梁行×桁行)	2間×1間を確保。
公田池尻9区	棟方位	N-85°W	東西棟?	規模	3.00×2.25m	柱穴(平均規模) 円形 径27cm 深さ33cm
1号掘立柱建物	柱痕	不明。		出土遺物・その他	なし。桁行は調査区外へ延びると考えられる。	

井戸

遺構名称	位置	IN-495	重複		埋設土	地山の掘土層。
公田池尻8-2区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	2.25×2.15m 深さ2.00m	湧水層
1号井戸	出土遺物・その他	10C代の遺物が多量に出土。				
遺構名称	位置	IL-488	重複		埋設土	As-Bを含む砂質土と地山の掘土層。
公田池尻8-2区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.26×1.25m 深さ1.40m	湧水層
2号井戸	出土遺物・その他	土師器、須恵器片少量出土。				
遺構名称	位置	IN-497	重複		埋設土	地山の掘土層。
公田池尻8-2区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.35×1.23m 深さ1.44m	湧水層
3号井戸	出土遺物・その他	土師器、須恵器の小片少量出土。				
遺構名称	位置	IN-511	重複		埋設土	地山の掘土層。
公田池尻9-3区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.70×1.60m 深さ0.83m	湧水層
6号井戸	出土遺物・その他	須恵器環1点出土。				

土坑(1)

遺構名称	位置	GO-311	重複	14号溝と重複。	埋設土	As-Cを含む灰褐色土。
公田東V区	形状	円形 丸底状		規模	0.50×0.46m 深さ0.27m	長軸方位
6号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GO-312	重複		埋設土	Hr-FAを含む暗褐色土。
公田東V区	形状	円形 丸底状		規模	0.53×0.45m 深さ0.23m	長軸方位
7号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GO-312	重複	14号溝と重複。	埋設土	
公田東V区	形状	楕円形 丸底状		規模	0.60×0.47m 深さ0.35m	長軸方位 N-27°-E
8号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GO-312	重複	14号溝と重複。	埋設土	Hr-FAを含む黄褐色土。
公田東V区	形状	円形 丸底状		規模	0.55×0.53m 深さ0.34m	長軸方位
9号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GM-311	重複		埋設土	Hr-FAを含む暗褐色土。
公田東V区	形状	楕円形 丸底状		規模	0.61×0.50m 深さ0.15m	長軸方位 N-72°-W
10号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GN-312	重複	2号土坑と重複。	埋設土	Hr-FA・Hr-FPを含む暗褐色土。
公田東V区	形状	円形 箱状		規模	0.70×0.58m 深さ0.35m	長軸方位
11号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GM-312	重複	4号掘立と重複。	埋設土	Hr-FPを含む灰褐色土。
公田東V区	形状	円形 箱状		規模	0.53×0.46m 深さ0.10m	長軸方位
12号土坑	出土遺物・その他	土師器片3点出土。				
遺構名称	位置	GL-301	重複	17・18号溝と重複。	埋設土	地山の掘土層。
公田東V区	形状	円形		規模	0.92×0.80m 深さ0.42m	長軸方位
13号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GM-310	重複		埋設土	Hr-FA・Hr-FPを含む灰褐色土。
公田東V区	形状	不整形円形 皿状		規模	1.78×1.05m 深さ0.20m	長軸方位 N-17°-E
14号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GK-302	重複	7号住居跡と重複。	埋設土	As-C含む灰褐色土。
公田東V区	形状	楕円長方形 皿状		規模	2.14×1.90m 深さ0.14m	長軸方位 N-83°-E
18号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GK-296	重複	20号土坑と重複。	埋設土	褐色土と地山の掘土層。
公田東V区	形状	不明 丸底状		規模	1.26×0.74m 深さ0.54m	長軸方位 N-25°-W
19号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GK-296	重複	19号土坑と重複。	埋設土	As-Cを含む褐色土。
公田東V区	形状	長方形? 箱状		規模	1.80×0.90m 深さ0.29m	長軸方位 N-52°-E
20号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	GM-326	重複	2号井戸、6号溝と重複。	埋設土	
公田池尻3区	形状	円筒状		規模	0.75×0.30m	長軸方位
5号土坑	出土遺物・その他	なし。				

土坑(2)

遺構名称	位置	GM-323	重複	7号溝と重複。	埋没土
公田池尻3区	形状	方形		規模 0.85×0.58m 深さ0.25m	長軸方位 N-27°-E
8号土坑	出土遺物・その他	須恵器 片2点、土師器小片22点出土。10C代			
遺構名称	位置	GR-323	重複	29・30号溝と重複。	埋没土
公田池尻4区	形状	長楕円形 皿状		規模 2.00×0.74m 深さ0.15m	長軸方位 N-20°-E
15号土坑	出土遺物・その他	土師器小片4点出土。			
遺構名称	位置	GQ-319	重複	17号土坑と重複。	埋没土
公田池尻4区	形状	丸底状		規模 1.60×1.02m 深さ0.35m	Hr-PP形流層。 長軸方位 N-29°-W
16号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器片32点出土。			
遺構名称	位置	GQ-319	重複	16号土坑、33号溝と重複。	埋没土
公田池尻4区	形状	不整形 丸底状		規模 2.00×1.03m 深さ0.25m	Hr-PP形流層。 長軸方位 N-29°-W
17号土坑	出土遺物・その他	須恵器破片1点出土。			
遺構名称	位置	IG-484	重複	1号住居跡と重複。	埋没土
公田池尻5区	形状	円形 丸底状		規模 0.61×0.53m 深さ0.36m	粘質土。 長軸方位 N-26°-W
1号土坑	出土遺物・その他	円鏡1点出土。			
遺構名称	位置	IG-484	重複		埋没土
公田池尻5区	形状	楕円形 円筒状		規模 1.00×0.76m 深さ0.83m	地山の混土層。 長軸方位 N-17°-W
2号土坑	出土遺物・その他	須恵器、灰軸陶器片8点出土。			
遺構名称	位置	ID-476	重複	5号溝と重複。	埋没土
公田池尻5区	形状	方形 皿状		規模 0.86×0.74m 深さ0.08m	灰と炭化物を含む粘質土。 長軸方位 N-18°-W
4号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	II-479	重複	2号溝と重複。	埋没土
公田池尻7区	形状	楕円形 箱状		規模 0.81×0.50m 深さ0.20m	As-Cを含む黒色土と地山の混土層。 長軸方位 N-72°-E
3号土坑	出土遺物・その他	須恵器、灰軸陶器片約100点出土。			
遺構名称	位置	IJ-480	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	円形 箱状		規模 0.82×0.75m 深さ0.24m	As-Cを含む黒色土と地山の混土層。 長軸方位
4号土坑	出土遺物・その他	須恵器片10点、土師器片4点出土。			
遺構名称	位置	IJ-476	重複	1号井戸と重複。	埋没土
公田池尻7区	形状	不整形 円形 皿状		規模 2.49×2.33m 深さ0.33m	黒褐色土と地山の混土層。 長軸方位
27号土坑	出土遺物・その他	円鏡や土師器片が多数に出土。			
遺構名称	位置	IH-473	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	円形 皿状		規模 0.76×0.65m 深さ0.06m	長軸方位
28号土坑	出土遺物・その他	土師器小片7点出土。			
遺構名称	位置	II-473	重複	35号溝と重複。	埋没土
公田池尻7区	形状	楕円形 皿状		規模 0.51×0.10m 深さ0.07m	As-Cを含む黒色土。 長軸方位 N-65°-W
29号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	II-472	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	楕円形		規模 0.60×0.35m 深さ0.50m	As-Cを含む黒色土。 長軸方位 N-69°-W
32号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	IK-477	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	皿状		規模 0.47×0.24m 深さ0.07m	As-Cを含む暗褐色土。 長軸方位 N-15°-W
34号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HR-414	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	隅丸長方形 皿状		規模 1.03×0.35m 深さ0.05m	As-Cを含む黒褐色土。 長軸方位 N-9°-W
35号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HR-414	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	円形 丸底状		規模 0.48×0.48m 深さ0.18m	As-Cを含む黒色土。 長軸方位
36号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HQ-413	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	楕円形 皿状		規模 1.21×0.83m 深さ0.08m	As-Cを含む黒褐色土。 長軸方位 N-3°-W
37号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HP-408	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	長方形? 箱状		規模 1.38×0.45m 深さ0.11m	As-Cを含む黒褐色土。 長軸方位 N-17°-W
38号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HP-408	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	不整形 丸底状		規模 1.07×0.86m 深さ0.27m	As-Cを含む黒色土の混土層。 長軸方位
39号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	HP-408	重複		埋没土
公田池尻7区	形状	楕円形 丸底状		規模 1.13×0.70m 深さ0.11m	As-Cを含む黒褐色土。 長軸方位 N-47°-E
40号土坑	出土遺物・その他	なし。			

土坑 (3)

遺構名称	位置	HP-406	重複	埋設土	As-Cを含む黒褐色土。	
公田池尻7区	形状	円形 丸底状	規模	0.67×0.58m 深さ0.12m	長軸方位	N-36°E
41号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	HO-406	重複	埋設土	As-Cを含む黒褐色土。	
公田池尻7区	形状	不整形円形 丸底状	規模	1.00×0.76m 深さ0.15m	長軸方位	N-75°E
42号土坑	出土遺物・その他	土師器環1点出土。				
遺構名称	位置	IP-479	重複	埋設土		
公田池尻8-2区	形状	不整形長方形 箱状	規模	0.63×0.59m 深さ0.29m	長軸方位	N-16°W
2号土坑	出土遺物・その他	土師器片2点出土。				
遺構名称	位置	IP-496	重複	埋設土	暗褐色土と地山の混土層。	
公田池尻8-2区	形状	円形? 箱状	規模	0.80×0.38m 深さ0.48m	長軸方位	
3号土坑	出土遺物・その他	土師器片6点出土。				
遺構名称	位置	IO-496	重複	埋設土	地山の混土層。	
公田池尻8-2区	形状	円形 箱状	規模	1.15×1.10m 深さ0.48m	長軸方位	
4号土坑	出土遺物・その他	土師器片28点、須恵器環片6点出土。				
遺構名称	位置	IR-505	重複	埋設土	黒褐色土と地山の混土層。	
公田池尻8-3区	形状	円形? 円筒状	規模	0.77×0.46m 深さ0.80m	長軸方位	
7号土坑	出土遺物・その他	土師器環片4点出土。				
遺構名称	位置	IJ-497	重複	埋設土	Ir-FP泥炭を含む黒色土。	
公田池尻9-1区	形状	楕円形? 円筒状	規模	1.30×0.78m 深さ1.15m	長軸方位	
5号土坑	出土遺物・その他	なし。				

溝 (1)

遺構名称	位置	AQ-20~21	重複	埋設土		
標島川端2区	調査長	9m	幅・深さ		出土遺物	第247区
27号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	AQ-17~22	重複	埋設土	黒褐色土	
標島川端2区	調査長	24m	幅・深さ	1.35m×0.4m	出土遺物	
28号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	AQ-5~12	重複	埋設土	灰褐色土	
標島川端1区	調査長	27m	幅・深さ	0.72m×0.32m	出土遺物	第247区
33号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	AQ-3	重複	埋設土	灰褐色土	
標島川端1区	調査長	5m	幅・深さ	0.38m×0.18m	出土遺物	
34号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	AO-3~12	重複	埋設土	暗灰色土	
標島川端1区	調査長	39m	幅・深さ	0.85m×0.2m	出土遺物	
35号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	AP-2~3	重複	埋設土	灰色土	
標島川端1区	調査長	3m	幅・深さ	0.46m×0.07m	出土遺物	
36号溝	走向・その他	寺関係?				
遺構名称	位置	BV~BY-168	重複	埋設土	Ir-FP泥炭	
標島川端19区	調査長	16m	幅・深さ	0.28m×0.09m	出土遺物	
35号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	BV~CA-164~170	重複	埋設土	Ir-FP泥炭	
標島川端19区	調査長	28m	幅・深さ	1.1m×0.3m	出土遺物	
38号溝	走向・その他					
遺構名称	位置		重複	埋設土	Ir-FP泥炭	
標島川端19区	調査長	9m	幅・深さ	0.65m×0.23m	出土遺物	
83号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CI~CL-183~188	重複	埋設土	Ir-FP泥炭と灰白シルトの混土	
標島川端19区	調査長	21m	幅・深さ	0.59m×0.19m	出土遺物	
88号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DL-207	重複	埋設土	Ir-FP泥炭	
標島川端21区	調査長	6m	幅・深さ	0.33m×0.23m	出土遺物	
23号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DM~DQ-209~213	重複	埋設土	Ir-FP泥炭と黄褐色土の混土	
標島川端21区	調査長	23m	幅・深さ	0.6m×0.2m	出土遺物	
24号溝	走向・その他					

溝(2)

遺構名称	位置	DO-215~216	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土
公田東Ⅰ区	調査長	3m	幅・深さ	0.9m×0.3m	出土遺物	
25号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E B~E G-213~215	重複		埋没土	黒色土
公田東Ⅰ区	調査長	19m	幅・深さ	0.3m×0.1m	出土遺物	
28号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	D U~E D-217~219	重複		埋没土	黒褐色土
公田東Ⅰ区	調査長	34m	幅・深さ	0.5m×0.15m	出土遺物	
29号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E A~E H-216~221	重複		埋没土	
公田東Ⅰ区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
30号溝	走向・その他	I区32・33号溝と同一?				
遺構名称	位置	E B~E H-216~222	重複		埋没土	Hr-FAを含む砂層
公田東Ⅰ区	調査長	32m	幅・深さ	0.4m×0.05m	出土遺物	
32号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E C~E E-217~219	重複		埋没土	
公田東Ⅰ区	調査長	11m	幅・深さ	0.35m×0.08m	出土遺物	
33号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	D V-216~217	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土
公田東Ⅰ区	調査長	5m	幅・深さ	0.9m×0.1m	出土遺物	
34号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E I~E J-217	重複		埋没土	褐灰色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	4m	幅・深さ	1.3m×0.1m	出土遺物	
28号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E J~E L-217	重複		埋没土	
公田東Ⅱ区	調査長	4.5m	幅・深さ	0.5m×0.08m	出土遺物	
40号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E M~E N-218~221	重複		埋没土	灰黄褐色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	33m	幅・深さ	0.58m×0.24m	出土遺物	第248図
41号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E N~E R-221	重複		埋没土	灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	17.5m	幅・深さ	0.3m×0.15m	出土遺物	
49号溝	走向・その他	島区画溝・Ⅱ区57号溝と同一?				
遺構名称	位置	E O-219~220	重複		埋没土	灰黄褐色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	7m	幅・深さ	0.23m×0.05m	出土遺物	
51号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E O-220~221	重複		埋没土	
公田東Ⅱ区	調査長	5m	幅・深さ	0.3m×0.1m	出土遺物	
52号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E O-219~221	重複		埋没土	
公田東Ⅱ区	調査長	8m	幅・深さ	0.7m×0.22m	出土遺物	
53号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E O~E P-221~226	重複		埋没土	
公田東Ⅱ区	調査長	25m	幅・深さ	1.1m×0.05m	出土遺物	
54号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	E P-222~224	重複		埋没土	
公田東Ⅱ区	調査長	11m	幅・深さ	1.36m×0.05m	出土遺物	
55号溝	走向・その他	配線下島跡区画溝				
遺構名称	位置	F N~F W-251	重複		埋没土	Hr-FP泥炭
公田東Ⅱ区	調査長	15m	幅・深さ	1.8m×0.3m	出土遺物	
56号溝	走向・その他	Ⅱ区85号溝と同一?				
遺構名称	位置	F J~F Q-237~247	重複		埋没土	Hr-FP泥炭
公田東Ⅱ区	調査長	57m	幅・深さ	0.6m×0.18m	出土遺物	
59号溝	走向・その他	Ⅱ区59・60号溝は同一時期				
遺構名称	位置	F K~F Q-233~246	重複		埋没土	Hr-FP泥炭
公田東Ⅱ区	調査長	65m	幅・深さ	0.85m×0.1m	出土遺物	
60号溝	走向・その他	Ⅱ区59・60号溝は同一時期				
遺構名称	位置	F M~F N-234~235	重複		埋没土	As-Cを含む黒色土
公田東Ⅱ区	調査長	11m	幅・深さ	0.35m×0.05m	出土遺物	
61号溝	走向・その他					

溝(3)

道標名称	位置	F A-226~233	重複	埋設土	褐色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	30m	幅・深さ	0.4m×0.11m	出土遺物
62号溝	走向・その他				
道標名称	位置	E Y-225~233	重複	埋設土	Hr-PP泥流
公田東Ⅱ区	調査長	30m	幅・深さ	0.85m×0.09m	出土遺物
63号溝	走向・その他				
道標名称	位置	E W~F A-224~229	重複	埋設土	Hr-PP泥流
公田東Ⅱ区	調査長	25m	幅・深さ	0.25m×0.05m	出土遺物
64号溝	走向・その他				
道標名称	位置	E W~E Y-231	重複	埋設土	Hr-PP泥流
公田東Ⅱ区	調査長	9m	幅・深さ	0.7m×0.2m	出土遺物
65号溝	走向・その他				
道標名称	位置	F B-231~232	重複	埋設土	
公田東Ⅱ区	調査長	6m	幅・深さ	0.73m×0.1m	出土遺物
74号溝	走向・その他				
道標名称	位置	F U~F W	重複	埋設土	
公田東Ⅱ区	調査長	8m	幅・深さ	0.85m×0.33m	出土遺物
85号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G F~G N-303~306	重複	埋設土	砂を含む灰白色シルト
公田東Ⅳ区	調査長	7m	幅・深さ	4.5m×0.68m	出土遺物 第248図
2号溝	走向・その他	V区12号溝と同一?			
道標名称	位置	G F~G N-303~306	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物 第248図
13号溝	走向・その他	V区13号溝と同一?			
道標名称	位置	G J-313~314	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物
18号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G J-311~312	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物
19号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G I-309	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物
20号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G I-307	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	3.5m	幅・深さ		出土遺物
21号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G I-306	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	9.5m	幅・深さ		出土遺物
22号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G G-304~305	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長	7m	幅・深さ		出土遺物
23号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G J-309~310	重複	埋設土	
公田東Ⅳ区	調査長		幅・深さ		出土遺物
24号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G I~G L-305~306	重複	埋設土	灰白色粘質土
公田東Ⅴ区	調査長	10m	幅・深さ	2.18m×0.48m	出土遺物 第248図
12号溝	走向・その他	IV区2号溝と同一?			
道標名称	位置	G O~G Q-311~320	重複	埋設土	
公田東Ⅴ区	調査長		幅・深さ		出土遺物
14号溝	走向・その他	4区33号溝と同一?			
道標名称	位置	G W~G Y-342~348	重複	埋設土	灰褐色土
公田池尻1区	調査長	24m	幅・深さ	0.22m×0.06m	出土遺物
3号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G V~G X-344~346	重複	埋設土	
公田池尻1区	調査長	11m	幅・深さ		出土遺物
4号溝	走向・その他				
道標名称	位置	G V~G X-345	重複	埋設土	
公田池尻1区	調査長	7m	幅・深さ		出土遺物
5号溝	走向・その他				

溝(4)

遺構名称	位置	G V~G X-346	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	9 m	幅・深さ		出土遺物
6号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G Y~H A-353	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	6.5m	幅・深さ		出土遺物
7号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H A~H B-356~357	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	9 m	幅・深さ		出土遺物
8号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H A~H C-358~359	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	9 m	幅・深さ		出土遺物
9号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H B~H D-361	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	9 m	幅・深さ		出土遺物
10号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H B~H D-362	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	9 m	幅・深さ		出土遺物
11号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H F~H H-375	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	6 m	幅・深さ		出土遺物
12号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H F~H H-375	重複		埋没土
公田池尻1区	調査長	5.5m	幅・深さ		出土遺物
13号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	H D~H E-384~385	重複		埋没土
公田池尻2区	調査長	6.5m	幅・深さ		出土遺物
1号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G N-330	重複		埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田池尻3区	調査長	3 m	幅・深さ	1.29m×0.18m	出土遺物
36号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G P-317	重複		埋没土
公田池尻4区	調査長	4 m	幅・深さ		出土遺物
28号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G P-316~320	重複		埋没土
公田池尻4区	調査長	17.5m	幅・深さ	1.15m×0.23m	出土遺物 第249回
32号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G N~G O-315~320	重複		埋没土
公田池尻4区	調査長	20m	幅・深さ	0.82m×0.22m	出土遺物
33号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G T-329~330	重複		埋没土 Hr-FP泥流
公田池尻4区	調査長	3 m	幅・深さ	0.22m×0.06m	出土遺物
52号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G S~G T-329~330	重複	57号溝より古い	埋没土 Hr-FP泥流
公田池尻4区	調査長	7 m	幅・深さ	0.55m×0.32m	出土遺物 第340回
53号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G S-327~330	重複		埋没土
公田池尻4区	調査長	11m	幅・深さ	0.35m×0.17m	出土遺物
54号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	G S~G V-333~334	重複		埋没土
公田池尻4区	調査長	10m	幅・深さ	0.6m×0.08m	出土遺物
58号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	I F~I G-480~481	重複		埋没土
公田池尻5区	調査長	8 m	幅・深さ	0.83m×0.32m	出土遺物
4号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	I D~I E-474~475	重複		埋没土 黒褐色土
公田池尻5区	調査長	3 m	幅・深さ	2.35m×0.3m	出土遺物 第249回
7号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	I B~I C-468~469	重複		埋没土 As-Cを少量含む黒褐色土
公田池尻5区	調査長	6 m	幅・深さ	0.46m×0.15m	出土遺物
10号溝	走向・その他				

溝(5)

遺構名称	位置	H Y ~ I A - 462 ~ 464	重複		埋没土	Hr-FP泥流
公田地区5区	調査長	11m	幅・深さ	0.68m × 0.06m	出土遺物	
12号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	H Y ~ I A - 460 ~ 464	重複		埋没土	Hr-FP泥流
公田地区5区	調査長	14m	幅・深さ	0.75m × 0.23m	出土遺物	
13号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	H Y - 457 ~ 459	重複		埋没土	砂とHr-FP泥流の混土
公田地区5区	調査長	10m	幅・深さ	1.53m × 0.13m	出土遺物	
14号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I K ~ I M - 487	重複		埋没土	暗灰色土
公田地区8区-2	調査長	8m	幅・深さ	1.35m × 0.25m	出土遺物	第249回
4号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I K ~ I M - 487	重複		埋没土	暗灰色土
公田地区8区-2	調査長	5m	幅・深さ	1.1m × 0.12m	出土遺物	
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I I - 489	重複		埋没土	
公田地区9区-1	調査長	1m	幅・深さ		出土遺物	
7号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I J ~ I K - 496	重複		埋没土	
公田地区9区-1	調査長	6m	幅・深さ		出土遺物	
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I K ~ I M - 500 ~ 507	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
公田地区9区-2	調査長	23m	幅・深さ	0.5m × 0.2m	出土遺物	
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A P - 91 ~ 96	重複		埋没土	
徳島川端15区	調査長	20m	幅・深さ	0.9m × 0.15m	出土遺物	
13号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A O ~ A Q - 3 ~ 16	重複		埋没土	As-B
徳島川端1・5区	調査長	42m	幅・深さ	2.98m × 0.23m	出土遺物	
31号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A S ~ A Y - 108 ~ 110	重複		埋没土	青灰色砂
徳島川端17区	調査長	26m	幅・深さ	1.24m × 0.25m	出土遺物	
57号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A M ~ A N - 44 ~ 55	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
徳島川端10区	調査長	42m	幅・深さ	0.58m × 0.23m	出土遺物	
64号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A X ~ B C - 118	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	15m	幅・深さ	0.78m × 0.28m	出土遺物	
65号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A X ~ B C - 118	重複		埋没土	As-Bを主体とする暗褐色土
徳島川端17区	調査長	16m	幅・深さ	0.9m × 0.1m	出土遺物	
66号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	A M - 57	重複		埋没土	
徳島川端11区	調査長	3.5m	幅・深さ		出土遺物	
68-2号溝	走向・その他	17区68-1号溝は1分冊使用				
遺構名称	位置	A S ~ A X - 115 ~ 125	重複		埋没土	暗褐色土
徳島川端17区	調査長	49m	幅・深さ	0.86m × 0.13m	出土遺物	
73号溝	走向・その他	17区拡張154号溝と同一?				
遺構名称	位置	C B - 165	重複		埋没土	
徳島川端19区	調査長	4m	幅・深さ		出土遺物	
95号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	E K ~ E P - 217 ~ 226	重複		埋没土	
公田東川区	調査長	42m	幅・深さ		出土遺物	
26号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	J A - 535	重複		埋没土	
公田地区8区-1	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
3号溝	走向・その他					

第5章 中世の遺構と遺物

1. 環壕集落(掘立柱建物、溝を含む)

従来、中世の堀が確認されると、漠然と「館」と称されることが多い。しかし、前橋台地上では殆どの微高地上に堀を伴う集落があったと推定される。また、今回の調査では集落全体の構造や屋敷地の規模差が判明していない。以上の理由から、本書では「環壕集落の一部」として扱う。

本遺跡が立地する前橋台地の微高地には、現在でも堀が残り、環壕であることが確認できる場所が存在する。堀が残っていない場所でも、宅地の区画がやや入り組み、宅地周りに細い道が巡るなど、環壕集落を推測させる場所はいたるところに存在する。調査区に近いところでは、公田池尻遺跡5区西側(第400～402図)約90mの乗命院境内と更に西に接する集落内(三公田環壕遺構群)に堀が残っている。特に乗命院を巡る堀は残りが良好である。現在では堀は1重であるが、明治初期の絵図には南側にもう1重の堀が描かれている。また、東側約400mにも宅地を巡る堀(亀里環壕遺構群の一部)が残っている。本書で報告する3遺跡も前橋台地上の微高地を買っており、予測通り環壕の一部が確認されている。しかし、道路建設予定地の事前調査のため調査区幅が狭く、環壕全体を推定できる状態とはほど遠い。しかし、地表面観察で解らなかつた微高地上でも、環壕集落に伴うと考えられる堀や建物が確認された意義は大きい。

標島川環壕跡17・18区

(第255・256・263・334・335図、

P L-87・148)

17区51号溝に区画される環壕集落である。51号溝は57mにわたって確認され、上端幅3.5m、深さ90cmで直線的に延びる。調査区が狭く区画は不明であるが、地形から考えて外郭を画していると推定される。

微高地側にあたる51号溝東(グリッド110～145ライン)では、掘立柱建物が8棟と柱列が確認されている。掘立柱建物は重複例があり、最低3時期の存在が明らかである。また、掘立柱建物周辺ではピット多数と井戸が確認されている。17区1号掘立柱建物(第367図)の南には17区51号溝から東に延びる62号溝が、調査区外に延びる。確認された掘立柱建物やピット数、地形を考慮すると、62号溝は集落の北側を区画する溝と考えられる。それを示すように、62号溝以北に位置する掘立柱建物は1棟のみである。内郭南側の溝は不明である。位置と方向から18区3号溝に可能性があるが、規模が小さい点に疑問がある。

標島川環壕跡19・20・21区

(第257・258・268・336・337図、

P L-68・88・149)

先の17・18区の集落南にある低地を挟み、約150m離れた微高地に存在する集落である。19区・20区・21区5号溝を中心とした溝の両側に掘立柱建物多数が確認されている。掘立柱建物は重複から考えて最低4時期に分けられる。しかし、時期毎の掘立柱建物分布は不明である。5号溝東側の北端は、溝が確認されず区画は不明である。

西側にも掘立柱建物や井戸が確認され、南東に延びる堀に比定される5号溝は、環壕集落内を通過している。調査面積の広い5号溝東側集落の内郭南は、掘立柱建物の分布から考えて20区14号溝の可能性が高い。14号溝の上端幅は約4mで深さは55cmと浅い。

一方、西側は5号溝と平行するように溝が存在し、掘立柱建物と重複している。これらの掘立柱建物の詳細な時期が不明なため、溝との関係が把握できない。しかし、14号溝の対岸にはほぼ同規模の8号溝があり、5号溝から約4m離れた位置で枝分かれし、5号溝と平行して6号溝方向に延びている。また、

更に南では9号溝が同様に存在し、2カ所の内郭部が並んでいたと考えられる。標島川端遺跡の環壕集落は中世から近世まで継続（調査区外では近年まで）しており、詳細な重複関係が不明なうえ、出土遺物も少ない状態では時期別変遷を把握することは不可能である。しかし、5号溝両側にも集落があり、5号溝西側は4・5m間隔の2重堀で区画された屋敷地が並んでいたことが想定され、その時期は中世まで遡るであろう。

環壕群の開削時期は不明であるが、標島川端出土遺物には焼成年代が13世紀まで遡るものが認められ、集落自体の開始時期は、公田東遺跡や公田池尻遺跡集落より遡る可能性が高い。

公田池尻遺跡 3・4区 (第261・265・339・340図、P L-68~70・150)

公田東遺跡南から公田池尻遺跡北端に広がる微高地を通る県道を隔てた幅8mと7mの調査区で2条の中世堀が確認された。東西方向は4区47号溝と3区5号溝、南北方向は3区3号溝である。4区47号溝の上幅が2.1mなのに対して3区5号溝は3m程と規模が大きく、走向方向もやや異なるが、深さは共に80cm弱と同じで、他に同一溝と考えられる溝はない。したがって、両者は現道路下でやや湾曲していると推定される。3区3号溝の走向方位は、座標北から東に11°振れている。規模は上端幅2.4m、深さ70cmと先の東西方向溝に近い。両溝が交わる場所は調査区外に位置するため不明である。南西隅の交差角度は4区47号溝の延長線で84°、3区5号溝の延長線で70°とやや変形している。北側については公田東遺跡、公田池尻遺跡でも確認できず、現道路下で東に屈曲している可能性が考えられる。また、両遺跡間を東西に区切る道路下は、谷状に低地が入っているようであり、公田池尻4区の北側は低くなっている。このため、堀が存在しなかった可能性も考えられる。内郭内法は南北で45m~50mと推定される。溝の方向は、現在の地割りととは大幅に異なるが、旧地割りの方向を残していると考えられる周辺の宅地

と同方向である。このため、詳細な旧地割りを示す地図が存在すれば、環壕集落の範囲がある程度推定可能であろう。

地形とピットや溝、遺物出土位置から考えて、堀で囲まれる内郭は3区中央と4区中央から北側である。建物は確認できなかったが、性格不明の溝やピットが多数確認され、堀に近い場所には井戸も存在する。特に中央部に近い4区中央にはピットが集中している。

区画溝である3区3号溝からは中世焼締陶器の肩部片が1点出土している。本破片は、器壁がさほど厚くなく、15世紀以前と考えられる。また、3区5号溝からは13世紀の焼締陶器壺口縁部と石臼が出土している。また、遺構外からは器壁の厚い内耳片や焼締陶器片口鉢も出土しており、後述する5・7区の屋敷に比してやや古い遺物が目立つ。出土遺物量は少なく、時期決定は困難であるが、開始時期は後述の環壕より遡る可能性がある。

公田池尻遺跡 5・7区から8区

(第262・265・266・340~343図、

P L-71~77・150~152)

道路を隔てた5区と7区は調査の都合上、別々の調査班が同時に調査を開始したため、同一遺構の可能性が高くて別番号が付されている。整理作業に際しても混乱を避けるために統一していない。若干分りにくい点があるがご容赦願いたい。

環壕の外郭北側を面する堀は、5区8号溝と7区7号溝である。規模は上端幅4.3m、深さ1.4mで幅の割りに浅く壁の傾斜は緩い。5区5号溝と7区2・6号溝は、同一の溝と考えられ、内郭をほぼ方形に巡ると推測される。内郭西側は南北方向の5区5号溝（溝西側は調査区外）で画され、内法35mで「コ」の字状に屈曲する。南北は7区2・6号溝に続く。規模は上端幅4.0m、深さ1.1mと先の北側外郭溝と同一規模である。また、走向方位も座標東西から約15°南北に振れている、両者は一致している。

8-2区1号溝、9-1区1号溝は、環壕の南外

郭を画する堀と考えられる。規模は上端幅4.5m、深さ1m程で、下端幅がやや広いが断面形状は上記溝群と同様である。走向方位は標座東方向とほぼ一致し、北側の溝群と異なる。しかし、本溝の延長を辿ると、明治初期の絵図で堀が確認できた乗命院の南に向かい、宅地南側の道路と方向が一致する（P L-72）。

1号溝の延長線上にある宅地は、地主の話によると「堀を埋め立てて家を建てた」とされ、乗命院の南外郭を画していたと推測される溝と同一である可能性が考えられる。そこで、北側の外郭溝である5区8号溝、7区7号溝の延長線を見ると（P L-72）乗命院北側の堀に向かっており、方向もほぼ一致している。また、内郭西側を画する5区5号溝の南西隅を精査したところ、P L-75上段に見えるように西側に延びることが確認されている。若干方向が異なるが、この延長線上には現在も残る乗命院南側の堀が存在する。

これらの事実は、調査で確認された内郭部と現在も堀が残る乗命院（内郭部であろう）とが密接な関係にあったことを物語っている。今回の調査区と乗命院の間が調査できないので断定はできないが、これらは同一環壕集落の一部であったと推定されよう。

7区9号溝は規模が大きいが、11m隔てた5区で確認できない。このため、本溝の性格は不明である。中世溝も9-1区のように重複が認められ、本溝もここで触れている環壕とは同時期でない可能性がある。また、9-1区1号溝から北に延びる9-1区2号溝は、調査区域に存在するため規模が不明であるが、9-1区1号溝より新しい（第266図）。9-1区2号溝がどの方向に延びるかは不明である。

内郭部の建物は不明で、7区において不明瞭ながら2棟の掘立柱建物（第287・288図）が確認されたにすぎない。しかし、堀と同一方位の柱列（第286～289図）が確認されており、これらのうちには掘立柱建物も含まれているであろう。竪穴建物は確認されていない。

出土遺物は、内郭を画する5区5号溝底部付近か

ら中国製青磁碗1点とカワラケ2点（第340図、P L-150）が出土している。また、埋土中からは板葺1基が出土（第340図、P L-151）している。また、7区の内郭南を画する2号溝からは龍泉窯系青磁皿や内耳鍋体部小片、在地系すり鉢底部片、石臼などが出土（第341・342図、P L-151・152）している。外郭南側を画する9-1区号溝からは在地系すり鉢や石臼（第344図）が出土している。出土遺物が少なく時期決定は困難であるが、15世紀後半に始まり16世紀代に終焉を迎えるようである。

2. 井戸

中世の井戸として確認し、調査した遺構は、58基に上り、他時代に比べ非常に多い。確認位置は、櫛島川端遺跡17区で12基、同18区で3基、同19区で4基、同20区で17基、21区で1基、公田東遺跡1区で2基、同V区で1基、公田池尻遺跡では、3区で5基、同4区で2基、同5区で4基、7区で2基、8区で1基、9区で2基となっている。

なお、本項で開削時期を中世として扱っている井戸は、調査所見において出土遺物や土層の堆積状態から中世と判断できるものについてのみであり、開削期の異なる井戸がある可能性も指摘しておく。

分布の傾向としては、環壕集落の1部とみられる遺構が集中する櫛島川端遺跡17区・19～20区・公田池尻遺跡3～4区・5～9区に集中し、全体の3分の2がこの地区に所在する。

形状については、方形を呈する1基を除いては、直径約1m～1.5mの円形または楕円形を呈し、いずれも素掘りの円筒状である。深さについては、約1m～2mと一定しないが南側に分布するものが深い傾向にある。

出土遺物については、陶器片を少量出土する程度であるが、多数の円礫を出土するものもある。

櫛島川端遺跡

17区9号井戸（第290図）

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。調査

査所見では、底面から約0.5mの黒色土が湧水点と
している。出土遺物はない。

17区10号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。調
査所見では、底面から約0.3mの黒色土が湧水点で
ある。17区61号溝と重複が見られるもの、深度が
0.6mと浅い。出土遺物はない。

17区11号井戸 (第290・345図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出
土遺物はない。

17区12号井戸 (第290図)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸であるが、
直径約0.6m深さ0.5mと浅く小規模で、湧水点につ
いての調査所見も見られない。井戸としては疑問点
がある。出土遺物はない。

17区14号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出
土遺物はない。

17区15号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出
土遺物はない。

17区17号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。湧
水層は、底面より約0.4mの砂層中で、中層にアグリ
が見られる。出土遺物はない。

17区21号井戸 (第290図)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。湧
水層は、底面より約0.2mの砂層中である。出土遺物
はない。

17区23号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出
土遺物はない。

17区25号井戸 (第290図)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。湧
水層は、底面より約0.4mの砂層中である。出土遺物
に古式土師器が見られるが、重複している17区35号
住居跡の遺物と考えられる。

17区28号井戸 (第291図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。調
査所見によれば、上面の東西の切れ込みは意図的な
ものであるとしている。中層から下層にかけてやや
大きなアグリが見られる。出土遺物はない。

17区35号井戸 (第290図、P L-78)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。

18区1号井戸 (第290図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。底
面の計測値がないため、深度は不明である。軟質陶
器撞鉢片1片を出土している。

18区3号井戸 (第291図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。湧
水層は、底面より約0.6mの総社砂層中である。底面
より円礫を3個出土している。

18区6号井戸 (第291図)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。中
位でやや狭くなり、落ち込む。礫を少量出土してい
る。

18区1号井戸 (第291図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。出
土遺物には、中世撞鉢片1点、円礫がある。

19区2号井戸 (第291図)

本井戸は、東側が調査区外となるため、全容は不明であるが、円形素掘りの円筒状井戸と思われる。

19区3号井戸 (第291図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。

19区10号井戸 (第292図)

本井戸は、不整形円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物には、円礫がある。

20区2号井戸 (第292図)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。5号溝と重複しているため、現状の深さは、0.24mである。

20区3号井戸 (第292・345図、P L-152)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物には、土師質土器(カワラケ)中世陶器片、円礫などがある。

20区4号井戸 (第292図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。中下位がアグリと考えられ、袋状に広がる。

20区5号井戸 (第292図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。下位が袋状に広がる。

20区6号井戸 (第292・345図、P L-79)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。中位にアグリが見られ、袋状にひろがる。出土遺物には、土師質土器(カワラケ)や軟質陶器片などがある。

20区7号井戸 (第292図、P L-80)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。中位壁面に足場と見られる掘り込みが見られる。下位は、アグリと見られ袋状に広がる。下層からは、多

数の礫が出土した。

20区8号井戸 (第293・345図、P L-80・152)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸であるが、底面は南側に長靴状に広がる。中層からは、多数の角礫が出土した。出土遺物には、他に軟質陶器片がある。

20区9号井戸 (第293・345図)

本井戸は、数少ない方形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物には、軟質陶器がある。調査中の湧水はなかった。

20区10号井戸 (第293図、P L-80)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸であるが、下位は、アグリと見られ、袋状に広がる。上層から下層に多量の円礫を出土した。上部に石組みがあった可能性もある。

20区11号井戸 (第293図)

本井戸は、方形、素掘りの朝顔状井戸である。出土遺物には、中層から少量の礫が、下層からは種子が出土している。他に軟質陶器鉢片などがある。

20区12号井戸 (第292・346図、P L-80・153)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。中層に足場と見られる掘り込みが3カ所程見られた。円礫が少量出土している。

20区13号井戸 (第293・346図、P L-80)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸であるが、底面は袋状に広がる。軟質陶器が1点出土している。

20区14号井戸 (第293図、P L-80)

本井戸は、不整形円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物には、中世焼き締め陶器片がある。

20区15号井戸 (第294図、P L-80)

本井戸は、方形、素掘りの円筒状井戸である。深度が約0.82mと比較的浅い。出土遺物には、中世焼き締め陶器片がある。

20区18号井戸 (第294図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物はない。

20区17号井戸 (第294・346図、P L-81・152)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。深度は、約0.70mと浅い。中下層から角礫が多数出土した。

20区20号井戸 (第294図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。下層から人頭大の礫が出土した。

21区1号井戸 (第294図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。直径約1.85m、深度1.83mと本遺跡内では、規模が大きい。下層から礫が多数出土している。

21区2号井戸 (第294・346図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物は、ほとんどない。

公田東遺跡

I区1号井戸 (第295図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。底面は、袋状になっている。

I区2号井戸 (第295図、P L-81)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。中層から礫を出土している。

V区1号井戸 (第294図)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。深度は、0.81mと比較的浅いが、調査所見によれば、

常時底面から約0.2mは、湛水している。湧水層は不明である。

公田池尻遺跡

3区1号井戸 (第295図、P L-82)

本井戸は、西側が調査区外となるため、全容は明らかではないが、円形、素掘りの円筒状井戸と思われる。重複する3区5号住居跡の遺物の混入はあるが、本井戸の遺物と見られるものは出土しなかった。5号住居跡との関係は、本井戸が住居跡より新しい。

3区2号井戸 (第295図、P L-82)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物はない。

3区3号井戸 (第295・347図、P L-82)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。

3区4号井戸 (第295図、P L-82)

本井戸は、楕円形、素掘りの円筒状井戸である。出土遺物はない。

3区5号井戸 (第295・347図、P L-82)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。深度は、0.74mと周辺の井戸に比べて浅い。出土遺物には、中世焼き締め陶器1点がある。

4区5号井戸 (第296・347図、P L-82・153)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。深度が2.10mもあり周辺の井戸跡と比較すると2倍近くある。出土遺物には、軟質陶器片、円礫がある。

4区6号井戸 (第296図、P L-82)

本井戸は、円形、素掘りの円筒状井戸である。土師器小片が50点以上混入していた。

5区1号井戸 (第296図、P L-82)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸であるが、

底面は凸状にでている。

5区2号井戸 (第296図、P L-83)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。直径、深度ともに2mを越す規模の大きい井戸である。3号井戸と重複している。

5区3号井戸 (第296図、P L-83)

本井戸は、2号井戸と重複し、3号井戸が古いため、形状等詳細は不明である。

5区4号井戸 (第296図、P L-83)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。2号井戸同様規模の大きい井戸である。出土遺物はない。3号井戸と重複するが新旧関係は不明である。

7区1号井戸 (第297図)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。上層からは、円礫が多数出土した。

7区2号井戸 (第296図、P L-83)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。出土遺物はない。重複する7区4号溝との新旧関係は、本井戸が新しい。

8-2区4号井戸

(第297・347図、P L-83・153)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。上層から礫が少量、軟質陶器片1点などが出土している。

9-1区1号井戸

(第297・347・348図、P L-83・153・154)

本井戸は、上面は円形、中下面は方形、素掘りの朝顔状井戸である。出土遺物には、土師質土器(カワラケ)6点や板硝子片などがある。

9-1区2号井戸 (第297図、P L-83)

本井戸は、円形、素掘りの朝顔状井戸である。直径、深度ともに2mを越える大規模な井戸である。底面から0.5mを越す礫が出土した。

3. 火葬所・土坑

火葬所 (第257図)

標島川端遺跡19区で2基の火葬所が確認された。県内を始め、周辺各地で確認されているが、本遺跡の場合、人骨残存量の多さが特徴である。1号火葬所はCH-185グリッドに位置する。2号火葬所は1号の17m南に離れたCI-190グリッドに位置する。なお、本火葬所出土焼骨については別の機会に紹介したい。

1号火葬所 (第317図、P L-83・84・85)

燃焼部と煙出しと考えられる張り出し部とからなる。燃焼部は楕円形を呈し、長軸1.15m、短軸55cm、深さ25cmである。煙出し部は、燃焼部西側中央から55cm張りだし、先端は丸みを帯びている。断面は燃焼部から均一な傾斜で次第に浅くなる。確認面付近から焼骨片が確認され、骨片は燃焼部全体に広がっている。焼成部壁は全体に焼土化している。

2号火葬所 (第318図、P L-86)

1号同様煙出し部と燃焼部とから構成されるが、燃焼部平面形は長方形を成す。規模は長軸1.2m、短軸75cm、深さ15cmである。煙出し部は1.05cm張りだし、外側に向かって均一な傾斜を有する。壁面は煙出しのある西壁が焼土化していた。焼骨片は燃焼部から出土し、一部煙出し基部にも散っていた。1号に比して上面が削平されているためか、骨の出土量は少ない。

土坑 (第298～316・349・350図、P L-153)

標島川端遺跡からは、1区1基、2区1基、5区2基、10区3基、16区3基、17区40基、18区47基、19区39基、20区16基、21区2基の計154基と最も多く確認され、分布は17区以南に集中している。この地

区は微高地にあたり、環壕集落の堀が複数確認され、ピットや建物と共に土坑の数も非常に多くなっている。土坑から出土する遺物は非常に少なく、時期決定は埋土の特徴によっている。一方、公田東遺跡は中世遺構が少ないうえ、環壕も確認されていないため、I区4基、II区2基、V区1基の計7基と非常に少ない。公田池尻遺跡もI区4基、3区4基、4区4基、5区1基、7区2基の計15基と少ない。公田池尻遺跡では2カ所の微高地で環壕が確認されているが、土坑の数は少ない。各土坑の規模や形状は一覧表に記しているのをご参照されたい。

4. 水田

本節で中世として扱うのは、浅間B軽石（As-B）降下後から利根川の瀬替え（流路変更）までの時期である。浅間B軽石の降下は天仁元年（1108）とされており、利根川の瀬替えは15世紀後半頃に推定されている。瀬替え以前の利根川は、前橋台地の東縁を流れていたことが判明しており、古代に条里地割を施行した頃は、本地区と高崎方面は地続きであった。

本地区ではこの間に浅間B軽石を多量に含む土壌（以下はB混土層と呼ぶ）が厚く堆積しており、その上面は利根川の瀬替えに伴う洪水層で覆われている。B混土層は、下層：浅間B軽石と灰褐色土がブロック状に混じったもの、中層：軽石を含む灰褐色土、上層：軽石を含む灰色シルト質土の3層に分層できる。下層は浅間B災害後の復旧当初の土層で、この層が残っている場所は少なく、層厚は10cmほどである。中層は災害復旧後の耕作土で、長期間にわたって耕作されているため良く混じっており、榑島川端19区では層厚が20～30cmであった。また、上層に水田があるため、酸化により赤色化しているのもこの層の特徴となっている。上層は利根川瀬替えに伴う洪水層で覆われた田畑の耕土で、層厚は10～15cmほどである。

この田畑を覆う洪水層は黄白色のシルト砂層で、層厚は厚いところで20cm以上の堆積が認められた。

洪水後の復旧による削平を考慮すれば、相当大規模な災害であったと言える。この洪水層を利根川瀬替えに伴うものとするのは、下層のB混土層中に近世の遺物が認められないこと、この層を境に上部層はすべて洪水堆積物（シルトあるいは砂）の土質に変化すること、などによる。本地区の調査では、この洪水層の年代を決定できる根拠は得られなかったが、今後周辺の調査が増加すれば、必ず解決できるであろう。

なお、中世の遺構は、田畑以外の遺構も全てB混土層で埋没しており、この時期の特徴的な土層となっている。

本地区で確認された中世の水田は、B混土層を取り去った面で検出されるアゼの高まりや段差、溝で区画された水田痕跡（As-B混土層下水田）、利根川瀬替えに伴う洪水層で埋没した水田（洪水層下水田）の2面である。以下にその概要を述べる。

As-B混土下水田

（付図11～20、第319図～第328図）

残存状態は悪いが、分布は各地区で認められた。浅間B軽石の降下が本地区に甚大な被害を及ぼしたことは、「中右記」の記述などにより良く知られているが、その後の復旧作業がいつ頃どのように行われたかについては、はっきりしない。本地区の調査でも、その点についての物証は残念ながら得られなかったが、本地区は国府の南側に広がる主要穀倉地域であること、復旧作業は条里地割を踏襲しながら、広大な地域にわたって行われていることなどから、本地区では浅間B軽石降下後あまり時を経ない時期に、一斉に実施されたことが想定される。

災害復旧の一つの方法として、榑島川端18区・19区では条里地割に沿って溝を掘り、掘りあげた土と軽石を混ぜることによって土壌化し、それを敷きながらして耕土としたことが考えられる。B混土層の下では、東西・南北方向の溝が多数確認されているが、軽石を直接埋めた遺構は皆無である。なお、灰掻き山はあったかもしれないが、B混土層に含まれる軽

石の量はかなり多い。

B混土層は、先述のとおり3層に分層できるが、この水田は中層を取り去った面で検出されるアゼの高まり、段差、溝などで区画された水田痕跡を指す。この水田痕跡のうち主要なものは、下層のAs-B下水田の主要区画に一致するものが多い。なお、中層はかなりの時間幅をもっており、条件が整えば複数の遺構面を検出可能である。榑島川端1区~17区では、土質や色調の違いから中層がさらに2分され、それぞれの面で水田痕跡が検出されたが、その他の地区では確認できなかった。

榑島川端1区~15区では、一部で2面の水田痕跡が検出された。区画は、微妙にずれながらもほぼ重複する位置にある。このうち、1区で検出された南北方向の大アゼは、3mほど西に動いているが、As-B下水田の坪境にあたる南北アゼを、踏襲しているアゼであろう。区画の大きさはAs-B下水田よりやや大きく、東西幅20~23m、南北幅16m前後である。

榑島川端16区・17区でも、2面の水田痕跡が検出された。集落跡との関係がはっきりしないが、グリッド120ライン北側のアゼ・水路はAs-B下水田の大アゼと一致している。

榑島川端18区・19区では、推定坪境にあたる東西グリッド137ラインに18区大溝、そこから南へ109mの165ラインに19区17号~19号溝、および18A区65号・68号~70号溝が位置する。このうち、前者は第1洪水層下水田の大アゼ踏襲され、後者はAs-B下水田の大アゼと一致し、第1洪水層下水田の大アゼに踏襲される。また、南北B Vラインの19区15溝と段差は、As-B下水田の溝・段差集中箇所と一致し、第1洪水層下水田の1号・2号溝・段差に踏襲されている。なお、18区と19区間の通路は、推定坪境の南北基準ラインである。

18区では、南北BMラインで大アゼが一部検出され、その西側では南北方向にサクをきった畠が確認されている。

19区では、南北に長辺をとる整然とした区画が確

認された。区画は、東西坪境164ラインの大アゼを境に30cm以上の落差があり、それを境に南北の区画がずれている。一段低い南側では、南北基準ラインの東側に東西12~13m、南北30mほどの区画が6区画並んでおり、西側の区画と中央の区画の間は20cmほどの段差が認められた。区画はいずれも溝で囲われているが、溝の深さは区画間の落差に比例している。溝の両側には1.5~2.5mの幅で5~10cmほど低い平坦面があり、残った中央部分には災害復旧当初の土層と想定しているB混土下層が薄く堆積していた(第319図)。このB混土下層を取り除くと、荒起こし様の鋤跡が全面で認められた。

なお、この地区では明瞭なアゼ痕跡は確認できないが、23号溝の東側に残る高まりはアゼの痕跡と見ることができるし、25号・26号溝と27号溝の間には大アゼがあったと考えている。

公田東地区では、II区でアゼ痕跡の一部と溝、および耕作痕(PL-90・91)が確認された。このうち、東西グリッド250ラインに隣接する27号溝とアゼ痕跡は、推定坪境にあたるAs-B下水田の大アゼを踏襲するものであろう。耕作痕は、西側部分では荒起こし様の鋤跡であるが、アゼ痕跡が残る東側部分では、東西・南北方向のカラスキ跡と見られる浅いスジ状の痕跡が認められた。なお、東側部分のアゼ痕跡のうち、斜めのものは園化の誤りである。

公田池尻地区では、1区・2区の南半部及び7区・8区・9区の一部で、耕作痕(PL-91)が確認された。このうち、1区ではAs-B下水田のアゼ部分には耕作痕が及んでいないことから、アゼの多くはその位置を踏襲した可能性が高い。

第1洪水層下水田

(付図16~20、第329~331・344・351図、PL-152)

第1洪水層は、先述のとおり15世紀頃に起こった利根川の瀬替えに伴う洪水堆積物と考えている。洪水層は黄白色のシルト砂層で、厚いところでは20cm以上の堆積が認められた。洪水層の堆積は、現利根

川沿いの標島地区を中心としており、公田東地区では台地上で畝が一部確認されているが、公田池尻地区ではほとんど認められない。その後の洪水層の堆積状況も同様である。

本遺構の分布は、標島地区のほぼ全域で認められたが、その後の耕作等で攪拌された部分も多い。水田区画は、下層のAs-B混土水田の区画と一致するものが多く、条里地割を踏襲しているものと考えられる。

標島川端1区・8区・9区では、B混土水田と一致するアゼが確認された。アゼは幅40cm前後、高さ10~15cmで、田面には凹凸が全面に認められた。17区も同様で、東西アゼは中世集落の堀の上面につくられた南北の道に取り付いている。道の西側は畑地であろう。

18区・19区も同様で、条里地割が踏襲されていることが確認できる。東西グリッド137ラインの大アゼ、および165ラインの大アゼは、推定坪境にあたる。アゼの多くは上面を削平されているため、アゼの高さははっきりしないが、各水田面の段差は明確で、例えば1号・2号溝の東西で10cm前後、推定坪境にあたる3号溝を伴う大アゼの南北で30cm以上、29溝を伴うアゼの東西で10~20cmほどである。田面には凹凸が全面に認められる。この地区は大半が水田域

であるが、18A区は畑地になっている。

なお、19区・20区でも一部で第1洪水層を確認しているが、大半は削平されて残っていない。

5. 畝 (付図12・16~18、第331区~第333区)

確認された畝はいたって少なく、水田中心の地域だったことを良く示していると言える。

As-B混土層下畝は、標島川端18区で唯一確認された(付図12)。南北方向の大アゼの西側にあり、東西・南北方向のサク跡が並んでいる。集落との新旧関係ははっきりしない。

第1洪水層下畝は、標島川端17区、同18A区、公田東II区で確認されている。17区では、グリッド110から120の間でサク跡状の不明瞭な耕作痕があり、他地区の水田面で認められる凹凸とは異なることから、畑地と判断した。18A区では、第1洪水層でバックされた畝が、ほぼ全域にわたって確認された(第332図)。畝は、5~10cmほどの低い畝立てがされており、畝間は60~80cmである。作物の痕跡等は認められなかった。公田II区では、台地縁辺の一面で確認された。上面の一部を削平されているが、畝間が50cmほどの狭い畝が南北方向に並んでいた。この地区まで洪水層が及んでいたことを示す貴重な資料である。

表3 中世遺構一覧表

井戸(1)

遺構名称	位置	A V-117	重複	73号溝と重複。	埋設土	田層と地山の混土層。
標島川端17区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.03×0.981m 深さ0.93m	湧水層
9号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	A U-115	重複	81号溝と重複。	埋設土	田層と地山の混土層。
標島川端17区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.00×0.90m 深さ0.66m	湧水層
10号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	A U-116	重複	154号溝と重複。	埋設土	田層と地山の混土層。
標島川端17区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.81×0.79m 深さ1.29m	湧水層
11号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	A Y-125	重複	28号土坑と重複。	埋設土	田層と地山の混土層。
標島川端17区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.57×0.57m 深さ0.48m	湧水層
12号井戸	出土遺物・その他	なし。				

井戸(2)

遺構名称	位置	AW-119	重複	65・67号溝と重複。	埋没土	V・VI層と地山の混土層。
14号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.18×1.15m	深さ1.20m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BC-123	重複		埋没土	地山の混土層。
15号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.20×1.12m	深さ1.05m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BC-127	重複	77号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む灰褐色土と地山の混土層。
17号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.26×1.20m	深さ1.28m
	出土遺物・その他	なし。中位段状。				
遺構名称	位置	BD-128	重複	35号住居跡と重複。	埋没土	地山の混土層。
21号井戸	形状	長方形 素掘り井戸	筒状	規模	0.94×0.80m	深さ1.04m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AU-114	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
23号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.82×0.81m	深さ0.92m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BF-129	重複	94号住居跡と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
25号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.92×0.90m	深さ1.02m
	出土遺物・その他	土師器片11点出土。				
遺構名称	位置	AU-109	重複	57号溝と重複。	埋没土	地山の砂質土。
29号井戸	形状	楕円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.87×0.83m	深さ1.10m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BC-121	重複		埋没土	
35号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.93×0.92m	深さ1.32m
	出土遺物・その他	土師器片10点出土。				
遺構名称	位置	BJ-144	重複	4号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
1号井戸	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	2.15×1.84m	深さ0.80m
	出土遺物・その他	軟質陶器破片1点、土師器片22点出土。				
遺構名称	位置	BQ-153	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
3号井戸	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.30×1.13m	深さ1.23m
	出土遺物・その他	土師器小片5点、円鏝3点出土。				
遺構名称	位置	BG-139	重複	47号溝と重複。	埋没土	
6号井戸	形状	円形 素掘り	2段に落ち込む	規模	0.96×0.90m	深さ0.92m
	出土遺物・その他	土師器小片8点出土。				
遺構名称	位置	CJ-186	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土。
1号井戸	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.42×1.42m	深さ1.10m
	出土遺物・その他	中世漆鉢片1点出土。中層に円鏝混入。他に古式土師器片25点出土。				
遺構名称	位置	CK-187	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土と地山の混土層。
2号井戸	形状	円形? 素掘り井戸	円筒状	規模	1.76×0.72m	深さ0.90m
	出土遺物・その他	土師器小片3点出土。				
遺構名称	位置	CK-194	重複		埋没土	
3号井戸	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.84×1.55m	深さ1.55m
	出土遺物・その他	古式土師器片4点出土。				
遺構名称	位置	CG-186	重複	16号土坑と重複。	埋没土	Ⅲb層主体。
10号井戸	形状	不整円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.26×1.16m	深さ0.95m
	出土遺物・その他	古式土師器片10点出土。円鏝4点混入。				
遺構名称	位置	CQ-197	重複	5号溝と重複。	埋没土	砂のラミナ状の堆積。3層層下で確認。
2号井戸	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	0.98×0.98m	深さ0.24m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CP-195	重複	1号溝と重複。	埋没土	黄灰色土と地山の混土層。
3号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.85×0.75m	深さ0.96m
	出土遺物・その他	中・近世カワラケ出土。底面に円鏝3点混入。中世陶器片2点出土。				
遺構名称	位置	CR-195	重複	2号方形周溝墓と重複。	埋没土	Ⅲa・b層と地山の混土層。
4号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.54×1.50m	深さ1.55m
	出土遺物・その他	土師器小片2点混入。底面段状。				
遺構名称	位置	CS-195	重複	6号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
5号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.00×0.92m	深さ1.33m
	出土遺物・その他	円鏝2点出土。底面段状。				
遺構名称	位置	CX-204	重複	1号方形周溝墓、16号溝?と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
6号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.00×0.90m	深さ1.90m
	出土遺物・その他	軟質陶器1点、カワラケ1点出土。土師器小片約30点混入。中位段状。				

井戸(3)

遺構名称	位置	C T-200	重複		埋没土	旧層と地山の混土層。
7号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.12×1.00m 深さ1.30m	湧水層
7号井戸	出土遺物・その他	底面に円礫が多数混入。土師器小片15点混入。底面袋状。				
遺構名称	位置	C N-196	重複	1号住居跡と重複。	埋没土	旧層と地山の混土層。
8号井戸	形状	楕円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.26×0.97m 深さ1.80m	湧水層
8号井戸	出土遺物・その他	中層に円礫が多数投げ込まれていた。軟質陶器鉢片4点出土。底面袋状。				
遺構名称	位置	C N-196	重複		埋没土	旧層と地山の混土層。
9号井戸	形状	方形 素掘り井戸	筒状	規模	0.90×0.89m 深さ1.17m	湧水層
9号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器片1点出土。土師器小片約20点混入。				
遺構名称	位置	C N-198	重複	14号土坑と重複。	埋没土	旧層と地山の混土層。
10号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.23×1.07m 深さ1.30m	湧水層
10号井戸	出土遺物・その他	円礫が上層から下層まで多量に投げ込まれていた。土師器1点混入。底面袋状。				
遺構名称	位置	C M-191	重複	15号住居跡と重複。	埋没土	旧層と地山の混土層。
11号井戸	形状	方形 素掘り井戸	筒状	規模	1.35×1.30m 深さ1.33m	湧水層
11号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器鉢片1点出土。土師器7点混入。中層に円礫混入。糠子、木片出土。				
遺構名称	位置	C M-188	重複		埋没土	地山ブロックの混土層。
12号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.30×1.20m 深さ1.48m	湧水層
12号井戸	出土遺物・その他	土師器1点、円礫3点出土。				
遺構名称	位置	C M-188	重複		埋没土	地山ブロックの混土層。
13号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.05×1.03m 深さ1.17m	湧水層
13号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器片1点出土。底面袋状。				
遺構名称	位置	C O-197	重複		埋没土	地山ブロックの混土層。
14号井戸	形状	楕円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.96×0.85m 深さ1.26m	湧水層
14号井戸	出土遺物・その他	中世紀の陶器片3点出土。須恵器、土師器が9点混入。				
遺構名称	位置	C O-197	重複		埋没土	地山ブロックの混土層。
15号井戸	形状	方形 素掘り井戸	筒状	規模	0.86×0.84m 深さ0.82m	湧水層
15号井戸	出土遺物・その他	中世紀の陶器片1点出土。須恵器、土師器が9点混入。				
遺構名称	位置	D D-202	重複		埋没土	旧層と地山ブロックの混土層。
16号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.02×1.02m 深さ1.26m	湧水層
16号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	C P-198	重複		埋没土	地山ブロックの混土層。
17号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.85×0.65m 深さ0.70m	湧水層
17号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器片2点出土。円礫が多数投げ込まれていた。				
遺構名称	位置	D D-203	重複		埋没土	旧層と地山の混土層。
18号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.80×0.80m 深さ1.10m	湧水層
18号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	D R-211	重複		埋没土	旧層主体。
19号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.87×1.85m 深さ1.83m	湧水層
19号井戸	出土遺物・その他	土師器片4点出土。下部に円礫が多数投げ込まれていた。				
遺構名称	位置	D I-207	重複	1号溝と重複。	埋没土	
20号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.10×0.90m 深さ1.06m	湧水層
20号井戸	出土遺物・その他	土師器片15点、鉄貨1点出土。				
遺構名称	位置	E B-219	重複	29号溝と重複。	埋没土	Hr-FA・FPを含む砂質土。
21号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.36×1.25m 深さ1.57m	湧水層
21号井戸	出土遺物・その他	土師器片1点、木片出土。底面袋状。				
遺構名称	位置	E E-218	重複	31・32号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む暗褐色土。
22号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.42×1.20m 深さ1.28m	湧水層
22号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	G M-310	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土。
23号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.95×0.90m 深さ0.81m	湧水層
23号井戸	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	G L-325	重複	5号住居跡と重複。	埋没土	As-Bを含む黒色土。
24号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.46×0.70m 深さ1.18m	湧水層
24号井戸	出土遺物・その他	重複住居等からの混入。土師器、須恵器の小片約30点出土。中世もしくはそれ以降。5住より新しい。				
遺構名称	位置	G M-326	重複	5号土坑、6号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む暗褐色土。
25号井戸	形状	楕円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.32×1.10m 深さ1.20m	湧水層
25号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。				
遺構名称	位置	G N-325	重複	11号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む褐色土。
26号井戸	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.23×1.05m 深さ1.60m	湧水層
26号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。11号溝より古い。				

井戸 (4)

遺構名称	位置	GM-327	重複	5号溝、中世層と重複。	埋没土	暗褐色土。	
公田池尻3区	形状	楕円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.11×0.72m	深さ0.82m	湧水層
4号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。堀との新旧は不詳。					
遺構名称	位置	GK-319	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土。	
公田池尻3区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	0.90×0.89m	深さ0.74m	湧水層
5号井戸	出土遺物・その他	中世終結後陶器片1点出土。					
遺構名称	位置	GO-316	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土と地山の混土層。	
公田池尻4区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.42×1.37m	深さ2.10m	湧水層
5号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器鉢片1点出土。					
遺構名称	位置	GP-320	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。	
公田池尻4区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.40×1.26m	深さ0.99m	湧水層
6号井戸	出土遺物・その他	土師細小片50点出土。					
遺構名称	位置	ID-484	重複		埋没土	As-Bを含む黒色土。	
公田池尻5区	形状	円形 素掘り井戸	円筒状	規模	1.70×1.66m	深さ1.80m	湧水層
1号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。					
遺構名称	位置	ID-472	重複	3号井戸と重複。	埋没土	As-Bを含む暗褐色土。	
公田池尻5区	形状	楕円形 素掘り	上半朝顔状	規模	2.24×2.05m	深さ2.08m	湧水層
2号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。3号井戸が古い。					
遺構名称	位置	ID-472	重複	2号井戸と重複。	埋没土		
公田池尻5区	形状	不明。		規模	不明。		湧水層
3号井戸	出土遺物・その他	なし。					
遺構名称	位置	ID-472	重複	3号井戸と重複。	埋没土	暗褐色土。上層は人為的埋土。	
公田池尻5区	形状	円形 素掘り井戸	上半朝顔状	規模	2.00×1.70m	深さ2.10m	湧水層
4号井戸	出土遺物・その他	時期を示す遺物の出土はない。中世もしくはそれ以降。重複部分がわずかで3号井戸との新旧不詳。					
遺構名称	位置	IJ-476	重複	27号土坑と重複。	埋没土	As-Bを含む褐色土。	
公田池尻7区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.85×1.54m	深さ1.90m	湧水層
1号井戸	出土遺物・その他	円礫が多量に投げ込まれていた。					
遺構名称	位置	IH-476	重複	4号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む褐色土。	
公田池尻7区	形状	円形 素掘り井戸	上半朝顔状	規模	1.22×1.03m	深さ1.23m	湧水層
2号井戸	出土遺物・その他	なし。					
遺構名称	位置	IK-482	重複		埋没土	地山の混土層。	
公田池尻7区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	2.46×2.14m	深さ2.10m	湧水層
3号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器片1点出土。円礫が多量に投げ込まれていた。					
遺構名称	位置	IL-487	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。	
公田池尻8-2区	形状	円形 素掘り井戸	上半朝顔状	規模	1.30×1.14m	深さ1.65m	湧水層
4号井戸	出土遺物・その他	軟質陶器鉢片1点出土。					
遺構名称	位置	II-490	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土。	
公田池尻9-1区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	1.84×1.65m	深さ1.98m	湧水層
1号井戸	出土遺物・その他	カワラケ6点、板碑1点出土。下半部は方形となる。					
遺構名称	位置	IJ-492	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。	
公田池尻9-1区	形状	円形 素掘り井戸	朝顔状	規模	2.15×1.98m	深さ2.21m	湧水層
2号井戸	出土遺物・その他	なし。					

土坑 (1)

遺構名称	位置	AP-17	重複		埋没土	II層と地山の混土層。		
柳島川端2区	形状	楕円長方形	箱状	規模	1.92×1.06m	深さ0.56m	長軸方位	N-6°-E
8号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	AQ-3	重複	34号溝と重複。	埋没土	地山の混土層。		
柳島川端1区	形状	円形 丸底状		規模	0.74×0.75m	深さ0.58m	長軸方位	
17号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	AM-41	重複		埋没土	II層と地山の混土層。		
柳島川端10区	形状	不整形円形	丸底状	規模	1.50×1.22m	深さ0.35m	長軸方位	N-77°-W
18号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	AM-42	重複		埋没土	II層と地山の混土層。		
柳島川端10区	形状	楕円長方形	箱状	規模	1.43×0.57m	深さ0.32m	長軸方位	N-84°-E
19号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	AR-67	重複		埋没土	II層と地山の混土層。		
柳島川端5区	形状	楕円形	箱状	規模	1.58×0.90m	深さ0.25m	長軸方位	N-9°-E
20号土坑	出土遺物・その他	軟質陶器1点と土師細片22点出土。						

土坑 (2)

遺構名称	位置	AR-65	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
21号土坑	形状	楕円形 丸底状		規模	1.99×0.96m	深さ0.27m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AU-112	重複	54号溝と重複。	埋没土	田層。
22号土坑	形状	長方形 箱状		規模	3.16×1.10m	深さ0.19m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AV-111	重複	51号溝と重複。	埋没土	地山の混土層。
23号土坑	形状	円形 丸底状		規模	0.67×0.65m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AY-120	重複		埋没土	田層。
24号土坑	形状	楕円形 丸底状		規模	1.20×0.95m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AY-121	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
25号土坑	形状	円形 箱状		規模	1.15×1.13m	深さ0.14m
	出土遺物・その他	土師器片14点出土。				
遺構名称	位置	AM-43	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
26号土坑	形状	不整形円形 丸底状		規模	1.35×1.09m	深さ0.19m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AY-125	重複	12号井戸と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
27号土坑	形状	不整形円形 箱状		規模	1.33×1.25m	深さ0.25m
	出土遺物・その他	土師器片15点出土。				
遺構名称	位置	BC-125	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
28号土坑	形状	円形 箱状		規模	1.00×0.94m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	土師器片9点出土。				
遺構名称	位置	BA-129	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
29号土坑	形状	長方形 箱状		規模	1.85×0.82m	深さ0.37m
	出土遺物・その他	土師器片75点出土。				
遺構名称	位置	BA-125	重複	?号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
30号土坑	形状	円形 丸底状		規模	1.40×1.26m	深さ0.19m
	出土遺物・その他	土師器片5点出土。				
遺構名称	位置	BD-129	重複		埋没土	地山の混土層。
31号土坑	形状	円形 皿状		規模	1.19×1.18m	深さ0.07m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BD-128	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
32号土坑	形状	円形 皿状		規模	1.42×1.35m	深さ0.14m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BD-126	重複	79号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
33号土坑	形状	円形 皿状		規模	1.15×1.05m	深さ0.06m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BA-129	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
34号土坑	形状	長方形 箱状		規模	2.56×0.87m	深さ0.40m
	出土遺物・その他	土師器片52点出土。				
遺構名称	位置	BB-129	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
35号土坑	形状	長方形 丸底状		規模	1.37×0.48m	深さ0.15m
	出土遺物・その他	土師器片10点出土。				
遺構名称	位置	AY-123	重複		埋没土	地山の混土層。
36号土坑	形状	円形 皿状		規模	1.09×1.00m	深さ0.12m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AV-121	重複	51号溝と重複。	埋没土	地山の混土層。
37号土坑	形状	隅丸長方形 箱状		規模	2.46×1.29m	深さ0.17m
	出土遺物・その他	土師器片31点出土。				
遺構名称	位置	AU-112	重複	13号井戸、51号溝と重複。	埋没土	
38号土坑	形状	隅丸長方形 箱状		規模	2.30×1.45m	深さ0.12m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BA-129	重複		埋没土	地山の混土層。
39号土坑	形状	長方形 不整形箱状		規模	4.08×1.00m	深さ0.36m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AU-107	重複	56号溝と重複。	埋没土	地山の混土層。
40号土坑	形状	隅丸長方形 箱状		規模	1.41×1.21m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	土師器片44点出土。				
41号土坑	形状	隅丸長方形 箱状		規模	1.41×1.21m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	土師器片44点出土。				

土坑 (3)

遺構名称	位置	B B-131	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円形	箱状	規模	1.16×0.80m	深さ0.15m	長軸方位	N-14°-E
46号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B B-131	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円形	匣状	規模	1.02×0.60m	深さ0.10m	長軸方位	N-9°-E
47号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B B-130	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	不整楕円形	丸底状	規模	0.68×0.54m	深さ0.28m	長軸方位	N-66°-W
49号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B B-131	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	円形	丸底状	規模	0.72×0.66m	深さ0.18m	長軸方位	
50号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B C-132	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	不整楕円形	丸底状	規模	1.13×0.81m	深さ0.24m	長軸方位	N-20°-W
51号土坑	出土遺物・その他	土師器片20点出土。						
遺構名称	位置	B C-132	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円形	箱状	規模	1.37×1.03m	深さ0.28m	長軸方位	N-0°
52号土坑	出土遺物・その他	土師器片15点出土。						
遺構名称	位置	B E-132	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	長楕円形	皿状	規模	2.03×0.70m	深さ0.07m	長軸方位	N-83°-W
53号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B E-132	重複		埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	不整楕円長方形	皿状	規模	3.76×2.26m	深さ0.14m	長軸方位	N-89°-W
54号土坑	出土遺物・その他	土師器片約70点出土。						
遺構名称	位置	B E-131	重複	87号溝と重複。	埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円長方形	箱状	規模	0.82×0.63m	深さ0.30m	長軸方位	N-89°-W
55号土坑	出土遺物・その他	土師器片19点出土。						
遺構名称	位置	B F-133	重複	92号溝と重複。	埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	円形	皿状	規模	0.85×0.83m	深さ0.13m	長軸方位	
57号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B E-130	重複	78・90号溝と重複。	埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円長方形	皿状	規模	4.70×2.86m	深さ0.25m	長軸方位	N-3°-W
58号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器片約100点出土。						
遺構名称	位置	B F-133	重複	60号土坑、18号戸、89・93号溝と重複。	埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	長楕円形	箱状	規模	5.63'×1.07m	深さ0.48m	長軸方位	N-0°
59号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B F-133	重複	59・61号土坑、93号溝と重複。	埋没土	地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円長方形	皿	規模	1.55×0.92m	深さ0.15m	長軸方位	N-2°-E
60号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B F-133	重複	60号土坑と重複。	埋没土			
樽島川端17区	形状	楕円形	丸底状	規模	1.50×0.88m	深さ0.30m	長軸方位	N-0°
61号土坑	出土遺物・その他	土師器片42点出土。						
遺構名称	位置	A U-113	重複	水田社と重複。	埋没土	II層。		
樽島川端17区	形状	円形	皿状	規模	1.60×1.35m	深さ0.15m	長軸方位	N-25°-E
74号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	A Y-110	重複	99号溝と重複。	埋没土	II層と地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	楕円形	丸底状	規模	1.25'×0.95'm	深さ0.30m	長軸方位	N-13°-W
75号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B A-116	重複	80号溝と重複。	埋没土	II層と地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	円形	箱状	規模	1.00×0.90m	深さ0.38m	長軸方位	N-80°-E
76号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B A-116	重複	4号竪立と重複。	埋没土	II層と地山の礫土層。		
樽島川端17区	形状	円形	円筒状	規模	0.95×0.83m	深さ0.55m	長軸方位	N-7°-E
77号土坑	出土遺物・その他	円礫2点出土。						
遺構名称	位置	B B-130	重複	78号溝と重複。	埋没土			
樽島川端17区	形状	長楕円形	皿状	規模	5.53'×2.75m	深さ0.07m	長軸方位	N-7°-E
96号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	A T-113	重複	溝?と重複。	埋没土			
樽島川端16区	形状	不整円形	皿状	規模	0.70×0.57m	深さ0.10m	長軸方位	N-22°-W
97号土坑	出土遺物・その他	土師器、円礫各1点出土。						

土坑 (4)

遺構名称	位置	AT-113	重複		埋没土	
98号土坑	形状	不整長方形	皿状	規模	1.40×0.45m	深さ0.03m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AT-114	重複	溝?と重複。	埋没土	
99号土坑	形状	不整長方形	皿状	規模	1.56×1.12m	深さ0.07m
	出土遺物・その他	陶器片1点、土師器10点出土。				
遺構名称	位置	BG-130	重複	128号溝と重複。	埋没土	田層主体。
102号土坑	形状	長方形	箱状	規模	0.75×0.50m	深さ0.14m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BF-130	重複		埋没土	田層主体。
104号土坑	形状	長方形	丸底状	規模	0.97×0.75m	深さ0.26m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	AY-126	重複	3号竪立と重複。	埋没土	地山の混土層。
108号土坑	形状	円形	甕状	規模	0.85×0.72m	深さ0.43m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-151	重複	7・29-2号土坑と重複。	埋没土	地山の混土層。
109号土坑	形状	長方形	箱状	規模	4.96×0.92m	深さ0.12m
	出土遺物・その他	土師器片1点出土。				
遺構名称	位置	BM-150	重複	3・6・29-2号土坑と重複。	埋没土	地山の混土層。
110号土坑	形状	長方形	箱状	規模	2.60×1.18m	深さ0.27m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-150	重複	5・7・29-2号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
111号土坑	形状	長方形	箱状	規模	4.50×1.08m	深さ0.13m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BN-150	重複	3・6・8号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
112号土坑	形状	長方形	箱状	規模	5.10×0.91m	深さ0.11m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BN-150	重複	7・9・12号土坑と重複。	埋没土	地山の混土層。
113号土坑	形状	長方形	箱状	規模	2.40×1.18m	深さ0.10m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-150	重複	8・11・12・29-2号土坑と重複。	埋没土	地山の混土層。
114号土坑	形状	長方形	箱状	規模	2.85×1.35m	深さ0.14m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BN-150	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
115号土坑	形状	長方形	箱状	規模	1.33×0.96m	深さ0.06m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-150	重複	9・12号土坑と重複。	埋没土	地山の混土層。
116号土坑	形状	長方形	箱状	規模	1.45×1.05m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-150	重複	8・9・11・29-2号土坑と重複。	埋没土	
117号土坑	形状	長方形	箱状	規模	2.85×0.83m	深さ0.22m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BM-147	重複		埋没土	
118号土坑	形状	長方形	箱状	規模	1.14×1.00m	深さ0.10m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BH-147	重複	18号土坑、9号溝と重複。	埋没土	田層主体。
119号土坑	形状	長方形	箱状	規模	3.02×1.09m	深さ0.27m
	出土遺物・その他	土師器小片42点出土。				
遺構名称	位置	BG-143	重複	18号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
120号土坑	形状	四角長方形	箱状	規模	1.04×0.50m	深さ0.20m
	出土遺物・その他	土師器小片9点出土。				
遺構名称	位置	BG-143	重複	16・17号土坑、9号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
121号土坑	形状	長方形	箱状	規模	1.42×0.95m	深さ0.16m
	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	BJ-143	重複	4号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
122号土坑	形状	円形	甕状	規模	0.94×0.86m	深さ0.60m
	出土遺物・その他	土師器小片4点出土。				
遺構名称	位置	BK-143	重複	23号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
123号土坑	形状	長方形	箱状	規模	2.34×1.10m	深さ0.13m
	出土遺物・その他	土師器小片3点出土。				

土坑 (5)

遺構名称	位置	B K-143	重複	23号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	長方形	箱状	規模	3.43×0.98m	深さ0.28m	長軸方位	N-4°W
21号土坑	出土遺物・その他	土師器小片12点出土。						
遺構名称	位置	B K-143	重複	20・21号土坑と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	長方形	箱状	規模	1.46×0.85m	深さ0.07m	長軸方位	N-90°
23号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B M-153	重複		埋没土	田層と地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	不整形	皿状	規模	1.10×1.01m	深さ0.15m	長軸方位	N-32°W
25号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B N-153	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	1.32×0.70m	深さ0.08m	長軸方位	N-17°W
26号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B O-153	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	1.55×0.83m	深さ0.06m	長軸方位	N-82°E
27号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B K-147	重複		埋没土			
棒島川端18区	形状	円形	円筒状	規模	0.62×0.60m	深さ0.07m	長軸方位	
29-1号土坑	出土遺物・その他	須恵器、土師器小片7点出土。						
遺構名称	位置	B M-150	重複	3・5・6・8・9・12号土坑と重複。	埋没土			
棒島川端18区	形状	長方形	箱状	規模	5.30×1.05m	深さ0.15m	長軸方位	N-6°W
29-2号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B K-144	重複	15号溝と重複。	埋没土	地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	長楕円形	皿状	規模	2.72'×0.65m	深さ0.05m	長軸方位	N-32°W
31号土坑	出土遺物・その他	土師器小片3点出土。溝状に長い。						
遺構名称	位置	B L-150	重複	柱穴と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	不整形	皿状	規模	0.82×0.76m	深さ0.12m	長軸方位	N-7°E
32号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B P-150	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	長方形	箱状	規模	3.66'×1.06m	深さ0.21m	長軸方位	N-88°W
52号土坑	出土遺物・その他	土師器小片4点出土。						
遺構名称	位置	B G-142	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	丸底状	規模	0.97×0.69m	深さ0.11m	長軸方位	N-4°W
54-2号土坑	出土遺物・その他	土師器片8点出土。						
遺構名称	位置	B Q-151	重複	19・20・34号溝と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	不明	皿状	規模	2.15'×1.35'm	深さ0.07m	長軸方位	N-25°W
56号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B H-139	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	丸底状	規模	1.02×0.72m	深さ0.11m	長軸方位	N-31°E
57号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B H-139	重複	9号溝と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	円形	円筒状	規模	0.87×0.78m	深さ0.12m	長軸方位	
58号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B I-139	重複		埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	円形	箱状	規模	0.95×0.91m	深さ0.18m	長軸方位	
60号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B G-141	重複	11号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	1.60×1.10m	深さ0.35m	長軸方位	N-1°W
61号土坑	出土遺物・その他	土師器小片11点出土。						
遺構名称	位置	B G-141	重複	61号土坑、11号溝と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	皿状	規模	1.12×0.64'm	深さ0.11m	長軸方位	N-2°E
62号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	B F-141	重複	12・44号溝と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	皿状	規模	1.30×1.04m	深さ0.22m	長軸方位	N-90°
63号土坑	出土遺物・その他	土師器小片10点出土。						
遺構名称	位置	B G-142	重複	65号土坑、11・12号溝と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	1.75×0.80'm	深さ0.14m	長軸方位	N-3°E
64号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器小片25点出土。						
遺構名称	位置	B G-142	重複	64号土坑と重複。	埋没土	田層主体。		
棒島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	0.79×0.50'm	深さ0.09m	長軸方位	N-0°
65号土坑	出土遺物・その他	なし。						

土坑(6)

遺構名称	位置	B I-141	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	楕円形	底状	規模	1.35×1.00m	深さ0.08m
66号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器小片9点出土。				
遺構名称	位置	B G-142	重複	9号溝、柱穴と重複。	埋没土	田層主体。
御島川端18区	形状	隅丸長方形	箱状	規模	2.15×1.55m	深さ0.10m
67号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器小片8点出土。				
遺構名称	位置	B I-139	重複	7号溝と重複。	埋没土	田層主体。
御島川端18区	形状	円形	箱状	規模	1.10×1.05m	深さ0.19m
69号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B J-139	重複	43号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	円形	箱状	規模	1.27×1.23m	深さ0.28m
70号土坑	出土遺物・その他	土師器小片6点出土。				
遺構名称	位置	B J-138	重複	72号土坑、50号溝と重複。	埋没土	田層主体。
御島川端18区	形状	円形	底状	規模	1.14×0.68m	深さ0.09m
71号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B J-138	重複	71号土坑、50号溝と重複。	埋没土	田層主体。
御島川端18区	形状	円形	底状	規模	1.16×1.10m	深さ0.15m
72号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B K-139	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	円形	箱状	規模	0.72×0.70m	深さ0.09m
73号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B I-138	重複	7・48号溝と重複。	埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	円形	丸底状	規模	1.39×1.35m	深さ0.25m
74号土坑	出土遺物・その他	土師器小片4点出土。				
遺構名称	位置	B I-138	重複	50号溝と重複。	埋没土	
御島川端18区	形状	円形	丸底状	規模	1.20×0.58m	深さ0.33m
78号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B O-149	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	長方形	箱状	規模	2.15×0.85m	深さ0.17m
81号土坑	出土遺物・その他	土師器小片5点、鉄滓1点出土。				
遺構名称	位置	B L-140	重複		埋没土	田層と地山の混土層。
御島川端18区	形状	不明	箱状	規模	2.86×0.82m	深さ0.53m
82号土坑	出土遺物・その他	土師器小片11点出土。				
遺構名称	位置	B Q-164	重複		埋没土	地山の混土層。
御島川端18区	形状	円形	円筒状	規模	0.92×0.90m	深さ0.08m
115号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	B V-171	重複		埋没土	田b層主体。
御島川端19区	形状	楕円形	丸底状	規模	1.45×0.87m	深さ0.22m
5号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	C E-182	重複	70・72・73号溝と重複。	埋没土	田c層主体。
御島川端19区	形状	円形	箱状	規模	0.85×0.76m	深さ0.48m
14号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	C H-186	重複	10号弁戸と重複。	埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	不整形円形	丸底状	規模	0.90×0.65m	深さ0.20m
16号土坑	出土遺物・その他	古式土師器片、須恵器片3点出土				
遺構名称	位置	C G-186	重複		埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	円形	底状	規模	1.20×1.16m	深さ0.06m
17号土坑	出土遺物・その他	土師器小片12点出土。				
遺構名称	位置	C G-187	重複		埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	不整形円形	丸底状	規模	0.96×0.80m	深さ0.17m
18号土坑	出土遺物・その他	土師器小片26点出土。				
遺構名称	位置	C H-187	重複		埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	楕円形	丸底状	規模	0.78×0.56m	深さ0.28m
19号土坑	出土遺物・その他	土師器小片11点出土。				
遺構名称	位置	C I-187	重複		埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	長方形	箱状	規模	3.98×1.42m	深さ0.23m
20号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器小片23点出土。				
遺構名称	位置	C I-186	重複		埋没土	田b層。
御島川端19区	形状	長方形	箱状	規模	2.07×1.27m	深さ0.08m
21号土坑	出土遺物・その他	土師器小片30点出土。				

土坑(7)

遺構名称	位置	C I-187	重複	39号土坑、75号溝と重複。	埋没土	III b層。		
標島川端19区	形状	長方形	竪状	規模	5.04×1.64m	深さ0.15m	長軸方位	N-15°-E
22号土坑	出土遺物・その他	土師器、須恵器小片35点出土。75号溝より古い。						
遺構名称	位置	C J-187	重複		埋没土	III b層主体。		
標島川端19区	形状	不整楕円形	丸底状	規模	1.08×0.74m	深さ0.23m	長軸方位	N-15°-E
23号土坑	出土遺物・その他	土師器小片18点出土。						
遺構名称	位置	C K-188	重複		埋没土	III b層。		
標島川端19区	形状	楕円形	竪状	規模	1.23×0.54+m	深さ0.10m	長軸方位	N-3°-W
24号土坑	出土遺物・その他	土師器小片3点出土。						
遺構名称	位置	C J-189	重複		埋没土	III b層と地山ブロックの混土層。		
標島川端19区	形状	楕円形	竪状	規模	1.06×0.90m	深さ0.59m	長軸方位	N-35°-E
25号土坑	出土遺物・その他	鉄貨1点、土師器小片35点出土。						
遺構名称	位置	C H-189	重複		埋没土	地山が互層をなして埋没、III b層が覆う。		
標島川端19区	形状	楕円形	丸底状	規模	1.30×1.03m	深さ0.67m	長軸方位	N-34°-E
29号土坑	出土遺物・その他	鉄貨2点、土師器小片26点出土。						
遺構名称	位置	C E-184	重複		埋没土	III c層。		
標島川端19区	形状	楕円形	埋鉢状	規模	0.96×0.83m	深さ0.50m	長軸方位	N-48°-W
31号土坑	出土遺物・その他	土師器小片17点出土。						
遺構名称	位置	C G-186	重複		埋没土	III b層。		
標島川端19区	形状	楕円形	竪状	規模	1.17×0.95*m	深さ0.12m	長軸方位	N-50°-E
32号土坑	出土遺物・その他	土師器小片2点出土。						
遺構名称	位置	C H-186	重複		埋没土	III c層。		
標島川端19区	形状	円形	竪状	規模	1.09×1.00m	深さ0.04m	長軸方位	
33号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	C H-187	重複		埋没土	III c層。		
標島川端19区	形状	楕円形	竪状	規模	0.78×0.60m	深さ0.08m	長軸方位	N-27°-E
34号土坑	出土遺物・その他	土師器小片39点出土。						
遺構名称	位置	C E-183	重複	70・72号溝と重複。	埋没土	III c層。		
標島川端19区	形状	円形	埋鉢状	規模	0.74×0.70m	深さ0.32m	長軸方位	
35号土坑	出土遺物・その他	土師器小片1点出土。						
遺構名称	位置	C D-184	重複	73・74号溝と重複。	埋没土	III b・c層。		
標島川端19区	形状	楕円形	埋鉢状	規模	1.05×0.87m	深さ0.32m	長軸方位	N-6°
36号土坑	出土遺物・その他	土師器小片4点出土。						
遺構名称	位置	C I-192	重複	86号溝と重複。	埋没土	III a層。		
標島川端19区	形状	楕円形	丸底状	規模	0.65×0.42m	深さ0.18m	長軸方位	N-37°-E
37号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	C D-183	重複	96号溝と重複。	埋没土	III c層と地山ブロックの混土層。		
標島川端19区	形状	楕円形	円筒状	規模	1.30×0.97m	深さ0.56m	長軸方位	N-28°-E
40号土坑	出土遺物・その他	土師器小片15点出土。墓坑?						
遺構名称	位置	C G-186	重複	43号土坑と重複。	埋没土	II層?		
標島川端19区	形状	隅丸長方形	竪状	規模	2.83×1.88m	深さ0.10m	長軸方位	N-46°-E
42号土坑	出土遺物・その他	なし。43号土坑が新しい。						
遺構名称	位置	C G-186	重複	42号土坑、85号溝と重複。	埋没土	II層。		
標島川端19区	形状	隅丸長方形	竪状	規模	3.60×2.07m	深さ0.20m	長軸方位	N-73°-W
43号土坑	出土遺物・その他	土師器小片26点出土。42号土坑が古い。						
遺構名称	位置	C Q-198	重複	5号溝と重複。	埋没土	III b層主体。		
標島川端20区	形状	円形?	竪状	規模	1.92×1.26*m	深さ0.21m	長軸方位	
3号土坑	出土遺物・その他	軟質陶磁片1点出土。土師器15点混入。小円鏝多く出土。						
遺構名称	位置	C O-196	重複	1号住居跡、5号溝と重複。	埋没土	白色シット(3日花層)。		
標島川端20区	形状	不整円形	丸底状	規模	0.95×0.70m	深さ0.76m	長軸方位	N-61°-E
5号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	D A-205	重複		埋没土	黒褐色土、III b層下で確認。		
標島川端20区	形状	円形	竪状	規模	1.19×1.02m	深さ0.13m	長軸方位	
7号土坑	出土遺物・その他	なし。						
遺構名称	位置	D B-206	重複		埋没土	III c層主体。		
標島川端20区	形状	長方形	竪状	規模	2.46×1.03m	深さ0.18m	長軸方位	N-15°-E
8号土坑	出土遺物・その他	土師器小片3点出土。						
遺構名称	位置	D B-206	重複	5号溝と重複。	埋没土	III b層主体。		
標島川端20区	形状	箱状		規模	1.08×0.43m	深さ0.24m	長軸方位	
9号土坑	出土遺物・その他	土師器小片6点出土。						

土坑(8)

遺構名称	位置	CY-200	重複		埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	楕円形 丸底状		規模	1.00×0.56m 深さ0.12m	長軸方位 N-25°-E
10号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DC-203	重複		埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	長方形 箱状		規模	1.52×0.90m 深さ0.07m	長軸方位 N-21°-E
11号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DC-205	重複	15号溝と重複。	埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	長楕円形 箱状		規模	1.33×0.48m 深さ0.29m	長軸方位 N-30°-E
13号土坑	出土遺物・その他	土師器小片13点、円礫2点出土。				
遺構名称	位置	CN-198	重複	10号井戸、276号ピットと重複。	埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	不明		規模	2.57×0.48m 深さ0.55m	長軸方位 N-45°-W
14号土坑	出土遺物・その他	なし。10号井戸に切られる。				
遺構名称	位置	CL-189	重複		埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	円形 丸底状		規模	1.07×0.89m 深さ0.10m	長軸方位
18号土坑	出土遺物・その他	土師器小片8点出土。				
遺構名称	位置	CN-193	重複		埋没土	Ⅲb層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	不整形 皿状		規模	1.40×1.30m 深さ0.25m	長軸方位 N-29°-E
19号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CP-193	重複		埋没土	Ⅲb層主体。鉄土と炭化物が混入。
神島川端20区	形状	円形 皿状		規模	1.25×1.14m 深さ0.13m	長軸方位
20号土坑	出土遺物・その他	土師器2点出土。				
遺構名称	位置	CL-190	重複		埋没土	Ⅲa層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	丸底状		規模	0.81×0.32m 深さ0.15m	長軸方位 N-3°-E
25号土坑	出土遺物・その他	土師器1点出土。西半部調査区外。				
遺構名称	位置	CT-195	重複	13号住居跡と重複。	埋没土	Ⅲ層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	皿状		規模	1.66×0.36m 深さ0.26m	長軸方位 N-50°-W
26号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CP-197	重複	5号溝と重複。	埋没土	Ⅲ層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	不整形円形 丸底状		規模	1.81×0.85m 深さ0.25m	長軸方位 N-42°-W
27号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	CT-201	重複		埋没土	Ⅲ層と地山の混土層。
神島川端20区	形状	不整形円形 皿状		規模	1.49×1.15m 深さ0.16m	長軸方位 N-11°-E
28号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DT-211	重複	1号住居跡と重複。	埋没土	Ⅲ層と地山の混土層。
神島川端21区	形状	長楕円形 丸底状		規模	2.65×0.78m 深さ0.12m	長軸方位 N-63°-W
1号土坑	出土遺物・その他	土師器片3点、円礫3点出土。				
遺構名称	位置	DO-211	重複	1号溝と重複。	埋没土	Ⅲ層と地山の混土層。
神島川端21区	形状	円形? 箱状		規模	1.40×1.16m 深さ0.36m	長軸方位
2号土坑	出土遺物・その他	土師器片2点出土。				
遺構名称	位置	ED-220	重複	3号方形周溝基、8号土坑と重複。	埋没土	As-Bを含む褐色土。
公田東1区	形状	長方形 箱状		規模	1.14'×0.85m 深さ0.14m	長軸方位 N-62°-E
7号土坑	出土遺物・その他	土師器片5点出土。南半部調査区外。				
遺構名称	位置	ED-220	重複	3号方形周溝基、7号土坑、29号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む暗褐色土。
公田東1区	形状	長方形? 箱状		規模	3.05'×0.86' 深さ0.17m	長軸方位 N-29°-W
8号土坑	出土遺物・その他	なし。西半部調査区外。				
遺構名称	位置	DW-213	重複		埋没土	粘質土。
公田東1区	形状	不整形丸長方形 丸底状		規模	1.55'×0.60m 深さ0.32m	長軸方位 N-40°-W
11号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	DV-213	重複		埋没土	粘質土。
公田東1区	形状	長方形 箱状		規模	3.14×1.12m 深さ0.10m	長軸方位 N-34°-E
12号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	EY-227	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土。
公田東2区	形状	長方形 箱状		規模	1.90×1.26m 深さ0.38m	長軸方位 N-14°-W
1号土坑	出土遺物・その他	直線器坏片1点出土。				
遺構名称	位置	EO-223	重複		埋没土	As-Bを含む暗灰色土。
公田東2区	形状	円形 朝顔状		規模	0.99×0.96m 深さ0.45m	長軸方位
3号土坑	出土遺物・その他	土師器片3点、円礫3点が底面より出土。				
遺構名称	位置	GN-312	重複	5号住居跡と重複。	埋没土	Ⅲ層。
公田東V区	形状	円形 皿状		規模	0.65×0.57m 深さ0.07m	長軸方位 N-22°-W
1号土坑	出土遺物・その他	土師器片3点出土。				

土坑(9)

遺構名称	位置	H B-362	重複		埋没土	As-Bを多量に含む砂質土。
公田池尻1区	形状	楕円形 凹状		規模	0.84×0.58m 深さ0.06m	長軸方位 N-65°-W
1号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	H D-364	重複		埋没土	As-Bを多量に含む砂質土。
公田池尻1区	形状	楕円形 丸底状		規模	1.29×0.82m 深さ0.37m	長軸方位 N-82°-W
2号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	H C-365	重複		埋没土	As-Bを多量に含む砂質土。
公田池尻1区	形状	長方形 箱状		規模	1.36×0.63m 深さ0.30m	長軸方位 N-78°-W
3号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	H C-367	重複		埋没土	As-Bを多量に含む砂質土。
公田池尻1区	形状	楕円形 丸底状		規模	1.23×0.52m 深さ0.31m	長軸方位
4号土坑	出土遺物・その他	なし。As-B層を切っている。				
遺構名称	位置	G K-318	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻3区	形状	楕円形 箱状		規模	1.49×1.38m 深さ0.25m	長軸方位 N-65°-W
1号土坑	出土遺物・その他	土師器小片5点出土。				
遺構名称	位置	G K-321	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻3区	形状	円形 円筒状		規模	0.89×0.83m 深さ0.34m	長軸方位 N-20°-W
2号土坑	出土遺物・その他	飲食陶器鉢片1点、磁石1点出土。				
遺構名称	位置	G M-325	重複	11号溝と重複。	埋没土	
公田池尻3区	形状	円形 箱状		規模	0.82×0.71m 深さ0.14m	長軸方位 N-45°-W
3号土坑	出土遺物・その他	土師器小片2点出土。				
遺構名称	位置	G N-326	重複		埋没土	
公田池尻3区	形状	楕円形 凹状		規模	0.94×0.64m 深さ0.05m	長軸方位 N-78°-E
4号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	G P-318	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻4区	形状	長方形 箱状		規模	2.84×0.61m 深さ0.30m	長軸方位 N-79°-E
10号土坑	出土遺物・その他	陶器薬片1点と土師器小片約106点出土。				
遺構名称	位置	G P-319	重複	12号土坑と重複。	埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻7区	形状	長方形 箱状		規模	3.77×1.22m 深さ0.26m	長軸方位 N-84°-E
11号土坑	出土遺物・その他	土師器小片55点出土。				
遺構名称	位置	G O-319	重複	11号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻4区	形状	長方形 箱状		規模	1.29×0.83m 深さ0.10m	長軸方位 N-87°-E
12号土坑	出土遺物・その他	土師器小片8点出土。				
遺構名称	位置	G R-323	重複		埋没土	
公田池尻4区	形状	円形 箱状		規模	1.25×1.10m 深さ0.12m	長軸方位 N-63°-W
14号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	I E-476	重複	11号溝と重複。	埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻5区	形状	不整形円形 丸底状		規模	0.93×0.88m 深さ0.40m	長軸方位 N-30°-W
3号土坑	出土遺物・その他	なし。				
遺構名称	位置	I J-478	重複		埋没土	As-Bを含む砂質土。
公田池尻7区	形状	不整形円形 箱状		規模	1.00×0.70m 深さ0.16m	長軸方位 N-65°-W
2号土坑	出土遺物・その他	円錐1点、土師器小片18点出土。				
遺構名称	位置	H T-423	重複	14号溝と重複。	埋没土	As-Cを含む黒色土。
公田池尻7区	形状	不整形 箱状		規模	2.49×1.83m 深さ0.28m	長軸方位 N-11°-E
5号土坑	出土遺物・その他	なし。				

溝(1)

遺構名称	位置	A T-AU-91-1 02	重複	2号溝より新しい。	埋没土	灰褐色土
藤島川端7区	調査長	20.5m	幅・深さ	0.43m×0.27m	出土遺物	
1号溝	走向・その他	B上16区93号溝と同一?				
遺構名称	位置	A S-AU-93	重複		埋没土	灰褐色土
藤島川端7区	調査長	13m	幅・深さ	0.75m×0.08m	出土遺物	
2号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	A S-AU-90	重複		埋没土	暗灰褐色土
藤島川端7区	調査長	14m	幅・深さ	3.0m×0.2m	出土遺物	
3号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	A N-75~77	重複		埋没土	灰褐色土
藤島川端14区	調査長	8m	幅・深さ	0.85m×0.09m	出土遺物	第34区
4号溝	走向・その他	B上				

溝(2)

道標名称	位置	AN~AT-80~81	重複		埋設土	暗灰黄色土
柳島川端6-14区 5号溝	調査長	14.5m	幅・深さ	2.45m×0.55m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AO-84~85	重複		埋設土	As-Bを含む灰褐色土
柳島川端14区 6号溝	調査長	4m	幅・深さ	0.27m×0.17m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AO-85	重複		埋設土	As-Bを含む灰褐色土
柳島川端14区 7号溝	調査長	4m	幅・深さ	0.28m×0.09m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AU-94~102	重複		埋設土	灰褐色土
柳島川端7区 8号溝	調査長	9m	幅・深さ		出土遺物	
	走向・その他	B上16区94号溝と同一?				
道標名称	位置	AS-75~80	重複	10号溝より古い	埋設土	暗灰褐色土
柳島川端6区 9号溝	調査長	21m	幅・深さ	0.54m×0.18m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AR~AS-77	重複	9号溝より新しい	埋設土	灰褐色土
柳島川端6区 10号溝	調査長	8m	幅・深さ	0.62m×0.14m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AS~AU-96	重複		埋設土	黒褐色土
柳島川端7区 11号溝	調査長	8m	幅・深さ	0.98m×0.23m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AS~AU-90	重複		埋設土	As-Bを含む黒褐色土
柳島川端7区 12号溝	調査長	9.5m	幅・深さ	1.7m×0.11m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AO~AP-94	重複		埋設土	As-Bを含む青灰色顔砂
柳島川端14区 14号溝	調査長	5.5m	幅・深さ	1.2m×0.37m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AO~AR-27	重複		埋設土	
柳島川端2区 18号溝	調査長	10.5m	幅・深さ		出土遺物	
	走向・その他	3面				
道標名称	位置	AR-44~56	重複		埋設土	
柳島川端4区 20号溝	調査長	48m	幅・深さ	0.93m×0.27m	出土遺物	
	走向・その他	3面				
道標名称	位置	AP~AR-42	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端3区 32号溝	調査長	8.5m	幅・深さ	2面0.7×0.3、3面1.4×0.55	出土遺物	
	走向・その他	2・3面				
道標名称	位置	AR-72~73	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端5区 42号溝	調査長	6m	幅・深さ	0.28m×0.09m	出土遺物	
	走向・その他	3区画				
道標名称	位置	AT-72~73	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端5区 45号溝	調査長	6.5m	幅・深さ	0.5m×0.18m	出土遺物	
	走向・その他	3区画				
道標名称	位置	AR~AS-73	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端5区 46号溝	調査長	5m	幅・深さ	1.7m×0.14m	出土遺物	
	走向・その他	3区画				
道標名称	位置	AR~AS-70	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端5区 47号溝	調査長	5m	幅・深さ	0.75m×0.32m	出土遺物	
	走向・その他	3区画				
道標名称	位置	AM-43	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端10区 49号溝	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AU-106~109	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端17区 50号溝	調査長	11.5m	幅・深さ	0.77m×0.23m	出土遺物	
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AU~AW-110~125	重複		埋設土	暗褐色砂質土
柳島川端17区 51号溝	調査長	57m	幅・深さ	3.9m×1.0m	出土遺物	第334区
	走向・その他	B上				
道標名称	位置	AV~AX-110~126	重複		埋設土	暗褐色土
柳島川端17区 52号溝	調査長	62.5m	幅・深さ	0.75m×0.28m	出土遺物	第335区
	走向・その他	B上				

溝(3)

遺構名称	位置	AT~AU-111	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	8m	幅・深さ	0.8m×0.23m	出土遺物	
53号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AU-110~112	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	7m	幅・深さ	0.57m×0.16m	出土遺物	
54号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AS~AW-106~108	重複		埋没土	暗褐色土
徳島川端17区	調査長	18m	幅・深さ	0.85m×0.32m	出土遺物	
55号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AS~AW-106~107	重複		埋没土	暗褐色土
徳島川端17区	調査長	17.5m	幅・深さ	0.65m×0.12m	出土遺物	
56号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AV~AX-109~110	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	9m	幅・深さ	1.85m×0.35m	出土遺物	
58号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT-112	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	3.5m	幅・深さ	1.0m×0.47m	出土遺物	
60号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT~AU-112~116	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	18m	幅・深さ	0.7m×0.25m	出土遺物	
61号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AW~BD-121~122	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	21.5m	幅・深さ	2.06m×0.68m	出土遺物	第335図
62号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AW~BD-123	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	22.5m	幅・深さ	0.68m×0.27m	出土遺物	
63号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AV~AX-110~127	重複		埋没土	
徳島川端17区	調査長	64m	幅・深さ		出土遺物	第335図
67号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AY~BD-126	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	17m	幅・深さ	0.42m×0.3m	出土遺物	
75号溝	走向・その他	2面				
遺構名称	位置	AY~BD-126	重複	17号井戸より古い	埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	19.5m	幅・深さ	1.44m×0.5m	出土遺物	第335図
77号溝	走向・その他	2面				
遺構名称	位置	AY~BF-128	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	25m	幅・深さ	1.93m×0.3m	出土遺物	第335図
78号溝	走向・その他	2面				
遺構名称	位置	BE-127	重複	77号溝より新しい	埋没土	As-Bを含む暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	3.5m	幅・深さ	0.77m×0.32m	出土遺物	
79号溝	走向・その他	2面				
遺構名称	位置	BE~BE-130	重複		埋没土	
徳島川端17区	調査長	12.5m	幅・深さ		出土遺物	
81号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	AT~AU-111	重複		埋没土	黄褐色砂
徳島川端17区	調査長	7.5m	幅・深さ	1.05m×0.42m	出土遺物	
82号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT~AU-111	重複		埋没土	
徳島川端17区	調査長	8.5m	幅・深さ		出土遺物	
84号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	BB~BH-131	重複	55号土坑より古い	埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	17m	幅・深さ	0.55m×0.29m	出土遺物	
87号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BD~BJ-134	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	21m	幅・深さ	0.5m×0.15m	出土遺物	
89号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BE-132~134	重複		埋没土	暗褐色砂質土
徳島川端17区	調査長	12.5m	幅・深さ	0.35m×0.15m	出土遺物	
90号溝	走向・その他	3面				

溝(4)

遺構名称	位置	BE~BF-131~134	重複		埋没土	暗褐色砂質土
藤島川端17区	調査長	12.5m	幅・深さ	0.16m×0.15m	出土遺物	
91号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BF-131~134	重複		埋没土	暗褐色砂質土
藤島川端17区	調査長	12.5m	幅・深さ	0.25m×0.1m	出土遺物	
92号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BF-133~134	重複		埋没土	As-Bを多く含む暗褐色土
藤島川端17区	調査長	6m	幅・深さ	0.5m×0.35m	出土遺物	
93号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置		重複		埋没土	暗褐色土
藤島川端16区	調査長		幅・深さ	0.4m×0.16m	出土遺物	
94号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	AU-97~101	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
藤島川端16区	調査長	18m	幅・深さ	1.2m×0.15m	出土遺物	
95号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT-99	重複		埋没土	
藤島川端16区	調査長	4m	幅・深さ	0.5m×0.4m	出土遺物	
96号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT~AV-101~102	重複		埋没土	
藤島川端16区	調査長	9.5m	幅・深さ		出土遺物	
97号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AV-98~101	重複		埋没土	
藤島川端16区	調査長	18m	幅・深さ		出土遺物	第335図
98号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AY-110	重複	75号土坑より新しい	埋没土	暗褐色砂質土
藤島川端17区	調査長	3m	幅・深さ	0.7m×0.38m	出土遺物	
99号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	BG-132	重複	102号土坑より新しい	埋没土	As-Bを多く含む黒褐色土
藤島川端17区	調査長	2m	幅・深さ	0.43m×0.09m	出土遺物	
128号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BH-131~134	重複		埋没土	黒褐色土
藤島川端17区	調査長	12m	幅・深さ	0.75m×0.06m	出土遺物	
129号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BH-132~134	重複		埋没土	黒褐色土
藤島川端17区	調査長	10m	幅・深さ	0.57m×0.06m	出土遺物	
130号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置		重複		埋没土	As-Bを多く含む黒褐色土
藤島川端17区	調査長		幅・深さ	0.54m×0.1m	出土遺物	
131号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	AT-116	重複		埋没土	
藤島川端17区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
132号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT-115	重複		埋没土	
藤島川端17区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
133号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT-114~115	重複		埋没土	
藤島川端17区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
134号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT~AU-113~116	重複		埋没土	暗褐色砂質土のラミナ堆積
藤島川端17区	調査長	11m	幅・深さ	2.2m×0.4m	出土遺物	第335図
135号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AT-116~117	重複		埋没土	
藤島川端16区	調査長	1m	幅・深さ		出土遺物	
137号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AS~AV-103	重複		埋没土	
藤島川端16区	調査長	11.5m	幅・深さ		出土遺物	
138号溝	走向・その他	B上				
遺構名称	位置	AV-103	重複		埋没土	As-Bを含む灰色シルトと地山の混土
藤島川端16区	調査長	3.5m	幅・深さ	1.5m×2.0m	出土遺物	
160号溝	走向・その他	B上				

溝(5)

遺構名称	位置	B I ~ B P -147~149	重複		埋没土	As-Cを含む暗褐色土
柳島川端18区	調査長	26m	幅・深さ	-×0.2m	出土遺物	
1号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B I ~ B P -147~149	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
柳島川端18区	調査長	26m	幅・深さ	2.33m×0.09m	出土遺物	
2号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B I ~ B P -147~149	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
柳島川端18区	調査長	26m	幅・深さ	1.8m×0.43m	出土遺物	
3号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B J ~ B M -148	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
柳島川端18区	調査長	37m	幅・深さ	0.68m×0.17m	出土遺物	
4号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B I -138~148	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	41m	幅・深さ	0.85m×0.16m	出土遺物	
7号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B J ~ B M -146	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
柳島川端18区	調査長	12m	幅・深さ	1.65m×0.11m	出土遺物	
8号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B G -138~146	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
柳島川端18区	調査長	29m	幅・深さ	0.8m×0.1m	出土遺物	
9号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B G ~ B I -143	重複		埋没土	
柳島川端18区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
10号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B G -140~144	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	16m	幅・深さ	0.56m×0.2m	出土遺物	
11号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B G -138~143	重複		埋没土	灰褐色土
柳島川端18区	調査長	22m	幅・深さ	0.76m×0.16m	出土遺物	
12号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B H ~ B L -144	重複		埋没土	
柳島川端18区	調査長	12m	幅・深さ	0.62m×0.1m	出土遺物	
13号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B K ~ B L -145	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
柳島川端18区	調査長	5.5m	幅・深さ	1.55m×0.06m	出土遺物	
15号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B K ~ B M -144	重複		埋没土	
柳島川端18区	調査長	5.5m	幅・深さ	0.48m×0.1m	出土遺物	
16号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B K ~ B L -138~147	重複		埋没土	
柳島川端18区	調査長	34.5m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B J ~ B M -147~148	重複		埋没土	黒褐色土
柳島川端18区	調査長	15m	幅・深さ	1.3m×0.09m	出土遺物	
18号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B Q -151~160	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	33m	幅・深さ	0.32m×0.07m	出土遺物	
19号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B L ~ B Q -151~153	重複		埋没土	As-Cを含む黒褐色土
柳島川端18区	調査長	23.5m	幅・深さ	0.36m×0.26m	出土遺物	
20号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B O ~ B R -157	重複		埋没土	As-Bを含む青灰色土
柳島川端18区	調査長	13.5m	幅・深さ	0.32m×0.06m	出土遺物	
21号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B E ~ B H -138~139	重複		埋没土	
柳島川端18区	調査長	45m	幅・深さ		出土遺物	
30号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	B O ~ B R -148~152	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	23m	幅・深さ	0.45m×0.12m	出土遺物	
33号溝	走向・その他					

溝(6)

遺構名称	位置	BQ-152~154	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	9m	幅・深さ	0.35m×0.06m	出土遺物	
34号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BP~BR-151	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	4.5m	幅・深さ	0.52m×0.06m	出土遺物	
36号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO~BP-149	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
37号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO~BP-149	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	5m	幅・深さ	0.6m×0.05m	出土遺物	
38号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BP-148	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	2m	幅・深さ	0.58m×0.03m	出土遺物	
39号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BN~BO-145~151	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	17m	幅・深さ	0.45m×0.06m	出土遺物	
40号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO-146	重複		埋没土	As-Bを多量に含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	1m	幅・深さ	0.37m×0.04m	出土遺物	
41号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BJ~BK-139~141	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物	
42号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BJ~BK-139~142	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	11m	幅・深さ		出土遺物	
43号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BF-141~142	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	6m	幅・深さ	0.55m×0.06m	出土遺物	
44号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BE-138~141	重複		埋没土	As-B二次堆積土
藤島川端18区	調査長	9.5m	幅・深さ	2.3m×0.25m	出土遺物	
45号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BE~BF-140	重複		埋没土	灰褐色土
藤島川端18区	調査長	5m	幅・深さ	0.6m×0.2m	出土遺物	
46号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BG-139~140	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	6.5m	幅・深さ	~×0.1m	出土遺物	
47号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BI-138	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物	
48号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BJ-139~140	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土と砂層の混土
藤島川端18区	調査長	3.5m	幅・深さ	0.6m×0.09m	出土遺物	
49号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BE~BJ-138	重複		埋没土	灰褐色土
藤島川端18区	調査長	19.5m	幅・深さ	1.1m×0.47m	出土遺物	
50号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO-148	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	4m	幅・深さ	0.98m×0.12m	出土遺物	
51号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO-148	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	3.5m	幅・深さ	1.72m×0.09m	出土遺物	
52号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BO-148	重複		埋没土	
藤島川端18区	調査長	2m	幅・深さ	0.5m×0.12m	出土遺物	
53号溝	走向・その他	3面				
遺構名称	位置	BH-138	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
藤島川端18区	調査長	2.5m	幅・深さ	0.36m×0.06m	出土遺物	
54号溝	走向・その他	3面				

溝(7)

溝名称	位置	B P~B S-164	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰色土
御島川端18区	調査長	10m	幅・深さ	-×0.5m	出土遺物	
64号溝	走向・その他	2面旧18A区2号溝				
溝名称	位置	B P~B S-164	重複		埋没土	As-Bを多く含む灰褐色土
御島川端18区	調査長	12m	幅・深さ	-×0.52m	出土遺物	
65号溝	走向・その他	3面旧18A区3号溝				
溝名称	位置	B R-166~168	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	8m	幅・深さ	0.65m×0.06m	出土遺物	
66号溝	走向・その他	3面旧18A区4号溝				
溝名称	位置	B R~B S-167	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	4.5m	幅・深さ		出土遺物	
67号溝	走向・その他	3面旧18A区5号溝				
溝名称	位置	B Q-165	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	2m	幅・深さ	0.68m×0.05m	出土遺物	
68号溝	走向・その他	3面旧18A区6号溝				
溝名称	位置	B P~B R-164~165	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	10m	幅・深さ	0.55m×0.09m	出土遺物	
69号溝	走向・その他	B上旧18A区7号溝				
溝名称	位置	B P~B R-164~165	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	7m	幅・深さ	0.76m×0.08m	出土遺物	
70号溝	走向・その他	B上旧18A区8号溝				
溝名称	位置	B P-164	重複		埋没土	
御島川端18区	調査長	2m	幅・深さ		出土遺物	
71号溝	走向・その他	B上旧18A区9号溝				
溝名称	位置	B V-157~165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	33m	幅・深さ		出土遺物	
1号溝	走向・その他	3区画				
溝名称	位置	B V~B Y-158~165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	30m	幅・深さ		出土遺物	
2号溝	走向・その他	3区画				
溝名称	位置	B V~B Y-165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	19m	幅・深さ		出土遺物	
3号溝	走向・その他	3区画				
溝名称	位置	C C-166~177	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	18m	幅・深さ		出土遺物	
14号溝	走向・その他	3区画				
溝名称	位置	B V-158~165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	27m	幅・深さ		出土遺物	
15号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B V-159~161	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	27m	幅・深さ		出土遺物	
16号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B V~B Y-165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B V~C A-165	重複		埋没土	As-Bを多く含む褐色土
御島川端19区	調査長	19.5m	幅・深さ	0.45m×0.22m	出土遺物	
18号溝	走向・その他					
溝名称	位置	C A-165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	1m	幅・深さ		出土遺物	
19号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B V~C B-165	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	23.5m	幅・深さ	-×0.15m	出土遺物	
20号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B Y~C B-166	重複		埋没土	
御島川端19区	調査長	13m	幅・深さ		出土遺物	
21号溝	走向・その他					
溝名称	位置	B Y-165~178	重複		埋没土	As-Bを含む褐色土
御島川端19区	調査長	28m・24m	幅・深さ	-×0.18m	出土遺物	
22号溝	走向・その他					

溝 (8)

遺構名称	位置	CB~CD-165~170	重複	埋没土	黄色シルト
柳島川端19区	調査長	17m	幅・深さ	3.24m×0.25m	出土遺物
23号溝	走向・その他	3 祀墓			
遺構名称	位置	BY~CC-169	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	12m	幅・深さ		出土遺物
24号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BY-167~170	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	8m・3m	幅・深さ		出土遺物
25号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BY-171・172	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	4.5m	幅・深さ		出土遺物
26号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BX-169~172	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物
27号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BY~CC-172	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	12m	幅・深さ		出土遺物
28号溝	走向・その他	3 祀墓			
遺構名称	位置	BY~CC-173~178	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	12.5m	幅・深さ		出土遺物
29号溝	走向・その他	3 祀墓			
遺構名称	位置	CA~CE-176	重複	埋没土	3 祀墓水田耕作土
柳島川端19区	調査長	11m・5m	幅・深さ	0.35m×0.11m	出土遺物
30号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BV~CF-176~179	重複	埋没土	Hr-FP 泥濘と3 祀墓水田耕作土の混土
柳島川端19区	調査長	37m	幅・深さ	0.85m×0.45m	出土遺物
31号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD-174~179	重複	埋没土	As-B を含む褐色土
柳島川端19区	調査長	19.5m	幅・深さ		出土遺物
32号溝	走向・その他	第336区			
遺構名称	位置	CD-174~176	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物
33号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CH~DT-190~216	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	17m	幅・深さ		出土遺物
45号溝	走向・その他	19区96・20区3・4・5・6・7・8・12・21区16・17・18・19・20・21・1区9・24号溝と同一?			
遺構名称	位置	CI~CK-187~191	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	15m	幅・深さ		出土遺物
51号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CK-190~191	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物
52号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CE~CJ-181~182	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	13.5m	幅・深さ		出土遺物
65号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD~CF-178~184	重複	埋没土	As-B を含む褐色土
柳島川端19区	調査長	7m	幅・深さ		出土遺物
66号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CA~CE-180	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	32m	幅・深さ		出土遺物
67号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD-181	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	2.7m	幅・深さ		出土遺物
68号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CF~CH-182	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	8.5m	幅・深さ		出土遺物
69号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CE~CJ-182	重複	埋没土	
柳島川端19区	調査長	9.5m	幅・深さ		出土遺物
70号溝	走向・その他				

溝(9)

遺構名称	位置	CH~CJ-184	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	7m	幅・深さ		出土遺物
71号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CE~CK-183~186	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	20.5m	幅・深さ		出土遺物
72号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD~CE-182~184	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	15m	幅・深さ		出土遺物
73号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD-184	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物
74号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CJ-185~186	重複	78号溝より新しい	埋没土 As-Bを含む黒褐色土
柳島川端19区	調査長	6m	幅・深さ	0.58m×0.26m	出土遺物 第336図
75号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CI~CJ-187~190	重複		埋没土 As-Bを含む砂
柳島川端19区	調査長	18m	幅・深さ	0.7m×0.08m	出土遺物
76号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CJ-188~189	重複		埋没土 IIIb層
柳島川端19区	調査長	6.5m	幅・深さ	0.33m×0.33m	出土遺物
77号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CG~CJ-188~192	重複		埋没土 黒色土を含むAs-B
柳島川端19区	調査長	18.5m	幅・深さ	0.85m×0.27m	出土遺物
78号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CG~CH-188~189	重複		埋没土 IIIb層
柳島川端19区	調査長	8.5m	幅・深さ	0.62m×0.17m	出土遺物
79号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CJ~CK-189~192	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物 第336図
80号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CF~CK-187~190	重複		埋没土 As-Bを含む黒色土
柳島川端19区	調査長	11m・5m	幅・深さ	0.34m×0.12m	出土遺物
81号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	BV~BW-177~178	重複		埋没土 As-B二次堆積土
柳島川端19区	調査長	7.5m	幅・深さ	0.42m×0.16m	出土遺物
82号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CB-180	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	4m	幅・深さ		出土遺物
84号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CD-183~184	重複		埋没土
柳島川端19区	調査長	5.5m	幅・深さ		出土遺物
96号溝	走向・その他	19区44号土坑より変更			
遺構名称	位置	CL~CM-174~175	重複		埋没土 粗砂
柳島川端20区	調査長	5m	幅・深さ	3.34m×0.66m	出土遺物 第336図
3号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CM~DE-194~207	重複		埋没土 灰褐色砂
柳島川端20区	調査長	85m	幅・深さ	3.98m×2.54m	出土遺物
5号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CM~CN-175~177	重複		埋没土 灰色細砂
柳島川端20区	調査長	5m	幅・深さ	2.48m×0.66m	出土遺物
6号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CS~CU-201~203	重複		埋没土 As-Bを含む褐色土
柳島川端20区	調査長	6.5m	幅・深さ	2.62m×1.85m	出土遺物
7号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CV~CW-202~205	重複		埋没土 粗砂と黒色土のフミナ堆積土
柳島川端20区	調査長	8m	幅・深さ	5.12m×1.2m	出土遺物
8号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	CQ~CR-199~201	重複		埋没土 黒灰色シルト
柳島川端20区	調査長	6.5m	幅・深さ	2.29m×1.23m	出土遺物 第337図
12号溝	走向・その他				

溝 (10)

溝橋名称	位置	CW~CX-199~201	重複	埋設土	IV a 層
柳島川端20区	調査長	6.5m	幅・深さ	7.9m×0.55m	出土遺物
14号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CN~CM-188	重複	埋設土	As-Bを含む褐色土
柳島川端20区	調査長	4 m	幅・深さ	1.08m×-	出土遺物 第37図
19号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CO~CP-191	重複	埋設土	
柳島川端20区	調査長	2.5m	幅・深さ		出土遺物
21号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CW-198	重複	埋設土	As-Bを含む灰褐色土
柳島川端20区	調査長	7.5m	幅・深さ	0.85m×0.2m	出土遺物
25号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CW~CY-204	重複	埋設土	灰褐色土
柳島川端20区	調査長	8.5m	幅・深さ	0.6m×0.27m	出土遺物
26号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CM-189~190	重複	埋設土	
柳島川端20区	調査長	5 m	幅・深さ	0.74m×0.12m	出土遺物
29号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	CR-199	重複	埋設土	暗褐色土
柳島川端20区	調査長	1.5m	幅・深さ	0.44m×0.09m	出土遺物 第36図
30号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DS~DT-210~211	重複	埋設土	As-Bを含む暗褐色土
柳島川端21区	調査長	4.5m	幅・深さ	0.3m×0.03m	出土遺物
7号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DM~DO-209~210	重複	埋設土	As-Bを含む暗褐色土
柳島川端21区	調査長	9 m	幅・深さ	0.45m×0.17m	出土遺物
8号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DL~DM-208~210	重複	埋設土	Ⅲc 層
柳島川端21区	調査長	11m	幅・深さ	0.4m×0.13m	出土遺物
9号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DK-207~210	重複	埋設土	Ⅲb 層
柳島川端21区	調査長	12.5m	幅・深さ	0.5m×0.11m	出土遺物
10号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DF~DJ-206~207	重複	埋設土	V b 層
柳島川端21区	調査長	17m	幅・深さ	1.83m×0.46m	出土遺物
12号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DI-210~211	重複	埋設土	IV b 層
柳島川端21区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.57m×0.23m	出土遺物
13号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DH~DI-211	重複	埋設土	Ⅲb 層
柳島川端21区	調査長	2 m	幅・深さ	0.48m×0.05m	出土遺物
14号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DH-209~211	重複	埋設土	As-Bを含む暗褐色土
柳島川端21区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.56m×0.21m	出土遺物
15号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DK~DP-210~213	重複	埋設土	As-Bを含む褐色土
柳島川端21区	調査長	20m	幅・深さ	2.16m×0.34m	出土遺物 第37図
17号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DH~DK-207~210	重複	埋設土	Ⅲb 層
柳島川端21区	調査長	13m	幅・深さ	0.66m×0.13m	出土遺物
18号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DH~DM-209~213	重複	埋設土	Ⅲb 層
柳島川端21区	調査長	36m	幅・深さ	1.07m×0.23m	出土遺物
20号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	DH~DK-209~211	重複	埋設土	Ⅲa 層
柳島川端21区	調査長	16m	幅・深さ	0.77m×0.15m	出土遺物
21号溝	走向・その他				
溝橋名称	位置	EA-208~209	重複	埋設土	
柳島川端21区	調査長	0.5m	幅・深さ		出土遺物
22号溝	走向・その他				

溝 (11)

遺構名称	位置	DN-215	重複	埋没土	As-Bを多く含む黒色土
公田東Ⅰ区	調査長	3m	幅・深さ	3.2m×0.9m	出土遺物
10号溝	走向・その他	20区館と関連か？			
遺構名称	位置	EF~EI-215~221	重複	12号溝より古い	埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	25m	幅・深さ	0.45m×0.24m	出土遺物
11号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EG~EI-219~221	重複	11号溝より新しい	埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	14m	幅・深さ	0.5m×0.07m	出土遺物
12号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EF~EI-18~222	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	19m	幅・深さ	0.3m×0.07m	出土遺物
13号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EF-215~218	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	12m	幅・深さ		出土遺物
14号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EF~EG-219~221	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	27m	幅・深さ	0.55m×0.08m	出土遺物
15号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	DU~EB-214~216	重複	17号溝より新しい	埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	26m	幅・深さ	0.46m×0.1m	出土遺物
16号溝	走向・その他	21区8・9・10号溝と同様の性格か？			
遺構名称	位置	DV~EA-213~217	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	24m	幅・深さ	0.55m×0.33m	出土遺物
17号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EA~EB-215~216	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	8.5m	幅・深さ		出土遺物
18号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EA-217~218	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	2m	幅・深さ		出土遺物
19号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	DX~DY-217~218	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物
20号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	DY~EA-218~219	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物
21号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EA-219	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	22m	幅・深さ		出土遺物
22号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	DT-214	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	3m	幅・深さ	1.1m×0.3m	出土遺物
23号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EH~EI-221~222	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	3.4m	幅・深さ		出土遺物
26号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EF~EH-217~218	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	7m	幅・深さ		出土遺物
27号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	EF~EG-215	重複		埋没土
公田東Ⅰ区	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物
36号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FO~FR-250	重複	As-B下水田より古い	埋没土
公田東Ⅱ区	調査長	15m	幅・深さ	1.65m×0.21m	出土遺物
27号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GF-281~284	重複		埋没土
公田東Ⅱ区	調査長	16m	幅・深さ		出土遺物
2号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY~GG-281~282	重複		埋没土
公田東Ⅱ区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.78m×0.35m	出土遺物
5号溝	走向・その他	IV区33号溝と同一？			

溝 (12)

遺構名称	位置	FY-GG-280-282	重複		埋没土
公田東山区	調査長	9.5m	幅・深さ		出土遺物
6号溝	走向・その他	IV区32号溝と同一?			
遺構名称	位置	GD-GH-284-292	重複		埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田東山区	調査長	9m	幅・深さ	0.77m×0.25m	出土遺物
9号溝	走向・その他	IV区26号溝・V区2号溝と同一?			
遺構名称	位置	FU-259-266	重複		埋没土 暗灰色シルト
公田東山区	調査長	15m	幅・深さ		出土遺物
10号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY-GF-280-281	重複		埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田東山区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.82m×0.22m	出土遺物
11号溝	走向・その他	IV区24・25号溝と同一?			
遺構名称	位置	GG-GH-303-307	重複		埋没土 暗灰色砂
公田東山区	調査長	13m	幅・深さ	2.48m×0.65m	出土遺物 第338図
1号溝	走向・その他	随道			
遺構名称	位置	GE-GG-297-298	重複		埋没土 暗褐色土
公田東山区	調査長	12m	幅・深さ	1.72m×0.36m	出土遺物
3号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GE-GG-296-298	重複		埋没土 暗灰色粘質土
公田東山区	調査長	13.5m	幅・深さ	0.82m×0.36m	出土遺物
4号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GE-297-298	重複		埋没土 As-Bを含む暗褐色土
公田東山区	調査長	2m	幅・深さ	1.7m×0.32m	出土遺物
6号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GB-286	重複		埋没土
公田東山区	調査長	1m	幅・深さ		出土遺物
9号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GB-GC-287-289	重複		埋没土 As-Bを少量含む黒褐色土
公田東山区	調査長	9m	幅・深さ	0.77m×0.41m	出土遺物
10号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GB-GJ-285-292	重複		埋没土 黒褐色土
公田東山区	調査長	16m	幅・深さ	2.24m×0.62m	出土遺物
11号溝	走向・その他	V区4号溝と同一?			
遺構名称	位置	GA-GH-285-288	重複		埋没土 As-Bを多く含む暗褐色土
公田東山区	調査長	12.5m	幅・深さ	0.9m×0.22m	出土遺物
12号溝	走向・その他	V区3号溝と同一?			
遺構名称	位置	GE-GF-294-296	重複		埋没土
公田東山区	調査長	7m	幅・深さ	0.65m×0.21m	出土遺物
14号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GC-GK-291-297	重複		埋没土 灰褐色シルト
公田東山区	調査長	10m	幅・深さ	5.43m×0.55m	出土遺物
16号溝	走向・その他	A Bは近世V区15・19・20号溝・IV区17・25号溝と同一? Cは中世~近世まで継続する。			
遺構名称	位置	GD-GF-293-295	重複		埋没土 灰色シルト質土
公田東山区	調査長	10.5m	幅・深さ	2.67m×0.45m	出土遺物
17号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GC-GF-291-292	重複		埋没土
公田東山区	調査長	9m	幅・深さ	0.65m×0.2m	出土遺物
25号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GD-GE-294-295	重複		埋没土 暗褐色土
公田東山区	調査長	6m	幅・深さ	1.72m×0.2m	出土遺物
28号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY-GB-281	重複		埋没土 砂
公田東山区	調査長	7m	幅・深さ	1.7m×0.33m	出土遺物
32号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY-GB-280	重複		埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田東山区	調査長	7m	幅・深さ	0.73m×0.13m	出土遺物
33号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY-GA-280	重複		埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田東山区	調査長	3.5m	幅・深さ	1.2m×0.18m	出土遺物
34号溝	走向・その他				

溝 (13)

遺構名称	位置	FY~GB-280	重複	34号溝より新しい	埋没土	As-Bを含む暗褐色土
公田東IV区	調査長	5m	幅・深さ	0.34m×0.13m	出土遺物	
35号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GF-287	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
公田東V区	調査長	2.5m	幅・深さ	0.88m×0.33m	出土遺物	
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GC~GI-287~288	重複		埋没土	As-Bを含む黒褐色土
公田東V区	調査長	8m	幅・深さ	0.98m×0.29m	出土遺物	
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GG~GJ-291~292	重複		埋没土	As-Bを多く含む黒褐色土
公田東V区	調査長	12m	幅・深さ	0.65m×0.28m	出土遺物	
4号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GL~GM-303~306	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
公田東V区	調査長	16m	幅・深さ	0.55m×0.14m	出土遺物	
10号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GK-303	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色粘質土
公田東V区	調査長	2.5m	幅・深さ	0.22m×0.15m	出土遺物	
11号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GK~GM-321	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	2m	幅・深さ	0.8m×0.2m	出土遺物	
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GL-319~323	重複		埋没土	黒褐色粘質土
公田池尻3区	調査長	15m	幅・深さ	2.4m×0.7m	出土遺物	第339図
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GK~GL-318~321	重複		埋没土	黒褐色土
公田池尻3区	調査長	4m	幅・深さ	--×0.12m	出土遺物	
4号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM~GN-327	重複		埋没土	黒色土
公田池尻3区	調査長	6.5m	幅・深さ	2.9m×0.77m	出土遺物	第339図
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-324~326	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-322~324	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	6m	幅・深さ	0.32m×0.06m	出土遺物	
7号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-322	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	3m	幅・深さ	0.6m×0.07m	出土遺物	
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-322	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	3m	幅・深さ	0.22m×0.04m	出土遺物	
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM~GN-323~324	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	5m	幅・深さ	0.28m×0.03m	出土遺物	
10号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM~GN-325	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	6m	幅・深さ	0.32m×0.05m	出土遺物	
11号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-326	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	3m	幅・深さ	0.28m×0.11m	出土遺物	
12号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GN~GO-328	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	6.5m	幅・深さ		出土遺物	
14号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GL-318	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	1.5m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他	旧3区17号土坑				
遺構名称	位置	GL-318	重複		埋没土	
公田池尻3区	調査長	2m	幅・深さ		出土遺物	
18号溝	走向・その他	旧3区18号土坑				

溝 (14)

遺構名称	位置	GK-318	重複	埋没土
公田池尻 3区	調査長	1m	幅・深さ	出土遺物
19号溝	走向・その他	旧 3区19号土坑		
遺構名称	位置	GN~GP-331	重複	埋没土 砂・黄褐色土の混土
公田池尻 3区	調査長	6.5m	幅・深さ	1.77m×0.37m 出土遺物
37号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GP~GR-321	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	9m	幅・深さ	0.92m×0.37m 出土遺物
20号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GO~GQ-319~320	重複	22号溝より新しい 埋没土 As-Bを含む灰褐色土
公田池尻 4区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.75m×0.25m 出土遺物
21号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GO~GQ-319~320	重複	21号溝より古い 埋没土 As-Bを含む灰褐色土
公田池尻 4区	調査長	9m	幅・深さ	0.42m×0.1m 出土遺物
22号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GP~GQ-320	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	7.5m	幅・深さ	出土遺物
26号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GP~GR-322	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	9m	幅・深さ	出土遺物
27号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GP~GQ-323	重複	埋没土 As-Bを多く含む褐色土
公田池尻 4区	調査長	5.5m	幅・深さ	0.23m×0.06m 出土遺物
29号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ-323	重複	埋没土 As-Bを多く含む褐色土
公田池尻 4区	調査長	4.5m	幅・深さ	0.46m×0.06m 出土遺物
30号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ-323	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	3m	幅・深さ	0.38m×0.1m 出土遺物
31号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GR~GT-329	重複	埋没土 Hr-FAとAs-Cを含む黒色土の混土
公田池尻 4区	調査長	8m	幅・深さ	0.98m×0.18m 出土遺物
45号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GS~GT-330	重複	埋没土 As-Bを含む暗褐色土
公田池尻 4区	調査長	6.5m	幅・深さ	1.22m×0.23m 出土遺物
46号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ~GS-327	重複	埋没土 暗褐色土
公田池尻 4区	調査長	8.5m	幅・深さ	2.1m×0.74m 出土遺物 第340図
47号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ~GS-326	重複	埋没土 As-Bを含む灰黄褐色土
公田池尻 4区	調査長	8m	幅・深さ	1.65m×0.45m 出土遺物
48号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ~GR-326	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	6m	幅・深さ	0.34m×0.07m 出土遺物
49号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GR-325	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	3m	幅・深さ	0.2m×0.03m 出土遺物
50号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GQ~GS-325	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	8.5m	幅・深さ	0.32m×0.1m 出土遺物
51号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GR~GS-329	重複	埋没土
公田池尻 4区	調査長	4m	幅・深さ	出土遺物
55号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	GS-330	重複	53号溝より新しい 埋没土 Hr-FP粘泥を含む黒色土
公田池尻 4区	調査長	1m	幅・深さ	0.42m×0.25m 出土遺物
57号溝	走向・その他			
遺構名称	位置	IF~IG-483	重複	埋没土 As-Bを含む黒褐色土
公田池尻 5区	調査長	3.5m	幅・深さ	0.9m×0.06m 出土遺物
1号溝	走向・その他			

溝 (15)

遺構名称	位置	I F~I G-482	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
公田池尻5区	調査長	4m	幅・深さ	0.82m×0.18m	出土遺物	
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I E~I F-481~482	重複	I・2号溝より新しい	埋没土	As-Bを含む灰褐色土
公田池尻5区	調査長	12m	幅・深さ	-×0.1m	出土遺物	第340図
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I B~I K-469~480	重複		埋没土	褐色土シルト
公田池尻5区	調査長	50m	幅・深さ	4.0m×1.1m	出土遺物	第340図
5号溝	走向・その他	館7区2・5・6号溝と同一?				
遺構名称	位置	I E~I J-475~477	重複		埋没土	As-Bを含む黄質土
公田池尻5区	調査長	4m	幅・深さ	1.7m×0.3m	出土遺物	
6号溝	走向・その他	7区4号溝と同一?				
遺構名称	位置	I B~I H-466~468	重複		埋没土	褐色土シルト
公田池尻5区	調査長	6m	幅・深さ	4.3m×1.43m	出土遺物	
8号溝	走向・その他	館7区7号溝と同一?				
遺構名称	位置	I G-481~483	重複	1号溝・2号溝より新しい	埋没土	As-Bを多く含む黄褐色土
公田池尻5区	調査長	8m	幅・深さ	-×0.23m	出土遺物	第341図
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I E-476	重複		埋没土	As-Bを多く含む暗褐色土
公田池尻5区	調査長	4m	幅・深さ	1.08m×0.17m	出土遺物	第341図
11号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	HN~HU-421~424	重複		埋没土	
公田池尻6区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
1号溝	走向・その他	7区14号溝と同一?				
遺構名称	位置	HN~HU-421~424	重複		埋没土	
公田池尻6区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
2号溝	走向・その他	7区14号溝と同一?				
遺構名称	位置	I J~I K-480	重複		埋没土	暗褐色土シルト
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	3.0m×1.0m	出土遺物	
1号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I I~I K-478~479	重複		埋没土	灰褐色土シルト
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	3.57m×0.94m	出土遺物	第341図・342図
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I J-480	重複		埋没土	
公田池尻7区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	第342図
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I H~I J-476	重複		埋没土	As-Bを含む暗褐色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	1.96m×0.44m	出土遺物	
4号溝	走向・その他	5区6号溝と同一?				
遺構名称	位置	I G~I I-469	重複	6号溝より新しい	埋没土	黒褐色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	5.53m×0.76m	出土遺物	
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I G~I I-469~470	重複		埋没土	黒色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	-×1.0m	出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I F~I H-466~468	重複		埋没土	黒色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	4.4m×1.3m	出土遺物	
7号溝	走向・その他	5区8号溝と同一?				
遺構名称	位置	I E~I G-465	重複		埋没土	As-Bを含む灰褐色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	1.3m×0.24m	出土遺物	
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I J~I L-482	重複		埋没土	
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	I J~I L-482	重複		埋没土	
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
10号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	HT~HU-425~429	重複		埋没土	暗褐色土
公田池尻7区	調査長	15m	幅・深さ	0.5m×0.23m	出土遺物	
12号溝	走向・その他					

溝 (16)

遺構名称	位置	GT~GV-423~425	重複		埋設土	暗褐色土
公田池尻7区	調査長	10m	幅・深さ	2.82m×0.88m	出土遺物	
14号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IH~IJ-474	重複		埋設土	灰褐色土
公田池尻7区	調査長	8m	幅・深さ	2.1m×0.28m	出土遺物	
16号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IH-476	重複		埋設土	
公田池尻7区	調査長	2m	幅・深さ		出土遺物	
17号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	II~IJ-475	重複		埋設土	As-Bを含む灰褐色土
公田池尻7区	調査長	6m	幅・深さ	0.8m×0.12m	出土遺物	
33号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IU-518	重複		埋設土	
公田池尻8区-1	調査長	3m	幅・深さ		出土遺物	
1号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IT~IV-518	重複		埋設土	
公田池尻8区-1	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	II~IO-493~494	重複		埋設土	暗褐色シルト
公田池尻8区-2	調査長	8m	幅・深さ	3.66m×1.2m	出土遺物	第342図
1号溝	走向・その他	廊9-1区1号溝と同一?				
遺構名称	位置	IJ~IP-497~498	重複		埋設土	
公田池尻8区-2	調査長	8m	幅・深さ		出土遺物	
2号溝	走向・その他	船岡通				
遺構名称	位置	IR~IS-509	重複		埋設土	As-Bを含む黒色土
公田池尻8区-3	調査長	5m	幅・深さ	0.64m×0.11m	出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IS-510	重複		埋設土	As-Bを含む暗褐色土
公田池尻8区-3	調査長	2m	幅・深さ	0.52m×0.09m	出土遺物	
7号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IS-511	重複		埋設土	As-Bを含む褐色土
公田池尻8区-3	調査長	6m	幅・深さ	0.6m×0.08m	出土遺物	第151図
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IT-512	重複		埋設土	As-Bを含む黒褐色土
公田池尻8区-3	調査長	5m	幅・深さ	0.68m×0.09m	出土遺物	
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	II~IK-494	重複	2号溝より新しい	埋設土	オリブ灰色シルト
公田池尻9区-1	調査長	6.5m	幅・深さ	4.56m×0.95m	出土遺物	第343図
1号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IH~II-489~493	重複	1号溝より古い	埋設土	砂と暗褐色土の混土
公田池尻9区-1	調査長	6.5m	幅・深さ	-×0.75m	出土遺物	第343図
2号溝	走向・その他	船岡通				
遺構名称	位置	II~IJ-493	重複		埋設土	
公田池尻9区-1	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
3号溝	走向・その他	船岡通				
遺構名称	位置	IH~II-489~492	重複		埋設土	As-Bを多く含む暗褐色土
公田池尻9区-1	調査長	16.5m	幅・深さ	-×0.15m	出土遺物	
4号溝	走向・その他	船岡通				
遺構名称	位置	II~IJ-488~492	重複		埋設土	
公田池尻9区-1	調査長	13m	幅・深さ		出土遺物	第343図
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IJ~IK-496~498	重複		埋設土	
公田池尻9区-1	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	IN~IP-513	重複		埋設土	As-Bの二次堆積
公田池尻9区-3	調査長	6m	幅・深さ	0.86m×0.3m	出土遺物	
11号溝	走向・その他					

第6章 近世の遺構と遺物

1. 井戸

近世の井戸として確認し、調査した遺構は8基である。確認位置は、樺島川端遺跡のみであり、2区で3基、6区で1基、7区で1基、14区で1基、17区で1基、20区で1基となっており、樺島川端遺跡台地を中心とした分布となっている。

本項で扱う井戸は、出土遺物や埋没土の状態から近世と判断し得るものについて扱った。従って、確認面により開鑿時期を他時期としたものの中にも近世のものが含まれる可能性も付け加えておく。

形状の特徴は、21区2号井戸を除き、上部のみを石組みとし、下部を地山井筒円筒形としていることである。

規模は、上面直径2～3mでほぼ同様であるが、深さは1.7mから3m以上とばらつきがある。しかし、底面の標高値は、88m前後であることから、湧水層は、(湧水層が調査段階で確認されているのは14区2号井戸のみである)標高値88m前後にあったのではないと思われる。この湧水層の標高値は、奈良平安時代以前と比べ、5m以上もの開きがある。これは、中世以降にあったとされる利根川の瀬替えに起因するのではないだろうか。

以下に個々についての所見を述べるが、位置・形状・規模等については、文末に付した表4を参照されたい。

樺島川端遺跡

6区1号井戸

(第365・390～392図、P L-92・169・170)

本跡は6区東壁にかかっており、直径は不明である。また、湧水量が多く底面までの掘削が困難であったため、底面は未確認である。上部は、石組みを施してある。遺物は、上層から下層にかけて江戸時代末期の陶磁器が約20点ほど出土している。

14区2号井戸

(第366・392・393・394図、P L-92・171)

6区1号井戸同様に掘り方を持ち、上部に石組みを築く。調査時は、底面から約0.5mの第12層を湧水層としている。しかし、底面から1m程の第10層部分に小アグリをとまなうことから、季節によっては第10層も湧水層と推定される。

7区3号井戸 (第365図)

石は検出できなかったが、上部を広く掘り広げてあり、石組みの井戸であった可能性が高い。底面から0.2m付近に小アグリを持ち、第9層の黒色土から湧水がある。

2区4号井戸

(第365・394・395図、P L-92・173)

他の井戸同様、上部を掘り広げ、石組みを施している。湧水層は不明である。遺物は、陶器碗やすり鉢、石臼が出土している。

2区5号井戸 (第365・395図、P L-92)

他の井戸同様、上部に石組みを施す井戸である。

2区6号井戸 (第366図)

本跡は2区調査区東壁にかかって出土したため、上部のみの調査であるため、詳細については不明である。しかし、石組みがあること、掘り込みが1.4m以上あることなどから井戸と推定される。

17区13号井戸 (第366図)

石組みの井戸と推定されるが、他地区の石組みに比べ標高が小さい。また、上部の広げた掘り込みに対して、下部の掘り込みは直径も小さく浅い。湧水層に達していたか疑問であり、井戸としても疑問がある。

20区1号井戸 (第366図、P L-92)

底面から60cm程で段をつけているが、石組みを施したと推定される痕跡はない。この段より下部からは多数の円礫が出土した。

2. 土坑

柳島川端遺跡18区からは6基、19区2基、20区1基の計9基が確認されている。公田東遺跡ではIV区から3基確認されている。近世の土坑は先の井戸同様、柳島川端遺跡の南部に集中する。これは、調査区が現在の集落が立地する微高地から離れており、柳島川端遺跡18区から20区が最も近接していることと無関係ではない。それを示すように、現在の集落から最も離れた公田池尻遺跡では確認されていない。土坑からの出土遺物は少なく、時期決定は埋土の特徴で行っている。土坑個々の規模や形状は一覧表に記載しているが、特徴のある1基のみ本文説明を行う。

柳島川端 18区121号土坑 (第367図)

BK-143グリッドに位置する。17号溝と重複し、本土坑が新しい。形状は直径約85cm、深さ49cmの円筒形を呈する。底面には桶の側板痕と推定される溝状の窪みが巡る。埋土中からは礫4点が出土したが、埋没過程で混入若しくは投げ入れられたものと考えられる。他の出土遺物は土師器片9点が混入していた。陶磁器の出土はないが、埋土の特徴から近世以降の遺構と判断した。

3. 溝

本時期の溝は生産に伴うものが殆どであり、個々に取り上げる必要があるものは少ない。溝個々の規模などは一覧表に記しているため、そちらを参照していただき、大量の陶磁器が廃棄されていた溝や環壕集落に関連する溝のみ本文で説明する。

柳島川端 21区5号溝 (第360・263・379～388図、P L-93・158～167)

19区から21区に続き、21区で南に屈曲する。断面の特徴は19区と20区境地点とはかなり異なり、埋土中央に2から5cmの厚さでAs-Aが堆積していた(第263図)。同様な堆積状態を示す溝が公田東遺跡I区南西隅(9号溝)に認められ、断面形も似ている(第264図)ことから、両溝はクランク状に屈曲して続く可能性が高い。21区での規模は上幅幅5.6m、深さ1.5mで、埋土下層は流水を示す堆積状態であった。

本溝はAs-A降下時には機能しておらず、10cmほどの間層を挟んだ段階の窪みに家屋を整理した際の捨て場(P L-93)として利用された。窪みからは炭化材、焼土化した壁、陶磁器がセット関係をもって出土している。なかでも陶磁器は幕末期の良好な一括資料(第379～388図)であり、県内出土近世陶磁器の基本資料となる。陶磁器の接合資料をみると、接合面で二次的な被熱痕の有無が分かれる個体がかかり存在し、整理後に焼却された可能性が考えられる。

本溝の開削時期は不明であるが、公田東遺跡I区では、平行する10号溝埋土にAs-B混土層が存在する。したがって、中世には10号溝が使用されていたが、近世に至ってI区6号溝が使用されたと考えられる。

柳島川端 21区2号溝 (第360図)

柳島川端遺跡21区から延びる2号溝は、公田東遺跡I区方向に続いている。本溝は、公田東遺跡I区では6から8号溝という名称となる。I区6～8号溝は砂で埋没しており、道路下の屈曲部付近から変流している。出土遺物に近代以降の陶磁器があり、近世の遺構ではない可能性が高い。現状では浅いが、近世以降の用水であろう。

柳島川端 20・21区1・3号溝、公田東 I区3・5号溝 (第360・389図)

柳島川端遺跡20区から公田東遺跡I区に延びる。本溝も近代以降の陶磁器が出土しており、時期的に

新しい。埋土に砂を含むことから近世以降の用水であろう。

亀里環壕遺構群に向かう堀 (第400~402図)

ほ場整備以前の地図や空中写真をみると、亀里環壕遺構群の堀から北西に延びるやや蛇行した地境が容易に見いだせる。この堀と推定される地境を現在の地図と照合すると、公田東遺跡1カ所と榑島川端遺跡2カ所の計3カ所で調査区を通過する。

正確な地点は照合しにくいのが、位置的には公田東遺跡IV区では30号から34号溝が比定される。溝群内で最も新しいIV区30号溝は、上端幅2.4m、深さ85cmと最も規模が大きい。出土遺物はなく時期決定は困難である。30号溝より古いIV区31号溝の上端幅は1.6mであるが、深さは30cmと浅い。本溝も出土遺物から時期を決定することはできないが、埋土にAs-Bを含むことから、中世以降と考えられる。また、先の30号溝上層の新溝にはAs-Aが含まれるとの所見があり、江戸時代後期以降も使用されていたようである。他の溝は規模が小さく、IV区30・31号溝が堀に比定されよう。

榑島川端遺跡19区から21区では、前述した5号溝を中心とした溝群が比定されよう。確認された溝は21区と公田東I区でクランク状に屈曲するが、地図や空中写真では詳細は確認できない。しかし、この屈曲は公田東遺跡I区で確認されたように、中世から近世まで多少場所を変えながら継続使用(公田東I区9・10号溝)され、近代頃からは直線的(榑島川端21区1号溝、公田東I区3・5号溝)になっていると推定される。

北端の堀は、榑島川端17区52号溝(第255図)付近が比定され、52号溝の規模が最も大きい。上幅は3m前後で深さは90cmである。埋土は砂質で、流水があったのであろう。平行する17区62号溝は上幅2.2m、深さ70cmと小規模である。両溝共に中世遺物が出土しているが、51号溝出土の瓦(第334図51溝P-4)は近世まで下る可能性がある。また、より規模の小さい17区52号溝も平行し、中世遺物が出土して

いる。

これらの溝は、時期決定ができないものが多いが、全体を通してみると、中世までは通るであろう。その後、近世も継続使用され、榑島川端17区をのぞけば近代以降も継続されていた痕跡が認められる。また、付近の聞き取りでは、「30年程以前には亀里環壕遺構群で現も残る堀に北から水が流れ込み、更に南に流れ出していた」ことが確認できている。今回調査した溝群はこの堀に相当し、榑島川端17区、21区の環壕集落を通過し、亀里環壕遺構群に至り、更に南の環壕集落へと向かっていたのであろう。今回は、調査区幅が狭く環壕集落の全体像を明らかにすることは不可能であったが、今後の面的調査に期待したい。

4. 水田 (付図16~20、第369図~第371図)

本地区には浅間A紅石(1783年降下)がほとんど残っていない。そのため、近世以後の遺構については時期を特定する材料に乏しいが、ここでは利根川瀬替え以降の水田と考えられる遺構を一括して扱う。

近世の水田と考えられる遺構は、榑島川端5区・19区、公田東I区・II区・III区で確認されている。

榑島川端5区では、南北方向の39号溝の東側に、17m間隔で連結する3本の東西方向の溝が確認された。その他の施設はないが、これらは水田の区画に伴う溝の可能性が高い。

榑島川端19区では、利根川の洪水堆積物と考えられるシルト・砂層が2層あり、第2・第3洪水層とした。いずれも残っていたのは数cmの薄層で、それぞれの面で調査を実施したが、水田区画は検出できなかった。この調査時に確認されたのが、付図17に掲載した各溝である。これらの溝は、下層のAs-B痕土下田および第1洪水層下水田の区画を踏襲するものが多く、おそらく近世においても水田として機能していたものと考えられる。本地区の主要水路である44号溝は、18区との間の現道路下を通過しており、水路に隣接した現道の東側は水田域、一段高い西側は畑地だったのであろう。なお、南北方向の8号

溝西側の一面に、東西・南北の溝が集中する場所がある。これらは一定の間隔で並ぶ一連の溝が重複しているもので、「苗代」の可能性が高い。

公田東Ⅰ区では、東側の一部で溝（2号）と段差が認められた。溝は本地区の主要用水路である4号溝から引水しており、水田区画に伴うものと見られるが、区画方向は条里地割からずれている。おそらく、用水路の方向に合わせた結果であろう。

公田東Ⅱ区・Ⅲ区では、両区にまたがった一定範囲で条里地割に沿った整然とした区画が確認された。このうち、東西グリッド250ラインに沿って20・22・25・80・83・84号溝が重複する位置は、Hr-FP泥炭混土下水田の56号・85号溝、As-B下水田の大アゼ、As-B混土下水田の27号溝が重なる推定坪境ラインである。区画の大半は溝によるものであるが、一部に段差やスジ状の耕作痕も認められる。また、16溝で囲われた内の一部で、馬の足跡が認められた。これらの区画は浅間A軽石混土を取り去った面で確認されたもので、複数時期のものが重複しているが、東西方向の溝は15mほどの間隔で並んでいる。なお、この区画は畠の可能性もあるが、ここで扱っておく。

表4 近世遺構一覧表

井戸（1）

遺構名称	位置	AT-81	重複	5号溝と重複。	埋没土	日層を切っている。		
標島川端6区	形状	円形	石組み井戸	規模	1.75×1.67m	深さ3.00m	湧水層	
1号井戸	出土遺物・その他	江戸末陶磁器片21点出土。						
遺構名称	位置	AN-79	重複		埋没土	As-Aを含む粘質土。		
標島川端4区	形状	円形	石組み井戸	規模	2.70×2.35m	深さ3.42m	湧水層	底面より約50cmの砂層中。
2号井戸	出土遺物・その他	中・近世陶磁器片10点、砥石1点出土。底面突出。						
遺構名称	位置	AU-92	重複	1号溝と重複。	埋没土	粘質土。As-Bを切る。		
標島川端7区	形状	円形	石組み井戸の可能性有	規模	2.55×2.33m	深さ2.40m	湧水層	底面より約20cmの黒色土。
3号井戸	出土遺物・その他	土師器片15点、軟質陶器片1点出土。底面袋状。						
遺構名称	位置	AO-16	重複		埋没土	粘質土。		
標島川端2区	形状	円形	石組み井戸	規模	1.74×1.60m	深さ1.20m	湧水層	
4号井戸	出土遺物・その他	近世陶磁器片4点出土。						
遺構名称	位置	AP-16	重複		埋没土	粘質土。		
標島川端2区	形状	円形	石組み井戸	規模	1.78×1.42m	深さ1.92m	湧水層	
5号井戸	出土遺物・その他	近世陶磁器片2点出土。						
遺構名称	位置	AR-18	重複	石組みの一部を確認。調査区外へ延びる。	埋没土	黄褐色土。		
標島川端2区	形状	円形？	石組み井戸？	規模	不明。		湧水層	
6号井戸	出土遺物・その他	なし。						

5. 畠（付図16～20、第374図～第376図）

確認状況は水田と同じであるが、畠が確認されたのは標島地区だけである。これは調査上の問題もあるが、標島地区が畠の確認が容易であることにも起因する。瀬替え以後、利根川はたびたび洪水を引き起こしており、東縁にある標島地区はその度毎に洪水砂をかぶっている。標島地区では、第1洪水層の上面は全て砂・シルトの土質であり、以前は低地であった地区も畑地へと変化している。また、土層間にはさまる砂・シルトが、畠の確認を容易にしていることも、一つの要因である。

畠は標島川端17区・18区台地上の3箇所を確認された。17区では、グリッド114～118間の西側拡張区で、東西・南北方向のサクが重複した状態で認められた。サク間はいずれも1.3mである。18区では、調査区のほぼ全域で東西方向のサクが認められた。サク間は1.5m・1.8m・2mのものがあり、深さもそれぞれで異なる。18A区では、第2洪水層で埋没した畠が確認された。残存状況はあまり良くないが、東西方向の一連の畠で、畠の高さは5～10cm、畠間は60cmほどである。時期を決定できる遺物は出土していない。なお、北側の63溝は推定坪境にあたる。

井戸(2)

遺構名称	位置	A U-112	重複	43号土坑、51号溝と重複。	埋没土
標島川端17区	形状	円形 箱状	規模	1.34×1.25m 深さ0.95m	湧水層
13号井戸	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	C R-196	重複		埋没土 黄灰色砂質。
標島川端20区	形状	円形 変型井戸 円筒状	規模	1.08×1.03m 深さ1.44m	湧水層
1号井戸	出土遺物・その他	18C代の磁器片1点出土。底面に円礫が多数散入。			

土坑

遺構名称	位置	B M-152	重複		埋没土 田層と地山の混土層。
標島川端18区	形状	円形 箱状	規模	1.24×1.10m 深さ0.12m	長軸方位 N-4°W
1号土坑	出土遺物・その他	土師器小片9点出土。			
遺構名称	位置	B N-151	重複		埋没土 田層と地山の混土層。
標島川端18区	形状	長方形 箱状	規模	2.57×0.71m 深さ0.25m	長軸方位 N-75°E
2号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	B K-145	重複		埋没土 田層と地山の混土層。
標島川端18区	形状	長方形 箱状	規模	2.64×0.70m 深さ0.11m	長軸方位 N-88°E
24号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	B L-141	重複	17号溝と重複。	埋没土
標島川端18区	形状	不整円形 箱状	規模	0.75×0.64m 深さ0.13m	長軸方位 N-21°W
47号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	B K-143	重複	17号溝と重複。	埋没土
標島川端18区	形状	円形 箱状	規模	0.88×0.85m 深さ0.49m	長軸方位
121号土坑	出土遺物・その他	土師器小片9点、円礫4点出土。磨礫と考えられる。			
遺構名称	位置	B L-143	重複		埋没土
標島川端18区	形状	長方形 箱状	規模	1.95×0.92m 深さ0.14m	長軸方位 N-3°E
122号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	C C-175	重複		埋没土 灰黄褐色の粘質土。As-A 混入。
標島川端19区	形状	隅丸長方形 箱状	規模	1.68×0.97m 深さ0.17m	長軸方位 N-10°W
1号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	C C-175	重複		埋没土 As-A を含む粘質土。
標島川端19区	形状	長方形? 箱状	規模	2.33×1.06m 深さ0.11m	長軸方位 N-8°E
2号土坑	出土遺物・その他	なし。			
遺構名称	位置	C O-195	重複	1号住居跡、1号溝と重複。	埋没土
標島川端20区	形状	円形 2段に落ち込む丸底	規模	0.92×0.81m 深さ0.55m	長軸方位
1号土坑	出土遺物・その他	江戸末～明治の陶器片1点出土。			
遺構名称	位置	G E-298	重複		埋没土
公田東IV区	形状	不明 箱状	規模	1.39×0.49m 深さ0.09m	長軸方位
1号土坑	出土遺物・その他	土師器片1点出土。西半部調査区外。			
遺構名称	位置	G E-298	重複		埋没土
公田東IV区	形状	不明 箱状	規模	0.90×0.80m 深さ0.08m	長軸方位
2号土坑	出土遺物・その他	土師器片2点出土。西半部調査区外。			
遺構名称	位置	G E-298	重複		埋没土
公田東IV区	形状	不明 皿状	規模	1.05×0.77m 深さ0.11m	長軸方位 N-64°W
3号土坑	出土遺物・その他	土師器片6点出土。西半部調査区外。			

溝(1)

遺構名称	位置	A R~A S-66	重複		埋没土 暗褐色砂質土
標島川端5区	調査長	6m	幅・深さ	0.66m×0.3m	出土遺物
38号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	A R-64~73	重複		埋没土 暗褐色砂質土
標島川端5区	調査長	37.5m	幅・深さ	1.4m×0.26m	出土遺物 第37区
39号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	A L-12	重複		埋没土 褐色土
標島川端9区	調査長	3.5m	幅・深さ	1.82m×0.83m	出土遺物
40号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	A R~A S-70	重複		埋没土 暗褐色砂質土
標島川端5区	調査長	5.5m	幅・深さ	0.73m×0.15m	出土遺物
41号溝	走向・その他				

溝(2)

遺構名称	位置	A X~B E-125	重複		埋設土
柳島川端7区	調査長	24m	幅・深さ		出土遺物
74号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	A N-70	重複		埋設土 暗褐色土
柳島川端13区	調査長		幅・深さ		出土遺物 第377図
110号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B R-152~158	重複		埋設土 淡黄灰色シルト
柳島川端18区	調査長	22m	幅・深さ		出土遺物
26号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B L~B Q-152~155	重複		埋設土 As-Aを微量含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	23m	幅・深さ	0.64m×0.06m	出土遺物
27号溝	走向・その他	3 記述			
遺構名称	位置	B O~B Q-148~151	重複		埋設土 As-Aを微量含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	8.5m	幅・深さ	0.85m×0.06m	出土遺物
28号溝	走向・その他	3 記述18区33号溝と同一?			
遺構名称	位置	B F-138~141	重複		埋設土 As-Aを含む灰褐色土
柳島川端18区	調査長	10.5m	幅・深さ	0.61m×0.23m	出土遺物
29号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B I-138	重複		埋設土 白灰色土
柳島川端18区	調査長	3.5m	幅・深さ		出土遺物
32号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B P~B R-163~164	重複		埋設土 白色シルト質土
柳島川端18区	調査長	10m	幅・深さ	1.25m×0.42m	出土遺物
63号溝	走向・その他	旧18A区1号溝			
遺構名称	位置	B V~C A-166	重複		埋設土 田b層
柳島川端19区	調査長	20m	幅・深さ	0.8m×0.2m	出土遺物
4号溝	走向・その他	19区9号溝と同一?			
遺構名称	位置	B V~C B-166	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長	23m	幅・深さ		出土遺物
5号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B V~B X-170	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長	10m	幅・深さ		出土遺物
6号溝	走向・その他	19区7・10・11・12・13・57・58・59・60・61・62・63号溝と同一? 2 祀墓區区画溝。			
遺構名称	位置	B X-166~175	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長		幅・深さ		出土遺物
8号溝	走向・その他	19区53・54・55・56号溝と同一? 2 祀墓區区画溝。			
遺構名称	位置	C B-165~171	重複		埋設土 灰白色シルト
柳島川端19区	調査長	24m	幅・深さ	1.18m×0.46m	出土遺物
9号溝	走向・その他	19区4号溝と同一か?			
遺構名称	位置	C G~C K-190~193	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長		幅・深さ		出土遺物 第377図
44号溝	走向・その他	20区1・11・13・15号溝・21区1・2・3・5号溝・東1区3・5・6・7・8号溝と同一?			
遺構名称	位置	C A~C C-174	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長	6.5m	幅・深さ		出土遺物
46号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	C E-183~185	重複		埋設土 灰褐色シルト
柳島川端19区	調査長	10.5m	幅・深さ	0.62m×0.14m	出土遺物
47号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	C E-183~185	重複		埋設土 灰褐色シルト
柳島川端19区	調査長	10m	幅・深さ	0.5m×0.07m	出土遺物
48号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	C E~C J-181~185	重複		埋設土 灰褐色シルト
柳島川端19区	調査長	27m	幅・深さ	0.32m×0.09m	出土遺物
49号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	C G~C I-185~189	重複		埋設土 淡灰褐色土
柳島川端19区	調査長	19m	幅・深さ	0.34m×0.15m	出土遺物
50号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	B X-175~179	重複		埋設土
柳島川端19区	調査長	16m	幅・深さ	3.24m×0.51m	出土遺物
55号溝	走向・その他				

溝(3)

遺構名称	位置	CO~CW-195~202	重複		埋没土	As-Bを含む暗灰褐色土
標島川端20区	調査長	48m	幅・深さ	1.64m×0.43m	出土遺物	第378段
1号溝	走向・その他	19区44号溝と同一?				
遺構名称	位置	CW~DD-205~208	重複		埋没土	
標島川端20区	調査長	32m	幅・深さ		出土遺物	第378段
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CF-194	重複		埋没土	
標島川端20区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
10号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	CW~DC-201~205	重複		埋没土	暗褐色土
標島川端20区	調査長	22m	幅・深さ	1.6m×0.59m	出土遺物	
15号溝	走向・その他	19区44号溝と同一?				
遺構名称	位置	DG~DP-206~213	重複		埋没土	As-Bを含む暗灰褐色土
標島川端21区	調査長	48m	幅・深さ	1.64m×0.43m	出土遺物	第378段
1号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DG~DN-207~212	重複		埋没土	灰白色シルト
標島川端21区	調査長	39m	幅・深さ	1.4m×0.35m	出土遺物	
2号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DI~DP-208~213	重複		埋没土	灰黄褐色シルト(第2層層相)
標島川端21区	調査長	39m	幅・深さ	7.78m×0.2m	出土遺物	
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DF~DH-209~211	重複		埋没土	
標島川端21区	調査長	6m	幅・深さ	5.25m×1.35m	出土遺物	
4号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DG~DH-207~210	重複		埋没土	灰色シルト
標島川端21区	調査長	8m	幅・深さ	5.62m×1.47m	出土遺物	第379段~380段
5号溝	走向・その他	19区44号溝と同一?				
遺構名称	位置	DI-208	重複		埋没土	
標島川端21区	調査長	4m	幅・深さ		出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DI-206~207	重複		埋没土	灰褐色土
標島川端21区	調査長	5m	幅・深さ	0.8m×0.11m	出土遺物	
11号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	EE~EG-217~218	重複		埋没土	灰褐色土
公田東1区	調査長	13m	幅・深さ	0.46m×0.08m	出土遺物	
1号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DV~EB-214~216	重複		埋没土	灰色土
公田東1区	調査長	28m	幅・深さ	1.04m×0.27m	出土遺物	
2号溝	走向・その他	1区4号溝と同一?				
遺構名称	位置	DR~DT-214~217	重複		埋没土	灰色砂壤土
公田東1区	調査長	14.5m	幅・深さ	1.18m×0.42m	出土遺物	
3号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DS~DW-214~218	重複		埋没土	オリブ灰色砂壤土
公田東1区	調査長	18m	幅・深さ	0.82m×0.33m	出土遺物	第389段
4号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DS~DU-214~217	重複		埋没土	灰色砂壤土
公田東1区	調査長	16m	幅・深さ	~×0.27m	出土遺物	19世紀代陶磁器出土。第389段
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DQ-215~217	重複		埋没土	灰色粘質土
公田東1区	調査長	7m	幅・深さ	~×0.15m	出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DQ-215~217	重複		埋没土	灰色土
公田東1区	調査長	8m	幅・深さ	~×0.17m	出土遺物	
7号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DP~DQ-215~217	重複		埋没土	
公田東1区	調査長	10m	幅・深さ	0.42m×0.15m	出土遺物	
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	DN~DP-215~217	重複		埋没土	黒褐色土。埋没土中にAs-A。
公田東1区	調査長	7m	幅・深さ	3.53m×1.08m	出土遺物	
9号溝	走向・その他					

溝(4)

遺構名称	位置	FG~FJ-238~241	重複		埋没土
公田東Ⅱ区	調査長	18m	幅・深さ		出土遺物
6号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FI~FO-241	重複		埋没土 灰色砂質土
公田東Ⅱ区	調査長	27m	幅・深さ	1.16m×0.28m	出土遺物
7号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FI-234~235	重複		埋没土 灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	26m	幅・深さ	1.1m×0.14m	出土遺物
16号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FM-235~241	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	23.5m	幅・深さ	0.7m×0.2m	出土遺物
17号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FJ~FO-241~242	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	23m	幅・深さ	0.67m×0.2m	出土遺物
18号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FL~FQ-245	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	21m	幅・深さ	0.53m×0.18m	出土遺物
19号溝	走向・その他	Ⅱ区81号溝と同一?			
遺構名称	位置	FN~FR-249	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト質土
公田東Ⅱ区	調査長	16m	幅・深さ	0.74m×0.17m	出土遺物
20号溝	走向・その他	Ⅱ区84号溝と同一?			
遺構名称	位置	FM-242~247	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	23.5m	幅・深さ	0.37m×0.22m	出土遺物
21号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FO-249~251	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	8m	幅・深さ	0.7m×0.12m	出土遺物
22号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FS-254	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	4m	幅・深さ	1.06m×0.2m	出土遺物
23号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FN~FR-249	重複		埋没土 As-Bを含む灰黄褐色シルト
公田東Ⅱ区	調査長	7m	幅・深さ	0.43m×0.16m	出土遺物
25号溝	走向・その他	Ⅱ区80・83号溝と同一?			
遺構名称	位置	FU~FW-250	重複		埋没土 灰色土
公田東Ⅱ区	調査長	7m	幅・深さ	1.1m×0.17m	出土遺物
80号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FT~FU-246	重複		埋没土 灰褐色細砂
公田東Ⅱ区	調査長	2m	幅・深さ	0.86m×0.35m	出土遺物
81号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FV-250	重複		埋没土 灰色土
公田東Ⅱ区	調査長	2m	幅・深さ	0.58m×0.15m	出土遺物
83号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FU~FV-250	重複		埋没土 灰褐色土
公田東Ⅱ区	調査長	6.5m	幅・深さ	1.36m×0.26m	出土遺物
84号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GE~GG-283~285	重複		埋没土 As-Cを含む黒色土
公田東Ⅲ区	調査長	7m・2m	幅・深さ	0.63m×0.3m	出土遺物
1号溝	走向・その他	IV区30号溝と同一?			
遺構名称	位置	GF-279~283	重複		埋没土
公田東Ⅲ区	調査長	16m	幅・深さ		出土遺物
3号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	GD~GF-277	重複		埋没土
公田東Ⅲ区	調査長	9m	幅・深さ		出土遺物
4号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FY~GB-263	重複		埋没土
公田東Ⅲ区	調査長	9.5m	幅・深さ	0.44m×0.1m	出土遺物
7号溝	走向・その他				
遺構名称	位置	FV-262~267	重複		埋没土 褐色土
公田東Ⅲ区	調査長	17m	幅・深さ	-×0.2m	出土遺物
8号溝	走向・その他	西川開運			

溝(5)

遺構名称	位置	FR~FU-258	重複		埋没土	灰色シルト
公田東Ⅲ区	調査長	10m	幅・深さ	1.48m×0.4m	出土遺物	
12号溝	走向・その他	西川開運				
遺構名称	位置	FV-263~266	重複		埋没土	
公田東Ⅲ区	調査長	17m	幅・深さ		出土遺物	
13号溝	走向・その他	西川開運				
遺構名称	位置	FU-264~266	重複		埋没土	
公田東Ⅲ区	調査長		幅・深さ		出土遺物	
14号溝	走向・その他	西川開運				
遺構名称	位置	FV-263~267	重複		埋没土	
公田東Ⅲ区	調査長	15m	幅・深さ		出土遺物	
15号溝	走向・その他	西川開運				
遺構名称	位置	FV-263~266	重複		埋没土	
公田東Ⅲ区	調査長	17m	幅・深さ		出土遺物	
16号溝	走向・その他	西川開運				
遺構名称	位置	GB~GE-288~290	重複		埋没土	
公田Ⅳ区	調査長	7.5m	幅・深さ	1.4m×0.43m	出土遺物	
8号溝	走向・その他	V区5号溝と同一?				
遺構名称	位置	GC~GF-292~294	重複		埋没土	灰色シルト
公田東Ⅳ区	調査長		幅・深さ		出土遺物	
16号溝	走向・その他	ABは近世V区15・19・20号溝・Ⅳ区17・25号溝と同一? Cは中世~近世まで継続する。				
遺構名称	位置	FY~GC-282~283	重複		埋没土	
公田東Ⅳ区	調査長	8.5m	幅・深さ	3.56m×0.82m	出土遺物	
30号溝	走向・その他					
遺構名称	位置		重複		埋没土	
公田東Ⅳ区	調査長		幅・深さ	1.65m×0.4m	出土遺物	
31号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GH~GJ-292~293	重複		埋没土	細砂層
公田東Ⅴ区	調査長	12m	幅・深さ	1.02m×0.39m	出土遺物	
5号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GM-302~306	重複		埋没土	灰色シルト
公田東Ⅴ区	調査長	15m	幅・深さ	2.4m×0.15m	出土遺物	
6号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GL-301~305	重複		埋没土	灰褐色土
公田東Ⅴ区	調査長	17m	幅・深さ	~×0.46m	出土遺物	
8号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GK~GM-304~305	重複		埋没土	暗灰褐色土
公田東Ⅴ区	調査長	13m	幅・深さ	~×0.46m	出土遺物	
9号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	GI~GK-296~297	重複		埋没土	
公田東Ⅴ区	調査長	5m	幅・深さ	3.15m×0.55m	出土遺物	
15号溝	走向・その他					
遺構名称	位置	HO~HP-422	重複		埋没土	
公田池尻6区	調査長	5m	幅・深さ		出土遺物	
3号溝	走向・その他	7区15号溝と同一?				

表5 縄文時代出土遺物観察表

樽島川端 遺構外(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	縄文土器 黒糸文系土器	19区Ⅷ層	割断片	厚さ0.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎に ◎赤褐色2.5YR5/4	黒糸Lが縦位に施されている。早期。
P-2	縄文土器 黒糸文系土器	19区Ⅷ層	割断片	厚さ0.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎に ◎赤褐色2.5YR5/4	黒糸Lが縦位に施されている。早期。
P-1	縄文土器 深鉢	20区Ⅵa層	口縁部片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎に ◎褐色7.5YR7/4	鼓状口縁で細い粘土紐による浮線文が直線や渦巻状に張り付けられている。浮線文上には刻みが施されている。口唇部にも刻みのある浮線文が施されている。磨礫b式。
P-1	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 5YR5/6	爪形文がやや弧状に施される。磨礫b式。
P-4	縄文土器 浅鉢?	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎淡黄色 2.5YR/3	円形刺突文が弧状に施される。前期末。
P-6	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	口縁部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎に ◎黄褐色10YR6/3	「く」の字に内湾する口縁部で内面に沈線が1条走る。外面は3本の沈線が平行して走り、間に連続する円形刺突文が施される。加曾利B1式。
P-14	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰色 5Y4/1	沈線による垂直の区画文や弧線文が施されている。加曾利B2式。
P-13	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	爪形文が弧状に施され、間に刻みが施されている。磨礫b式。
P-61	縄文土器 深鉢	19区Ⅵb層	口縁部片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎に ◎褐色5YR7/4	細い粘土紐を張り付けた浮線文の土器。浮線で直線や弧状の文様を描く。浮線には刻みが施されている。口縁部の突起には断面の形をした突起が付けられる。磨礫b式。
P-3	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎に ◎褐色5YR6/4	平行する除起文に刻みが施され、下にR.L縄文が施されている。十三書式。
P-2	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	爪形文と円形刺突文が施される。磨礫b式。P-1(4)と同一個体の可能性がある。
P-5	縄文土器 深鉢	20区Ⅴ層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎に ◎黄褐色10YR7/4	刻みが施された浮線文が5条平行に走る。磨礫b式。
P-2	弥生土器 壺	19区Ⅵa層	体部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎赤褐色 10R4/4	R.L縄文を横位施文。
P-1	弥生土器 壺	19区Ⅵa層	口縁部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎赤色 10R4/6	口縁部はわずかに外反し、頸部は緩やかに括れる。外面にR.L縄文を横位施文、内面横位の磨き。吉ヶ谷・赤井戸系土器。
P-54 ・55	縄文土器 深鉢	19区Ⅵb層	口縁部・割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰褐色 7.5YR6/2	同一個体と考えられる破片で、細い粘土紐を張り付けた浮線文の土器。浮線で直線や渦巻の文様を描く。浮線には刻みが施されている。磨礫b式。
P-53	縄文土器 深鉢	19区Ⅵb層	口縁部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎に ◎褐色7.5YR6/3	細い粘土紐を張り付けた浮線文の土器。浮線で直線や渦巻の文様を描く。浮線には刻みが施されている。口唇部には刻みが施されている。磨礫b式。
P-56	縄文土器 深鉢	19区Ⅵb層	割断片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎淡黄色 2.5Y8/2	平行沈線で割断文様を横位に区画した後、区画内に文様を施文する。磨礫b式。
P-58	縄文土器 深鉢	19区Ⅵb層	割断片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎灰色 7.5Y5/1	隆線による横円区画を上下に配し、区画内にR.L縄文を施す。加曾利E3~4式。

徳島川端 遺構外(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-57	縄文土器 深鉢	19区VIb層	割断片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/8	結節縄文が横位に施されている。前期後半。
番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・#)	石 質	特 徴 ・ そ の 他
S-4	打製石斧	19区VI層	完存	長さ12.8幅5.6 厚さ1.6重さ124	細粒輝石安山岩	短筒形をなし表面に大きく自然風。斧身はやや湾曲し、刃部は斜めで基部は丸い。裏面の刃部と着柄部に摩耗痕がある。
S-3	剥片石器	19区VI層	完存	長さ7.8 幅10.8 厚さ3.2重さ268	黒色頁岩	裏面はほぼ1次割離だけで表面は自然面。直線的な1側縁部に表裏より割離を加え刃部としている。
S-1	石鏃	21区表土	ほぼ完存	長さ1.8 幅1.2 厚さ0.5 重さ1	黒曜石	三角形をなす無茎の石鏃で基部は浅く湾入。やや扁平な作りである。
S-2	石鏃	19区VI層	完存	長さ1.8 幅1.2 厚さ0.3 重さ1	黒曜石	三角形をなす無茎の石鏃で基部はわずかに湾入。やや扁平な作りである。
S-1	石鏃	19区VI層	完存	長さ2.4 幅1.5 厚さ0.3 重さ1	チャート	三角形をなす無茎の石鏃で基部は浅く湾入。丁寧な作りである。
S-1	石鏃	20区表土	完存	長さ1.7 幅1.8 厚さ0.3 重さ1	流紋岩	無茎の石鏃で基部は深く湾入。両側縁部は丸みを持つ。丁寧な作りである。

公田東 遺構外

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	縄文土器 深鉢	旧河邊覆土	口縁部片		◎砂粒を含む。 ◎不良 ◎灰白色5 Y7/1	平口縁で端部に連続した刻み目。直下に横位の沈線が1条走り羽状の斜行沈線が施される。加曾判B1式。
P-1	縄文土器 深鉢	IV区VI層	口縁部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい貴 褐色10YR7/3	口縁部は無文で直下に前面三角形の凸帯が1条横位に走る。凸帯より沈線が見られ、区内内磨消し。地文に原形R.L縄文を施す。加曾判B4式。
P-8	縄文土器 深鉢	V区GO-31 2VII層	割断片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい貴 褐色10YR6/4	地文にR.L縄文を施し、刻み目がある浮線文が4条横位に走る。磨礫b式。
番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・#)	石 質	特 徴 ・ そ の 他
S-2	剥片石器	I区VI層	完存	長さ4.6 幅6.9 厚さ1.4 重さ32	黒色頁岩	不定形の剥片で、弧状をなす1側縁部は両面より細い割離を加え刃部としている。一部に自然面を残す。
S-3	剥片石器	I区VI層	完存	長さ6.2 幅9.5 厚さ1.9 重さ101	ダイヤモンド質凝灰岩	不定形の剥片で表面は自然面を残す。側縁部の全周に使用による細い割離が見られ、直線的な1側縁部には片面より細い割離を加え鋸歯状の刃部としている。
S-1	石鏃	I区EII- 221III層	一部欠損	長さ2.4 幅1.4 厚さ0.4 重さ1	黒曜石	無茎の石鏃で身が長い。両側縁部は長線的で基部は深く湾入。
S-1	石鏃	II区FA- 232	先端部欠損	残存長2.2幅1.2 厚さ0.3 重さ1	黒色安山岩	無茎の石鏃で基部は浅く湾入。粗雑な作りである。
S-1	石鏃	I区2号周 溝墓	完存	長さ2.4 幅1.6 厚さ0.4 重さ1	黒曜石	無茎の石鏃で両側縁部はやや外湾し、基部は深く湾入。丁寧な作りである。
S-1	石鏃	IV区2号周 覆土	完存	長さ2.6幅1.6 厚さ0.4 重さ1	チャート	二等辺三角形をなす無茎の石鏃で、基部はわずかに湾入。
S-1	石鏃	IV区竪立柱 穴内	ほぼ完存	長さ2.3 幅1.5 厚さ0.4 重さ1	黒曜石	ハート形をなす無茎の石鏃で、基部は深く湾入。
S-2	石鏃	II区3号竪 立	ほぼ完存	長さ1.7 幅1.3 厚さ0.3 重さ1	チャート	二等辺三角形をなす小型の無茎石鏃で、基部は浅く湾入。
S-2	石鏃	IV区	基部欠損	残存長2.2幅1.6 厚さ0.5 重さ1	チャート	基部先端を欠損する有茎の石鏃で、身は二等辺三角形をなす。
S-1	石鏃	I区1号土 坑	先端部欠損	残存長1.9幅1.3 厚さ0.3 重さ1	埴質頁岩	二等辺三角形をなす小型の無茎石鏃で、両側縁部はやや鋸歯状をなし、基部はやや深く湾入。
S-3	有古尖頭鏃	II区EY- 227	先端部と基 部を欠損	残存長3.7幅1.5 厚さ0.6 重さ3	硬質泥岩	柳葉状の身で断面形は菱形。基部への移行は緩やかである。

公田池尻 遺構外

番号	種類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石質	特徴・その他
S-1	石匙	4区21号溝 覆土	完存	長さ4.5 幅6.9 厚さ0.6 重さ25	黒色頁岩	狭長薄片を使用した横形の石匙で、握み部は粗く作出されている。刃部は片面より押し削離され作出されている。
S-2	打製石斧	5区5号溝 覆土	基部欠損	残存長11.0 幅7.5 厚さ2.0 重さ180	黒色頁岩	線形をなし両側縁部は丁寧に潰され、刃部は丸刃で使用による割れが生じている。
S-5	打製石斧	7区2号溝 覆土	基部欠損	残存長7.8 幅5.5 厚さ1.7 重さ81	黒色頁岩	短皿形をなし表面に自然面を残す。刃部は丸く身に反りを持つ。刃部は使用により摩滅し、身に平行する使用痕がみられる。
S-1	石鏃	1区4面	完存	長さ2.0 幅1.6 厚さ0.3 重さ1	黒色安山岩	二等辺三角形をなす無茎の石鏃で、両側縁部は内湾し基部はわずかに内湾する。粗い刺摩で作られている。
S-1	切片石器	2区	完存	長さ7.3 幅8.0 厚さ1.8 重さ108	黒色頁岩	やや内湾形をなす狭長切片で表面は自然面である。両側縁部の約2/3を刃部とし、使用により粗い割れが部分的にみられる。
S-1	石鏃	2区As-C 下水田面	先端部と一方の基部を欠損	残存長2.9 幅2.4 厚さ0.3 重さ3	黒曜石	ハート形をなす無茎の石鏃で、基部は深く内湾。
S-2	石鏃	2区As-C 下水田面	先端部欠損	残存長2.4 幅1.6 厚さ0.4 重さ1	珪質頁岩	身が二等辺三角形をなす有茎の石鏃で、基部は凸基である。
S-1	石鏃	5-2区	両基部欠損	残存長2.9 幅1.7 厚さ0.4 重さ2	黒色安山岩	二等辺三角形をなす短身の無茎石鏃で、両側縁部は直線的で基部は深く内湾。
S-2	有茎尖頭器	7区黄土	両端部欠損	残存長4.9 幅1.5 厚さ0.4 重さ4	珪質頁岩	柳葉状をなし断面はレンズ形。両側縁部はやや鋸歯状をなし精巧な作りである。
S-4	石鏃	9-2区表土	先端部欠損	残存長1.7 幅1.5 厚さ0.3 重さ1	チャート	三角形をなす小形の石鏃で基部はわずかに内湾。
S-1	石鏃	3区3坑	完存	長さ3.3 幅2.2 厚さ0.4 重さ	黒曜石	ハート形をなす無茎石鏃で、基部が深く内湾。丁寧に作りである。

表6 弥生時代出土遺物観察表

榑島川端 21区1号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	弥生土器 甕	覆土	口縁部～胴部片	残存高5.5 口径(16.8)	①砂粒を少量含む。 ②良好 ③にぶい黄 褐色色10YR7/3	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸い。頸部は緩やかに括れる。頸部に左回り6本1単位の等間隔止塵状文を1段施す。外面横位の飾で、中期末～後期初期。
P-2	弥生土器 甕	覆土	胴部片		①砂粒を多く含む。 ②不良 ③にぶい7.5 Y4/1	頸部に左回り等間隔止塵状文を1段施す。内外面横で、P-1と同一個体の可能性がある。

榑島川端 21区2号住居(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	弥生土器 甕	北壁中央部 床面	頸部～体部片	残存高26.8 頸部径(11.6) 体部最大径 (29.6)	①砂粒を多く含む。 ②不良 ③黄灰色 2.5Y5/1	頸部は緩やかに括れる、左回り5本1単位の間隔の狭い等間隔止塵状文を1段施す。頸部に5本1単位の波形の大きい柳葉状文を1段施す。内外面横で、中期末～後期初期。
P-2	弥生土器 甕	ピット6内	頸部～体部片	残存高 20.5 頸部径(14.0) 体部最大径 (23.6)	①砂粒を多く含む。 ②不良 ③にぶい 黄褐色10YR7/3	頸部は緩やかに括れる。内外面刷毛無で後推で、体部外面下半斜位の磨き。樽式1期。
P-3	弥生土器 甕	覆土	頸部～体部片		①砂粒を多く含む。 ②不良 ③にぶい 黄褐色10YR7/3	頸部は緩やかに括れる。頸部の無文の上下に結糸体を横位施す。外面刷毛目、内面横無で。南東北～東関東東系の土層で中期末段階か？3号住居P-4と同一個体。

柳島川端 21区2号住居 (2)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-4	弥生土器 甕	北壁中央部 床面とピット 6内	体部下半～ 底部片	残存高9.7 底径(6.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎明褐色 7.5YR5/6	体部は外傾して直線的に立ち上がる。底部平底。体部外面斜位の無で、内面横位の無で。後期(博式1期)前半?

柳島川端 21区3号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	弥生土器 甕	西壁中央部 床面	頸部～体部 上半片	残存高7.9 頸部径8.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 7/6	頸部は緩やかに括れ、右回り6本1単位の等間隔止塵状文を1段施す。肩部に波状文を2段施す。器内外面やや摩滅、内面横位の無で。博式1～11期。
P-2	弥生土器 甕か壺	北西隅床面	口縁部片	残存高2.6 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰赤色 2.5YR4/2	口縁部は外傾して開き、端部に磨状工具による押圧を施す。内外面刷毛無で。中期未か?
P-3	弥生土器 甕	西壁中央部 床面	頸部片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7/4	頸部に左回り5本1単位の磨状文が2段施されている内外面無で。中期未～後期初頭。
P-4	弥生土器 甕	西壁中央部 床面	体部片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎黒褐色 10YR3/1	外面に結条体を横位施文、内面無で。
P-5 ・6	弥生土器 甕	西壁中央部 床面	胴部片		◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/3	同一個体と考えられる破片で、外面は刷毛無で後磨き内面無で。外面無付着。中期未～後期初頭。
番号	種 類	出 土 位 置	残 存 状 態	計 測 値 (cm・g)	石 質	特 徴 ・ そ の 他
S-1	銅片石器	西壁中央部 床面	完存	長さ5.3 幅4.3 厚さ1.8 重さ33	黒色頁岩	四角形をなす銅片でフの字状をなす3個縁部を刃部としている。
S-2	銅片石器	西壁中央部 覆土	完存	長さ5.6 幅6.3 厚さ1.3 重さ48	黒色安山岩	不定形の銅片で個縁部の一部に自然面を残す。L字状をなす2個縁部を刃部としている。
S-3	銅片石器	西壁中央部 覆土	完存	長さ6.3 幅6.5 厚さ1.9 重さ56	黒色安山岩	不定形の銅片で個縁部の一部に自然面を残す。ややL字状をなす2個縁部を刃部とし、表裏面より細い刻線が加えられている。

柳島川端 21区4号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	弥生土器 甕	北壁中央部 床面	口縁部～頸 部片	残存高5.8 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は外反して開き、端部は丸い。口縁部中に6本1単位の磨滅波状文を1段施す。頸部に左回り6本1単位の磨状文を施す。中期未～後期初頭。

柳島川端 遺構外

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-7	土師器 甕	柳島川端20 区V層	体部上半片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	肩部の破片で磨滅による直線文と波状文が施され、直線文より上位は赤彩されている。東海地方西部の影響のもとに作られた在地系のハリス甕。
S-1	磨製石鏃	柳島川端20 区VI層	完存	長さ2.0 幅1.4 厚さ0.2 重さ1	頁岩	二等辺三角形をなす両個縁部はやや外湾し、基部は丸く湾入。個縁部に沿って横を構え、中央部に径2mmの孔を持つ。
P-59	弥生土器 甕	柳島川端19 区VIb層	口縁部片	残存高5.4 口径(25.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎赤色 10R4/6	口縁部はやや長く、外反して開く。外面縦位の磨き、内面横位の磨き。内外面とも赤彩。

公田東 遺構外 (1)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	弥生土器 甕	公田東IV区 VI層	胴部片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色7.5 YR7/6	外面磨滅痕直文、内面磨き。中期後半。
P-3	弥生土器 甕	公田東IV区 VI層	口縁部～胴 部上半片	残存高6.2 口径(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明褐色 10YR7/6	口縁部は外傾して開き端部折り返し。頸部は強く括れる。胴部上半～口縁部端部乱れた磨滅波状文。頸部に1条の2連止右回り磨状文。内面磨削り後横磨き。博式外面に結条体Lrを施す。内面横磨で。発生後期。
P-9	弥生土器 甕か壺	公田東V区 GN-310 V層	胴部片		◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	

公田東 遺構外(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-10	弥生土器 壺かま	公田東V区 GN-310 V層	胴部下半～ 底部残存	残存高5.3 底径6.4	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR6/4	胴部外面に横位と縦位のRL織文を施す。内面斜位の織で。弥生後期。

公田池尻 遺構外

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1 ～3	弥生土器 壺かま	公田池尻4 区表土	胴部小片		◎砂粒を含む。 ◎不良 ◎褐色7.5 YR4/4	同一個体と考えられる3点で、ともに外面にRL織文を施し内面横撫で。1点は上端に押圧による刻みが1条横位に施されている。弥生後期。東関東系の土器と考えられる。
P-1	弥生土器 小型高坏	公田池尻6 区旧河道	坏底部～脚 部残存	残存高4.5 脚部径5.4	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰黄色 2.5YR7/2	手捏むねの粗製土器で、脚柱部は内湾し、脚裾部は斜め下方に短く開く。脚柱部外面縦位の撫で。器面やや摩滅。

表7 古墳時代出土遺物観察表

樽島川端 19区1号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 鉢	東壁中央部 床周	口縁部～体 部上半片	残存高 5.0 口径(11.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5YR7/4	口縁部は外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。体部外面横位の磨き、内面横位の撫で。
P-2	土師器 特殊高坏	東壁中央部 覆土	坏底部～脚 基部片	残存高4.1 坏部尖部径 (16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/6	坏底部は尖部が水平に突出する。脚基部は細い。坏基部内外面と脚基部外面刷毛撫で後磨き、ともに赤色されている。
P-3	土師器 甗	南西隅覆土	1/2残存	器高9.7 口径(19.4) 底径4.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	鉢形をなす器形で体部は外傾して立ち上がり、口縁部は玉縁状となる。底部は突出し上げ底で径1.3cmの単孔がある。体部外面刷毛撫で後縦位の磨き、内面縦位と斜位の磨き。
P-4	土師器 台付壺	南壁中央部 床周	台部欠損	残存高26.5 口径(15.4) 体部最大径20.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外反し、頸部はやや緩やかに屈曲する。体部はやや長割。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の刷毛撫で、内面横位と斜位の刷毛撫で。
P-5	土師器 S字状口縁台 付壺	中央部床面 ビット7周 辺	口縁部～体 部上半片	残存高4.6 口径(15.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰褐色 7.5YR4/2	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に比縁が1条走る。口縁部内外面・頸部内面横撫で。肩部外面羽状刷毛目、横刷毛が2条走る。内面縦位の撫で。
P-6	土師器 S字状口縁台 付壺	中央部床面 ビット7周 辺	口縁部～体 部上半片	残存高2.9 口径(15.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰褐色 5YR5/2	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は強く外反する。口縁部・頸部内面横撫で。肩部外面斜刷毛目、内面縦位の撫で。
P-7	土師器 S字状口縁台 付壺	中央部床面 ビット7周 辺	口縁部～体 部上半片	残存高6.2 口径(16.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR6/2	口縁部は斜めに強く屈曲し第2段は強く外反、端部内面に比縁が1条走る。口縁部内外面横撫で。頸部外面は調整のための比縁が1条走り、内面は刷毛目。体部外面羽状刷毛目、内面縦位の撫で。
P-8	土師器 S字状口縁台 付壺	中央部床面 ビット7周 辺	体部下半～ 台部片	残存高12.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR5/2	体部下半は直線的に窄み、台部は「ハ」の字に開く。台部端部を欠損する。体部外面斜刷毛目、内面撫で。台部外面不連続斜刷毛目、内面斜位の撫で。
P-9	土師器 S字状口縁台 付壺	東壁中央部 覆土	体部下半～ 台部残存	残存高8.5 台部径9.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/3	体部下半は直線的に窄み、台部は「ハ」の字に開き端部内面折り返し。体部外面斜刷毛目、内面撫で。台部外面不連続斜刷毛目、内面横位と斜位の撫で。

樽島川端 19区2号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付壺	炉内	口縁部～体 部上半片	残存高2.5 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄色 5YR/3	口縁部は斜めに屈曲し、第2段はやや外反する。口縁部内外面・頸部外面横撫で。体部外面刷毛目、内面撫で。

櫻島川端 19区3号住居 (1)

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	掘り方	坏部～脚基 部片	残存高4.3 坏部口縁部径 (8.4)	◎砂粒を含む。 ◎不良 ◎灰黄色 2.5Y7/2	坏底部は外傾して立ち上がり、口縁部は後をもつて短く開く。円形の坏部外面横線で後縁位の磨き、内面刷毛目後横線で、脚部外面縦位の磨き。透孔1個残存。
P-2	土師器 高坏	西壁寄り	坏部～脚部 上半残存	残存高7.2 坏部口縁部径 9.1 透孔径0.9	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR6/6	坏部は直線的に斜め上方へ開く。脚部上半は直線的に斜め上方へ開く。円形の透孔4個。坏部外面刷毛目後横線で、内面斜位の磨き。脚部外面刷毛目後縁位の磨き、内面斜位の磨き。
P-3	土師器 高坏	覆土	坏部下半～ 脚基部残存	残存高3.4 脚基部径4.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/3	坏部底部は平組で後をもつ。後の上位に三角形の透孔を3個もつ。坏部内外面磨き。
P-4	土師器 高坏	南壁寄り	脚部上半残 存	残存高6.8 脚基部径(2.6) 透孔径1.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/6	脚部上半は外開して斜め下方へ開く。円形の透孔3個。外面縦位の磨き、内面斜位の刷毛目。
P-5	土師器 高坏	南壁寄り	脚部上半残 存	残存高6.3 脚基部径2.7 透孔径0.9	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	脚部上半は外開して斜め下方へ開く。円形の透孔4個。外面縦位と斜位の磨き、内面刷毛目後横線。
P-6	土師器 高坏	南壁寄り	脚部1/2残 存	残存高5.7 脚基部径(18.2) 透孔径1.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	脚部は外開して外方へ大きく開く。円形の透孔3個。外面縦位の磨き、内面刷毛目後横線。
P-7	土師器 小型壺	南壁寄り	頸部～体部 残存	残存高7.1 体部最大径 12.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/6	体部は中位に最大径をもつと考えられ、やや扁球形をなす。頸部内面横位の磨き。体部外面多方向の磨き、内面磨で、一部横位の磨き、輪痕み痕を残す。
P-8	土師器 小型壺	西壁寄り	頸部～体部 残存	残存高9.4 体部最大径11.4 底径3.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/6	体部は中位に最大径をもち球形をなす。底部平底。体部外面横位と斜位の磨き、内面斜位の磨き。
P-9	土師器 小型壺	南壁寄り	体部残存	残存高12.1 体部最大径16.4 底径(6.1)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎黄灰色 2.5Y6/1	体部は中位に最大径をもち、やや扁球形をなす。底部は突出する平底。体部外面横位と斜位の磨き、内面斜位の磨き。
P-10	土師器 小型壺	南壁寄り	頸部～体部 残存	残存高24.1 体部最大径 (24.5) 底径6.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	頸部は「く」の字に屈曲。体部は中位に最大径をもち球形をなす。底部は突出する平底。頸部内面刷毛目に刷毛目残存、内面磨で、体部外面斜位の刷毛目後縁位の磨き、内面磨で。
P-11	土師器 台付壺	覆土	体部部～台 部残存	残存高6.2 台基部径(10.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	台部は「ハ」の字に閉じ端部は平組である。底部内面刷毛目後横線で、台部外面刷毛目後縁部横線で、内面縦位と横位の磨き。
P-12	土師器 S字状口縁台 付壺	南壁寄り	体部下半～ 台部上半残 存	残存高4.6 台基部径4.1	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎浅黄色 2.5Y7/3	底部に外面より穿孔された径0.4cmの小孔があり、瓶に転用した可能性がある。体部外面斜刷毛目内面磨で、台部外面不連続刷毛目、内面横線。
P-13	土師器 S字状口縁台 付壺	南壁寄り	口縁部～体 部上半片	残存高4.9 口径(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の比線が高る。口縁部～頸部内外面横線で、体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、内面縦位の磨き。
P-14	土師器 S字状口縁台 付壺	西壁寄り	口縁部～体 部上半片	残存高8.1 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰褐色 5YR4/2	口縁部は斜めに強く屈曲し、第2段は外反する。口縁部内外面横線で、頸部内面横線で、体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、内面縦位と横位の磨き。
P-15	土師器 S字状口縁台 付壺	南壁寄り	口縁部～体 部上半片	残存高4.0 口径(20.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の比線が高る。口縁部内外面横線で、頸部内面横線で、体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面縦位と横位の磨き。
P-16	土師器 S字状口縁台 付壺	西壁寄り	口縁部～体 部上半片	残存高8.3 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR5/2	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の比線が高る。口縁部内外面横線で、頸部内面横線で、体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面縦位と横位の磨き。
P-17	土師器 S字状口縁台 付壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高9.1 口径13.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/3	口縁部は斜めに強く屈曲し、第2段は外反する。口縁部内外面横線で、頸部内面刷毛目、体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、上位に横線で底が1条走る。体部内面多方向の磨き。

樽島川端 19区 3号住居 (2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-18	土師器 壺	西壁寄り	口縁部～頸部片	残存高5.1 口径(20.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は強く外反して開き、頸部は斜め上方に折み出されている。底部内面に1本の沈線が走り、内面に羽状の刻みが施されている。口縁部内面にも一部羽状の刻みがある。頸部外面には凸帯が巡る可能性がある。口縁部～頸部内外面横線で。

樽島川端 19区 4号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	覆土	坏部～脚基部残存	残存高3.4 坏部口径部径(8.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	坏部は狭くわずかに内湾して開く。頸部は斜め下方に直線状に開く。円形の透孔3個。坏部外面横位の磨き、内面磨面摩滅。頸部外面縦位の磨き、内面横で。

樽島川端 20区 4号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁小型鉢	貯蔵穴内	1/2残存	器高9.7 口径10.2 体部最大径12.4 底径4.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 赤褐色5 YR5/3	口縁部は短く屈曲し、第2段は直立。体部はやや上半に最大径がある。底部は突出する平底。頸部内面横線で、外面口縁部の横で。体部外面斜位の刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位・斜位の横で。
P-2	土師器 壺	貯蔵穴内	口縁部～頸部残存	残存高5.3 口径10.5	◎砂粒・小塵を含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部はわずかに内湾して開く。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面縦位の磨き。頸部外面磨き、内面横で。
P-3	土師器 壺	中央部床面	口縁部～体部上半片	残存高7.0 口径(18.4)	◎砂粒・小塵を含む。 ◎良好 ◎赤褐色 5 YR4/6	口縁部はやや内湾して開く。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部～頸部は刷毛目後横線で。体部内外面刷毛目。
P-4	土師器 壺	貯蔵穴内	口縁部～体部上半片	残存高8.7 口径(14.6)	◎砂粒・小塵を含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部は外傾して開き、頸部は緩やかに屈曲。口縁部～頸部内外面刷毛目後横線で。体部外面斜位の刷毛目、内面刷毛目後一帯無で、磨き。

樽島川端 20区 5号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	北東隅覆土	脚部上半片	残存高6.5 脚基部径2.7	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	脚部は外湾して開く。径1.0cmの内孔が3個ある。脚部外面縦位の磨き、赤彩、内面縦位・横位の横で。
P-2	土師器 鉢	北東隅覆土	口縁部～体部上半片	残存高5.9 口径9.8	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5 YR6/4	口縁部は外傾して開き、脚部は「く」の字に屈曲。口縁部～頸部内外面磨き。体部外面斜位の刷毛目、内面横位の刷毛目。
P-3	土師器 壺	北東隅覆土	口縁部～体部上半片	残存高5.9 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部はやや内湾ぎみに開く。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部は屈曲し、第2段は外反して開く。頸部内面横線で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛と横で直が通る。内面縦位の横で。
P-4	土師器 S字状口縁台付壺	覆土	口縁部～体部上半片	残存高3.1 口径(15.6)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎浅黄褐色 7.5YR8/3	口縁部は屈曲し、第2段は外反して開く。頸部内面横線で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛と横で直が通る。内面縦位の横で。

樽島川端 20区 6号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-3	土師器 壺	中央部覆土	口縁上半部小片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	有段状の口縁部で、棒状浮文が4本張り付けられている。
P-1	土師器 高坏	覆土	ほぼ整形	器高8.1 口径9.2 脚部径9.5	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR6/4	坏部は緩やかに開く。口縁部は外反する。脚部上半はわずかに外湾して開き、下半はやや内湾する。坏部口縁は内外面とも横線で。坏底部～脚部外面は縦位の横で、内面横で。
P-2	土師器 小型瓶	中央部覆土	1/4残存	器高8.1 口径(12.4) 底径4.6	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/2	鉢形の横で口縁部～体部はわずかに外湾して開く。口縁部内外面横線で。体部内外面縦位・斜位の刷毛目。底部中央に径0.9cmの単孔が開く。

樽島川端 20区 8号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型甕	南壁中央部 床面	口縁部～体 部上半小片	残存高3.8 口径(11.2)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は短く外反し、頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。頸部～体部上半外面斜位の刷毛目、内面横位の刷毛目、一部横撫で。

樽島川端 20区 9号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型台付甕	東壁中央部 床面	体部～台部 残存	残存高9.2 体部最大径(10.8) 台部径(4.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	体部はやや長胴。台部は短く「ハ」の字に開く。体部外面斜位の刷毛目、内面横位・斜位の撫で。台部内外面撫で。
P-2	土師器 甕	覆土	口縁部小片	残存高5.0 口径(17.2)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/4	口縁部は外反し、端部は丸い。口縁部内外面横撫で。口縁部内外面横位・斜位の刷毛目。
P-3	土師器 甕	覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高3.8 口径(13.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部は外反し、頸部は緩やかに屈曲。口縁部内外面横位・斜位の撫で。頸部～体部上半外面斜位の撫で、内面横位の撫で。
P-4	土師器 壺	北壁中央部 床面	口縁部～頸 部小片	残存高6.0 口径(32.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎浅黄褐色 7.5YR8/3	大型の壺と考えられ、折り返し口縁部が刺刺している。口縁部は外反し、頸部はやや緩やかに屈曲。口縁部外面刷毛目後横位の磨き、内面横位の撫で。

樽島川端 20区10号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部～頸 部小片	残存高3.5 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	口縁部は外反し、頸部は緩やかに屈曲。内外面刷毛目後横撫で。
P-2	土師器 壺	覆土	口縁部小片	残存高3.2 口径(15.0)	◎砂粒・小礫を含む。 ◎不良 ◎浅黄色 2.5YR8/3	折り返し口縁で器面摩滅。

樽島川端 20区11号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	赤生土器 甕	中央部覆土	口縁部～頸 部片	残存高4.3 口径(18.0)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	口縁部はやや外反する。口縁部外面は6本1単位の聯指状文が施され、内面は丁寧な横位の磨き。頸部に磨状文を施す。後附米。
P-2	土師器 S字状口縁台 付甕	北壁中央部 覆土	口縁部～体 部上半片	残存高3.3 口径(18.8)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 赤褐色5 YR5/4	口縁部は鋭く屈曲し、第2段は外反、端部内面に細い1本の沈線が巡る。頸部内面刷毛目。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛。
P-3	土師器 S字状口縁台 付甕	ピット2内	台部残存	残存高6.5 台部径8.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	台部は「ハ」の字に開き、下端部折り返し。台部外面不連続刷毛目、内面斜位の撫で。
P-4	土師器 台付甕	北東隅覆土	台部残存	残存高7.4 台部径10.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR6/6	台部は「ハ」の字に開き、下端部は平坦。台部内外面斜位の刷毛目。

樽島川端 20区12号住居 (1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	南東隅覆土	ほぼ完形	器高4.8 口径8.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外傾し、底部は丸い。口縁部内外面横撫で。底体部外面刷毛目、内面横位の撫で。
P-2	土師器 小型鉢	南東隅覆土	口縁部～体 部片	残存高4.2 口径7.0	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	口縁部は短く内湾する。口縁部内外面横撫で。体部外面刷毛目、内面撫で。
P-3	土師器 高杯	南東隅味面	坏部～脚部 上半残存	残存高10.5 坏部径(13.8)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR5/6	坏部は明確な線をもち、口縁部はやや内湾して開く。脚部は外反し、円孔が4個ある。坏部内外面磨き。脚部外面磨き、内面刷毛目。
P-4	土師器 S字状口縁台 付甕	南東隅覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高3.6 口径(15.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部は緩やかに屈曲し、第2段はやや外反、端部内面に細い沈線が1条巡る。頸部内面横撫で。体部内面刷毛目、肩部に横刷毛。内面斜位の撫で。

標島川端 20区12号住居 (2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-5	土師器 S字状口縁台 付甕	南東隅覆土	体部一部欠 損	器高(20.7) 口径(12.2) 脚径6.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部は緩やかに屈曲し、第2段はやや外反。体部は肩部が張る。台部は「ハ」の字に開き、下端部折り返し、頸部外面横撫で、体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、内面撫で。台部外面不連続刷毛目、内面撫で。

標島川端 20区13号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部小片	残存高 2.6 口径(14.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部は外反し、端部折り返し。外面刷毛目後継位の撫で、内面横位の撫で。

標島川端 20区14号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	南東隅床面	口縁部～体 部上半片	残存高17.0 口径(17.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	口縁部は外傾し、頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。体部内外面刷毛目後一部撫で。

標島川端 20区15号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部～頸 部小片	残存高3.2 口径(13.0)	◎砂粒・小礫を含む。 ◎不良 ◎にぶい 赤褐色 5 YR5/3	口縁部は外傾し、端部は上下に掴み出されている。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面横撫で、内面刷毛目。頸部内外面刷毛目。
P-2	土師器 甕	北壁中央部 覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高3.9 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/4	口縁部は外反し、頸部は「く」の字に屈曲。内外面刷毛目後撫で。断面やや摩滅。
P-3	土師器 甕	北壁中央部 覆土	口縁部片	残存高2.7 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR5/4	口縁部は外反して開く。内外面とも刷毛目後上半横撫で。断面やや摩滅。

標島川端 20区16号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	西壁中央部	口縁部片	残存高5.8 口径(14.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	長頸の成形土器と考えられ、やや内湾して立ち上がる。内外面とも上半横撫で、下半斜位の刷毛目を残す。
P-2	土師器 甕	覆土	口縁部片	残存高4.3 口径(12.8)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は短く外反し、端部は丸い。内外面刷毛目後磨き。
P-3	土師器 小型台付甕	覆土	台部残存	残存高3.4 台部径5.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎褐色 7.5YR6/6	台部は短く「く」の字に開く。外面刷毛目後撫で、内面撫で。

標島川端 20区19号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部～頸 部片	残存高4.1 口径(12.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	口縁部は外反し、端部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面縦・横位の磨き、内面横位の磨き。
P-2	土師器 甕	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高6.7 口径(18.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/8	口縁部は外傾し、端部は平坦。頸部は緩やかに屈曲。内外面刷毛目。

標島川端 20区20号住居 (1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	南西隅床面	口縁部～頸 部片	残存高3.7 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外傾し、端部折り返し。頸部は「く」の字に屈曲。内外面刷毛目後横撫で。外面赤彩。

櫛島川端 20区20号住居 (2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半片	残存高3.6 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	口縁部は屈曲し、第2段は外反、頸部内面に細い沈線が1条走る。頸部内面横で、外面凹縁状の沈線が走る。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横線で。
P-3	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半片	残存高4.8 口径(18.0)	◎砂粒・小塵を含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR5/3	口縁部は広く屈曲し、第2段は外反、頸部内面に2条の細い沈線が走る。頸部内面刷毛目後横で、外面凹縁状の横で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横線で。

櫛島川端 19区6号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 壺	底面	口縁部欠損	残存高17.0 体部最大径17.0 底径6.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/3	口縁部は人為的に打ち欠かれている部分がある。口縁部下半は外傾して開き、頸部はやや緩やかに屈曲。体部は中に最大径をもち球形をなす。底部平底。口縁部～頸部内外面刷毛目後横線で、体部外面刷毛目後斜位の横で、内面斜位の刷毛目。

櫛島川端 19区7号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	弥生土器 蓋	覆土	2/3残存	器高6.8 口径19.8 爪爪径6.3	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	爪爪部は外傾して開き、中央の窪みは深い。天井部は外傾して開き、蓋部は水平に開く。天井部外面横位の横で、内面横線で。蓋部内外面横線で。弥生時代末～古墳時代初頭と考えられる要用の蓋。
P-2	土師器 高坏	覆土	完形	器高14.1 坏部径 20.0 脚部径10.8	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/5	頸部に比べ坏部が大きい。坏部は内傾して開き、端部は丸い。脚部はわずかに内湾して開き、端部は短く斜め下方に開く。坏部内外面横位・斜位の丁寧な磨き。脚部外面横位の磨き、内面刷毛目。頸部には径1.0cmの円孔が3個開く。
P-3	土師器 壺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高5.6 口径(16.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	口縁部は短く外傾して開く。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面刷毛目後上半横横で。体部外面刷毛目、内面横線で。
P-4	土師器 壺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高8.3 口径(18.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 赤褐色2.5YR4/3	口縁部は短く直立。頸部は緩やかに屈曲。口縁部～頸部内外面横横で。体部内外面斜刷毛目。
P-5	土師器 壺	覆土	口縁部～ 体部上半残存	残存高11.3 口径(15.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	口縁部は短く外傾し、上半はやや肥厚。頸部は丸く屈曲。口縁部～頸部内外面横横で。体部内外面横位・斜位の横で。
P-6	土師器 壺	底面	口縁部上半 欠損	残存高26.8 体部最大径26.0 底径7.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明黄褐色 10YR7/6	口縁部上半は人為的に打ち欠かれている。頸部は丸く屈曲。体部は中に最大径があり球形をなす。底部平底。頸部内外面横位・斜位の磨き。体部外面横位・斜位の磨き、内面横で。
P-7	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高5.3 口径(17.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR4/2	口縁部は広く屈曲し2段目は短く直立に外反。頸部内面刷毛目。体部外面凹状刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位の横で。
P-8	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高4.8 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR4/1	口縁部は屈曲し2段目は短く外反、頸部内面に細い沈線が1条走る。頸部内面刷毛目。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横横で。
P-9	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高5.6 口径(16.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/2	口縁部は屈曲し2段目は外反し肥厚する。頸部内面刷毛目。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位の横で。
P-10	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高4.4 口径(17.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR5/1	口縁部は屈曲し2段目は短く直立。端部は平直となる。頸部内面横横で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位の横で。

櫛島川端 19区8号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付臺	覆土	口縁部～ 体部上半小片	残存高6.5 口径(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰黄褐色 10YR4/2	口縁部は屈曲し2段目は短く外反。頸部内面横横で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面斜位・横位の横で。

柳島川端 19区9号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部下半 ～体部上半 片	残存高6.4 頸部径(11.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	口縁部下半は直立し上半は強く外反。口縁部外面刷毛目後傾位の磨き、内面横線で。体部外面刷毛目後傾位の磨き、内面横線で。

柳島川端 19区11号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台	覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高4.8 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄色 2.5 Y7/2	口縁部は屈曲し2段目は直立、端部は外傾する。頸部内面横線で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横線で。
P-2	土師器 器台	覆土	脚部残存	残存高5.3 頸部径(11.2)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5 YR7/3	脚部はやや内湾して開く。外面縦位の磨き、内面斜位の刷毛目。径0.8cmの円孔が3個開く。

柳島川端 19区12号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	覆土	1/4残存	器高4.9 口径(10.6) 底径(4.0)	◎砂粒を含む。 ◎不良 ◎黒褐色 5 YR2/1	口縁部～体部は直線的に開き、端部は丸い。底部平底。口縁部～体部外面横線で、内面磨き。

柳島川端 20区18号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 特殊高坏	底面	坏部残存	残存高7.8 坏部径22.1	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5 YR5/6	坏底部に横をもち、口縁部は強く外反、端部は丸い。三角形の透し孔が3個開く。内外面刷毛目後磨き。
P-2	土師器 高坏	覆土	坏部底部～ 脚部上半残 存	残存高7.5 脚部径3.7	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 赤褐色 5 YR5/4	坏底部は外方に開き、脚部上半は外湾し、径1.3cmの円孔が3個開く。坏底部内外面、脚部外面磨き。脚部内面横線で。
P-3	土師器 小型壺	底面	口縁部残存	残存高3.4 口径9.0	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10 YR7/2	口縁部はやや外反し、端部は丸い。口縁部上半内外面横線で、下半内外面刷毛目が残る。内面輪轆み痕あり。
P-4	土師器 小型壺	覆土	ほぼ完形	器高15.5 口径13.5 体部最大径14.8 底径4.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎黒褐色 10 YR3/1	口縁部は外反し端部は丸い。頸部は丸く屈曲。体部は膨らみが弱い。底部は平底。口縁部～体部外面刷毛目、内面横線で一部刷毛目を残す。内面保存着。
P-5	土師器 小型壺	底面	ほぼ完形	器高15.6 口径10.6 体部最大径13.3 底径6.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰白色 5 Y7/2	口縁部は外傾し端部は丸い。頸部は「く」の字に強く屈曲。体部は長胴、底部は平底。口縁部内外面横線で、内面一部に刷毛目を残す。頸部外面刷毛目、体部内外面横線で、一部に刷毛目を残す。
P-6	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高5.3 口径(15.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10 YR6/3	口縁部は外反し端部は丸い。頸部は丸く屈曲。口縁部～体部外面刷毛目。口縁部内面横線で、体部内面刷毛目後横線で。
P-7	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高5.2 口径(17.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎黒色 10 YR1.7/1	口縁部は外傾し端部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面上半横線で。口縁部外面下半～体部上半刷毛目。口縁部内面横位の刷毛目、体部内面横位の刷毛目後一部横位の磨で。外面保存着。
P-8	土師器 壺	底面	口縁部～体 部上半片	残存高6.4 口径(21.2)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎黒褐色 7.5 YR3/1	口縁部は外傾し端部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面上半横線で。口縁部外面下半～体部上半刷毛目。口縁部内面横位の磨で一部刷毛目。口縁部～体部内面横位の磨で一部刷毛目。
P-9	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部残存	残存高25.0 口径(18.6) 体部最大径(24.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10 YR6/4	口縁部は外反し端部は丸い。頸部は丸く屈曲。体部は中位に最大径がありやや球形。口縁部外面上半横線で。口縁部外面下半～体部外面斜位の磨で一部刷毛目。口縁部～体部内面横位の磨で一部刷毛目。
P-10	土師器 台付壺	覆土	台部残存	残存高4.8 台部径8.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	台部は「ハ」の字に開き、端部は平坦。外面斜位の刷毛目、内面斜位の磨で。

樽島川端 20区19号并戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 鉢	覆土	完形	器高6.8 口徑9.8 体部最大径10.6 底径3.8	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5.YR5/3	口縁部は短く内湾し、肩部は丸い。頸部は丸く屈曲。体部はやや球形。底部平坦。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面横位・斜位の撫で。体部外面縦付着。
P-2	土師器 壺	覆土	口縁部～体部上半片	残存高4.8 口徑(14.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR5/3	口縁部は強く外反し、肩部は丸い。頸部は丸く屈曲。口縁部外面横撫で、内面黒削り。体部外面縦位の刷毛目、内面横位・斜位の撫で。
P-3	土師器 壺	覆土	1/2残存	器高21.0 口徑(15.3) 体部最大径19.8 底径5.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外反し、肩部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。体部は中心に最大径がありわずかに長割。底部平坦。口縁部外面上半横撫で、口縁部下半～体部外面縦位・斜位の刷毛目。口縁部～体部内面刷毛目後横位の撫で。

樽島川端 20区21号并戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 土師台	覆土	臺受部～台部上半残存	残存高7.5 臺受部径7.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5Y6/6	小型の臺台で、臺受部口縁部は短く直立し端部は外傾。貫通孔はなく、台部は直線的に開く。円孔が上下3個ずつ開く。器面摩滅。
P-2	土師器 高杯	覆土	脚部片	残存高5.3 脚部径12.4	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色 5.YR6/6	脚部は内湾して開く。径1.2cmの円孔が開く。外面磨き、内面刷毛目後一部磨き。
P-3	土師器 查	覆土	体部～底部残存	残存高10.3 体部最大径14.0 底径3.9	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	体部は下半に最大径があり、やや偏球形をなす。底部上げ。外面磨き、内面撫で。器面やや摩滅。
P-4	土師器 查	覆土	口縁部～肩部小片	残存高6.0 口徑(15.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	口縁部は外傾し、肩部は折り返し。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面刷毛目後上半部横撫で、外面赤形。器面やや摩滅。
P-5	土師器 瓶	覆土	口縁部～体部片	残存高10.5 口徑17.4	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	体部～口縁部は内湾して開く。口縁部折り返し。内外面とも横撫で。器面やや摩滅。
P-6	土師器 壺	底面	口縁部～体部上半片	残存高8.3 口徑(21.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎無褐色 5.YR2/1	口縁部は内湾して開き、肩部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。内外面とも横位の撫で。
P-7	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高3.5 口徑(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10.YR7/3	口縁部は屈曲して開き、第2段は外反する。頸部内面横撫で、外面凹縁状の撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面撫で。
P-8	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高4.7 口徑(13.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄色 2.5Y6/2	口縁部は緩やかに屈曲し、第2段は外反、端部内面に細い沈線が通る。頸部内面横撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面指押しえ・撫で。
P-9	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高4.2 口徑(16.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR5/3	口縁部は強く屈曲し、第2段は外反、端部内面に細い沈線が通る。頸部内面横撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位の撫で。
P-10	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高5.0 口徑(16.2)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5.YR6/3	口縁部は屈曲して開き、第2段は外反、端部内面に細い沈線が通る。頸部内面横撫で。体部外面刷毛目、内面横位の撫で。
P-11	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高6.8 口徑(18.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎黄灰色 2.5Y6/1	口縁部は強く屈曲し、第2段はやや外反。頸部内外面横撫で。体部外面羽状刷毛目、内面横位の撫で。
P-12	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高7.0 口徑(20.0)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎灰黄色 2.5Y6/2	口縁部は強く屈曲し、第2段は外反、端部内面に細い沈線が通る。頸部内外面横撫で。体部外面羽状刷毛目、内面斜位の撫で。
P-13	土師器 S字状口縁台付臺	覆土	口縁部～体部上半小片	残存高7.2 口徑(19.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄色 2.5YR/3	口縁部は屈曲して開き、第2段は外反。頸部内面横撫で。体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、内面横位の撫で。
P-14	土師器 台付臺	覆土	台部残存	残存高5.1 台部径7.2	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎黄灰色 2.5Y8/3	台部は「ハ」の字に開き、端部は平坦。外面斜位の刷毛目、内面横位の刷毛目。

標島川端 20区21号并戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-15	土師器 壺	覆土	頸部～体部 残存	残存高39.4 頸部径16.0 体部最大径46.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明黄褐色 10YR7/6	口縁部を頸部から人為的に打ち欠いている。頸部は小さく緩やかに屈曲。体部は球形。頸部外面縦位・横位の磨き、内面刷毛目を残す。体部外面粗い斜位の磨き、内面粗い横位の撫で。

標島川端 21区2号并戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付壺	覆土	口縁部～体 部片	残存高7.1 口径(10.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎灰黄色 2.5YR7/2	口縁部は屈曲し、第2段は外傾。頸部は丸い。頸部内面横撫で、外面無調整。体部外面沢刷毛目、肩部に横刷毛、内面縦位の撫で。

標島川端 21区3号并戸(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	覆土	完形	器高4.2 口径9.0 底径4.7	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎灰白色 7.5YR8/2	口縁部～体部は外傾して直線的に開く。底部平底。口縁部外面横撫で、体部外面刷毛目。口縁部～体部内面斜位の撫で。台付壺の台部整形技法を転用した器形である。
P-2	土師器 小型鉢	覆土	完形	器高4.8 口径9.0 底径3.9	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部～体部は外傾して直線的に開く。底部平底。口縁部～体部上半横位・斜位の撫で。下部半覆筒り。口縁部～体部内面横位・斜位の磨き。
P-3	土師器 鉢	覆土	2/3	器高7.0 口径(9.4) 底径1.8	◎砂粒を少量含む。 ◎普通 ◎明黄褐色 10YR7/6	口縁部は短く外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲。体部は上半に最大径をもつ。底部は小さく窪む。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面斜位の撫で。
P-4	弥生土師 壺	覆土	爪み部～天 頂部上半残 存	残存高6.6 爪み部径5.7	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	爪み部はやや反し、中央の窪みは深い。天頂部は直線的に開く。爪み部内面横撫で。天頂部外面い刷毛目、内面刷毛目後撫で。19区7号并戸P-1と同様の時期で、器形は弥生土師であるが整形は土師器の技法である。
P-5	土師器 S字状口縁台 付壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高3.2 口径(12.3)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎黒褐色 7.5YR3/1	口縁部は屈曲し、第2段は短く外反、端部は丸い。頸部内面刷毛目、外面無調整。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面斜位の撫で。
P-6	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高7.0 口径(14.8)	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は外反し、端部は丸い。頸部はやや「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。頸部外面斜位の刷毛目、内面横撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面刷毛目後横撫で。
P-7	土師器 壺	覆土	口縁部	残存高6.2 口径(21.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/3	口縁部は外傾して開き、中に接合痕があり有段状をなす。端部は折り返し、外面押圧、上端は平坦。口縁部外面斜位の刷毛目、内面横位・斜位野磨き。
P-8	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部残存	残存高16.7 口径15.0 体部最大径20.7	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は外傾して開き、端部は丸く開きを施す。頸部は丸く屈曲。体部は球形。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面斜位の撫で。
P-9	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高11.8 口径(16.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色10YR4/2	口縁部はやや外反し、端部は丸い。頸部は緩やかに括れる。口縁部～頸部外面縦位の粗い刷毛目。体部外面斜位の粗い刷毛目。口縁部～体部内面横位の粗い刷毛目後、粗い刷毛目。時期不明。器形と整形は在地のものではない。口縁部の開きや口唇部に窪みがないこと、刷毛目がS字案と同じ鋭い工具を用いていることから東海地方の影響か？また、胎土に雲母や片岩を含むことから搬入品の可能性がある。
P-10	土師器 壺	覆土	口縁部～体 部残存	残存高21.7 口径19.7 体部最大径27.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5YR7/6	口縁部は外反し、端部は丸い。頸部は丸く屈曲。体部は球形。口縁部外面上半横撫で、下半斜位の刷毛目、内面横位の刷毛目。頸部外面縦位の刷毛目、内面斜位の刷毛目。体部外面縦位の刷毛目、内面斜位の刷毛目後、一部撫で。

樽島川端 21区3号并戸 (2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-11	土師器 台付甕	覆土	ほぼ完整 (一部欠損)	器高(26.0) 口径16.0 体部最大径19.8 台部径9.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5YR7/6	口縁部は外傾し、肩部は丸い。腹部は丸く屈曲。体部はやや長胴。台部は「ハ」の字に開き、肩部は平坦。口縁部外面上半横撫で、下半～腹部外面縦位の刷毛目、内面斜位～腹部内面横撫で、体部外面斜位の刷毛目、内面斜位・横位の刷毛目の後、一部撫で。台部外面斜位の刷毛目、内面縦位の刷毛目、裾部撫で。体部下半～台部外面は火を受け赤化。
P-12	土師器 台付甕	覆土	体部下半～ 台部残存	残存高10.2 台部径11.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明褐色7.5YR7/2	体部下半は直線的に開く。台部は「ハ」の字に開き、肩部は平坦。体部外面縦位・斜位の磨き、内面刷毛目後磨き。台部外面刷毛目後撫で、内面縦位の撫で。

樽島川端 19区40号溝

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 鉢	覆土	ほぼ完整	器高8.6 口径 14.0 底体部 最大径12.9	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	口縁部は短く外傾して開き、底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部内外面横撫で。

樽島川端 19区81号溝

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付甕	覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高7.3 口径(20.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR5/1	口縁部は屈曲し第2段は外反、肩部内面に細い1条の沈線が走る。頸部内面横撫で、外面凹縁状の撫で。体部外面羽状刷毛目、肩部に横刷毛、内面撫で。

樽島川端 19区90号溝

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	覆土	脚基部～脚 上半片	残存高9.2 脚基部径4.0 孔縁1.2	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色2.5YR6/4	脚部はわずかに外傾して斜め下方に開く。2孔1対の円孔が3列ある。外面縦位の磨き、内面刷毛目。
P-2	土師器 甕	覆土上層	1/3残存	器高8.4 口径(14.2) 底径4.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/2	鉢形をなし、体部～口縁部は外傾して直線的に開く。底部は平底で中央に径1.6cmの単孔をもつ。

樽島川端 19区91号溝

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付甕	覆土上層	口縁部～体 部上半小片	残存高3.1 口径(18.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	口縁部は屈曲し第2段は外反、肩部内面に細い1条の沈線が走る。頸部内面横撫で、外面凹縁状の撫でが走る。体部外面刷毛目、内面撫で。

樽島川端 19区94号溝

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付甕	覆土	口縁部～体 部上半小片	残存高4.4 口径(17.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄色 10YR5/2	口縁部はやや鋭く屈曲し第2段は短く外反、肩部内面に細く浅い沈線が部分的に走る。頸部内面横撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面斜位の撫で。
P-2	土師器 甕	覆土	口縁部～体 部上半残存	残存高9.2 口径(12.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は体部に比べ小さく、やや外反して開き肩部は丸い。口縁部内面刷毛目後、外面凹縁状の撫で、内面横撫で。頸部内外面横撫で。体部外面斜位の撫で、内面横撫で、内面輪模直刷毛。

樽島川端 遺構外(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 特殊器台が高 坏	19区VI b層	脚受け部口 縁部片	残存高4.4 脚受け部径 (19.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/8	口縁部は強く外反して開く。径1.3cmの透孔が6個開いている。器面厚縁。
P-2	土師器 器台	19区VI b層	脚部残存	残存高8.2 脚部径13.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5YR7/4	脚部は直線的に「ハ」の字に開く。円形の透孔3個。外面縦位の磨き、内面刷毛目後一部横撫で。

櫻島川端 遺構外(2)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	粘土・焼成・色調	特徴・その他
P-3	土師器 器台	19区VI b層	器受け部～ 脚基部残存	残存高5.7 器受け部径8.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 褐色5 YR7/4	器受け部は直線的に外傾して立ち上がり、端部は弧み上げられている。脚基部は直線的に「ハ」の字に開く。円形の透孔3個。器受け部外面無一部磨き、内面斜位の磨き。脚部外面斜位の磨き。
P-4	土師器 高環	19区VI b層	坏部～脚部 上半片残存	残存高9.2 坏部口径 (12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 5 YR5/6	坏部は内湾して開く。脚部上半は直線的に「ハ」の字に開き、中位で屈曲し脚部はさらに開く。円形の透孔3個。坏部外面刷毛目後斜位の磨き、内面斜位の磨き。脚部外面斜位の磨き、内面磨削り後横撫で。
P-5	土師器 高環	19区VI b層	脚部片	残存径7.7 脚部径(12.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR5/6	脚部上半は細く直線的に下り、中位で緩やかに屈曲して基部は「ハ」の字に開く。円形の透孔3個。外面横位と斜位の磨き、内面刷毛目。
P-6	土師器 高環	19区VI b層	脚部片	残存高3.8 脚部径(10.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎によい 褐色7.5 YR6/3	脚部は直線的に「ハ」の字に開き、基部は外反する。外面斜位の磨き、内面刷毛目。
P-7	土師器 高環	19区VI b層	坏部下半～ 脚部片	残存高7.2 脚部径3.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎によい 黄褐色10 YR7/3	坏部は平坦で緩をもち、上半はやや外反して立ち上がる。脚基部は細く直線的に「ハ」の字に開く。坏部内外面刷毛目後磨き。脚部外面斜位の磨き、内面無。
P-8	土師器 高環	19区VI b層	脚部残存	残存高6.5 脚部径14.3	◎砂流・小礫を含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/6	脚部はわずかに内湾して「ハ」の字に開く。円形の透孔3個。器面摩滅。
P-9	土師器 高環	19区VI b層	一部欠損	器高9.2 坏部径(11.4) 脚部径8.0	◎砂流・小礫を含む。 ◎良好 ◎によい 褐色5 YR6/4	坏部はわずかに内湾して斜め上方に開き、端部はわずかに外傾。脚基部は太く脚部は「ハ」の字に開く。坏部外面刷毛目後無一部磨き、内面刷毛目後無。脚部外面刷毛目後無一部磨き、内面刷毛目。
P-10	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高7.9 口径(17.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎によい 黄褐色10 YR7/2	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は外反する。口縁部～頸部内外面横撫で。体部内外面斜刷毛目、内面横撫で。
P-11	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高3.8 口径(17.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎洗黄褐色 10 YR8/3	口縁部は強く屈曲し、第2段は外反する。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜刷毛目、内面横撫での無。
P-12	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.4 口径(14.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎黒褐色 10 YR3/1	口縁部は強く屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の沈線が走る。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面横撫での無。
P-13	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.6 口径(16.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10 YR5/2	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の沈線が走る。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面横撫での無。
P-14	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高3.8 口径(15.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 褐色7.5 YR6/4	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は外反し端部内面は斜め平坦となっている。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面横撫での無。
P-15	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.9 口径(13.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 褐色7.5 YR7/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部はわずかに肥厚する。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜刷毛目、内面横撫での無。
P-16	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.5 口径(13.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 黄褐色10 YR7/3	口縁部は斜めに強く屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の沈線が走る。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面斜刷毛目、内面横撫での無。
P-17	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.6 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 褐色7.5 YR6/3	口縁部は強く屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の沈線が走る。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面斜刷毛目、内面横撫での無。
P-18	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高4.7 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎によい 黄褐色10 YR7/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面は斜めの平坦となっている。頸部は丸く屈曲。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面横な斜刷毛目、肩部に横刷毛、頸部寄りに横撫でが1条走る。体部内面横撫での無。
P-19	土師器 S字状口鉢台 付篋	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高2.8 口径(19.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎によい 黄褐色10 YR7/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は外反、端部内面に1条の沈線が走る。口縁部内外面横撫で。頸部内面刷毛目。体部外面斜刷毛目、内面横撫で。

樽島川端 遺構外(3)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-20	S字状口縁台付甕	19区VI b層	口縁部～腰部上半片	口径(18.0)	◎不良 ◎濁灰色10YR5/1	口縁部内外面横撫で。頸部内面刷毛目。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、内面横撫で一部刷毛目。器面やや厚感。
P-21	土師器 S字状口縁台付甕	19区VI b層	口縁部～腰部上半片	残存高5.2 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR6/3	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は外傾する。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛、頸部寄りには横撫でが1条走る。体部内面横撫で。
P-22	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～頸部残存	残存高8.2 口径12.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎無褐色7.5YR3/1	口縁部は長く、外傾して開く。内外面斜位の刷毛目。
P-23	土師器 S字状口縁台付甕	19区VI b層	体部下端～台部残存	残存高6.6 台部径8.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR6/3	台部は「ハ」の字に開き、端部内面折り返し。体部外面斜刷毛目を残す。台部外面不連続刷毛目、内面横撫での撫で。
P-24	土師器 S字状口縁台付甕	19区VI b層	体部下端～台部残存	残存高7.4 台部径9.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色5 YR7/3	口縁部は斜めに屈曲し第2段は短く外反、端部内面に1条の沈線が高る。頸部は丸く屈曲する。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面斜位の撫で。
P-25	土師器 台付甕	19区VI b層	体部下端～台部残存	残存高7.7 台部径8.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR7/4	台部は「ハ」の字に開く。台部内面外側撫で。台部外面一部刷毛目を残す。台部内面斜位の撫で。
P-26	土師器 S字状口縁台付甕	19区VI b層	口縁部～腰部上半片	残存高3.8 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR6/4	口縁部は斜めに屈曲し第2段は短く外反、端部内面に1条の沈線が高る。頸部は丸く屈曲する。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜刷毛目、肩部に横刷毛、内面斜位の撫で。
P-27	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～頸部片	残存高4.7 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎浅黄褐色2.5YR7/3	口縁部は外反し端部は平面をなす。頸部は縦やかに括れる。口縁部～頸部外面斜位の刷毛目、内面横撫での磨き。
P-28	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～頸部片	残存高5.1 口径(15.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部は外反して開き、頸部は縦やかに括れる。口縁部～頸部外面横撫で後斜位の刷毛目、内面横撫で。
P-29	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～頸部片	残存高4.8 口径(14.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色5 YR7/3	口縁部は外反し端部は平面をなす。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面横撫でと縦位の撫で、内面刷毛目後横撫で。
P-30	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～腰部上半片	残存高5.5 口径(17.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色5 YR7/4	口縁部は外反して開き、端部は玉縁状となる。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の撫で、内面横撫で、内外面に横撫のみを残す。
P-31	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～頸部片	残存高5.2 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5 YR6/6	口縁部は外傾して開き、端部は平面をなし内面に弧み出されている。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面縦位の刷毛目、内面横撫での刷毛目。
P-32	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～腰部片	残存高7.3 口径(10.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰黄褐色10YR4/2	口縁部は短く外傾し、頸部は縦やかに括れる。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の撫で、内面斜位の撫で一部指押さえ。
P-33	土師器 甕	19区VI b層	口縁部～腰部片	残存高11.2 口径(12.8) 部最大径(16.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色10YR4/2	口縁部は短く外傾し、頸部は縦やかに括れる。体部は中に最大径をもつ。口縁部内外面横撫で。体部外面刷毛目後横撫で、内面横撫で一部刷毛目を残す。
P-34	土師器 鉢	19区VI b層	1/2残存	部高8.2 口径(10.2) 体部最大径10.7 底径5.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5YR6/6	口縁部は短く外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲。体部は中に最大径をもちやや圓球形をなす。底部平底。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の撫で、一部に刷毛目を残す。体部内面横撫でと斜位の撫で。
P-35	土師器 鉢	19区VI b層	ほぼ完形	部高8.2 口径13.7 底径(5.9)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR7/4	口縁部～体部は外傾して開き、端部は平面をなす。底部平底。口縁部～体部外面横撫で、刷毛目を残す。内面横撫で。
P-36	土師器 小型丸底土器	19区VI b層	口縁部～体1/2残存	残存高4.3 口径(10.0) 体部最大径(8.1)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR6/4	口縁部は外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲。体部は上半に最大径をもつ。口縁部外面縦位の磨き、内面斜位の磨き。頸部外面横撫での磨き。体部内外面縦位の磨き。

標高川端 遺構外(4)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-37	土師器 壺	19区VI b層	口縁部～体 部1/2残存	残存高12.6 口径(7.4) 体部最大径 (13.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5YR6/4	口縁部はやや短く内湾して開き、頸部は「く」の字に屈曲。体部下半に最大径をもち屈曲して窄み、下膨れ状となる。口縁部内外面無塗。体部外面無塗、内面斜位の刷毛目、輪襷み痕を残す。
P-38	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高5.1 口径(8.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	内湾し、やや短い口縁部である。外面斜位の磨き、内面斜位の磨き。
P-39	土師器 壺	19区VI b層	口縁部～頸 部片	残存高7.8 口径(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/6	口縁部は長く上半は内湾して開く。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部外面無塗の磨き、内面横位の磨き。器面やや摩滅。
P-40	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高3.0 口径(14.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	口縁部は強く外反して開き、端部折り返し。口縁部外面刷毛目後縁位の磨き、内面横位の磨き。
P-41	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高4.9 口径(13.4)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外反して開き、端部折り返し。口縁部外面刷毛目後縁位の磨で、内面刷毛目後斜位の磨で。
P-42	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高5.3 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/6	口縁部下半はやや直立して立ち上がり、上半は内湾するに大きく開き有段状をなす。頸部には凸帯が巡る。口縁部内外面刷毛目後縁無塗。
P-43	土師器 壺	19区VI b層	口縁部～体 部上半片	残存高6.2 口径14.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR6/6	口縁部は短く外傾して開き、端部は斜め上方にやや狭み出され、下方も拡張されている。口縁部内面に段を有する。口縁部外面横位の磨き。体部外面刷毛目後斜位の磨き、内面斜位の磨で。
P-44	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高7.0 口径(18.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR6/3	下半は直立して立ち上がり、上半は段をもって外傾して開く。内外面刷毛目後磨き。
P-45	土師器 ハリス壺	19区VI b層	体部上半片	残存高3.0 厚さ0.5	◎砂粒を含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	逆気文が施されている。外面磨き、内面無塗。
P-46	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高2.8 口径(18.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5YR7/6	口縁部は外傾して開き、端部は有段状をなす。端部外面には鬚四線文と棒状浮文が施され、内面には羽状刺突文が施される。器面やや摩滅。
P-47 +48	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高8.5 口径(32.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎赤色 7.5YR7/6	同一個体と考えられる破片で、口縁部は外傾して開き、端部は有段状をなす。端部外面と上面にL R施文が施される。内面横位の磨で、外面縦位の磨で、ともに赤彩されている。
P-49	土師器 栗	19区VI b層	口縁部～体 部残存	残存高15.2 口径11.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR7/6	口縁部はやや長く内湾して開き、体部は腹やかに膨らむ。口縁部内外面無塗で、体部外面刷毛目、内面斜位の磨で。
P-50	土師器 壺	19区VI b層	口縁部片	残存高6.4 口径18.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰白色 2.5Y8/1	口縁部は外反して開き、端部は斜め上方に狭み出されている。頸部には凸帯が巡り、筒みが施されている。内外面無塗で。
P-51	土師器 壺	19区VI b層	体部下半～ 底部残存	残存高11.2 底径3.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	体部は狭く膨らみ、底部は小さく上げ腹。外面刷毛目後斜位の磨き、内面刷毛目後横位の磨で、内面下半に逆気文が残る。
P-52	土師器 壺	19区VI b層	体部～底部 残存	残存高17.0 体部最大径20.5 底径5.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	体部は下半に最大径をもち、下膨れ状をなす。底部平底。体部外面摩滅、内面斜位の刷毛目。
P-60	有孔土製円盤	19区VI b層	体部片	径4.1 厚さ0.3 孔径0.3	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎明褐色 5YR7/2	S字状口縁台付型の体部を転用。やや六角形をなし、中央に小孔をもつ。
P-1	土師器 栗	19区	口縁部～体 部上半片	残存高14.6 口径(14.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 灰黄褐色10YR5/2	口縁部は短く外傾して開く。体部はやや長脚となる。口縁部内外面刷毛目後縁無塗で、体部外面刷毛目で、内面斜位の磨で、部分的に輪襷み痕あり。
P-2	土師器 S字状口縁台 付壺	19区	口縁部～体 部上半片	残存高10.6 口径(14.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR5/2	口縁部は屈曲し外反する。端部内面に1条の細い比線が巡る。頸部外面に四線の比線が巡り、内面は横位の磨で、体部は羽状の刷毛目、肩部に横刷毛目、内面斜位の磨で。

柳島川端 遺構外(5)

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-8	土師器 壺	20区V層	口縁部~胴部片	残存高4.6 口径(20.0)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 赤褐色5 YR5/3	口縁部は外反し、端部に刻み跡が施される。胴部は丸く屈曲。内外面刷毛目、口縁部外面上半横撫で。
P-2	土師器 高坏	20区VIa層	坏部~脚部 上半片	残存高8.0 坏部径(15.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR6/4	坏部は内湾して開き、端部は丸い。脚部は外湾して開き、円孔が4個ある。器面横撫で。
P-3	土師器 高坏	20区VIa層	坏部~脚部 上半片	残存高11.0 坏部径(22.0)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/6	坏部はわずかに内湾して開き、端部は丸い。脚部は外湾して開き、円孔が3個ある。器面横撫で。
P-4	土師器 壺	20区VIa層	口縁部~体部 上半片	残存高4.1 口径(15.4)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR6/6	口縁部は外傾し、端部は丸い。頸部は丸く屈曲。口縁部外面上半横撫で、胴部~体部外面刷毛目。口縁部~体部内面横位の撫で。
P-5	土師器 壺	20区VIa層	口縁部~胴部片	残存高4.4 口径(12.6)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5 YR6/4	口縁部は外傾して開き、端部は丸く内面に凹線が1条走る。胴部は「く」の字に屈曲。内外面横撫で。
P-1	土師器 器台	20区VIb層	器受け部残存	残存高2.4 坏部径(8.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/3	器受け部は小さく、直線的に外傾して開き、端部は丸い。内外面斜位の磨き。
P-2	土師器 S字状口縁台付壺	20区VIb層	口縁部~体部 上半片	残存高1.8 口径(19.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は屈曲し第2段は外反、端部内面に深い凹線が1条走る。頸部内面横撫で、外面凹線状の撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面横撫で。
P-1	匙状土製品	21区VI層	完形	高さ1.4 長さ3.9 幅1.7	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/4	ミニチュアの土製品で平面形は木葉状をなし、断面形は逆台形で内部が碗状に窪む。基部が爪み状にわずかに突出する。

柳島川端 19区40号土坑

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 壺	覆土	口縁部1/2 残存	残存高3.3 口径14.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/8	折り返し口縁で外反して開く。端部は丸い。器面やや横撫で。

柳島川端 19区52号土坑

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台付壺	覆土	口縁部~体部 上半小片	残存高4.6 口径(17.8)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色 黄褐色10YR7/3	口縁部は屈曲し第2段は外反、端部は丸く屈曲する。頸部内外面横撫で、体部外面刷毛目、内面横撫で。
P-2	土師器 壺	覆土	口縁部残存	残存高5.2 口径19.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎淡褐色 5 YR8/4	口縁部は外反して開き有段状をなす。端部は重下せず、内面文様帯は内湾し羽状刻みが施されている。端部外面は縦凹線が走り、4本1単位の棒状浮文が3単位配されている。内外面横撫で。

柳島川端 19区58号土坑

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台付壺	覆土	口縁部~体部 上半小片	残存高4.5 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR5/1	口縁部は屈曲し第2段は外反、端部内面に深い凹線が1条走る。頸部内面横撫で、外面凹線状の撫で。体部外面刷毛目、肩部に横刷毛目、内面横撫で。
P-2	土師器 壺	覆土	口縁部端部欠損	残存高15.7 胴部径6.5 体部最大径15.0 底径5.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は外傾して立ち上がり、端部は打ち欠かされている。頸部は「く」の字に屈曲。体部は球形で内面に穿孔されている可能性がある。底部平底。口縁部外面横位の磨き、内面横位の撫で。体部外面斜位の磨き、内面刷毛目後斜位の磨き。

柳島川端 20区31号土坑

番号	種類・形態	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 台付壺	覆土	ほぼ完形	高さ33.5 口径20.0 体部最大径27.7 台部径11.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR5/3	口縁部はやや外反し、端部は丸く屈曲。体部は中位に最大径をもつ。台部は「ハ」の字に開き、下端部は平坦。口縁端部に刻み。口縁部外面刷毛目後一部横撫で、内面横撫で。体部外面斜位の刷毛目、内面刷毛目後横位の撫で。台部内外面斜位の刷毛目。

樽島川端 20区1号周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	周溝基覆土	ほぼ完形	器高7.5 口径8.7 体部最大径8.7 底径3.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎赤褐色 10R5/4	口縁部は短く外傾、頸部は「く」の字に屈曲。体部はやや球形をなし、底部は突出する平底。内外面とも丁寧な磨き、赤彩。
P-2	土師器 小型壺	周溝基覆土	口縁部～頸部片	残存高5.0 口径(7.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/6	口縁部はやや内湾して立ち上がり、端部はわずかに外反する。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面磨位の磨き。頸部外面磨位の磨き、内面撫で。
P-3	土師器 壺	周溝基覆土	口縁部片	残存高5.1 口径(22.0)	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/8	有段状の口縁部で上半は直線的に外傾し、外面に5本の沈線が縦位に施されている。内外面刷毛目後一部磨き。
P-4	土師器 壺	周溝基覆土	口縁部片	残存高6.1 口径(18.2)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎褐色 7.5YR6/6	口縁部は強く外反し、端部は平坦。内外面刷毛目。
P-5	土師器 高坏	周溝基覆土	脚部上半片	残存高5.3 脚部径3.0	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	脚部上半は直線的に開き、径1.2cmの円孔が3個ある。外面磨位の磨き、内面磨位の撫で。
P-6	土師器 高坏	周溝基覆土	坏部残存	残存高6.1 坏部径13.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR6/4	坏部は直線的に開き、端部は丸い。内外面刷毛目後磨き。
P-7	土師器 壺	周溝基覆土	口縁部～頸部片	残存高3.2 口径(17.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 7.5YR7/6	口縁部は短く外傾し、端部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面刷毛目。口縁部外面上半磨位で。
P-8	土師器 壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高5.5 口径(19.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎黄褐色 7.5YR8/3	口縁部は外反し端部は丸い。頸部は丸く屈曲。口縁部外面上半磨位で、下半刷毛目、内面磨き。体部外面刷毛目、内面刷毛目後一部磨き。
P-9	土師器 壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高12.2 口径(21.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 10YR4/4	口縁部は外反し端部は平坦。頸部は丸く屈曲。口縁部外面上半磨位で、下半刷毛目、内面磨き。体部外面刷毛目、内面刷毛目後磨き。
P-10	土師器 S字状口縁台付壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高5.3 口径(18.4)	◎砂粒を少量含む。 ◎不良 ◎にぶい 黄褐色10YR7/2	口縁部は緩やかに屈曲、第2段は外反し端部は丸い。頸部内面刷毛目。体部外面羽状刷毛目、肩部横刷毛目、内面磨位・斜位の撫で。

樽島川端 20区2号周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	周溝基覆土	坏部底部～脚部上半残存	残存高6.5 脚部径3.8	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	坏底部は水平に延びる。脚部上半は外湾して開き、径1.2cmの円孔が4個ある。脚部外面磨位の磨き、内面磨位の撫で。器面やや摩滅。
P-2	土師器 S字状口縁台付壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高3.2 口径(15.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色 2.5YR6/6	口縁部は強く屈曲、第2段は外反し端部は丸い。頸部内面磨位で。体部外面刷毛目、内面撫で。

樽島川端 20区3号周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	周溝基覆土	1/4残存	器高4.8 口径(9.0) 底径(4.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎褐色 7.5YR6/6	口縁部～体部はわずかに内湾して開く。底部平底。口縁部～体部内外面磨き。底部には焼成後の円孔(径0.9cm)が開く。器面やや摩滅。
P-2	土師器 S字状口縁台付壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高3.7 口径(14.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/3	口縁部は強く屈曲、第2段はやや長く外反し端部は丸い。頸部内面磨位で。体部外面斜刷毛目、内面磨位の撫で。
P-3	土師器 S字状口縁台付壺	周溝基覆土	口縁部～体部上半片	残存高3.9 口径(15.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰白色 2.5YR8/2	口縁部は強く屈曲、第2段はやや長く外反し端部は丸い。頸部内面磨位で。体部外面斜刷毛目、内面磨位・斜位の撫で。

樽島川端 20区4号周溝墓(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高坏	周溝基覆土	坏部底部～脚部上半残存	残存高4.0 脚部径3.4	◎砂粒を少量含む。 ◎褐色 2.5YR6/6	坏底部は水平に延び、脚部上半は直線的に開く。脚部に径1.3cmの円孔が3個ある。坏部～脚部外面磨き。

樽島川端 20区4号周溝墓(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	土師器 高坏	周溝墓覆土	胴部残存	残存高4.9 口径(8.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	胴部は短く直線的に開き、径0.6cmの円孔がある。外面縦位の磨き、内面横位の磨き。

樽島川端 20区5号周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 字状口縁台 甕	周溝墓覆土	口縁部～体部 上半片	残存高4.5 口径(16.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい 赤褐色5 YR5/4	口縁部は屈曲し、第2段は短く外反、端部は丸い。頸部内面刷毛目。体部外面斜刷毛目、肩部横刷毛目、内面横位の磨き。
P-2	土師器 甕	周溝墓覆土	口縁部片	残存高4.3 口径(16.2)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/6	口縁部は強く外反、端部は平坦で折り返し。内外面刷毛目。
P-3	土師器 甕	周溝墓覆土	口縁部片	残存高5.2 口径(11.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR5/4	口縁部は直線的に開き、端部は丸い。内外面縦位の磨き。表面やや摩滅。
P-4	土師器 甕	周溝墓覆土	口縁部片	残存高5.0 口径(14.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は外反し、端部は丸い。外面刷毛目後縦位の磨き、内面刷毛目後横位の磨き。

樽島川端 20区ビット263

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-6	土師器 甕	覆土	体部上半片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	胴部に縮刷し縄文を横位に施し、一對の円形厚文が貼り付けられている。外面刷毛目後磨き、内面刷毛目後上半部で磨き。

樽島川端 21区1号方形周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 片口形土師 甕	北辺周溝部 覆土	注口部～底 体部片	残存高4.2 残存長13.7 残存幅9.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5 YR7/3	平面形は楕円形と推定され、断面形は皿状をなす。長軸上の口縁端部に、突出した片口状の注口部をもつ。内外面磨き、外面赤磨。
P-2	土師器 甕台	北辺周溝部 覆土	器受部底部 ～胴部上半 残存	残存高5.5 脚基部径3.4	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色5 YR7/3	器受部底面は内湾して立ち上がり、脚基部には貫通孔が開き、胴部上半は外湾して開く。胴部には円孔が3個ある。器受部内外面・脚部外面磨き、脚部内面横位の磨き。
P-3	土師器 高坏	西辺周溝部 覆土	坏部底部～ 胴部上半残 存	残存高 6.1 脚基部径 3.4	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	胴部は強く外湾して開き、径1.0cmの円孔が3個ある。坏部内外面・脚部外面磨き、脚部内面刷毛目後、一部横位の磨き。
P-4	土師器 小型鉢	西辺周溝部	ほぼ完形	器高5.4 口径7.0 底径4.0	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR7/4	口縁部は短く直立し、体部は上半に最大径をもつ。底部平底。口縁部内外面横位の磨き。体部内外面刷毛目、一部横位の磨き。
P-5	土師器 甕	周溝部覆土	口縁部～胴 部小片	残存高3.0 口径(17.8)	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎褐色 5 YR6/5	口縁部は外反し、端部は丸い。口縁部内外面横位の磨き。頸部外面刷毛目。器面やや摩滅。
P-6	土師器 甕	西辺周溝部 覆土	口縁部～胴 部小片	残存高4.4 口径(16.0)	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎明褐色 7.5YR7/2	口縁部は外反し、端部は丸い。胴部は丸く屈曲。口縁部外面上半横位の磨き。口縁部外面下半～頸部外面刷毛目。口縁部～頸部内面横位の磨き。
P-7	土師器 甕	西辺周溝部 覆土	口縁部～体 部上半片	残存高 5.0 口径12.4	◎砂粒を少量含む。 ◎良好 ◎にぶい 黄褐色10YR7/3	口縁部は短く外反し、端部は丸い。胴部は丸く屈曲。口縁部内外面横位の磨き。頸部内外面横位の磨き。一部に刷毛目を残す。体部内外面横位の磨き。

樽島川端 21区2号方形周溝墓

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字口縁台 甕	周溝部覆土	体部小片		◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	胴部の小片で、外面羽状刷毛目後横刷毛目、内面横位の磨き。
P-2	土師器 甕	西辺周溝部 覆土	体部下半～ 底部 残存	残存高 (3.8) 底径4.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい 褐色7.5YR6/4	体部下半は外湾して立ち上がり、底部は突出する平底。底部には径1.3cmの単孔が開く。体部外面縦位の磨き、内面斜位の磨き。

古墳時代出土遺物観察表

古田東 V区1号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 土環	南東隅覆土	完形	器高4.4 口径12.4	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色2.5YR 6/8	口縁部は外傾して開き縁部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で、底体部外面直磨り、内面撫で。
P-2	土師器 甕	北東隅床面 —北壁中央 部床面	2/3残存	器高27.2 口径27.1 孔径10.4	◎砂粒・小礫を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5YR6/6	口縁部は強く外反して開く。体部はわずかに膨らみをもつ。底部平孔。口縁部内外面横撫で、胴部外面斜位の直磨り、内面上半斜位の直磨りで下半細かい撫での直磨で。
P-3	土師器 甕	北東隅床面	1/3残存	器高31.2 口径(22.8) 孔径(6.0)	◎砂粒・小礫を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5 YR6/6	口縁部は強く外反して開く。体部はわずかに膨らみをもつ長胴。底部平孔。口縁部内外面横撫で、外面輪積み痕あり。体部外面斜位の直磨り、内面細かい縦位の直磨で。
P-4	土師器 甕	北壁中央部 床面	一部欠損	器高31.5 口径23.0 孔径8.0	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部は外反して開く。体部はわずかに膨らみをもつ長胴。口縁部内外面横撫で、体部外面斜位の直磨り、内面斜位の直磨りで後部分的に縦位の撫で。
番号	種類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	材質	特徴・その他
S-1	砥石	北東隅床面	一部欠損	長さ7.5 幅7.6 厚さ4.7 重さ92g	二ツ岳軽石	やや楕円形をなす数割の軽石を使用。表面の一部は皿状に磨れており、深い線状痕が多方向に走る。裏面は深さの異なる線状痕が多方向に走る。

古田東 V区5号住居(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	須恵器 蓋	東壁中央部 覆土	2/3残存	器高3.5 口径13.0	◎砂粒を多く含む。 ◎硬質 ◎灰白色 2.5YR7/1	天井部は強く口縁部との境に凹線が1条走る。口縁部は斜め下方に開き縁部は丸い。天井部外側直磨り切り。縦横成形。
P-2	土師器 土環	北壁中央部 覆土	1/3残存	器高3.0 口径(10.6)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5 YR7 /6	口縁部はわずかに外反して開く。縁部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。
P-3	土師器 土環	中央部覆土	ほぼ完形	器高3.1 口径10.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 7/6	口縁部は外傾して開く。縁部はわずかに突出して緩やかに屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。
P-4	土師器 土環	覆土	1/3残存	残存高3.1 口径(11.6)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5YR7 /6	口縁部はわずかに外反して開き縁部はやや玉縁状となる。縁部はわずかに突出して緩やかに屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で、底体部外面直磨り、内面撫で。
P-5	土師器 土環	中央部床面	完形	器高3.1 口径11.2	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5 YR7 /6	口縁部は外反して開く。縁部は突出せずやや緩く屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で、底体部外面直磨り、内面撫で。
P-6	土師器 土環	北壁中央部 床面	完形	器高3.4 口径11.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 7/6	口縁部は外傾して開く。縁部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で、底体部外面直磨り、内面撫で。
P-7	土師器 土環	南東隅床面	2/3残存	器高4.0 口径11.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 7/6	口縁部は外反して開く。縁部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸くやや深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。
P-8	土師器 土環	覆土	1/2残存	器高3.5 口径11.6	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色 7.5YR6/4	口縁部は外傾して開き縁部はやや玉縁状となる。縁部は強く突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。
P-9	土師器 土環	北壁中央部 覆土	2/3残存	器高3.5 口径12.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR6/4	口縁部は外傾して開く。縁部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。
P-10	土師器 土環	南壁中央部 覆土	1/4残存	器高5.5 口径(15.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色2.5 YR6/8	口縁部は長くやや外傾して開き縁部は玉縁状となる。縁部はやや突出し緩く屈曲する。底体部は丸くやや浅い。断面磨滅。底体部外面直磨り。
P-11	土師器 土環	覆土	1/3残存	残存高2.9 口径(13.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	口縁部は短くわずかに内傾。底体部は丸くやや深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面直磨り、内面撫で。

公田東 V区5号住居(2)

番号	種類・部位	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-12	土師器 坏	南壁中央部 覆土	1/3残存	残存高3.6 口径(12.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5 YR6/6	口縁部は短くわずかに内傾。底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-13	土師器 坏	南壁中央部 覆土	1/3残存	残存高4.2 口径(12.2)	◎砂粒を含む。 ◎ ◎良好 ◎褐色5 YR 7/6	口縁部は短く直立。底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-14	土師器 坏	中央部覆土	1/3残存	器高4.5 口径(13.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5 YR6/6	口縁部は短く直立。端部は玉縁状となる。底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-15	土師器 壺	南東隅掘り 方	口縁部～体 部上半片	残存高15.2 口径16.4 体部最大径14.9	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	口縁部は緩やかに外反して開く。体部はわずかに膨らみをもつ長胴。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位の磨削り、内面横位の磨削で。
P-16	土師器 壺	南東隅床面	口縁部～体 部片	残存高27.6 口径21.6 体部最大径17.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 5 YR5/6	口縁部は強く外反して開く。体部はわずかに膨らみをもつ長胴。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の磨削り、内面斜位の磨削で
P-17	土師器 壺	カマド掘り 方	口縁部～体 部片	残存高29.0 口径(22.2) 体部最大径17.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎よい褐色 7.5 YR7/4	口縁部は強く外傾して開く。体部は長胴。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の磨削り、内面横位の磨削で一部に輪積み痕を 残す。
番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石 質	特 徴 ・ そ の 他
S-1	磨礫石	南壁中央部 床面	完存	長さ14.5 幅6.2 厚さ5.1 重さ 730g	粗粒輝石安山岩	長楕円形の河原石を使用。全面が良く磨れ両端部に打痕が集中している。
S-2	磨礫石	西壁中央部 床面	完存	長さ16.2 幅7.2 厚さ5.8 重さ 1046g	粗粒輝石安山岩	長楕円形の河原石を使用。全面がやや磨れている。

公田池尻 3区1号住居

番号	種類・部位	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 坏	覆土	口縁部～底 体部小片	残存高3.3 口径(10.2)	◎砂粒を含む。 ◎ ◎良好 ◎褐色5 YR5 /6	口縁部は外傾して開き端部は玉縁状となる。後部はやや突出し屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-2	土師器 坏	南壁中央部 床面	口縁部～底 体部小片	残存高3.5 口径(13.0)	◎砂粒を含む。 ◎ ◎良好 ◎褐色5 YR 7/6	口縁部は外傾して開き端部は玉縁状となり、外面中に小段がある。後部はやや突出し屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石 質	特 徴 ・ そ の 他
S-1	磨礫石	南西隅床面	完存	長さ13.4 幅6.4 厚さ3.4 重さ 430g	変質安山岩	長楕円形の河原石を使用。

公田池尻 3区3号住居(1)

番号	種類・部位	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 坏	カマド前床 面	ほぼ完形	器高2.7 口径11.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	口縁部は外傾して開き、後部はわずかに突出。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-2	土師器 坏	カマド前床 面	一部欠損	器高3.2 口径11.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部は直立し後部は突出せず。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-3	土師器 坏	カマド前床 面	一部欠損	器高4.0 口径11.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	口縁部は直立し端部はやや玉縁状となる。後部はやや突出し、底体部は丸くやや深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り内面撫で。
P-4	土師器 鉢	貯蔵穴内	2/3残存	器高12.7 口径20.3 底径4.8	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎よい褐色 5 YR6/4	口縁部はわずかに外反し、体部は緩やかに窄む。底部平底。口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り内面撫で。器面やや磨減。
P-5	須恵器 提燈	貯蔵穴内	口縁端部欠 損	残存高16.7 体部径14.2	◎砂粒・小礫を含む。 ◎軟質 ◎灰白色10 Y7/1	口縁部は直線的に開き、口縁部下に凹縁が1条走る。体部は片方も小窪ながら平坦面を持ち数本の縦刻み線がある。成形は器面磨減のため不明。

古田池尻 3区3号住居(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石質	特徴・その他
S-1	磨石	覆土	完存	計測値(cm・g) 長さ9.3 幅5.9 厚さ4.9 重さ 380g	アイサイト貫層灰岩	楕円形の河原石を使用。全面が良く磨れている。

古田池尻 3区4号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 杯	覆土	口縁部～底 体部小片	残存高3.0 口径11.8	④砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥にぶい黄 褐色2.5YR5/4	口縁部はわずかに外傾して開き、底部はわずかに突出する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-2	土師器 杯	掘り方	口縁部～底 体部小片	残存高2.7 口径(11.0)	④砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥褐色5YR 6/6	口縁部はわずかに内傾し、底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-3	土師器 壺	中央部床面	口縁部～体 部上半片	残存高12.6 口径(22.0)	④砂粒・小塵を含む。 ⑤良好 ⑥褐色7.5 YR7/6	口縁部は外反し、体部は直線的に下る。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の磨削り、内面横位の磨削り。
P-4	土師器 壺	南壁中央部 床面	2/3残存	器高38.2 口径(17.1) 体部最大径17.9 底径5.3	④砂粒・小塵を含む。 ⑤良好 ⑥明褐色10 YR5/6	口縁部は短く外反し、頸部は長胴、底部は不安定な平底。口縁部内外面横撫で、外面に輪轆み痕を残す。体部外面斜位の磨削り、内面横位の磨削りで、一部に輪轆み痕を残す。
番号	種類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石質	特徴・その他
S-1	磨石	中央部床面	完存	長さ14.2 幅8.3 厚さ4.2 重さ 820g	粗粒輝石安山岩	長楕円形をなす扁平な河原石を使用。表裏面が良く磨れている。

古田池尻 3区6号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 杯	東壁中央部 床面	1/2残存	器高3.5 口径12.0	④砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥褐色5YR 6/3	口縁部は短くわずかに外反し、底部はわずかに突出する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。

古田池尻 4区9号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 杯	南壁中央部 床面	ほぼ完形	器高4.5 口径12.7	④砂粒を含む。⑥ 不良 ⑥にぶい黄 褐色7.5YR7/3	口縁部はやや外傾して開き中に小段が1条走る。底部は鈍く突出して強く屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-2	土師器 鉢	覆土	口縁部～体 部小片		④砂粒を含む。⑥ 良好 ⑥にぶい黄 褐色7.5YR7/3	口縁部はやや外反し、頸部はなだらかに屈曲し外面は小段を有す。体部は緩やかに膨らむ。口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り、内面撫で。

古田池尻 5区1号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 壺	北東隅覆土	口縁部～体 部上半片	残存高10.9 口径(19.6)	④砂粒を多く含む。 ⑥不良 ⑥褐色5YR 6/6	口縁部は外反し、頸部は「く」の字に屈曲、頸部は膨らみをもつ。口縁部内外面横撫で。胴部外面縦位の磨削り、内面横位の磨削り。器面やや磨滅。

古田池尻 8-2区1号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 杯	貯蔵穴内	1/4残存	残存高4.2 口径(10.5)	④砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部はわずかに外傾し、底部は鈍く突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で後磨き。底体部外面磨削り後磨き、内面横撫で後磨き。口縁部内外面に輪轆み痕が1条残る。

古田池尻 8-2区3号住居(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 杯	貯蔵穴内	1/2残存	器高4.5 口径(13.0)	④砂粒を含む。⑥ 不良 ⑥にぶい黄 褐色10YR6/3	口縁部は外傾して開き、中位に段を持つ。底部は鈍く突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。

公田池尻 8-2区3号住居(2)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	須恵器 蓋	貯蔵穴内	1/3残存	器高4.1 口径(12.0)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥硬質 ⑦灰白色10 YR7/1	天井部はやや高く、口縁部は内反ぎみに下方へ下る。轆轤成形。天井部外面回転削り。

公田池尻 8-2区5号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	須恵器 坏	カマド前覆土	1/2残存	器高4.4 口径(14.0)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥軟質 ⑦黄灰色 2.5Y6/1	口縁部は内傾して開き、後部は強く突出して屈曲する。底面部は丸く浅い。轆轤成形。底面部中央部回転削り。
P-2	土師器 坏	カマド前覆土	1/2残存	器高3.5 口径(12.0)	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨によい褐色5 YR6/4	口縁部は外傾して開き、底面部は丸く深い。口縁部内外面横溝で、底面部外面削り、内面横溝。
P-3	土師器 坏	カマド内・北壁中央部覆土	1/3残存	残存高4.9 口径(12.1)	⑤砂粒を含む。⑩良好 ⑪褐色5YR 6/8	口縁部は外傾して開き、後部は鈍く突出して屈曲する。底面部は丸くやや深い。口縁部内外面横溝で、底面部外面削り、内面横溝。
P-4	土師器 坏	カマド前覆土	口縁部一部欠損	器高5.1 口径12.4	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部は外傾して開き、後部はわずかに内反ぎみとなる。後部は鋭く突出し、底面部は丸く浅い。口縁部外面横溝で、内面粗い磨き。底面部外面削り後横溝で、内面粗い磨き。
P-5	土師器 高坏	カマド内	一部欠損	器高9.4 口径13.2 脚部直径8.2	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨褐色5YR 6/8	坏口縁部は外反し、坏底部は丸く浅い。脚柱部は短く、脚柱部は斜め下方へ廻り開く。坏口縁部内外面横溝で、坏底部外面削り内面横溝で、脚柱部外面縦位の横溝で、脚柱部内外面横溝で、脚柱部内外面横溝で。
P-6	土師器 小型壺	カマド前覆土	口縁部一部上半残存	残存高10.3 口径14.0 体部最大径15.9	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨によい褐色7.5YR6/4	口縁部は外反して開き、頸部は緩やかに屈曲し、体部は強く膨らむ。口縁部内外面横溝で、体部外面斜位の削り、内面縦位の横溝で。
P-7	土師器 小型壺	カマド内	口縁部一部上半残存	残存高10.1 口径13.2	⑤砂粒を多く含む。 ⑩不良 ⑪黒褐色10 YR2/2	口縁部は外反して開き、頸部は緩やかに括れ、体部はやや膨らむ。口縁部内外面横溝で、頸部一部外面斜位の削り、体部内外面横溝の横溝で。

公田池尻 8-2区7号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	須恵器 坏	貯蔵穴内	1/4残存	残存高3.9 口径(11.9)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥硬質 ⑦灰色N4/0	口縁部はわずかに内傾し、後部は強く突出して屈曲する。底面部は丸く浅い。轆轤成形。天井部外面中央部回転削り。
P-2	土師器 小型壺	貯蔵穴内	口縁部一部上半片	残存高9.8 口径10.1	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨赤色10R 5/6	異形の壺で口縁部は短くわずかに外反し緩やかに体部へ移行する。体部はわずかに膨らむ。器面磨削。体部外面縦位の削り、内面縦位の横溝で。

公田池尻 8-3区8号住居(1)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	須恵器 蓋	北壁中央部床面	口縁部～天井部小片	残存高4.3 口径(13.0)	⑤砂粒を含む。⑥硬質 ⑦灰色N5/0	天井部は浅く、口縁部は下方へわずかに屈曲して開き、肩部は小段を有す。轆轤成形。天井部上半は回転削り。
P-2	土師器 坏	南壁中央部床面	1/3残存	器高4.8 口径(14.0)	⑤砂粒を含む。⑧良好 ⑨明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部は短く内傾し、後部はやや突出して屈曲する。底面部は丸く深い。口縁部内外面横溝で、底面部外面削り、内面横溝。
P-3	土師器 坏	ピット2	1/2残存	器高3.5 口径14.5	⑤砂粒を多く含む。 ⑧良好 ⑨褐色5YR 6/6	口縁部は外傾し、後部は鈍く突出して屈曲する。底面部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底面部外面削り、内面横溝。
P-4	土師器 小型壺	カマド前	完形	器高10.4 口径10.8 体部最大径10.3 底径5.7	⑤砂粒を多く含む。 ⑩不良 ⑪によい黄褐色10YR7/4	口縁部はわずかに外反し、頸部はわずかに括れる。体部はわずかに膨らみ、底面部は平直。口縁部内外面横溝で、体部外面縦位の削り、内面縦位の横溝で。
P-5	土師器 小型壺	東壁中央部床面	2/3残存	器高18.0 口径13.2 体部最大径14.0 底径(4.6)	⑤砂粒を多く含む。 ⑩不良 ⑪灰白色 2.5YR8/2	口縁部は短く外反し、頸部は緩やかに屈曲する。体部はやや膨らみ、底面部は平直。口縁部内外面横溝で、体部外面上半横溝で下半削り、内面縦位の横溝で。

公田池尻 8-3区8号住居(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-6	土師器 壺	ビツ1	口縁部～体 部上半片	残存高15.0 口径(20.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰黄褐色 10YR6/2	口縁部は強く外反し、頸部は緩やかに屈曲する。体部はわずかに膨らむ。口縁部内外面横溝で、体部外面縦位の寛削り、内面横位の寛削り。
P-7	土師器 甕	東壁中央部 床面	口縁部～体 部上半片	残存高16.1 口径(19.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい橙 色7.5YR7/4	口縁部はやや外反し、頸部は緩やかに屈曲する。体部はわずかに膨らむ。口縁部内外面横溝で、体部外面斜位の寛削り、内面横位の寛削り。
P-8	土師器 甕	中央部床面 ～東壁中央 部床面	口縁部～体 部上半片	残存高17.2 口径(24.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR5/3	口縁部はやや外反し、頸部は緩やかに屈曲する。体部はわずかに膨らむ。口縁部内外面横溝で、外面に1条の輪痕み痕が残る。体部外面縦位の寛削り、内面横位の寛削り。
P-9	土師器 小型壺	北壁中央部 床面～北東 隅覆土	口縁部～体 部上半片	残存高10.2 口径(12.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR1/4	口縁部は緩やかに外反し、頸部は緩やかに屈曲する。体部はやや膨らむ。口縁部内外面横溝で、体部外面斜位と斜位の寛削り、内面横位の寛削り。
番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石 質	特 徴・その他
S-1	管玉	中央部床面	完存	長さ1.8 径0.5 孔径0.2 重さ1 g	蛇紋岩	黒色を帯びる細身の管玉で丁寧な研削成。両面穿孔。

公田池尻 8-3区11号住居(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 環	北東隅床面	一部欠損	器高3.7 口径12.2	◎砂粒を含む。◎ 不良 ◎黒褐色5YR 2/1	口縁部は内傾し、腰部は小段を持って突出し屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-2	土師器 環	南東隅床面	1/3残存	器高4.4 口径(12.9)	◎砂粒を含む。◎ 良好 ◎褐色7.5YR 6/6	口縁部はわずかに外反し、腰部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-3	土師器 環	覆土	一部欠損	器高4.8	◎砂粒を含む。◎ ◎良好 ◎褐色7.5YR 7/6	口縁部は外反し、腰部は鈍く突出して屈曲する。底面部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-4	土師器 環	北東隅覆土	一部欠損	器高4.1 口径13.4	◎砂粒を含む。◎ ◎良好 ◎にぶい褐色 7.5YR7/4	口縁部は外反し、腰部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-5	土師器 環	北壁中央部 床面	一部欠損	器高5.2 口径(14.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	口縁部はわずかに外反し、腰部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-6	土師器 環	北西隅覆土	ほぼ完形	器高4.7 口径13.4	◎砂粒を含む。◎ ◎良好 ◎褐色5 YR 7/6	口縁部は外反し、腰部は突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横溝で、底体部外面寛削り、内面横溝で。
P-7	土師器 須恵 煮	覆土	口縁部～肩 部片	残存高7.2 頸部径(7.8)	◎砂粒を含む。◎ ◎軟質 ◎灰色7.5Y6 /1	口縁部は欠損する長頸型で、肩部直下やや突出する絞をもつ。頸部は緩やかに括れる。輪痕成形。内面に明瞭な輪痕み痕を残す。
P-8	土師器 鉢	北西隅覆土	1/3残存	器高9.7 口径(12.0) 底径8.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎浅黄色 2.5Y7/3	口縁部はわずかに外反し、体部はわずかに膨らむ。底部平底。口縁部内外面横溝で、体部外面斜位の寛削り、内面横溝で。
P-9	土師器 鉢	北東隅床面	一部欠損	器高11.8 口径14.8	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎暗赤褐色 2.5YR3/2	口縁部はわずかに外反し、体部はやや膨らむ。底部丸底。口縁部外面横溝で、体部外面縦位の寛削り、内面横位の寛削り。
P-10	土師器 甕か壺	北東隅覆土	口縁部～体 部下半残存	残存高15.0 口径15.6 体部最大径14.5	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部は緩やかに外反し、体部はわずかに膨らむ。口縁部内外面横溝で、体部外面斜位の寛削り、一部に輪痕み痕が残る。内面横位の寛削り。
P-11	土師器 壺	北東隅床面	胴部下半～ 底部残存	残存高18.2 体部最大径17.5 底径5.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい赤 褐色5 YR5/4	体部は下膨れぎみの長胴で、底部平底。体部外面縦位の寛削り、内面横位の寛削り。内面に1部に輪痕み痕を残す。
P-12	土師器 甕	北西隅覆土	1/2残存	器高15.0 口径(14.9) 底径(5.4)	◎砂粒・小粒を含む。 ◎良好 ◎浅黄色 2.5Y7/3	口縁部はわずかに外反し、体部はやや鉢状をなし、底部穿孔。口縁部内外面横溝で、体部外面縦位と斜位の寛削り、内面横位の寛削り。

公田池尻 8-3区11号住居(2)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-13	土師器 甕	北壁中央部 覆土	1/2残存	器高26.5 口径(24.2) 体部最大径(22.8) 底径(10.1)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰白色 2.5YR/2	口縁部は縦やかに外反し、体部はわずかに膨らむ。底部単孔。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の磨削り、下端部縦位の磨削で、内面横位の撫で。
P-14	土師器 甕	ピット3	口縁部～体部 上半片	残存高8.2 口径(20.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄褐色10YR7/4	口縁部下半はほぼ直立し上半は強く外反する。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り、内面横撫で。頸部内面直下に輪痕み痕が残る。
P-15	土師器 甕	ピット3～南壁寄り覆土	口縁部～体部 下半片	残存高19.9 口径(20.5) 体部最大径26.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色2.5YR5/8	口縁部は外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲、体部はやや強く外反する。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の磨削り、内面横位の撫で。
P-16	土師器 甕	北壁中央部 床面	口縁部～体部 上半片	残存高13.6 口径23.0	◎砂粒・小粒を多く含む。 ◎良好 ◎藍色5YR6/6	口縁部は外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲、体部は強く膨らむ。口縁部内外面横撫で。体部外面斜位の磨削り、内面横撫で。器面やや磨滅。
P-17	土師器 高坏	北東隅床面	坏部残存	残存高5.0 口径17.5	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5YR7/8	坏部は中位に接を持ち上半は斜め外方へ大きく開き、端部は上方へわずかに爪み上げられている。坏部内外面横撫で、坏底部外面磨削り。

公田池尻 8-3区15号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 坏	貯蔵穴内	完形	器高6.5 口径13.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR7/3	口縁部は外反し、腰部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面横撫で。
P-2	土師器 坏	東壁中央部 床面	1/3残存	残存高4.3 口径(12.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎褐色5YR6/6	口縁部はわずかに外反し、腰部は縦やかに屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面横撫で。
P-3	土師器 坏	南東隅床面	1/4残存	残存高4.5 口径(13.0)	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎黒褐色2.5Y3/1	口縁部はやや外反し、腰部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面横撫で。
P-4	土師器 甕	ピット4	完形	器高13.5 口径13.8 孔径1.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5YR7/6	鉢形をなす小形の甕で口縁部はほぼ直立し、底部は丸く小孔が1孔あいている。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位の磨削り、一部に輪痕み痕を残す。内面横位の磨削で。
P-5	土師器 甕	ピット4	体部中位～ 底部片	残存高25.0 底径(11.8)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎浅黄褐色10YR8/4	体部はわずかに膨らむ長胴。底部単孔。体部外面縦位の磨削り、内面横位の磨削で、一部に輪痕み痕を残す。内面下縁の孔周辺磨削り調整。
P-6	土師器 坏	南壁中央部 床面	1/3残存	器高4.8 口径13.8	◎砂粒を含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部は内反し、底体部は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面横撫で。
P-7	土師器 小甕	貯蔵穴内～ 中央部床面	口縁部～体部 上半片	残存高12.0 口径16.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色2.5Y6/6	口縁部は外傾して開き、頸部は「く」の字に屈曲、体部はやや膨らむ。口縁部内外面横撫で、外面の一部に磨削りが通ずる。体部外面斜位の磨削り、内面横位の磨削で。

公田池尻 8-3区18号住居

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 坏	貯蔵穴内	2/3残存	器高4.9 口径12.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色2.5YR5/6	口縁部は外傾して開き、腰部はやや突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面横撫で。
P-2	土師器 甕	貯蔵穴内	口縁部～体部 上半残存	残存高10.7 口径20.4	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎浅黄褐色2.5YR7/3	口縁部は外傾して開き、頸部は縦やかに屈曲する。体部はやや膨らむ。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位の磨削り、内面横位と斜位の磨削で。

公田池尻 9-1区3号住居(1)

番号	種類・部種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付甕	ピット3内	台部欠損	残存高18.1 口径(12.5) 体部最大径18.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰褐色7.5YR4/2	口縁部は斜めに屈曲し、第2段はやや内反し端部は玉縁状となる。体部は上半が弱く膨らむ。口縁部内外面横撫で。頸部内面横撫で。体部外面羽状刷毛目、内面多方向の撫で、内面下半部に接合痕が残る。

公田池尻 9-1区3号住居(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	土師器 S字状口縁台 付壺	北西隅覆土	1/2残存台 部下端欠損	残存高24.3 口径(10.6) 体部最大径18.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部は斜めに屈曲して屈曲し、第2段は外反し端部 はやや肥厚する。体部は中位に最大径を持ちやや膨ら む。台部は「ハ」の字に開く。口縁部内外面横撫で。頸 部内面撫で。胴部外面羽状刷毛目、内面縦撫で。頸 部外面不連続刷毛目、内面撫で。
P-3	土師器 S字状口縁台 付壺	北西隅覆土	2/3残存台 部下端欠損	残存高23.4 口径13.0 体部最大径19.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎灰黄褐色 10YR5/2	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は内反する。胴部は中 位に最大径を持ちやや膨らむ。台部は「ハ」の字に開く。 口縁部内外面横撫で。頸部内面撫で。体部外面羽状刷 毛目、内面多方向の撫で。台部外面不連続刷毛目、内 面横撫で。
P-4	土師器 S字状口縁台 付壺	北西隅覆土	1/2残存	器高29.2 口径(12.6) 体部最大径21.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎暗灰黄色 2.5Y4/2	口縁部は斜めに屈曲し、第2段は外反する。体部は中 位に最大径を持ちやや膨らむ。台部は「ハ」の字に開き 、下端部内面折り返し。口縁部内外面横撫で。頸部外面 撫で。体部外面羽状刷毛目、内面縦撫で。台部外面 不連続刷毛目、内面斜位の撫で。

公田池尻 9-3区4号住居

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 壺	南東隅覆土	1/4残存	残存高3.7 口径(13.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい赤 褐色5YR5/3	口縁部は外反し、鞍部は鋭く突出して屈曲する。底体 部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削 り、内面撫で。
P-2	土師器 坏	南東隅覆土	1/2残存	残存高4.1 口径(13.9)	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR4/3	口縁部は外傾し、鞍部は鋭く突出して屈曲する。底体 部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削 り、内面撫で。
P-3	土師器 甕	南東隅床面	2/3残存	器高14.5 口径(14.6) 底径5.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎黄褐色 2.5Y5/4	鉢形をなす小型の甕で、口縁部は直立し、胴部はわず かに膨らむ。底部単孔。口縁部内外面横撫で。体部外 面縦位と斜位の磨削り、内面横位の磨削り。
P-4	土師器 鉢	南東隅床面	ほぼ完形	器高13.0 口径10.4 底径4.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎褐色7.5 YR7/6	口縁部は内傾し、体部はわずかに膨らむ。底部平底。 口縁部内外面横撫で。体部外面縦位と斜位の磨削り、 内面横位と斜位の磨削り。
P-5	土師器 壺	南東隅覆土	完形	器高15.0 口径14.4 体部最大径13.8 底径5.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR6/3	口縁部は外反し、頸部は緩やかに括れ、体部はわず かに膨らむ。底部平底。口縁部内外面横撫で。体部外 面横位と斜位の磨削り、内面横位と縦位の磨削り。
P-6	土師器 壺	南東隅覆土	ほぼ完形	器高18.8 口径(14.7) 体部最大径18.7 底径5.5	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎黄褐色 2.5Y5/3	口縁部は外反し、頸部は「く」の字に屈曲、胴部は狭く 膨らむ。底部不安定な平底。口縁部内外面横撫で。体 部外面斜位の磨削り、内面横位の磨削り。
P-7	土師器 甕	南東隅床面	体部~底部 残存	残存高14.6 体部最大径20.4 底径5.4	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR 6/6	体部は中位に最大径を持つ扁球形をなす。底部平底。 体部外面横位と斜位の磨削り、器面磨削。内面横位の 磨削り、一部に輪軸み底を残す。

公田池尻 9-3区5号住居(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 S字状口縁台 付壺	北西隅床面	口縁部~胴 部片	残存高6.8 口径(18.0)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/2	口縁部下端で斜めに屈曲し、第2段は長く外傾して開 く。口縁部内外面横撫で。頸部外面刷毛目、内面撫で。
P-2	土師器 高坏	住居周辺	胴部上半残 存	残存高6.2 脚基部径3.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎明赤褐色 5YR5/6	胴部は内湾して大きく開く。通孔3個2段。内外面刷 毛撫で後狭かな磨き。
P-3	土師器 甕	住居周辺	体部下端~ 底部片	残存高5.7 孔径(1.9)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/2	鉢形をなす器形と考えられ、体部は中や膨らみ、底部 丸底単孔。体部下端~底部外面磨削り後直撫で、内面 直撫で。
P-4	土師器 手ねね土器	住居周辺	完形	器高3.7 口径4.1 底径3.7	◎砂粒を含む。◎ 不良 ◎褐色7.5YR 6/6	円筒形をなす器形で底部平底。内外面撫で調整。

公田池尻 9-3区5号住居(2)

番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm+g)	石 質	特 徴・その他
S-1	白玉	中央部床面	充存	径0.7 厚さ0.4 孔径0.2 重さ1	滑石	円筒状をなす小型の白玉で、やや丁寧な研磨成形。片面穿孔。
S-2	白玉	中央部床面	一部欠損	径0.7 厚さ0.5 孔径0.2 重さ1	滑石	円筒状をなす小型の白玉で、やや粗い研磨成形。片面穿孔。
S-3	白玉	中央部床面	一部欠損	径0.7 厚さ0.6 孔径0.2 重さ1	滑石	円筒状をなす小型の白玉で、やや粗い研磨成形。片面穿孔。
S-4	白玉	中央部床面	充存	径0.7 厚さ0.4 孔径0.2 重さ1	滑石	円筒状をなす小型の白玉で、やや粗い研磨成形。片面穿孔。

樽島川端 20区18号井戸(1)

番号	器 種	出土位置	寸 法 長さ・幅・厚さ (cm)	木 取 り	特 徴	登録 番号
W-1	作業台	No17	31.0×16.5×6.5	柾目	柾目厚板の一端を粗く切断した木っ端状のものである。中央部は特に使用が著しく、方形に盛んでいる。他の部分には、浅い刃物傷が付いている。	17
W-2	工具脇柄	No37	18.7×4.0×1.5~3.3	柾材	枝分かれ部分を用いて幹を固定部、柄を柄とする。柄は根本から欠損する。本体部は、芯付近からほぼ半截し、平組に仕上げている。装着部は1段低く削り、面を平滑に仕上げている。	37
W-3	板材	No51	10.4*×3.5×0.4	おい板	薄板小片である。用途不明。	51
W-4	用途不明	No61	16.3*×3.0×2.5	丸材	枝部分を使用し、枝分かれ部を切断して太く使う。取っ手状の木製品であるが、やや湾曲しており、用途不明とした。	61
W-5	木っ端	No44	9.4×3.7*×3.0	割材	割材の両木口を切断する。表面の調整はなく、原材から必要部分を取った残りであろう。	44
W-6	容器	No11	38.0*×16.0+3.2~0.7	おい板	割材を幹方向に長く取り、中を狭く容器とする。全体形状は不明。	11
W-7	木っ端	No38	8.5×8.1×2.5	割材	割材の両木口を切断する。表面の調整はなく、原材から必要部分を取った残りであろう。	38
W-8	木っ端	No49	10.8×6.8×2.2	柾目	未調整の柾目材を短く切断する。両木口の切断は確である。原材から必要部分を取った残りであろう。	49
W-9	農具未製品	No19	61.0×14.2×2.4~0.5	柾目	薄い分割材を削り、大まかに農具の形状を作る。細部や厚さの調整は行っていない。着脱軸・鉄の未製品であろうか。	19
W-10	用途不明	No52	18.9*×4.5×1.7	板目	一方の木口を斜めに切断する。表面の調整は行われていない。	52
W-11	分割材	No56	29.6*×8.5×4.2	割材	一方の木口は欠損、他方は焼失する。表面は未調整である。	56
W-12	板材	No29	69.0*×2.6~4.2×1.1	柾目	遺存状態が不良のため表面が荒れているが、本末は調整されていたと考えられる。両木口は欠損している。	29
W-13	木っ端	No45	12.4×7.7*×3.3	割材	未調整の割材を一方から斜めに切断する。原材から必要部分を取った残りであろう。	45
W-14	木っ端	No66	16.0×9.7×2.5	割材	横置と木表面部分を削った際の木っ端である。	66
W-15	木っ端	No70	8.3×8.6×3.2	割材	木口を斜めに切断する。表面の調整はなく、必要部分を切り取った残りであろう。	70
W-16	木っ端	No69	9.0×10.2×3.5	割材	木口を斜めとほぼ垂直に切断する。表面の調整はなく、必要部分を切り取った残りであろう。	69
W-17	農具未製品	No64	48×12.1~4.5×10.6~3.8	割材	割材から横置のような形状に粗く削りだしている。柄と思われる部分は、作用部と思われる部分の中心には位置しない。全体に未調整であり、詳細な形状は不詳である。	64
W-18	用途不明	No28	16.2*×2.2×1.5	割材	断面長方形の棒状製品である。表面は丁寧に調整されており、製品の一部であろう。	28
W-19	用途不明	No27	24.7*×2.0×1.4	割材	断面形はほぼ長方形を呈する。周囲は丁寧に調整されており、製品の一部分と考えられる。	27

樽島川端 20区18号井戸 (2)

番号	種類	出土位置	寸法 長さ・幅・厚さ (cm)	木取り	特徴	登録番号
W-20	用途不明	No30	23.7×3.5~5.0×4.3	割材	割材を横線状に成形する。取っ手状の細い部分は断面6角形、太い部分は4角形を呈する。未製品の可能性もある。	30
W-21	加工材	No5	23.6×8.9	割材	割材を丸線状に削り、両端を周囲から切断する。周囲の調整は丁寧であるが、切り込みなどは認められない。組み物用道具の可能性もある。	5
W-22	角材	No14	33.1+×5.6×2.7	板目	一端を粗く切断した角材。遺存が悪く、表面調整の度合いは不明。	14
W-23	角材	No53	22.6+×5.0×2.3~4.0	割材	断面形状は一定しないが、ほぼ方形をなす。両端は欠損する。	53
W-24	臼	No21	直径:46.9×高さ:45.7	丸木	木口切りにした芯持ち材の中央を削って臼とする。遺存が悪く、一部は朽ちている。	21
W-25	分割材	No18	60.5×15.0×8.0	割材	筒木口を粗く切断した無調整の割材である。製品加工以前の原材であろう。	18
W-26	分割材	No24	116.0+×10.8×4.7	割材	一端は朽ちて欠損するが、他端は切断している。未調整の割材である。	24
W-27	梯子・階段	No55	119.8+×18.6×10.5~4.5	芯持ち材	芯持ち材の一方を削った後、踏み板部分を削り出す。垂直方向で段差間は33cmである。両端は欠損する。	55

宮田池尻 9-1区3号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 査	覆土	口縁部残存	残存高11.4 口径17.6	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色5YR6/4	口縁部は長く外傾して直線的に開く。頸部内面凹線状となる。外面横線で後縁位の磨き、内面横線で後縁位の磨き。
P-2	土師器 査	覆土	口縁部残存	残存高4.8 口径13.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄褐色10YR7/2	頸部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、端部は上方に突き出され、刺突が施されている。口縁部内面刷毛面線で後縁部で、頸部外面磨面線で、
P-3	土師器 査	覆土	体部中位~ 底部残存	残存高13.8 底径6.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR6/3	体部は強く膨らみ、底部平底。体部外面磨り後部分的な磨で、内面横位の磨で。
P-4	土師器 査	覆土	口縁部~頸 部残存	残存高6.3 口径16.0	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄褐色10YR7/3	頸部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、端部は上方に突き出されている。頸部は「く」の字に屈曲する。口縁部~頸部外面刷毛面線で後縁部で、内面横位で。
I-1	不明鉄製品	覆土	一部欠損	長さ3.6		釘状を呈する用途不明鉄製品。頭部状の部分は平たくのぼされる。

宮田池尻 9-1区4号井戸

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 査	覆土	口縁部~体 部上半残存	残存高9.5 口径19.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色5YR6/6	頸部はわずかに外傾し、口縁部は外反して開く。中位に断面三角形の位線状の小段が1条走る。頸部は「く」の字に屈曲。口縁部~頸部内外面横位で、体部外面斜位の磨り、内面斜位の磨で、輪積み磨が残る。
P-2	土師器 査	覆土	体部下端~ 底部残存	残存高5.4 底径7.1	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい褐色7.5YR7/3	体部下端は斜め外方に立ち上がり、底部平底。体部外面縦位と横位の磨り、内面横位で。

宮田池尻 3区6号土坑

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 査	覆土	一部欠損	器高22.7 口径16.2 体部最大径20.4 底径8.5	◎砂粒・小礫を含む。 ◎良好 ◎褐色5YR6/6	口縁部は強く外反し、頸部外面には横位による小段を有す。体部は上半に最大径をもちやや膨らみをもつ。底部は不安定な平底。口縁部内外面横位で、体部外面斜位の磨り、内面横位の磨で、一部に輪積み磨を残す。

公田池尻 3区7号土坑

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 甕	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高7.8 口径(19.4)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥良好 ⑦にぶい橙 色5YR7/4	口縁部は強く外反し、体部は長胴。口縁部内外面横撫で。体部外面縦位の磨削り、内面横位の磨撫で。

公田池尻 8-2区6号土坑(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 坏	覆土	1/2残存	器高5.4 口径(12.8)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥良好 ⑦にぶい黄 褐色5YR 6/8	口縁部は外傾して立ち上がり、肩部はやや内反りみとなる。腰部はわずかに突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-2	土師器 坏	覆土	1/2残存	残存高4.3 口径(12.6)	⑤砂粒を含む。 ⑥ 良好 ⑦にぶい黄 褐色5YR6/4	口縁部は外傾して開き、腰部は鈍く突出して屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。
P-3	土師器 甕	覆土	口縁部～体 部上半片	残存高7.0 口径(15.0)	⑤砂粒を多く含む。 ⑥不良 ⑦にぶい黄 褐色10YR7/2	口縁部は外反して開き、肩部は「く」の字に屈曲、体部はやや膨らむ。口縁部内外面横撫で。体部外面横位と縦位の磨削り、内面横位の磨撫で。
P-4	土製支脚	覆土	破片	残存高4.5 径5.2	⑤砂粒を多く含む。 ⑥良好 ⑦褐色7.5 YR7/6	円柱形をなしかマダの支脚材と考えられる。断面磨撫で。
P-5	土師器 手捏ね土器	覆土	2/3残存	器高3.5 口径(4.8) 底径3.2	⑤砂粒を多く含む。 ⑥不良 ⑦にぶい黄 褐色10YR7/3	小型で鉢形をなす。外面輪積み痕を残し、内面撫で。
P-6	土師器 坏	覆土	ほぼ完形	器高4.6 口径12.4	⑤砂粒を多く含む。 ⑥良好 ⑦暗赤褐色 2.5YR5/8	口縁部はわずかに外反し、腰部はわずかに突出し屈曲する。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横撫で。底体部外面磨削り、内面撫で。器面やや磨減。

番号	種 類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石 質	特 徴・その他
S-1	磨礪石	覆土	完存	長さ16.1 幅8.0 厚さ4.5 重さ798g	粗粒輝石安山岩	長楕円形の河原石を使用。
S-2	磨礪石	覆土	ほぼ完存	長さ15.5 幅9.3 厚さ4.1 重さ577g	ひん岩	長楕円形の河原石を使用。両端部が割れている。
S-3	磨礪石	覆土	完存	長さ15.7 幅7.0 厚さ5.0 重さ763g	溶結凝灰岩	長楕円形の河原石を使用。両端部に打痕がある。
S-4	磨礪石	覆土	完存	長さ14.0 幅8.6 厚さ3.5 重さ640g	溶結凝灰岩	長楕円形で扁平な河原石を使用。両端部に打痕がある。
S-5	磨礪石	覆土	完存	長さ17.1 幅7.4 厚さ4.8 重さ905g	溶結凝灰岩	長楕円形で断面が三角形の河原石を使用。両端部や側面に打痕がある。
S-6	磨礪石	覆土	完存	長さ13.6 幅6.1 厚さ4.5 重さ572g	粗粒輝石安山岩	長楕円形の河原石を使用。両端部や側面に打痕がある。
S-7	磨礪石	覆土	完存	長さ14.2 幅6.4 厚さ4.2 重さ590g	ひん岩	長楕円形の河原石を使用。
S-8	磨礪石	覆土	完存	長さ14.0 幅6.5 厚さ3.7 重さ582g	石英閃緑岩	長楕円形の河原石を使用。
S-9	磨礪石	覆土	完存	長さ16.1 幅5.6 厚さ3.8 重さ605g	砂岩	長楕円形で断面が四角形の河原石を使用。
S-10	磨礪石	覆土	完存	長さ15.2 幅6.8 厚さ4.4 重さ704g	粗粒輝石安山岩	長楕円形の河原石を使用。

公田池尻 8-2区6号土坑(2)

番号	種類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石質	特徴・その他
S-11	黒麻石	覆土	完存	長さ14.8 幅5.6 厚さ4.6 重さ593g	石英閃緑岩	長横円形で断面形が三角形の河原石を使用。
S-12	黒麻石	覆土	完存	長さ18.8 幅6.7 厚さ4.9 重さ910g	砂岩	長横円形の河原石を使用。

公田池尻 9-1区1号土坑

番号	種類	出土位置	残存状態	計測値(cm・g)	石質	特徴・その他
S-1	砥石	覆土	破片	残存長17.4 幅 10.3 厚さ4.0 重さ1119g	流紋岩	扁平で長横円形をなす河原石を使用。表面とも良く磨れており、表面には磨痕がみられる。木目が細かい。

公田池尻 9-1区2号土坑

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 器台	覆土	器受け部口 縁部と脚部 部欠損	残存高5.1 口径17.4 幅 10.3 厚さ4.0 重さ1119g	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③にじい 色5 YR7/3	器受け部底部はわずかに外側して外方へ開く。口縁部は短くわずかに外傾して開く。脚部は直線的に大きく開く。透孔は1孔残存する。坏部外面磨削り後磨き、内面細かい磨き。脚部外面磨削り後磨き、内面磨削り後無で。
P-2	土師器 壺	覆土	一部欠損	器高27.5 口径17.0 胴部最大径21.3 底径7.0	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③にじい 色7.5 YR6/3	口縁部は外反し、頸部は緩やかに括れる。体部は中位に最大径をもちやや膨らむ。底部は突出する平底。口縁部内外面横撫で。体部外面横撫でと縦位の磨で、内面横撫でと斜位の磨で、内面一部に輪積み砥を残す。
P-3	土師器 杯	覆土	一部欠損	器高6.5 口径13.8	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③明赤褐色 5 YR5/6	口縁部は短くわずかに内傾し、底面は丸く深い。口縁部内外面横撫で。底面外面磨削り、内面無で。

公田池尻 9-1区3号土坑

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 高杯	覆土	脚部残存	残存高11.6 脚部径2.9 脚部厚径10.4	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③褐色2.5 YR6/8	脚柱部は長く直線的にわずかに開き、脚部は直線的に外方へ開く。脚部外面縦位の細かい磨き、内面無で。
P-2	土師器 壺	覆土	一部欠損	器高9.3 口径17.9 底径6.0	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③にじい 褐色5 YR6/6	鉢形をなす器形で、体部は外傾して開き、口縁部はそのまま外傾して開く。底部突出する平底。口縁部内外面横撫で。体部内外面磨削り後多方向の磨で、内面とも一部に輪積み砥を残す。

公田池尻 9-1区4号土坑

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 壺	覆土	体部下平～ 底部残存	残存高10.0 底径7.1	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③にじい 褐色7.5 YR6/4	体部下平は大きく膨らむ。底部は突出する上げ蓋。体部外面磨削り後縦位と斜位の磨で、内面横撫でと縦位の磨で。
P-2	土師器 壺	覆土	ほぼ完形	器高15.1 口径13.7 体部最大径15.3 底径6.5	①砂粒を多く含む。 ②良好 ③にじい 褐色10 YR6/3	口縁部は強く外反し、頸部は強く括れる。体部は中位に最大径をもち大きく膨らむ。底部上げ蓋。口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り後多方向の磨で、内面横撫での磨で。

公田東 1区1号周溝基(1)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-1	土師器 小型鉢	N.82-3	ほぼ完形	器高5.0 口径9.2 体部最大径9.2 底径4.8	①砂粒を多く含む。 ②不良 ③灰黄色 2.5 YR7/2	口縁部は短く外傾、頸部は「く」の字に屈曲。体部は短く上半に最大径があり、底部は上げ蓋。口縁部～頸部内外面横撫で。体部外面斜位の磨で、一部に刷毛目を残す。体部内面横撫での磨で。

公田東 Ⅰ区1号周溝基(2)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-2	土師器 小型鉢	周溝部覆土	ほぼ完形	器高5.6 口径9.2 体部最大径9.6 底径4.6	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎灰白色 2.5YR/2	口縁部は短く外傾、頸部は「く」の字に屈曲。体部は短くやや上半に最大径があり、底部は上げ底。口縁部～頸部内外面横撫で、体部外面斜位の刷毛目を多く残し、内面は撫で。P-1と2は器形・整形が類似している。
P-3	土師器 小型鉢	周溝部 覆土	ほぼ完形	器高6.3 口径9.4 底径4.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR7/4	口縁部は短く外傾し、体部はわずかに内湾して立ち上り、底部平直。口縁部外面横撫で、内面刷毛目。体部外面縦位の刷毛目、上半撫で、内面斜位の撫で。P-3～8は器形や整形が類似しており、台付型の台部の器形や整形技法を取り入れている。
P-4	土師器 小型鉢	周溝部 覆土	ほぼ完形 (体部下半 ～底部外面 剥落)	残存高6.4 口径9.6	◎砂粒を含む。◎良 好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR7/3	P-3と同様の器形と整形である。
P-5	土師器 小型甕	東辺周溝部 覆土(FA下 層)	1/2残存	器高6.9 口径(10.4) 底径(4.4)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR7/3	P-3と同様であるが、口縁部端部がより丸く、底部やや上げ底。
P-6	土師器 小型鉢	No62周溝部 覆土	2/3残存(体 部下半～底 部外面一部 剥落)	器高7.0 口径10.5 底径(3.6)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	P-3と同様の器形と整形である。
P-7	土師器 小型鉢	No61周溝部 覆土	1/2残存	器高6.9 口径(10.4) 底径4.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR7/3	P-3と同様の器形と整形である。
P-8	土師器 小型鉢	No25-57 周溝部覆土	体部下半～ 底部残存	残存高4.4 底径5.4	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	P-3～7と同様の器形と整形技法と考えられるが、他に比べやや大きい。
P-9	土師器 高環	No58-2 周溝部覆土	ほぼ完形	器高10.0 环部径11.4 脚部径(17.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	環部は緩をもち口縁部にかけて内湾して開き、端部は丸い。脚部は外湾して開き、径1.4cmの円孔が3個ある。環部口縁部内外面横撫で、環部外面斜位の刷毛目、一部撫で・磨き、内面横位の撫で、環部外面斜位の刷毛目、一部撫で・磨き、内面刷毛目を残す。
P-10	土師器 高環	No50周溝部 覆土	環部残存	残存高3.8 环部径11.5	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	P-9と同様の環部で、口縁部端部がやや内傾する平面をもち、環部外面が横位の撫で、一部に刷毛目を残す。
P-11	土師器 器台	周溝部覆土	脚部残存	残存高6.8 脚部径11.3	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色7.5 YR6/6	脚部は直線的に開き、上半に径1.1cmの円孔が3個あり、上側に貫通孔がある。外面刷毛目後縦位・斜位の磨き、内面横位の刷毛目。
P-12	土師器 器台	No27周溝部 覆土	ほぼ完形	器高9.6 器受部径8.5 脚部径13.1	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	器受部は内湾して開き、端部は丸い。器受部底面に貫通孔がある。脚部はやや外湾して開き、端部は平直。脚部上半に径1.5cmの円孔が3個ある。器受部内外面横撫で、一部に刷毛目を残す。脚部外面縦位・斜位の刷毛目、内面横位の刷毛目。
P-13	土師器 器台	No37-34-35 -77周溝部 覆土(FA下 層)	ほぼ完形	器高10.1 器受部径8.9 脚部径14.7	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎褐色2.5 YR6/8	器受部は小さく緩をもち外傾して開き、貫通孔がある。脚部は外湾して開き、中に径0.9cmの円孔が4個ある。器受部内外面磨き、脚部外面磨き、内面上半磨削り、下半撫で。器受部内外面、脚部外面赤彩。
P-14	土師器 器台	No59周溝部 覆土	器受部残存	残存高6.0 器受部径23.2	◎砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	高環の器形を模した器台で、器受部底面中央に焼成前の貫通孔がある。器受部はやや内湾して開き、端部は平直。外面斜位の刷毛目、内面横位の撫で。
P-15	土師器 底部穿孔二重 口縁甕	No63-3 周溝部覆土	口縁部上半 欠損	残存高14.1 体部径4.1 体部最大径14.9 底径5.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部下半はほぼ垂直に立ち上がり、頸部は「く」の字に屈曲。体部はやや下膨れ状をなす。体部には断面三角形の凸帯が幾何的に貼付されており、上下両端に1条ずつの凸帯が横位に走り、体部全面に1.3～2.2cmの間隔で縦位に凸帯が貼付されている。底部は突出し、焼成前の穿孔。口縁部下半外面刷毛目後上下寄り横撫で、内面横撫で、輪襷痕明瞭。体部外面刷毛目後横撫で、内面横撫で、輪襷痕明瞭。

公田東 I区1号周溝墓(3)

番号	種類・器種	出土位置	残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	特徴・その他
P-16	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No1周溝部 覆土	ほぼ完形	器高18.0 口径15.4 頸部径5.6 体部最大径16.9 底径5.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/3	口縁部上半は大きく外反し、端部は丸い。中位に段をもち、断面三角形の縁が短く垂下する。縁の直上に竹管による円形刺突文が6個施されている。下半はほぼ垂直に立ち上がる。頸部は「く」の字に屈曲。体部は下膨れ状をなし、下半に最大径をもつ。底部は丸底で焼成前の穿孔。口縁部外面上半横線で、下半斜位の刷毛目後縁位の磨き、頸部屈曲部横位の磨き、口縁部内面横線で、接合痕残る。体部外面刷毛目後部分的に磨き、内面横で、輪襖み痕明瞭。
P-17	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No60周溝部 覆土	口縁部上半 欠損	残存高16.4 頸部径5.6 体部最大径19.4 底径8.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎浅黄褐色 7.5YR8/4	口縁部中位に緩やかに屈曲する段をもち、下半はわずかに外傾して立ち上がる。頸部は「く」の字に屈曲。体部は下膨れ状をなし、下半に最大径をもつ。底部はやや突出する平底で木葉痕があり、焼成前の穿孔。口縁部下半外面斜位の刷毛目、内面横で、刷毛目を残す。体部上半外面刷毛目、一部磨き、内面横で、輪襖み痕明瞭。体部下半内面横で、上半部との接合痕を残す。
P-18	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No43-45 周溝部覆土	ほぼ完形	器高21.3 口径19.2 頸部径7.1 最大径21.0 底径5.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	口縁部上半はやや外反して開き、端部は丸い。中位に段をもち、断面三角形の縁が短く垂下する。下半はほぼ垂直に立ち上がる。頸部は「く」の字に屈曲。体部は下膨れ状をなし、下半に最大径をもつ。底部は丸底で焼成前の穿孔。口縁部下半外面横位・斜位の刷毛目、内面横で、一部に刷毛目を残す。体部外面横位の磨き、底部周辺横で、内面横で、輪襖み痕明瞭。
P-19	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No80周溝部 覆土	体部～底部 残存	残存高16.9 最大径21.5 底径6.2	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR6/3	体部は下膨れ状をなし、下半に最大径をもつ。底部は丸底で焼成前の穿孔。体部外面横位の磨き、一部に刷毛目を残す。下半に接合痕を部分的に残し、底部周辺刷毛目後縁で、内面横で、輪襖み痕明瞭。
P-20	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No54周溝部 覆土	口縁部残存	残存高6.3 口径18.7	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色7.5YR7/3	口縁部上半は強く外反して開き端部は丸い。中位に段をもち、縁は割裂している。縁直上に竹管による円形刺突文が8個施されている。下半はわずかに外傾して立ち上がる。口縁部上半外面横横で、一部に刷毛目を残す。下半外面横位の磨き、一部に刷毛目を残す。内面横で。
P-21	土師器 底部穿孔二重 口縁蓋	No80-2周溝 部覆土	口縁部1/2 残存	残存高4.9 口径(19.2)	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	口縁部上半は強く外反し端部は丸い。中位に屈曲が緩やかな段をもち、垂下する縁はない。口縁部上半内面横横で、下半外面斜位の刷毛目、下半内面横横で、一部に刷毛目を残す。 二重口縁蓋は器形・整形とも類似しているが、中位の段に垂下する縁をもつもの(P-16・18・20)と縁のないもの(P-21)(P-17も段の屈曲から縁がないと考えられる。)とに分かれる可能性がある。
P-22	土師器 小型壺	No8周溝部 覆土	ほぼ完形	器高14.1 口径12.0 体部最大径14.8 底径4.5	◎細砂粒を多く含む。 ◎不良 ◎にぶい黄 褐色10YR6/3	口縁部上半は短く外傾し端部は丸い。頸部は「く」の字に屈曲。体部は球形で、底面は上げ底。口縁部外面横横で、内面横横で、一部刷毛目を残す。体部外面上半横で、下半刷毛目、内面横横の磨で、一部に刷毛目を残す。
P-23	土師器 底部穿孔小型 壺	No63周溝部 覆土	ほぼ完形	器高15.1 口径10.4 体部最大径12.6 底径3.8	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎にぶい黄 褐色10YR7/4	口縁部はやや長く外傾して開き、端部は丸い。頸部は強く「く」の字に屈曲。体部は球形で、底面は下膨れ状をなし。底部は焼成前の穿孔。口縁部外面横横で後縁位の磨き、内面横横で。体部外面上半斜位の刷毛目、下半斜位の磨で、内面横位の磨で、輪襖み痕明瞭。
P-24	土師器 底部穿孔小型 壺	No17周溝部 覆土	ほぼ完形	器高18.8 口径12.1 底部最大径15.4 底径5.0	◎砂粒を多く含む。 ◎良好 ◎浅黄褐色 10YR8/3	口縁部はやや長く外傾して開き、端部は丸い。頸部は強く「く」の字に屈曲。体部は球形で、底部は焼成前の穿孔。口縁部外面上半横横で、下半斜位の磨で、一部に刷毛目を残す。内面横横で。体部外面磨き、一部に刷毛目を残す。内面横横で、輪襖み痕明瞭。